文化的言語的に多様な背景を持つ
外国人児童生徒等のための対話型アセスメント

DLA

Dialogic **L**anguage **A**ssessment
for Culturally and Linguistically Diverse Students



いえにはねがはえてそらをとんでます。そらにおおきなかいじゅうのかたちのくもがフワフワとうごいてます。きもちがいいな。



しょうらいがかになりたい。
20 さいのときのわたし。

目次

序　章　改訂にあたって …… 1

第１章　DLAの概要 …… 7

第２章　日本語DLA

1．DLA〈はじめの一歩〉 …… 11

2．DLA〈聞く・話す〉 …… 19

3．DLA〈読む〉 …… 28

第３章　多言語DLA

1．ポルトガル語　Português …… 71

2．中 国 語　中文 …… 91

3．フィリピン語　Filipino (Tagalog) …… 111

4．ベトナム語　Tiếng Việt …… 131

5．スペイン語　Español …… 151

6．英　　語　English …… 171

7．ネパール語　नेपाली भाषा …… 191

8．ロシア語　Русский …… 211

第４章　Q&A …… 231

評価キット …… 236

主な参考文献一覧 …… 250

2014年発行DLA　協力者一覧 …… 252

改訂版DLA　執筆者および協力者一覧 …… 253

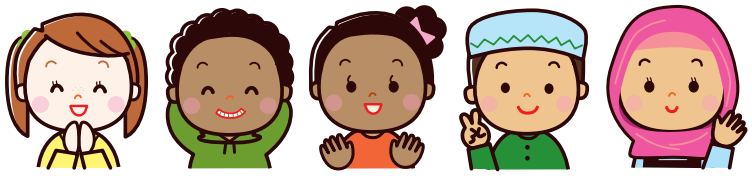
序章 改訂にあたって

目の前にいる子どもを、
「日本語ができない子ども」
として見ますか。それとも、
「日本語も母語もできる可能性のある子ども」
として見ますか。
どちらの立場に立つかによって、
子どもの未来は180度ちがってきます。

DLAとは

DLAの正式名称は「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメントDLA」（Dialogic Language Assessment for Culturally and Linguistically Diverse Students）です。**D**はDialogic（対話型）、**L**はLanguage（言語）、**A**は Assessment（アセスメント）で、それらの頭文字を取ってDLA（ディー エル エー）と呼んでいます。また本書では、「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等」を、文部科学省から発行された『文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得のものさし」（ことばの力のものさし）実践ガイド』（2025）に従い、「多文化多言語の子ども」と呼びます。

DLAは、ペーパーテストでは捉えきれない、多文化多言語の子どものことばの力を一対一の対話を通して捉えようとする支援つきの評価法です。子どもの全人的な発達を支えるために、子どもが持っているすべてのことばの力を使って何ができるのかを把握（予測）しようとする評価ツールです。



なぜDLAなのか？

ポイント1 一番早く伸びる聞く・話す力を最大限に活用！

「日本語力評価」と聞くと、どんなことを思い浮かべますか。多くの人は、漢字の読み書きや語彙・文法の穴埋め・選択式テスト、ペーパー式の読解テストなどを想像するかもしれません。これらのテストは、比較的短い時間で一斉に実施できるといったメリットがあります。また、教わった日本語の知識をどれだけ覚えたかを測るのには役立つかもしれません。

しかし、これらのテストは、文字が読めない子どもには実施が難しく、課題に取り組んでいる過程も見えにくいです。また、書いた答えが間違いだったとしても口頭では正しく答えられる場合があり、測りたい力を測れているかといった評価の妥当性に疑問が残ります。加えて、つまずきの原因やどのような支援が有効かが明確にならず、効果的な学習・指導計画につながりにくい問題もあります。

一般的に子どもは、豊かな言語環境の中で耳から入ることばを自然に習得する力を活用して、まず聞く・話す力が育ち、その力を土台として読み書きの力の学習が進みます。ですから、早く伸びる聞く・話す力を活用し、ペーパーテストでは測れないことばの力を支援によって最大限に引き出しながら、それを包括的かつ多角的に捉える必要があるのです。

ポイント2 子どもが持つすべてのことばの力を使って何ができるのかを捉える！

複数言語環境で育つ多文化多言語の子どもの場合、暦年齢や移動した時の年齢、そして新しい言語環境に入ってからの滞在期間によって、子どもが持つ複数のことばの発達や習得の度合いは大きく異なります。上述のように、一般的に子どもは聞く・話す力が最初に育ちますが、小学校高学年以降で、母語の読み書きの力をしっかり習得してから来日した場合、日本語の読み書きの力が聞く・話す力と同時に、あるいは、先行して伸びることが少なくありません。

認知面を含む全人的な発達を促すには、子どもが持つすべてのことばを使ってできることを把握し、その最大限の力を正確に把握することが欠かせません。そのためには、複数言語での聞く・話す・読む・書く力がどのように関連し合い、どのような特性を持っているのかを丁寧に捉える必要があります。ことばの力の全体像を捉えることは、子ども一人ひとりのことばの力を適切に評価し、その学びに合った支援を行うための重要な鍵となるのです。



ポイント③ 学習・指導計画の立案・見直しのためのアセスメント！

教育活動における評価は、「診断的評価」、「形成的評価」、「総括的評価」の３つに大きく分けられます。

診断的評価は、学習を始める前に、子どもが「何を知っているか／知らないか」「何ができるか／できないか」を把握するための評価です。編入学時や「特別の教育課程」を開始する際、入国年齢や滞日期間、生活・学習経験とともに日本語や母語の力を評価します。

形成的評価は、学習の途中で、子どもの学びやつまずきを把握するための評価です。その結果を子どもにフィードバックし、学習意欲を高めるとともに、指導や支援の方法・内容を見直す材料とします。

総括的評価は、学期末や学年末に行い、子どもの学びの成果をもとに、将来の学習計画を検討するための評価です。例えば、取り出し指導や入り込み指導の回数や期間を見直す際にも用いられます。

学習・指導計画の立案・見直しには、これら３つの評価が相補的に機能することが重要です。しかし、これまで、DLAが単なる日本語指導の終了判定テストとして使われてきた例も見られます。DLAは「授業で教えた日本語をどれだけ覚えたか」を測るテストではありません。子どもが課題に取り組む過程やことばを使用している実際の様子を可視化するためのアセスメントです。この情報をもとに、指導・支援の方法や内容を検討し、より良い教育活動につなげてください。

ポイント④ 子どもにとっての学びの時間。「わかる」「できる」「楽しい」がやる気を引き出す！

「わかる」「できる」だから「楽しい」という感覚は、子どもの学習意欲を引き出す鍵となります。DLAは単なる評価ツールではなく、子どもに学びの機会を提供し、そのやる気を引き出すためのものです。

多文化多言語の子どもは、日本ではマイノリティの立場におかれます。また、日本語を母語とする子どもたちとの比較の中で、「日本語ができない子ども」と見られがちです。このような見方は、子どもの自己肯定感やアイデンティティの形成にマイナスの影響を与える危険性があります。認められているという安心感が得られない環境では、豊かな学びを促すことは困難です。やる気は、子ども自身の内面だけでなく、周囲の環境に大きく影響されるものです。

だからこそ、子どもを変えようとする前に、評価をする立場にある私たち自身の姿勢を振り返る必要があります。「子どものできないところばかりを探していないか」、「できる部分を公正に評価できているか」、こうした問いを持ちながら、評価に向き合うことが大切です。

DLAでは一対一のやりとりを通して、子どもにさまざまな支援を提供し、その結果、何ができるようになるのかを具体的に可視化することができます。子どもが一人でできることと、支援を得てできることの両方をしっかりと認め、「わかる」「できる」だから「楽しい」という感覚を生み出し、学びの意欲につなげていきましょう。

開発に至る経緯

DLAは、文部科学省の「外国人児童生徒の総合的な学習支援事業」（2010～2012年度）の一環として、東京外国語大学が受託した「学校において利用可能な日本語能力の測定方法の開発」事業で開発され、2014年に公開されました。これは、カナダ日本語教育振興会が2000年に発表した「OBC（Oral Proficiency Assessment for Bilingual Children)」と、中島和子・櫻井千穂が2012年に作成した「対話型読書力評価」を基に再構築し、さらに2002年に岡崎敏雄が発表した「TOAM（Test of Acquisition and Maintenance)」の語彙カードを応用して開発されたものです。

2014年に開発されたDLAは日本語の力の測定のみが目的とされましたが、これらの評価ツールはバイリンガル教育理論を基盤としているため、DLAも日本語以外の言語の評価にも応用可能です。

DLAの改訂のポイント

- **「JSL評価参照枠」の廃止 →「ことばの力のものさし」で評価**
- **DLA〈書く〉と〈聴く〉を削除、DLA〈話す〉の名称をDLA〈聞く・話す〉に変更**
- **DLA〈はじめの一歩〉と〈聞く・話す〉を多言語（ポルトガル語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、スペイン語、英語、ネパール語、ロシア語）で展開**
- **高校生にも応用できるように、DLA〈聞く・話す〉と〈読む〉をマイナーチェンジ**

2014年に発表された最初のDLAは、２つのパートに分かれていました。１つは、用意されたキットを使い、対話を通して言語技能を測定する実践パートです。もう１つは、測定結果をもとに「JSL評価参照枠」と照らし合わせて日本語の習得のステージを確定する評価パートです。言語技能を測定する実践パートでは、ウォーミングアップと子どもの基礎的な対話力を確認する〈はじめの一歩〉、および〈話す〉〈読む〉〈書く〉〈聴く〉の四つの言語技能別タスクからなっていました。

この度の改訂では、「JSL評価参照枠」が廃止され、〈書く〉と〈聴く〉のパートも削除されました。「JSL評価参照枠」の廃止は、多文化多言語の子どものことばの力を多角的かつ包括的に捉えるための**「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得のものさし」」（以下、「ことばの力のものさし」）**が開発されたことに伴う改訂です。「JSL評価参照枠」は妥当性・信頼性を検証するための研究が行われていませんでした。「ことばの力のものさし」は妥当性・信頼性検証のための量的研究と質的研究を経て、開発された評価の枠組みです。よって、今後は「JSL評価参照枠」の６つのステージは活用せず、DLAで得られた結果を「ことばの力のものさし」に基づいて評価します。詳しくは、『文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得のものさし」（ことばの力のものさし）実践ガイド』（文部科学省, 2025）をご参照ください。

DLAの実践パートでは、〈はじめの一歩〉と〈聞く・話す〉、〈読む〉に限定しました。これは、一対一の支援つきの対話を通じて、より詳細に把握できる力に焦点を当てたためです。

また、DLA〈書く〉は、制限時間内に一編の作文を書かせるよりも、普段の授業などで支援を受けながら作文を書く過程や、そうして書いた作文を一定期間（例えば１学期間）蓄積して評価する方が妥当であることがこれまでの研究で明らかになったため、DLAから除外されました。書く活動は、ことばの力がまだ発達途上の子どもにとって大きな負担となり、時間制限のあるDLAに含めると、子どもの最大限のことばの力を適正に評価できず、誤解を招く恐れがあるからです。とはいえ、学齢期の子どもにとって書く力の評価は非常に重要です。上記の「ことばの力のものさし」の実践ガイドの応用編（第６章）に、書く力をどのように評価すべきかということが記載されていますので、参考にしてください。

DLA〈聴く〉は、授業談話を聴く力を測定するためのものでしたが、DLA〈聞く・話す〉や〈読む〉のやりとりを通して授業に参加するための聴く力をある程度予測できるため、除外しました。また、DLAは子どもの状況に合わせてタスクを選択する必要がありますが、四技能のタスクをすべて実施しなければならないと誤解され、本来の目的にそぐわない使われ方がなされるケースがありました。このことも、DLA〈書く〉と〈聴く〉を除外した理由の一つです。

さらに、この度の改訂では、多言語DLAとして、ポルトガル語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、スペイン語、英語、ネパール語、ロシア語のDLA〈はじめの一歩〉と〈聞く・話す〉を収録しました。多文化多言語の子どもの最大限のことばの力を把握するためには、習得途上の日本語だけでなく、子どもの母語の力も捉えることが必要不可欠です。母語の力が日本語より高い子どもの場合、学校で母語を使って考えを伝える機会がなく、ストレスを感じていることもあります。母語でのDLA実施を通じて自分の力を発揮し、自信を取り戻すケースも頻繁に見られます。DLA実施者が子どもの母語ができる場合は、必要に応じて積極的に多言語DLAを活用してください。

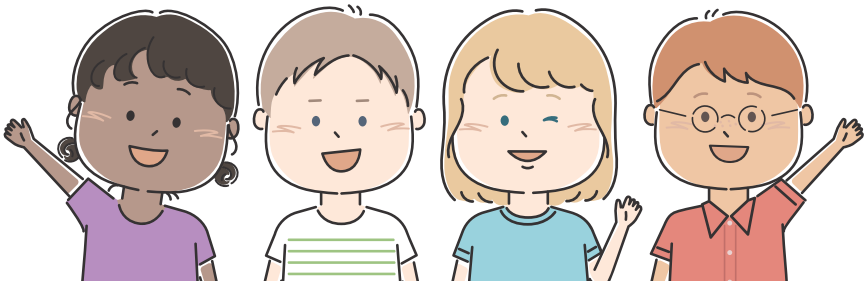
最後に、高等学校においても多文化多言語の生徒が増加している現状を踏まえ、DLA〈聞く・話す〉と〈読む〉に部分的な改訂を加え、高校生にも活用できるようにしました。ただし、高校生になると、いずれかの言語で一定レベル以上の読み書きの力を習得しているケースが多いです。そのような場合は、ペーパーテスト等を効果的に活用できます。状況に応じて、DLAと併用してください。

本冊子における「母語」の定義

本冊子では、多文化多言語の子どもの家庭内で親と子の間で使われることばを総称して「母語」と呼んでいます。母語は、①最初に習得したことば、②最も熟知していることば、③最も頻繁に使用することば、④自分自身および他者から母語とみなされアイデンティティと深く関わることばの４つの側面から規定されます（スクットナブ・カンガス，1981）。しかし、日本社会の中で言語的にマイノリティの立場に置かれる多文化多言語の子どもの場合、家庭内で使用される親のことばが十分に育たないケースも少なくありません。このような場合、家庭内のことばを親から受け継ぐことばとして「継承語」（中島，2016）と呼ぶこともありますが、本冊子では、こうした継承語も含めて「母語」として扱います。また国際結婚家庭の場合は、父親と話すことばと母親と話すことばを使い分ける場合もありますし、来日前の学校で使われていたことばがより強くなって家でも使う場合もあります。このように日本語の習得を支える「母語」は、決して一つの言語だけではなく、複数の言語である場合が多いのです。

海外在住の日本語を母語とする子どものことばの力の評価への応用

DLAは、日本国内に在住する多文化多言語の子どものことばの力を評価するために開発されたツールであり、本冊子もその対象を念頭に置いて構成されています。しかし、海外在住で学校や社会では現地語、家庭内では日本語に触れて育つ子どもや、帰国後に日本語を習得中の子どもにも、DLAを応用できる可能性があります。具体的には、DLAの対話型の評価手法を活用し、それぞれの子どもの言語背景や発達状況に応じた支援を検討することが可能です。その際には、本冊子で使用している「母語」などの用語を、子どもの言語環境や学習状況に応じて適切に読み替えた上でご活用ください。



第1章 DLAの概要

DLAの目的

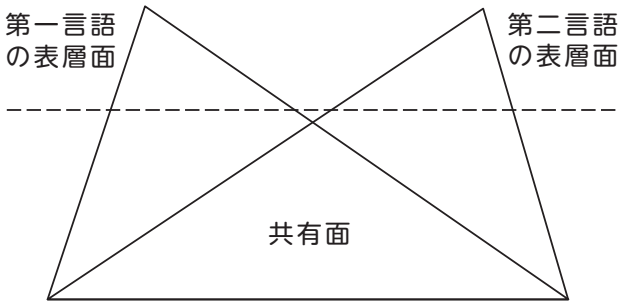
・DLAは、多文化多言語の子どもが、自分自身が持っているすべてのことばを使って「何ができるか」ということ、また、「一人でできること」だけではなく、「支援を得てできること」を、対話を通して多角的かつ包括的に把握することを目的としたアセスメントツールです。
・覚えた日本語の知識だけを点数化、序列化するためのテストではありません。
・子どもがどのように学んでいるか、その学びはどのような支援があれば促進されるのか、どうすれば学習意欲を喚起できるのかなどを、さまざまな支援を与えながら、一対一で対話をすることによって捉えるためのものです。
・そして、得られた情報をその後の学習の指導・支援に役立てることを目的としています。

DLAの対象

・DLAは、原則として言語形成期にある小中学生を対象としています。ただし、改訂版では、社会的要請に応じて高校生にも応用できるようになりました。
・一対一の対話で最低限の受け答えができたり、文字の習得が進みつつある子どもから、年齢相応の会話力や読書力を身につけている子どもまで、複数言語環境で育つ幅広いレベルの子どもを対象としています。

何を評価するのか（言語能力観）

多文化多言語の子どものことばの力は複雑に絡み合い、互いに影響し合っていると言われています。カミンズ（1979）は、この複数のことばの関係を「言語相互依存説」と呼びました。



氷山モデル（カミンズ, 1984）

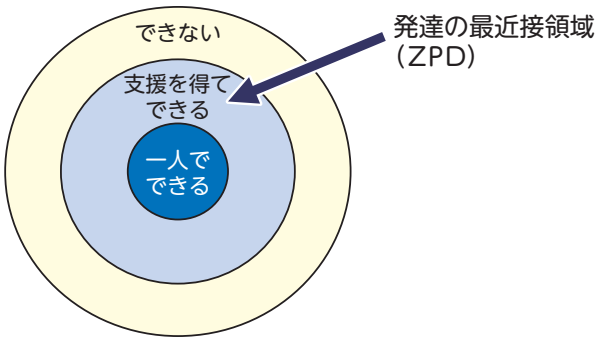
例えば、ポルトガル語で「地球温暖化（aquecimento global）」という概念を知っている子どもは、日本語でも同じ概念を理解しやすくなるように、子どもの頭の中では複数のことばがつながっているのです。つまり、発達途上にある子どものことばの力を正確に把握するには、日本語だけでなく、母語でも何ができるかを見ていくことが大切です。そのため、DLAは日本語と同じ形式で母語でも評価できるような構造になっています。DLA実施者が子どもの母語ができる場合は、多言語で評価を行うことが可能です。

また、多文化多言語の子どもは、日常会話には問題がない一方で、教科学習の場面では困難を感じることがよくあります。カミンズ（2001）は、この状況を踏まえ、ことばの力を「会話の流暢度」、「弁別的言語能力」、「教科学習言語能力」の三つに分けて考えることを提案しました。「会話の流暢度」は日常的な場面で簡単な会話をする力です。「弁別的言語能力」は、文字や文法規則などの知識とスキルを指します。「教科

学習言語能力」は、教科学習で必要な複雑な文章を理解し使う力を意味します。ここには教科学習場面で使用されることばだけでなく、取り上げられる概念そのものの理解や活用も含まれます。これらは、もともとBICS（Basic Interpersonal Communicative Skills）とCALP（Cognitive Academic Language Proficiency）として知られており、日本では「生活言語能力」と「学習言語能力」として紹介されることも多くあります。DLAでは、この三つの側面から子どものことばの力を多角的かつ包括的に把握することを目指しています。

どうやって評価するのか（言語評価観）

DLAは、支援を活用しながらことばの力を評価します。子どもが一人でできることだけでなく、助けを得てできることも測ります。このように、評価中にサポートをしながら子どもの学びの可能性を探る方法を「ダイナミック・アセスメント」と呼びます（ヘイウッド＆リッズ, 2007）。これは、ヴィゴツキー（1962/2001）の「発達の最近接領域（ZPD：Zone of Proximal Development）」という考えに基づいています。ZPDとは、子どもが周囲の大人のサポートを受けることで、一人では難しい課題もできるようになる学びの活動領域を指します。DLAでは、DLA実施者が子どもに合わせてタスクや質問を工夫し、必要な支援を行って子どもが持つ力を最大限に引き出します。これにより、その子どもに適した効果的な支援方法も明らかになるという「学習のための評価」、「学習としての評価」という側面も併せ持ちます。



ヴィゴツキーの「発達の最近接領域（ZPD）」のイメージ図

DLAの構造

- 改訂版DLAは〈はじめの一歩〉と〈聞く・話す〉〈読む〉から構成されています。〈はじめの一歩〉はあいさつや身の回りの質問に答える「導入会話」と、絵カードを使って55の子どもの日常に関わる語彙を答える「語彙力チェック」からなります。
- 〈聞く・話す〉は「基礎タスク」「対話タスク」「認知タスク」の３つに分かれています。「基礎タスク」は、日常的な場面で必要な語彙・表現の習得や文を作る力を、「対話タスク」は状況に応じて子どもが自ら話し、会話をリードする力を、「認知タスク」は教科に関連した語彙・表現を使いながら、まとまりのある説明をする力を評価します。
- 〈読む〉は１冊の短いテキストを読む過程を通して読書力を測ります。10冊のテキストから子どもに合ったレベルを選んで、読む様子や読解力を対話を交えて観察します。子どもが楽しんで読書に親しめるように設計されています。
- DLAでは、すべてのタスクを実施するのではなく、常に子どもの状況に合わせて選んで行います。
- 〈はじめの一歩〉は５分程度、〈聞く・話す〉は10～15分程度、〈読む〉は10～25分程度で、すべて実施したとしても１コマ（45分）以内に終了します。
- 必要に応じて、母語でのDLAも積極的に活用してください。

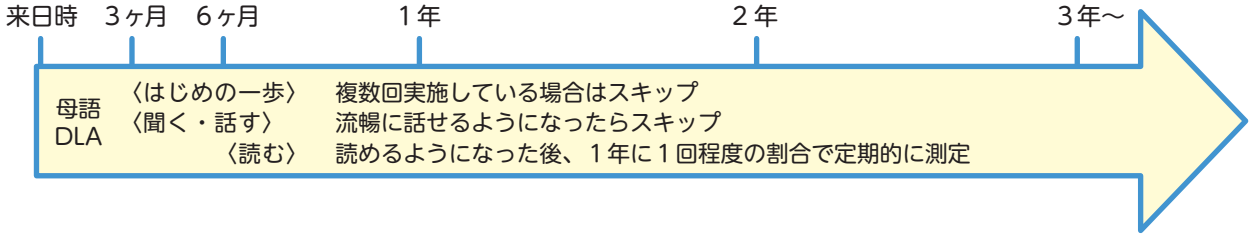
評価の方法

DLAを通して観察した子どものことばの力を、**「ことばの力のものさし」**に示された記述文に基づいて評価します。評価には**「思考・判断・表現を支える包括的なことばの力（複数言語での力）の発達ステージ」（以下、「包括的なことばの発達ステージ」）**と**「日本語固有の知識・技能の習得ステップ」（以下、「日本語の習得ステップ」）**の２つの軸を用います。「包括的なことばの発達ステージ」のほうは、日本語のDLAの結果だけではなく、母語の力も推定しつつ、最大限の力を包括的に捉えて評価します。これにより、日本語の習得状況だけでなく、子どもの年齢に伴うことばの発達状況を捉えることが可能となります。

このような記述文を用いたパフォーマンス評価は、測りたい力を直接測定できるため、妥当性が高いと言えます。一方で、評価者の主観に左右されやすく、誰が評価しても同じ結果になる信頼性が課題となる場合があります。そのため、DLA実施者が経験を積み、評価スキルを向上させることが重要です。また、一人で評価を行うのではなく、子どもの指導や支援に関わる複数人が集まり、DLAの様子やそこから読み取れる子どもの状況を共有し、学習・指導計画について協議する場を設けることが望まれます。

いつ、どのDLAを活用するのか

DLAを用いた評価は、例えば、来日時、滞日３ヶ月、６ヶ月、その後は１年おきなどのスパンで、状況に応じて実施してください。



来日時：通常、来日してすぐの子どもに対して、日本語でのDLAは実施できません。可能であれば、子どもの母語で〈はじめの一歩〉や〈聞く・話す〉を実施し、学習を支えることばの力がどのくらいあるかを把握します。母語でのDLAが難しい場合は、保護者からのヒアリングや日頃の観察から母語の状況を把握します。高年齢の子どもには、DLAとは別に母語で作文アセスメントを行い、学習・指導計画に役立てます。

転編入時：前の学校で身につけた日本語の力を確認するため、子どものレベルに応じて、日本語で〈はじめの一歩〉、〈聞く・話す〉、〈読む〉を実施します。必要があれば母語でも実施します。

来日後３ヶ月、６ヶ月：来日してからの期間が短い場合は、３ヶ月おきぐらいの頻度で〈聞く・話す〉を実施してもかまいません。ただし、まだ日本語での発話が難しい子どもに対して無理に実施しないようにしましょう。〈読む〉は年齢によって習得のスピードが大きく違うため、子どもの実態をよく観察しながら、実施するかしないかを決めましょう。

年度の開始・終了時：１年に１回程度の割合で実施し、学習・指導の振り返りや計画の検討に活用します。ただし、〈聞く・話す〉は日常的な会話が流暢に話せるようになったら、結果に変化が見られなくなってくるのでスキップしてかまいません。その場合は〈読む〉を重点的に実施しましょう。

年齢による違い：読む力が十分に育っていない低年齢の子どもには、〈聞く・話す〉を中心に実施します。一方で、高年齢の子どもには、滞日期間が短い場合は、〈聞く・話す〉と〈読む〉の両方を行い、話す力が十分に習得できている場合（「ことばの力のものさし」のステップ５以上が目安）は〈読む〉のみを実施します。

特定の課題が見られたり、個別の支援を検討する時：子どもの様子に気になる点が見られた場合、その子どもが安心して学べる環境を整えるため、多角的に情報を集める手段として〈はじめの一歩〉〈聞く・話す〉〈読む〉を実施します。必要に応じて母語でも行います。

DLA実施と評価のフローチャート

DLA〈はじめの一歩〉（5分）

導入会話 → 語彙力チェック

DLA〈聞く・話す〉（10〜15分）
＊カードを選んで実施

基礎タスク → レベルに応じて終了

↓

対話タスク

↓

認知タスク → レベルに応じて終了

DLA〈読む〉（10〜25分）

・テキスト選択
・予測・推測
・指定箇所の音読，その後，最後まで読む（音読 or 黙読）
・あらすじ再生と内容理解確認のやりとり
・読書に関する質問

※状況に応じて、子どもの母語でも実施

↓

録音・録画したデータを聴き（見）ながら、評価メモを使って、子どもが「できること」、「支援を得てできること」を振り返ります。

↓

その内容を「ことばの力のものさし」の記述文と照らし合わせ、日常の観察を含めて、子どもの「ステージ×ステップ」における現在の力を評価します。詳細については、「ことばの力のものさし」の実践ガイドをご参照ください。

第2章 1. DLA〈はじめの一歩〉

①目的

・DLA〈はじめの一歩〉を実施する目的は、挨拶や子ども自身のことに関わる「導入会話」と55問の基礎語彙からなる「語彙力チェック」を通して、日本語の基礎的な会話力を捉えることです。
・また、子どもの生活環境や言語環境をよりよく知ることを目的としています。
・さらに、子どもとDLA実施者との間の信頼関係を築き、子どもがDLAに前向きに取り組める雰囲気作りをねらいとしています。
・つまり、DLA〈はじめの一歩〉は、この後、DLAを進めるにあたって参考になる情報を得るための導入として実施するものです。ですので、**DLA〈はじめの一歩〉の結果だけをみて子どもの日本語の力を評価してはいけません。**
・日本語の基礎的な会話力が習得途上の子どもに対しては、年齢に伴うことばの発達状況をきちんと把握するために、日本語と母語の両言語での実施をお勧めします。

②対象

・日本語でやっと最低限の受け答えができる子どもから流暢に話せる子どもまで複数言語環境で育つ幅広いレベルの子どもを対象とします。
・日頃のやりとりや観察を通して、会話力や語彙力を把握している子どもや、DLAを既に実施したことがある子どもに対しては、DLA〈はじめの一歩〉を実施しなくてもかまいません。

③構成

・初対面の挨拶や子ども自身のことに関わる「導入会話」と、55問の名詞・動詞・形容詞の基礎語彙からなる「語彙力チェック」で構成されています。
・「語彙力チェック」の名詞は、体の一部や食べ物、動植物、学校にある物など、子どもが日常生活で聞いたり、使用したりする語彙です。「目」と「まつげ」、「口」と「唇」のように子どもにとっての高頻度・低頻度の語彙や、「牛」と「角」、「木」「葉」「枝」のように、全体（高頻度）と部分（低頻度）の語彙などが配列されています。動詞や形容詞も学校生活や家庭で子どもが触れる語彙が使われています。

④実施手順

事前準備

・評価キット「1．DLA〈はじめの一歩〉語彙カード」（pp. 236-242）を切り取ってカード状にし、番号順にしてリングでとめたり、タブレットにデータを取り込むなどして、一枚ずつ提示できるようにします。
・語彙カードをテンポよくめくることができるように練習しておきます。「DLAワンポイントレッスン」の動画を試聴し、実施者の態度やテンポを参考にしてください。
・DLA〈はじめの一歩〉の実践ガイド（pp. 14-15）、一枚ずつ提示できるように準備したDLA〈はじめの一歩〉語彙カード、録音または録画機器、メモ用紙を手元に用意します。

座り方

・子どもの正面に向き合わずに、机の角を挟んで座ります。そうすることで、子どもとカードや空間を共有し、威圧感の軽減につながります。

対話の実施

・正確な評価・記録のために準備した録音・録画機器の状態を確かめ、スイッチを入れてから対話を開始します。
・DLA〈はじめの一歩〉の実践ガイド（pp. 14-15）に沿って、「導入会話」、「語彙力チェック」の順で実施します。
・DLA〈はじめの一歩〉の実施を試みたものの基礎的な会話力が十分に身についておらず、継続が難しいと判断した場合は、「導入会話」の途中であっても「語彙力チェック」の途中であってもすぐに終了します。

⑤実施上の留意点

流れを重視する

・DLA〈はじめの一歩〉にかかる時間は５分程度です。子どものレベルに合わせて実施者の発話を調整する必要はありますが、できる限り**自然な速さでテンポよく**、対話を進めます。
・普段から接している子どもで、冒頭の「初対面のあいさつ」（自己紹介）が不要な場合は、実施しなくてもかまいません。
・子どもが質問がわからない場合は、ゆっくり繰り返します。それでもわからなければ、短い、易しい言い方に変えてもいいです。しかし、説明を加えたりしないでください。流れを止めずに次に行きましょう。
・「語彙力チェック」で、子どもが答えに詰まったり間違えたりしても**正解を教えたり、訂正したり、途中で子どもの発話を遮ったりせず**、さっと次のカードへ移ります。ただし、子どもが答えを教えてほしいという態度を示した場合は、教えてもかまいません。
・子どもが考えていたり、応答するのに時間がかかっているときは、焦らせず、**しっかり待ちましょう。**

雰囲気作り

・流暢に話す子どもであっても、大人との一対一の対話では緊張したり、拒否反応を示したりすることも考えられます。**和やかな雰囲気作り**を心がけましょう。テストとして実施するのではなく、子どもとの**対話を楽しむ**つもりで臨んでください。
・子どもの応答に対して、相づちを打ったり、うなずいたりして反応します。
・実施者にとってもDLA〈はじめの一歩〉はウォームアップとしても大切な活動になります。子どもから発話を引きだそうという意識をもって対応してください。教師（指導者）ではなくファシリテーター（引き出し役）の役割を担うことが大切です。

対話中は採点しない

・子どもの面前で採点や評価をしないでください。またDLA〈はじめの一歩〉の後に〈聞く・話す〉や〈読む〉を続けて実施するので、すべての過程が終了してから評価を行います。
・正確な評価・記録のために、録音もしくは録画をしましょう。

ほめて終わる

・どんなレベルであっても、最後に「たくさん話せましたね」などと声をかけ、日本語を「話した」ということを前向きに高く評価して終わってください。

❻次に進めるためのヒント

・「導入会話」と「語彙力チェック」が、おおむね70～80％以上できると判断した場合は、次へ進むことが可能です。20～30％以下であったら、次へ進まずに終了します。その中間で判断に迷う場合は、少し先へ進んでみて判断しましょう。
・日本語の習得度によっては、DLA〈はじめの一歩〉を途中で終了してもかまいません。ほとんど日本語が出てこなかった場合は、母語で実施するのが望ましいです。ある程度日本語で話せたとしても、子どもが母語でも言いたいという気持ちを抱えている場合があるので、状況を確認しつつ、母語での実施を検討してください。
・本冊子の第３章に８言語（ポルトガル語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、スペイン語、英語、ネパール語、ロシア語）の多言語DLAの実施方法を掲載しています。子どもの母語でのDLAが実施できる人がいる場合は、必要に応じて、積極的に多言語DLAを活用してください。
・母語ができる実施者がいない場合でも、「母語でも言ってみたいですか」などと声かけをしながら、「語彙力チェック」だけを実施し、録音したものを後で母語ができる人に確認してもらうこともできるでしょう。

❼評価のタイミングと方法

・DLA〈はじめの一歩〉の評価は、続けて実施する〈聞く・話す〉または〈読む〉が終了した時点でまとめて行います。
・録音・録画した内容を確認しながら、DLA〈はじめの一歩〉評価メモ（pp. 16-17）を使用して、どの程度達成したかをメモします。
・「語彙力チェック」の評価には、「語彙力チェック正誤表」（p. 18）を参照してください。
・日常の観察や、DLA〈聞く・話す〉、〈読む〉の結果と共に、「ことばの力のものさし」の記述文に照らして、包括的・多角的な観点から評価します。

＼ 実践ガイド ／

導入会話

❶初対面のあいさつ：



こんにちは。私は、（自己紹介）です。

❷説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから、○○さんが日本語でどのくらいお話ができるか知りたいです。
わかることは何でも話してください。わからないときは、「わかりません」と言ってください。
いいですか。

❸質問：

・次の順番で質問を進める。



① 名前を教えてください／名前は何ですか。
② 何年生ですか。
③ 何歳ですか／いくつですか。
④ 誕生日はいつですか。
⑤ お兄さん／お姉さん（弟・妹）がいますか。

・⑤は、知っている語彙レベルを確認したい場合、最初に「兄弟がいますか」と質問し、わからなければ「お兄さん／お姉さん（弟・妹）がいますか」に変更してもよい。また、個々の子どもの家族構成や状況に応じて柔軟に質問を変更してもよい。



⑥ 友達がいますか。
⑦ 友達の名前を教えてください。
⑧ 友達と何（どんなこと）をして遊びますか。

・対話タスクの❼「友達を誘う」で必要となるので、しっかり友達の名前を聞きとっておく（メモしてもよい）。



⑨ 学校は楽しいですか／好きですか。
⑩ どうしてですか／何が楽しいですか。

・⑩は、低年齢児にとって、「何が」より「どうして」の質問のほうが難しい場合があるので、子どもの状況に応じて柔軟に質問を選択する。



⑪ 日本の学校で好きなことは何ですか。
⑫ 日本の学校で嫌いなことは何ですか。

・⑪⑫の後に、個々の子どもに応じた質問を加えてもよい。



⑬ 家で○○語を話しますか。
⑭ お母さん（お父さん）から○○さんには何語で話しますか。
○○さんからお母さん（お父さん）には何語で話しますか。

・保護者が○○語を話しても、本人は聞くだけというケースが多いため、家庭での言語使用について丁寧に質問する。また、家族構成については、特に配慮しながら質問する。



⑮ ○○語が読めますか。
○○語が書けますか。

・母語の読む力、書く力を習得しているかを確認する。追加で、どの程度読めるか、書けるか、レベルを確かめる質問をしてもよい。

語彙力チェック

❶〈語彙カードが名詞の場合〉（1～42）



これは何ですか。そう、目ですね。では、私が「1」といったら「目」と言ってください。「2」と言ったらこれ（指で2の絵を指しながら）を言ってください。分からないときは「わかりません」と言ってください。いいですか。では「1」。

❷〈語彙カードが動詞の場合〉（43～50）

・カード43番（泳ぐ）まで来たら、次のように言う。



何をしますか／何をしていますか。

・43「プール」と答えたら「プールで？」、44「勉強」と答えたら「字を？」、45「歯磨き」と答えたら「歯を？」と、動詞で答えやすいように追加質問する。

❸〈語彙カードが形容詞の場合〉（51～55）

・カード51番（短い）まで来たら、次のように言う。



どんなスカートですか。

・「どんな」の意味がわからない場合は、次のように質問する。



これは「長い」ですね。では、これ（「短い」ほうの絵を指して）は？

次に進みましょう…

●導入会話・語彙力チェックでの達成率が20～30%程度の場合は、ここで終了してもよい。



これで終わりです。どうもありがとうございました。

・導入会話・語彙力チェックを通してほとんど日本語が出てこなかった場合は、子どもに達成感を持たせるためにも、母語で実施するのが望ましい。ある程度日本語で話せたとしても、子どもが「母語でも言いたい」という気持ちを抱えている場合があるので、状況を確認しつつ、実施を検討するとよい。
・母語ができる実施者がいない場合は「○○語で言ってみたいですか」などと子どもに確認をし、「語彙力チェック」だけを答えてもらい、録音したものを後で母語ができる人に確認してもらうなどの方法がある。
・どのような場合であっても「できたこと」を認めて、子どもが達成感を得て終われるように心がける。

●導入会話・語彙力チェックで半分以上やりとりができた場合は、ここで終了せずに、続けてDLA〈聞く・話す〉に進む。

＼ 評価メモ ／

導入会話

年　　月　　日

名前　　学年（年齢）　　年生（　　才）

実施者の発話	意味が通じる返答ができた	備考
①「名前を教えてください／名前は何ですか」	□	
②「何年生ですか」	□	
③「何歳ですか／いくつですか」	□	
④「誕生日はいつですか」	□	
⑤「お兄さん／お姉さん（弟・妹）がいますか」	□	
⑥「友だちがいますか」	□	
⑦「友だちの名前を教えてください」	□	
⑧「友だちと何（どんなこと）をして遊びますか」	□	
⑨「学校は楽しいですか／好きですか」	□	
⑩「どうしてですか／何が楽しいですか」	□	
⑪「日本の学校で好きなことは何ですか」	□	
⑫「日本の学校で嫌いなことは何ですか」	□	
⑬「家で○○語を話しますか」	□	
⑭「お母さん（お父さん）から○○さんには何語で話しますか」「○○さんからお母さん（お父さん）には何語で話しますか」	□	
⑮「○○語が読めますか」「○○語が書けますか」	□	
意味が通じる返答の数／質問数	／15	
達成率	⇒　　%	

語彙力チェック

年　月　日

名前　　学年(年齢)　年生(　才)

番号	語　彙	正	誤	備考欄	番号	語　彙	正	誤	備考欄
1	目	□	□		30	机	□	□	
2	まつげ	□	□		31	引き出し	□	□	
3	口	□	□		32	黒板	□	□	
4	唇	□	□		33	黒板消し	□	□	
5	手	□	□		34	地図	□	□	
6	親指	□	□		35	はさみ	□	□	
7	爪	□	□		36	ノート	□	□	
8	鼻	□	□		37	運転手	□	□	
9	ぶどう	□	□		38	医者	□	□	
10	卵	□	□		39	消防士	□	□	
11	海老	□	□		40	バス	□	□	
12	牛乳・ミルク	□	□		41	飛行機	□	□	
13	牛	□	□		42	翼	□	□	
14	(牛の)角	□	□		43	泳いでいる	□	□	
15	(犬の)しっぽ	□	□		44	字を書いている	□	□	
16	鶏	□	□		45	歯を磨いている	□	□	
17	馬	□	□		46	着る	□	□	
18	象	□	□		47	起きる	□	□	
19	ねずみ	□	□		48	座る	□	□	
20	(ねこの)ひげ	□	□		49	掃除する	□	□	
21	木	□	□		50	怒る	□	□	
22	葉	□	□		51	短い	□	□	
23	枝	□	□		52	細い	□	□	
24	扇風機	□	□		53	軽い	□	□	
25	電話	□	□		54	寒い	□	□	
26	ドア	□	□		55	背が高い	□	□	
27	屋根	□	□		集計	正答数（率）	／55 (%)		
28	階段	□	□						
29	窓	□	□						

語彙力チェック正誤表

No.	カテゴリー	正解	許容範囲	誤用例
1	Ⅰ　体の一部	目		
2		まつげ		まゆげ
3		口		
4		唇		
5		手	手の平	
6		親指	指、指先、おとうさん指	
7		爪		
8		鼻		
9	Ⅱ　食べ物	ぶどう		
10		卵	にわとりのたまご	
11		海老	ざりがに、伊勢えび	
12		牛乳	ミルク	
13	Ⅲ　動植物	牛		
14		(牛の)角		牛
15		(犬の)しっぽ		犬
16		鶏		
17		馬		
18		象	ぞうさん	
19		ねずみ	ハムスター	
20		(ねこの)ひげ		ねこのけ
21		木		
22		葉		
23		枝	木の枝	木のぼう
24	Ⅳ　機器	扇風機	ファン	
25		電話	携帯、携帯電話、スマートフォン、スマフォ	
26	Ⅴ　家の一部	ドア	戸、扉	もん
27		屋根	かわら	家、家の頭、家の上
28		階段		ろうか
29		窓		
30	Ⅵ　学校にある物	机	テーブル、デスク	
31		引き出し		机の中
32		黒板		教室
33		黒板消し		消しゴム
34		地図	世界、地球	
35		はさみ		
36		ノート	教科書、本	
37	Ⅶ　職業	運転手	運転する人	
38		医者	お医者さん、病院の先生	
39		消防士	消防車の人、消防隊員	消防署
40	Ⅷ　乗り物	バス		車
41		飛行機	航空機、ジェット（機）、ジャンボ（機）	
42		翼	飛行機の羽	
43	Ⅸ　学校生活の動作	泳いでいる	泳ぐ、水泳、クロール	
44		字を書いている	書く、字を書く、勉強する、宿題をする	えんぴつ、絵をかく
45	Ⅹ　日常生活の動作	歯を磨いている	歯を磨く、歯磨き	歯ブラシ
46		着る	着ています、服を着ている、着替え、服を着替えてる	
47		起きる	起きます、起きてる、起きた、起きて	寝ていない
48		座る	座ります、座ってる、いすに座る、座って	
49	Ⅺ　仕事の動作	掃除する	きれいにする、清掃、掃除	
50	Ⅻ　感情の動作	怒る	怒っている、怒った、機嫌が悪い	悪い、こわい
51	ⅩⅢ　形容	短い		スカート、長くない
52		細い		棒、太くない
53		軽い		かばん、茶色、バッグ、重くない
54		寒い		
55		背が高い	背が大きい	大人

第2章 2. DLA〈聞く・話す〉

①目的

・一般的に子どもは、日常の生活を通して聞く・話す力を先に身につけます。そして、その力を土台として、読み書きの力が伸びていきます。
・DLA〈聞く・話す〉は、教科学習言語能力、そして読み書きの力の土台となる会話力を基礎会話面・対話面・認知面の３面から多角的に捉えることを目的としています。

②対象

・DLA〈聞く・話す〉は、やっと最低限の受け答えができる子どもから流暢に話せる子どもまで複数言語環境で育つ幅広いレベルの子どもを対象とします。
・ただし、DLA〈はじめの一歩〉でほとんど受け答えが成立しなかった子どもには実施できません。
・日本語の基礎的な会話力が習得途上の子どもに対しては、年齢に伴うことばの発達状況をきちんと把握するために、母語と日本語の両言語での実施をお勧めします。

③構成

・「基礎タスク」「対話タスク」「認知タスク」の３つのタスクからなります。
・「基礎タスク」では、自分自身や日常生活に関する身近な話題で、よく使用する語彙・表現、文法を使いながら文を作って応答する基礎会話面の力を測ります。
・「対話タスク」では、状況や場面に応じて一対一でのやりとりをする対話面の力を測ります。
・「認知タスク」では、自分の考えや意見を話したり、教科学習と関連した内容についてまとまった説明をする認知面の力を測ります。
・DLA〈聞く・話す〉では、３種類の絵カードを使います。評価キット２. DLA〈聞く・話す〉基礎カード・対話カード・認知カード（pp. 243-249）のうち、ピンク色の枠は「基礎タスク」のための「基礎カード」、黄色の枠は「対話タスク」のための「対話カード」、青色の枠は「認知タスク」のための「認知カード」です。
・基礎カードは４枚、対話カードは３枚、認知カードは６枚ありますが、子どもの年齢や日本語の習得状況、DLA実施時の状況（時間があるかないかなど）に応じて、選んで使用します。
・**すべてのカードを実施する必要はありません**ので、【絵カードの種類と対象年齢の一覧】（p. 20）を参照しながら、カードを選びましょう。

④実施手順

事前準備

・評価キット２.DLA〈聞く・話す〉基礎カード・対話カード・認知カード（pp. 243-249）を切り取ってカード状にしたり、タブレットにデータを取り込むなどして、一枚ずつ提示できるようにします。
・テンポよくめくることができるように練習しておきます。「DLAワンポイントレッスン」の動画を試聴し、実施者の態度やテンポを参考にしてください。
・DLA〈聞く・話す〉実践ガイド（pp. 24-26）、使用するDLA〈聞く・話す〉の絵カード、録音または録画機器、メモ用紙を手元に用意します。

カードの使い方・座り方

・カードは使用する順に積み重ね、伏せて置きます。一番上のカードを裏返すと必要なカードが現れるように重ねてください。
・子どもの正面に向き合わずに、机の角を挟んで座り、カードが子どもと実施者の両者から見えるように置きます。

対話の実施

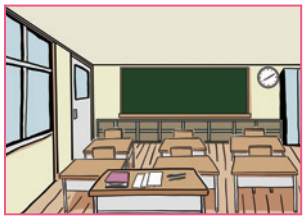
・録音・録画機器の状態を確かめ、スイッチを入れてから、DLA〈聞く・話す〉を始めます。DLA〈はじめの一歩〉に続けて実施する場合はすでに録音機のスイッチは入っています。
・DLA〈聞く・話す〉の実践ガイド（pp. 24-26）に沿って、「基礎タスク」「対話タスク」「認知タスク」の順で実施します。
・日本語の習得状況に応じて「基礎タスク」で終了する場合、「対話タスク」で終了する場合もあります。逆に「基礎タスク」や「対話タスク」をやらずに「認知タスク」だけを実施する場合や、「認知タスク」まですべてやって終了する場合もあります。
・基礎的な会話力が習得途上の子どもの場合には、母語で実施するのが望ましいです。ある程度日本語で話せたとしても、子どもが母語でも言いたいという気持ちを抱えている場合があるので、状況を確認しつつ、実施を検討してください。
・本冊子の第３章に８言語（ポルトガル語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、スペイン語、英語、ネパール語、ロシア語）での多言語DLAの実施方法を掲載しています。子どもの母語でのDLAが実施できる人がいる場合は、必要に応じて、積極的に多言語DLAを活用してください。

絵カードの種類と対象年齢の一覧

	絵カード名	小学校 低学年	小学校 中学年	小学校 高学年以上
基礎タスク	❶ 教室	○	○	○
	❷ スポーツ	○	○	○
	❸ 日課	○	○	○
	❹ 将来の夢	○	○	○
対話タスク	❺ 先生に質問	○	○	○
	❻ 新しい先生	○	○	○
	❼ 友達を誘う	○	○	○
認知タスク	❽ お話	○	○	
	❾ 消防車	○	○	
	❿ 食物の消化	○	○	○
	⓫ 環境問題		○	○
	⓬ 地震		○	○
	⓭ 水の循環			○

各絵カードのねらい

◇「基礎タスク」は、自分自身や日常生活に関する身近な話題で質問に答えたり、高頻度の語彙や表現を使いながら、文をつくることができるかをみるタスクです。
実施時間と子どもの状況に合わせて、**カードを選んで使用**します。



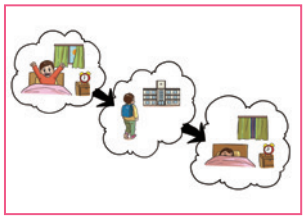
❶「教室」カード

存在の動詞（ある／いる）や場所をあらわす表現（～の上に）を使って、物や人の存在について答えられるかをみます。２年生以上では、時計を見て、時間の言い方も質問します。



❷「スポーツ」カード

「したことがある・ない」（過去の経験）、「できる・できない」（可能表現）、「好き・嫌い」、「どちらが好きか」（比較）などの問いに答えられるかをみます。



❸「日課〈起床〉〈登校〉〈就寝〉」カード

動詞の現在形（習慣）と過去形の使い分け、「～て、～て」のように順序に沿って（時系列で）行動を表現する力をみます。



❹「将来の夢」カード

「～たい」（願望）を使って、将来の夢について話す力をみます。また、その理由についても質問します。

◇「対話タスク」は、状況・場面に応じて自ら発話し、会話をリードする力をみるタスクです。実施者は先生や友達の役になって、ロールプレイ形式で実施します。実施時間と子どもの状況に合わせて、**カードを選んで使用**します。



❺「先生に質問」カード

A：授業中にトイレに行ってもよいか許可を求めることができるかをみます。
B：教科書を忘れて先生や友だちに貸してもらいたい場合に依頼ができるかをみます。



❻「新しい先生」カード

新しい先生に自己紹介をしたり、質問をしたりすることができるかをみます。



❼「友達を誘う」カード

友だちを誘うことができるかをみます。
会話をリードする力（場所や時間を自分から提案できるか）をみます（実施者は友だちの役割をします）。

◇「認知タスク」は、教科学習と関連した内容について、まとまりのある話ができるかどうかをみるタスクです。**年齢（学年）に応じてカードを選んで使用**します。
中学生・高校生に実施する場合で、この中に適切なタスクがない場合には、学習状況をふまえつつ、得意な教科で学習済みの概念について説明を求めてもかまいません。



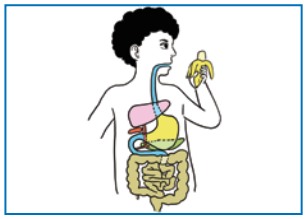
❽「お話」カード

３つの絵の中から子どもが知っている話を選び、ストーリーを順序に沿って話せるかをみます。カードに描かれている物語以外でもいいです。



❾「消防車」カード

２台の車について、どんな役割があるか、共通点と相違点について話せるかをみます。見た目（形状）の共通点と相違点を答えるか、働きの共通点と相違点を答えるかに着目します。



❿「食物の消化」カード

食物の消化について話せるかをみます。高学年以上の場合は、年齢枠に応じた教科学習語彙を使って消化の仕組みを説明できるかをみます。



⓫「環境問題」カード

地球が今どうなっているか説明する力をみます。環境問題の対策について意見が言えるかをみます。高学年以上では、教科学習語彙を使って温暖化の要因・仕組みを説明できるかをみます。



⓬「地震」カード

地震の体験談を話せるかをみます。また、地震の時どうしたらよいか意見が言えるかをみます。高学年以上では、教科学習語彙を使って地震の要因・仕組みを説明できるかをみます。



⓭「水の循環」カード

教科学習語彙を使って水の循環の仕組みを説明できるかをみます。また、水の循環に欠かせない太陽がなかったらどうなるかという質問から、仮定の出来事に対して根拠を示して答えられるかをみます。

⑤実施上の留意点

流れを重視する

・DLA〈聞く・話す〉にかかる時間は10〜15分程度です。時間をかけすぎず、**自然な速さでテンポよく**対話を進めます。
・途中で子どもの**発話を遮ったり、否定したり、訂正しない**でください。
・子どもが質問がわからない場合は、ゆっくり繰り返します。それでもわからなければ、短い、易しい言い方に変えてもいいです。しかし、説明を加えたりしないでください。流れを止めずに次に行きましょう。
・子どもが考えていたり、応答するのに時間がかかっているときは、焦らせず、**しっかり待ちましょう。**

雰囲気作り

・**和やかな雰囲気作り**を心がけましょう。テストとして実施するのではなく、子どもとの**対話を楽しむ**つもりで臨んでください。
・子どもの応答に対して、相づちを打ったり、うなずいたりして反応します。

対話中は採点しない

・子どもの面前で採点や評価をしないでください。評価は実施後に行います。
・正確な評価、記録のために録音もしくは録画をしましょう。

ほめて終わる

・どんなレベルであっても、最後には、日本語で「話した」ということを前向きに高く評価して終わってください。

⑥評価の方法

・DLA〈聞く・話す〉の終了後に、録音・録画をした内容を確認します。
・DLA〈聞く・話す〉評価メモ（p. 27）を使用して、観点にしたがって、何がどの程度できたかをメモします。
・その際、DLA〈はじめの一歩〉の「導入会話」の達成度、「語彙力チェック」の正答率も加味して評価します。
・評価メモに記入した内容を、日常の観察などと共に「ことばの力のものさし」〈聞く・話す〉の「包括的なことばの発達ステージ」と「日本語の習得ステップ」の記述文に照らして評価します。「包括的なことばの発達ステージ」のほうは、日本語でのDLA〈聞く・話す〉の結果からだけではなく、母語の力も推定しつつ、子どもが持っているすべてのことばを使ってできる最大限の力を包括的に捉えて評価します。
・DLAは子どものことばの力を点数化して、その結果を序列化するための標準化テストではありません。対話を通して、子どもがことばを活用して「できること」や「支援を得てできること」を観察し、その情報を学習の指導・支援に役立てるためのアセスメントです。
・ですから、ここで得られた結果を**点数化せずに**、包括的・多角的な観点から捉え、次のステージ・ステップを目指した指導・支援につなげてください。詳しい指導・支援の方法については、「ことばの力のものさし」の実践ガイドをご参照ください。

＼ 実践ガイド ／

基礎タスク

4枚すべてを実施する必要はない。状況や必要に応じて、**絵カードを選んで使用**する。
なお、基礎タスクをやらなくてもできることが明らかであれば、実施する必要はない。

実施者の発話	留意点
❶「教室」カード	
●「これからカードを見て、私と話をしてください。私が言うことがわからない時は、「わからない」と言ってください。では始めましょう」 ①「ここはどこですか」 ②「この部屋に、何がありますか」 ③「先生の机はありますか」 ④「では、先生のいすは？」 ⑤「先生はいますか」 ⑥「では、子どもは？」 ⑦「ペンはどこにありますか」 ⑧「時計はありますか」 ⑨「今、何時だと思いますか」	・質問の順番を変えないこと ・④質問文を途中の形にして「あります・います」が選択できるかをみる ・⑥質問文を途中の形にして「あります・います」が選択できるかをみる ・⑦子どもが絵カードを指差して「ここ」と言ったら、絵カードを裏返して、もう一度同じ質問をして、ことばで場所を説明する（机の上にある）ように促す ・⑦「ペン」を「鉛筆」と言い換えてもよい ・⑧②の答えの中に時計が含まれていた場合は「時計がありますね」とする ・⑨小学１年生には質問しなくてよい
❷「スポーツ」カード	
①「スポーツ（運動）が好きですか」 ②「○○さんはどんなスポーツ（運動）ができますか」 ③「（スポーツ名）は？」 ④「（スポーツ名）をしたことがありますか」 ⑤「（スポーツ名）と（スポーツ名）と、どちらが好きですか」	・①「スポーツ」という語彙に馴染みがない低学年児の場合は「運動」に変える ・③スポーツ名がまだわからない子ども（おもに低学年児）の場合は、実施者が絵カードを指差して、「これは？」と質問する ・③質問文を途中の形にして「できます・できません」を誘導する
❸「日課〈起床〉〈登校〉〈就寝〉」カード	
①「今朝、何時に起きましたか」 ②「それから何をしましたか」 ③「いつも何時ごろ寝ますか」 ④「家に帰ってから、いつもどんなことをしますか。寝るまでのことを話してください」	・①時間について質問する ・②過去形の理解・使用度をみる ・③習慣的活動について質問する ・④「て形」を使って、動作を時系列でつなげて話すことができるかをみる
❹「将来の夢」カード	
①「将来／大きくなったら、何になりたいですか」 ②「それはどうしてですか」	・①子どもから職業名が出てこなければ、「何をしたいですか」に変えてもよい。職業名の選択肢を与えたり（「学校の先生は？」）、絵カードを指し示して「これは？」と質問してもよい

ほとんど応答ができなかった場合にはここで終わる。



「これで終わりです。どうもありがとうございました」

質問におおむね答えられたら、そのまま対話タスク、または認知タスクへ進む。
対話タスクを実施するかしないかは、状況（時間）や必要に応じて判断する。

対話タスク

3枚すべてを実施する必要はない。状況や必要に応じて、**絵カードを選んで使用**する。
なお、対話タスクをやらなくてもできることが明らかであれば、実施する必要はない。

 実施者の発話	留意点
❺「先生に質問」カード　A，B	
A ①「大変です。○○さんは、トイレに行きたく（お腹が痛く）なりました。先生に何と言いますか。私は先生です」 B ①「○○さんは算数（数学）の教科書を忘れました。隣の席の友だちに見せてもらいたいです。その友だちになんと言いますか」	・A①「トイレ／お腹が痛い子ども」の絵を指差して質問する ・許可を求められるかどうかをみる ・B①「教科書」の絵を指差して質問する ・依頼ができるかどうかをみる
❻「新しい先生」カード	
①「今日から新しい先生です。まず自分（○○さん）の紹介をしてください。それから、先生に質問を２つしてください。私はその新しい先生です」	・実施者は新しい先生の役をする ・「自分の紹介」がわからなければ、「○○さんのことを教えてください」と言う。それでもわからなければ、「名前？」「１年生？」とヒントを出したり、「私は..」と促したりする
❼「友達を誘う」カード	
①「今日、学校が終わったら、○○さんと遊びたいです。○○さんを誘ってください。靴箱のところで会いました」	・導入会話のところで聞いた、友達の名前を使う。そして、実施者は友達の役をする ・「○○さんを誘ってください」の意味が子どもに通じなければ、「何と言いますか」と言い換えてもよい ・このタスクでは、子どもが進んで自ら話を切り出し、誘い、時間、場所などを決めて、会話をしめくくることができるかどうかをみるため、子どもの発話を待たずに実施者が主導権を持って会話を進めることのないように留意する

ほとんど応答ができなかった場合にはここで終わる。


「これで終わりです。どうもありがとうございました」

対話タスクがおおむねできたら、そのまま認知タスクへ進む。

認知タスク

子どもの年齢(学年)に応じて、カードを選んで実施する。中学生・高校生に実施する場合で、この中に適切なタスクがない場合には、学習状況をふまえつつ、得意な教科で学習済みの概念について説明を求めてもよい。

実施者の発話	留意点
❽「お話」カード（低・中学年）	
①「小さい子どもが何かお話をしてと頼みました。お話をしてあげてください」	・子どもがよく知っているお話を選んで話す。絵カードの中に知っている話がなければ、他の話でもよい
❾「消防車」カード（低・中学年）	
①「この車の名前を知っていますか」 ②「どんな働きをする車ですか／何のために使いますか」 ③「同じところはどこですか。違うところはどこですか」	・①二つの車両を順番に指差して、質問する。名称を知らない場合は、次の質問をするために教えてもかまわない ・③二つの車の共通点と相違点を質問する。子どもによっては、働きの共通点・相違点には気がつかず、見た目（形状）について答える場合もある
❿「食物の消化」カード	
①「この人が食べたものはどうなりますか」 ②「消化の仕組みについて説明してください」（おもに高学年以上）	・低・中学年では消化について話せるか、高学年以上では年齢枠に応じた教科学習語彙を使って消化の仕組みを説明できるかをみる
⓫「環境問題」カード（中学年以上）	
①「これは何の絵ですか」 ②（一つ一つの絵について）「これは何ですか」 ③「地球が泣いています。どうして泣いていると思いますか」 ④「地球が泣かないために、どうすればいいと思いますか／何ができますか」 ⑤「これは、地球温暖化の絵です。温暖化がどうして起こるか説明してください」（おもに高学年以上）	・①環境問題や地球温暖化の概念を現す絵だと気づき、その語彙を知っているかどうかをみる ・②①で答えられた場合は質問しない。答えられなかった場合は、一つ一つの絵について、何の絵か（地球、木を切っている、車が排気ガスを出している、工場から煙が出ている）を確認する ・⑤①で知らなかった場合は「地球温暖化」という語彙を教える。そして、要因・仕組みについて教科学習語彙を使って説明できるかをみる
⓬「地震」カード（中学年以上）	
①「地震に遭ったことがありますか。その時のことを話してください」 ②「学校で地震が起きたら、どうしますか」 ③「地震について学校で習いましたか。地震がどうして起こるか説明してください」（おもに高学年以上）	・①子ども自身が地震を体験したことがない場合には、親の体験などについて聞く ・③要因・仕組みについて教科学習語彙を使って説明できるかをみる
⓭「水の循環」カード（高学年以上）	
①「水の流れについて説明してください」 ②「私たちが飲む水は、どこからきていると思いますか」 ③「雨が降らなかったら／太陽がなかったら、地球はどうなると思いますか」	・①教科学習語彙を使って説明できるかをみる ・③仮定の出来事に対して根拠を示して答えられるかをみる

「これで終わりです。どうもありがとうございました」

＼ 評価メモ ／

年　　月　　日

名前　　学年(年齢)　　年生(　　才)

聞く・話す力について、何がどの程度できたかを次の観点にしたがってメモします。
この評価メモを「ことばの力のものさし」〈聞く・話す〉の記述文に照らして、評価します。

聞く力		
基礎的な聞く力	自分自身や身近な話題で相手からの簡単な質問が理解できる	□よくできる　□できる　□もう少し
発音・流暢さ		
発音・イントネーション	自然な発音やイントネーションで話せる	□よくできる　□できる　□もう少し
流暢さ	やりとりが自然でなめらかである	□よくできる　□できる　□もう少し
話す態度		
話す態度	自分から進んで発言し、会話をリードできる	□よくできる　□できる　□もう少し
語彙		
日常語彙	身近な日常語彙・表現が使える	□よくできる　□できる　□もう少し
語彙の質 (教科学習語彙)	適切な語彙・表現が使える (教科学習語彙を含む)	□よくできる　□できる　□もう少し
文法的正確度		
文法的正確度	正しい文法で話せる	□よくできる　□できる　□もう少し
文・段落の質		
文の生成	自分で単文が作れる	□よくできる　□できる　□もう少し
段落の質	単文ばかりでなく、複文を使い、段落を構成できる	□よくできる　□できる　□もう少し
話の内容とまとまり		
タスクの達成度	課せられたタスクがこなせる	□よくできる　□できる　□もう少し
話の順序	順序にそって、つなげて話せる	□よくできる　□できる　□もう少し
話の内容と まとまり	内容が豊富でまとまりのある話、説明、理由、意見等が言える	□よくできる　□できる　□もう少し

第2章 3. DLA〈読む〉

❶目的

・教科学習言語能力を伸ばすためには「読書力」を身につけることが重要となります。
・「読書力」とは、まとまりのある文章を読んで理解する「読解力」、文章をよりよく理解するために子どもが使用する読解ストラテジー（方略）や、文字・単語・文の読みの流暢さを表す「読書・音読行動」、そして本や読書への関わりや態度を示す「読書習慣・興味・態度」の３つの面からなる力を指します。
・DLA〈読む〉では「読書力」を測ります。DLA〈読む〉を通して、多角的かつ包括的に読書力を捉えることで指導・支援のヒントを得ると同時に、子どもが本に興味を示し、読書が好きになるきっかけを作ることを目指しています。

❷対象

・DLA〈読む〉は、日本語の文字の習得が進みつつある子どもから年齢相応の読書力を身につけている子どもまで、複数言語環境で育つ幅広いレベルの子どもを対象としています。
・ただし、対話を通して読書力を測るため、DLA〈はじめの一歩〉でほとんど受け答えが成立しなかった子どもには実施できません。
・日本語の基礎的な読書力を身につけつつある子どもについては、その子どもの読書力の上限を正確に把握するために、母語での実施をお勧めします。DLA〈読む〉を母語に翻訳して使用することはできませんが、子どもの母語ができる実施者がいる場合、読書力レベルに応じた母語のテキストを用意して、DLA〈読む〉と同様の手順でアセスメントを実施することで、ある程度、母語での読書力レベルを推測できます。

❸構成

・DLA〈読む〉は、以下の３つから構成されています。

①**「DLA〈読む〉レベル別テキスト」（別冊資料）**
10のテキストがあります。子どもの年齢、滞日期間、日本語の力を考慮しつつ、選択します。

②**「DLA〈読む〉実践ガイド」**
10のレベル別テキストに対応したDLA〈読む〉実施の手引きです。実施者はこの手順、声かけ、発問例に従って進めます。

③**「DLA〈読む〉評価メモ」**
DLA〈読む〉を実施したあと、テキストに対応した評価メモの観点にしたがって、何がどの程度できたかをメモします。

❹テキストの選択方法

・DLA〈読む〉では、以下の計10冊のレベルの異なるテキストを別冊資料として添付しました。
・次の【テキストレベルと「ことばの力のものさし」〈読む〉の対照表】を参考にし、子どもの年齢、滞日期間、日本語の力、興味や既有知識、その他の条件を考慮した上で最初に手にするテキストを選びます。表中の▲で示されたテキストは、そのレベルの子どもに最適というわけではなく、やや難しいと子どもが感じる可能性のあるテキストです。
・テキスト選定の際には、テキスト別実践ガイドに記載の「テキストについての補足」の情報も参考にしてください。

・DLA〈読む〉の実践ガイドにしたがって、子どもがテキストを手に取る様子や音読の流暢さを観察し、難しそうであればテキストのレベルを下げます。
・漢字についてはレベルに応じてルビが振られていますが、対象の子どもの既習漢字の読みの力を測定したい場合には、ルビを減らしてもかまいません。ただし、漢字が負担となって読みへの抵抗感を強めることがないよう、十分に配慮する必要があります。

【テキストレベルと「ことばの力のものさし」〈読む〉の対照表】

<table>
<tr><th>ステージ
ステップ</th><th>A
【イマココ】期</th><th>B
【イマココから順序】期</th><th>C
【順序】期</th><th>D
【因果】期</th><th>E
【抽象】期</th><th>F
【評価・発展】期</th></tr>
<tr><td>8</td><td rowspan="8"></td><td rowspan="8"></td><td rowspan="8"></td><td rowspan="8"></td><td rowspan="8"></td><td>「水の東西」</td></tr>
<tr><td>7</td><td>「自然を守る」
「アニメーションとわたし」</td><td>▲「水の東西」
「自然を守る」
「アニメーションとわたし」</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="2">「貝がら」</td><td>▲「アニメーションとわたし」
「貝がら」</td></tr>
<tr><td>5</td><td>「花いっぱいになあれ」</td><td rowspan="2">「花いっぱいになあれ」
▲「あつまれ、楽器」</td><td colspan="2">「あつまれ、楽器」</td></tr>
<tr><td>4</td><td>「ことりと木のは」</td><td colspan="2">▲「あつまれ、楽器」</td></tr>
<tr><td>3</td><td rowspan="3">読み聞かせ</td><td>「えんそくのおとしもの」</td><td>「ことりと木のは」
▲「ハチの話」</td><td colspan="2">「ハチの話」</td></tr>
<tr><td>2</td><td>「えんそくのおとしもの」
▲「カラスと水さし
～イソップ物語より～」</td><td colspan="2">「カラスと水さし～イソップ物語より～」</td></tr>
<tr><td>1</td><td colspan="2">▲「カラスと水さし～イソップ物語より～」</td></tr>
</table>

・「えんそくのおとしもの」はDLA〈読む〉用に書き下されたテキストです。
・「ことりと木のは」、「花いっぱいになあれ」、「あつまれ、楽器」、「貝がら」、「アニメーションとわたし」、「自然を守る」の６冊は過去に国語教科書（光村図書出版株式会社）に掲載された作品を集めた『光村ライブラリー』（2002,光村図書出版株式会社）から選び、初版（2014年発行）のDLA〈読む〉のレベル別テキストとして採用しました。
・「カラスと水さし～イソップ物語より～」、「ハチの話」はNPO多言語多読監修の日本語レベル別読み物で、滞日期間が短い小学校高学年や中高生（母語で一定の読書力を身につけた後に日本語習得が始まる子ども）向けのものです。「水の東西」は高校の複数の国語教科書に掲載されている論説文で、この度の改訂で新たに加えられたものです。
・詳しい出典、作者等については、「DLA〈読む〉レベル別テキスト」（別冊資料）をご参照ください。
・子どもの読書力の発達を継続的に観察し、適切な指導・支援を行うためには、より多くのレベル別テキストが必要です。この10冊のテキストは、DLA〈読む〉のアセスメント方法と読書力のレベルの目安を理解するためのサンプルです。各テキストの実践ガイドに記載された「テキストについての補足」を参考にしながら、市販のテキストなどからアセスメントに活用できる題材を適宜選び、読書力のアセスメントを継続的に行うことが望ましいです。

⑤実施手順

事前準備

・「DLA〈読む〉レベル別テキスト」（別冊資料）を、手に取って読めるように冊子状にします。
・スムーズに進められるように練習しておきます。「DLAワンポイントレッスン」の動画を試聴し、実施者の進め方や態度、テンポを参考にしてください。
・対象とする子どもが読めそうなテキストを別冊資料の中から２～３冊選び、対応する実践ガイドとともに準備します。
・録音または録画機器、メモ用紙を手元に用意します。

アセスメントの実施

・録音・録画機器の状態を確かめ、スイッチを入れてから、DLA〈読む〉を始めます。
・実践ガイドにしたがって、「読むまえに」「読みましょう」「話し合いましょう」「読んだあとで」の順に進めます。

①読むまえに

テキスト選択

・まず、対象の子どもが読める可能性のある上限レベルのテキストを渡し、音読の流暢さや子ども自身が「読める」と感じているかを観察しながらテキストを決定します。難しそうであれば、一つ下のレベルのテキストに変更します。

興味・関心

・テキスト理解に関わる、いくつかのキーワードの意味を確認すると同時に、テーマについて子どもの関心を引き出します。

予測・推測

・レベルに応じて、絵や挿絵を見たり、テキストの冒頭部分を読み聞かせて、内容について予測・推測を促します。

②読みましょう

読み聞かせ・音読・黙読

・実施者と一緒に1冊のテキストを最後まで読み切ります。実践ガイドにしたがって、まず実施者が読み聞かせを行い、その後、子どもが音読します。さらに、読書力レベルの高い子どもの場合は、黙読も取り入れます。
・音読・黙読の際、子どもが漢字の読み方や語彙の意味を質問した場合にはすぐに答えます。**間違って読んだ場合でも訂正しません。**

③話し合いましょう

あらすじ・要旨の口頭再生

・**テキストを閉じて**、読んだ内容についてあらすじや要旨を子どもが口頭で再生します。
・十分に再生できない場合、例えば、低年齢児に対しては「一緒に最初から思い出してみましょう」「初めに誰が出てきましたか」「それから？」「最後にどうしましたか」、高年齢児に対しては、「まとめて話してくれましたが、もう少し詳しく教えてください」等と声かけをし、子どもの発話を最大限に引き出します。
・口頭再生の支援の際、子どもにテキストを見せることはお勧めしません。テキストを見ると、子どもが理解した内容を自分のことばで表現するのではなく、そのまま読んでしまうことが多いからです。一方で、子どもがテキストの内容を十分に理解していないとわかった場合には、テキストを開いて、子どもにもう一度読むように促したり、実施者が読み聞かせをしたりといった理解のための支援をしながら内容を確認すると効果的です。

理解を深めるやりとり・解釈・感想・意見

・口頭再生の内容に不足があった場合、その点についてさらに質問をしたり、理解を深めるための質問をしたりします。また、内容に関する感想や意見、その意見の理由や根拠を聞きます。上のレベルのテキストでは、あえて子どもの意見に反論し、考えを深めるよう促す質問をすることも効果的です。

・上のレベルのテキストでは、実践ガイドの記載の通り、この時点でテキストを見せてもかまいません。

④読んだあとで

ふり返り・読書習慣に関する質問

・やりとりをふり返り、子どもの頑張りを認めた上で、普段の読書習慣や読書・言語環境、読書についてどのように感じているか話し合います。

読みへの内省

・高年齢児の場合は、自分自身がどのように読んで、どのように理解しているかということに対する内省を促します。

⑥実施上の留意点

流れを重視する

・DLA〈読む〉にかかる時間は10〜25分程度です。時間をかけすぎず、**自然な速さでテンポよく**対話を進めます。

・途中で子どもの**読みや発話を遮ったり、否定したり、訂正してはいけません。**

・質問されたとき以外は、答えを教えません。質問されたときはわかりやすく答えます。

・話し合ったり、励ましたりしながら、子どもの理解を深め、発話をできるかぎり引き出します。

・子どもが考えていたり、応答するのに時間がかかっていたりするときは、焦らせず、**しっかり待ちましょう。**

雰囲気作り

・**和やかな雰囲気作り**を心がけましょう。テストとして実施するのではなく、子どもとの読書の時間を楽しむつもりで臨んでください。**子どもにとっても、楽しい読書の時間**となるように心がけましょう。

・子どもの発話に対して、相づちを打ったり、うなずいたりして反応します。

対話中は採点しない

・子どもの面前で採点や評価をしないでください。評価は実施後に行います。

・正確な評価・記録のために録音もしくは録画をしましょう。

ほめて終わる

・良いところを見つけて、積極的に褒めます。どんなレベルであっても、最後には、日本語で「読んで話した」ということを前向きに高く評価して終わってください。

母語の活用

・日本語で答えにくい場合には、母語で答えたり、絵や図を使って表現したりしてもかまいません。終了後に、録音したものを子どもの母語ができる人の助けを得て評価するなどの方法が考えられます。

・来日してからの期間が短い場合など、日本語よりも母語の読書力が高い子どもには、母語ができる実施者が母語でアセスメントを行うのも効果的です。DLA〈読む〉をそのまま母語に翻訳して使用することはできませんが、子どものレベルに合った母語のテキストを用意し、DLA〈読む〉と同様の手順でアセスメントを行うことで、母語での読書力をある程度推測することが可能です。日本語が習得途上にいる子どもの中には、学校で母語で学ぶ機会がなく、不得意な日本語でのみ学習を強いられることでストレスを感じている場合もあります。母語を用いたDLA〈読む〉の実施により、自分の力を発揮し、自信を取り戻す事例も見られます。

❼評価の方法

・DLA〈読む〉の終了後に、録音・録画をした内容を確認します。
・DLA〈読む〉評価メモ（pp. 67-70）を使用して、観点にしたがって、何がどの程度できたかをメモします。
・評価メモに記入した内容を、日常の観察などと共に「ことばの力のものさし」〈読む〉の「包括的なことばの発達ステージ」と「日本語の習得ステップ」の記述文に照らして評価します。「包括的なことばの発達ステージ」のほうは、日本語でのDLA〈読む〉の結果からだけではなく、母語の力も推定しつつ、子どもが持っているすべてのことばを使ってできる最大限の力を包括的に捉えて評価します。
・DLAは子どものことばの力を点数化して、その結果を序列化するための標準化テストではありません。対話を通して、子どもがことばを活用して「できること」や「支援を得てできること」を観察し、その情報を学習の指導・支援に役立てるためのアセスメントです。
・ですから、ここで得られた結果を包括的かつ多角的な観点から捉え、次のステージとステップを目指した指導・支援につなげてください。詳しい指導・支援の方法については、「ことばの力のものさし」の実践ガイドをご参照ください。

＼ 実践ガイド ／

えんそくのおとしもの

（小学校低中学年用　ステージB～D　ステップ2～3）

読むまえに…

❶手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本を一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、そのあとを○○さんに読んでもらいますね。
読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

❷テキスト選び：いっしょに読む本を決める。

・テキストを子どもにわたす。



これは『えんそくのおとしもの』というお話です。
はじめは私が読んで、○○さんには、ここ（7ページはじめ）から読んでもらいます。

❸興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「えんそく」に行ったことがありますか。
「えんそく」は好きですか／楽しかったですか。

❹予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。
これはどんなお話だと思いますか。

テキストについての補足：

このテキストは、DLA〈読む〉用に書き下ろされたもので、絵のみでもストーリーが推測できる短い絵本です（1ページに1～3文程度）。文や単語の繰り返しによって、時系列に沿った展開が構成されています。

ひらがな、カタカナの拾い読みの段階の低年齢の子どもに適しています。高年齢の子ども（高学年以上）には、テーマが認知発達レベルに適さないため、原則として使用しません。

内容の理解が難しい子どもでも、絵を見ながら楽しさを感じ、ストーリーを想像できるように配慮します。「読みましょう」では、後半を子どもが読む形式ですが、文字の習得が十分でない子どもには読み聞かせたり、様子をみながら一緒に読むことも可能です。逆に、意欲があり、「1人で読みたい」という子どもに対しては、自分で読むように勧めてもかまいません。「話し合いましょう」の場面では、じっくり待ち、はげましながら、発話を引き出すよう、スモールステップのサポートを心がけてください。

母語で読書力があり、日本語学習期間が短いためにこのテキストを選択した子どもの場合は、日本語の音読やあらすじを話す力が十分でなくても内容をよく理解できている場合があります。その際は、可能であれば最後に母語であらすじを話したり、内容について話し合うとよいでしょう。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感を感じられるようサポートしてください。

えんそくのおとしもの

（小学校低中学年用　ステージB～D　ステップ2～3）

読みましょう…

❶読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、初めから5ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。
後でどんなお話か聞きます。しっかり聞いていてください。

❷音読：続きを子どもが読む。

・7ページの初めからテキストの最後までを指で押さえながら読む。（指を添えなくても読める場合は、実施者が押さえるか、無理にやらせなくていい。）



これから○○さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。はい、どうぞ。

・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。（特に訂正や指導はしない）

・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう…

❶あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。
実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。
終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。
重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくてもよい。

あらすじチェック
□　1．きょうは、（ももちゃんは）えんそく。
□　2．すいとうがおちちゃった。
□　3．「これはなんだろう。」と、くまさん。
□　4．サンドイッチがおちちゃった。
□　5．「これはなんだろう。」と、うさぎさん。
□　6．チョコレートもおちちゃった。
□　7．「これはなんだろう。」と、りすさん。
□　8．（おべんとうの時間、リュックサックの中には）なにもない。
□　9．くまさんとうさぎさんとりすさんが、「おとしものだよ。」とはしってきた。
□　10．みんなでいっしょに「いただきます。」

えんそくのおとしもの
（小学校低中学年用　ステージB～D　ステップ2～3）

❷理解を深めるやりとり：「絵」を見て、話し合いながら、理解を深める。

・あらすじ再生が難しい場合、「文字」ではなく、「絵」を見ながら、順序にそって、ストーリーを追い、その中で、子どもの発話を引き出す。

❸文字と音の認識：文字と音との対応ができているか再度、確認する。

・4ページをひらいて、次の質問をして、指で指し示せるかを確認する。



「くまさん」ということばはどこにありますか。
「は」（wa）と読む字はありますか／どこにありますか。

・5ページをひらいて、次の質問をする。



「サンドイッチ」ということばはどこにありますか。

・9ページをひらいて、次の質問をする。



「へ」（e）と読む字はありますか／どこにありますか。

❹解釈・感想：話を読んで、また自分の体験と結びつけてどう感じたか話し合う。



このお話は面白かったですか。　　どこが一番面白かったですか。
どうしてそこが一番面白かったですか。　　思い出したことや考えたことはありますか。

読んだあとで…

❶ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

❷読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本（教科書ではない本）を読みますか。
自分で読むのと、お話を聞くのとどちらが好きですか。
おうちの人に○○語／日本語の本を読んでもらいますか。
どんな本（お話の本、絵本、クイズ、めいろ、図鑑、マンガなど）が好きですか。
（わかれば）好きな本の名前を教えてください。

・母語で読書力がある子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか。（絵本、図鑑、物語、説明の本、教材など）
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

＼ 実践ガイド ／

ことりと木のは

（小学校低中学年用　ステージB～D　ステップ3～4）

読むまえに…

❶手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本を一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、そのあとを○○さんに読んでもらいますね。
読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

❷テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。



これは『ことりと木のは』というお話です。どうですか。
読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

・１ページの冒頭の１～２文を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



はじめだけ少し読んでみて、決めましょう。１ページを声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども　☞そのままこの実践ガイドにそって進む。
・「読めない」と言った子ども ☞ 低中学年用の一つ下のレベルのテキストに変更

❸興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「とり（ことり）」を知っていますか。見たことがありますか。
「木のは」を知っていますか。

❹予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。
これはどんなお話だと思いますか。

テキストについての補足：

このテキストは、過去に光村図書出版の国語教科書（小学１年生「上」）に掲載されていたもので、挿絵によって時系列に沿ったストーリー展開が予測できる物語です。ひらがな、カタカナを習得し、おおむね単語や文節ごとに区切って読めるようになった低年齢の子どもに適しています。高年齢の子ども（高学年以上）には、テーマが認知発達レベルに適さないため、原則として使用しません。

まだ文字の拾い読み段階の子どもがこのテキストを選んだ場合、様子を注意深く観察し、必要に応じてテキストレベルを下げてもかまいません。また、最後まで読めたとしても、あらすじ再生が難しい場合は、じっくり待ち、はげましながら、発話を引き出すようスモールステップのサポートを心がけてください。

母語で読書力があり、日本語学習期間が短いためにこのテキストを選択した子どもの場合は、日本語の音読やあらすじを話す力が十分でなくても内容をよく理解できている場合があります。その際は、可能であれば最後に母語であらすじを話したり、内容について話し合うとよいでしょう。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感を感じられるようサポートしてください。

ことりと木のは

（小学校低中学年用　ステージB～D　ステップ3～4）

読みましょう…

❶読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、初めから4ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。
後でどんなお話か聞きます。しっかり聞いていてください。

❷音読：続きを子どもが読む。

・5ページの初めからテキストの最後までを子どもに読ませる。



これから○○さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。もしわからないことばがあったら聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では始めましょう。

・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。
（特に訂正や指導はしない）

・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう…

❶あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。
実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。
終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。
重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくてもよい。

あらすじチェック
□　1．ことりのおかあさんが病気です。
□　2．ことりは、えさをさがしに行きました。
□　3．たかがことりにとびかかりました。
□　4．ことりは「たすけて。たすけて。」と（にげながら）さけびました。
□　5．山の木たちは、いっせいにえだをゆすりました。
□　6．木のはがいっぱいおちてきました。
□　7．たかは、ことりか木のはか、分からなくなりました。
□　8．ことりは、とんでいきました。

ことりと木のは

（小学校低中学年用　ステージB～D　ステップ3～4）

❷理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に、以下の質問をする。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。

質　問	解答例
1. はじめ、ことりは何をしに行きましたか。	1. 木のみをとりに行った。
2. ことりはどうして木のみをとりに行きましたか。	2. おかあさんが病気で、おかあさんにあげるため。（早く元気になってほしかったから。）
3. 山の木たちはどうやってことりをたすけましたか。	3. えだをゆすって、木のはをおとして、ことりか木のはかわからなくした。
その他の質問（自由）	

❸解釈・感想：お話を読んで、また自分の体験と結びつけてどう感じたか話し合う。



このお話は面白かったですか。　　どこが一番面白かったですか。
どうして（そこが一番面白かった）ですか。　思い出したことや考えたことはありますか。

読んだあとで…

❶ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

❷読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める



本は好きですか。よく本（教科書ではない本）を読みますか。
自分で読むのと、お話を聞くのとどちらが好きですか。
おうちの人に○○語／日本語の本を読んでもらいますか。
どんな本（お話の本、絵本、クイズ、めいろ、図鑑、マンガなど）が好きですか。
（わかれば）好きな本の名前を教えてください。

・母語で読書力がある子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか。（絵本、図鑑、物語、説明の本、教材など）
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

＼ 実践ガイド ／ 花いっぱいになあれ

（小学校低中学年用　ステージC～D　ステップ4～5）

読むまえに…

❶手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本を一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、そのあとを○○さんに読んでもらいますね。
読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

❷テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。



これは『花いっぱいになあれ』というお話です。○○さんは、ここ（8ページの最後から3行目を指して）から読みます。どうですか。読めそうですか。

・1ページの冒頭の2文を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



はじめだけ少し読んでみて、決めましょう。ここ（4行目）までを声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども　☞そのままこの実践ガイドにそって進む。
「読めない」と言った子ども ☞ **低中学年用の一つ下のレベルのテキストに変更**

❸興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「ふうせん」を知っていますか。
「花のたね」を知っていますか。

❹予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。
これはどんなお話だと思いますか。

テキストについての補足：

このテキストは、過去に光村図書出版の国語教科書（小学1年生「下」）に掲載されていた物語です。ひらがな、カタカナを習得し、単語や文節、文や意味のまとまりで区切りながら安定して読めるようになった低年齢の子どもに適しています。また、時間の流れに沿ってストーリーが展開する物語文のため、低年齢の子どもの読解力の発達を把握するのに適しています。高年齢の子ども（高学年以上）には、テーマが認知発達レベルに適さないため、原則として使用しません。

母語での話す力のほうが高い子どもに対しては、可能であれば、最後に母語であらすじを話したり、内容について話し合うとよいでしょう。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感を感じられるようサポートしてください。

花いっぱいになあれ

（小学校低中学年用　ステージC～D　ステップ4～5）

読みましょう…

❶読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、実施者が初めから8ページの7行目まで声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。
後でどんなお話か聞きます。しっかり聞いていてください。

❷音読：続きを子どもが読む。

・8ページの8行目から最後までを子どもに読ませる。



これから○○さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。もしわからないことばがあったら聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では始めましょう。

・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。
（特に訂正や指導はしない）

・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう…

❶あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。
実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。
終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。
重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくてもよい。

あらすじチェック	
□	1．学校の子どもたちがふうせんにお花のたねをつけてとばしました。
□	2．まっかなふうせんが下りたところに、子ぎつねのコンが、いいゆめをみて、ひるねをしていました。
□	3．（目をあけると）まっかな花がさいていました。
□	4．コンはねっこをあなにうめました。
□	5．つぎの朝、赤い花は小さくしぼんで、たおれていました。
□	6．それから雨が毎日ふって、花のさいていたあとに、めがのびました。
□	7．ある日、大きな金色の花をさかせました。
□	8．学校の子どもたちが、赤いふうせんにひまわりのたねをつけてとばしたのです。
□	9．秋にはびっしりたねがみのりました。
□	10．コンはひまわりのたねを食べて、ゆめのことを思い出しました。
□	11．つぎの年、野原じゅうに、大きな金色のひまわりの花をさかせました。

花いっぱいになあれ
（小学校低中学年用　ステージC～D　ステップ4～5）

❷理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に、以下の質問をする。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。

質　問	解答例
1. コンがみつけたまっかな花は何ですか。	1. ふうせん
2. まっかな花がたおれた時、コンはどんな気持ちでしたか。	2. とても悲しかった。
3. まっかな花がたおれた後、どうして、金色の花がさきましたか。	3. コンが紙づつみを赤い花のたねだと思ってうめて、雨が降って、その種から花がさいた。／学校の子どもたちがふうせんにひまわりの種をつけて飛ばしたから。
4. 金色の花をみて、たねを食べたとき、コンはどう思いましたか。	4. あのときみたいいゆめがこの金色の花がさいたゆめで、ゆめで食べた味だと思った。
その他の質問（自由）	

❸解釈・感想：お話を読んで、また、自分の体験と結びつけて、感じたことを話し合う。



このお話は面白かったですか。　　どこが一番面白かったですか。
どうして（そこが一番面白かった）ですか。　思い出したことや考えたことはありますか。

読んだあとで…

❶ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

❷読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本（教科書ではない本）を読みますか。
自分で読むのと、お話を聞くのとどちらが好きですか。
おうちの人に○○語／日本語の本を読んでもらいますか。
どんな本（お話の本、絵本、クイズ、めいろ、図鑑、マンガなど）が好きですか。
（わかれば）好きな本の名前を教えてください。

・母語で読書力がある子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか。（絵本、図鑑、物語、説明、教材、インターネットなど）
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

＼ 実践ガイド ／

カラスと水さし ～イソップ物語より～

（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ1～2）

読むまえに…

❶手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。
可能であれば、母語で説明してもよい。



これから本を一緒に読みましょう。そして、どんな話か、話してください。

❷テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたし、タイトルを指して次のように言う。



これは『カラス(からす)と水(みず)さし』です。読めますか／この話を知っていますか？

❸興味・関心：めくって見せながら、日本語で読むことに関心を示すかどうか観察する。

・カラスや水さしの絵を指差しながら、次のような問いかけをしてもよい。



これはカラス／水さしですね。

❹予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。

・日本語で十分に話せない場合は、無理に話すことを求めない。



絵を自由に見てください。
これはどんな話だと思いますか。

・母語で話したそうな子どもには、次のように促してもよい。



○○語で話してもいいですよ。

テキストについての補足：

このテキストは、日本語学習を始めたばかりの学習者向けにリライトされたイソップ寓話「カラスと水さし」で、NPO多言語多読が監修しています。NPO多言語多読が定めるレベルでは「レベル0（入門）」に位置し、横書きで、ほぼ絵のみでストーリーが理解できるよう構成されています。滞日期間が短い高学年や中高生の日本語の読書力を把握する手段として活用してください。ひらがなやカタカナを習得し始め、文字の拾い読みや単語や文節で区切って読む力を身につけつつある高学年や中高生に適しています。

このテキストを選ぶ高年齢の子どもは、母語での読書力や話す力のほうが基本的に高いですが、日本語ではひらがなやカタカナが読めても、あらすじを再生することが難しい場合があります。そのような場合は、無理に日本語で話すことを求めるのではなく、可能であれば、最後に母語であらすじを話したり、内容について話し合ったりしながら、子どもが「読めた」「話せた」と達成感を感じられるようにサポートしてください。

カラスと水さし ～イソップ物語より～

（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ1～2）

読みましょう…

❶読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せつつ、実施者が指で文字を押さえながら、初めから2ページまで声に出して読む。



「今日は、とてもあついです。カラスは、のどがかわきました。」「水～、水～」…

❷音読：続きを子どもと交代しながら読む。

・3ページの初めからテキストの最後まで、一緒に指で文字を押さえながら交互に（あるいは一緒に）読む。



「はい、○○さん、読んで」
「カラスは水が飲みたいです。でも・・・。」「だめだ～」…

・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう…

❶あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。
実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこの話はどんな話でしたか。話してください。はい、どうぞ。

・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。
重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくてもよい。
・原則的にはテキストを閉じて内容を確認するが、子どもが日本語で話せない場合、テキストを見ながら、話し合ってもよい。日本語が話せない子どもに無理に話させようとして負担を感じさせないように注意する。
・実施者が子どもの母語がわかれば、母語で内容を聞いてもよい。

あらすじチェック
□　1．今日はあついです。
□　2．カラスはのどがかわきました。
□　3．水さしがあります。
□　4．カラスは水が飲みたいです。
□　5．でもだめです。
□　6．カラスは石をはこびます。
□　7．入れます。たくさん入れます。
□　8．カラスは水を飲みました。



たくさん／頑張って／上手に話せましたね。



この話は面白かったですか。どこが（どうして）面白かったですか。

・母語でやりとりをしている場合は、以下の質問を加えてもよい。



この話の大事なメッセージはなんですか。どうしてそう思いますか。
そのメッセージに対して、○○さんはどう思いますか。

カラスと水さし ～イソップ物語より～
（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ1～2）

読んだあとで…

❶ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。

・日本語でのやりとりが難しい場合、無理に読みへの内省や読書習慣についてやりとりを行わなくてもよい。
・可能であれば、母語で質問してもよい。

❷読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



(内容で)わかりにくいところがあったら、どうしますか。(読み返す、挿絵や写真を見る、イメージする、具体例を考える、自分の体験と結びつける、質問する、そのまま読み続けるなど)
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、挿絵や写真を見る、声に出して言う、推測する、質問する、そのまま読み進める、辞書を使うなど)
○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか)

❸読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。○○語でよく本を読みますか。
いつ読みますか。(朝読書の時間、図書の時間、休み時間、放課後(うちで)など)
この1学期間（1年間、○休みの間など）に何冊ぐらい本を読みましたか。
○○語でどんな本を読みますか。
(物語・小説、説明・情報文、教材、マンガ、インターネット上の情報など)
○○語で好きな本の題名を教えてください。
日本語では、どんな本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

02

＼ 実践ガイド ／

ハチの話

（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ3）

読むまえに…

❶手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本を一緒に読みましょう。はじめは私が読みます。あとで、○○さんが読みます。最後に、どんな話か、話しましょう。

❷テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。



これは『ハチの話』です。どうですか。
読めますか。もう少しやさしい本にしますか。

・１ページを音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



少し読んで、決めましょう。ここ（１ページ）を声に出して読んでください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読めますか。

・「読める」と言った子ども　☞そのままこの実践ガイドにそって進む。

・「読めない」と言った子ども ☞ 中高学年・中高生用の一つ下のレベルのテキストに変更

❸興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・「ハチ」や「先生」の絵を指して、次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



これは何ですか。そう、犬です。名前はハチです。この人は先生です。

・19ページの写真を見ながら次のように言う。



ここは東京の渋谷です。渋谷駅です。この駅にハチの像があります。
どうしてハチの像があるのでしょうね。

・ハチの像が渋谷駅にある理由を知っている場合も知らない場合も、その点には特に触れず、そのまま次の「予測」に進む。

❹予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見てください。
これはどんな話だと思いますか。

テキストについての補足：

　このテキストは、NPO多言語多読による監修の「レベル別日本語多読ライブラリーにほんごよむよむ文庫」に収録されている話です。NPO多言語多読が定めるレベルでは「レベル１（初級前半）」とされています。滞日期間が短い高学年や中高生の日本語の読書力を把握する手段として活用してください。身近なトピックについて、日常生活で用いられる基本的な語句や単文を用いて書かれた短いテキストを、おおむね単語や文節で区切って読めるようになった高学年や中高生に適しています。

　このテキストを選ぶ高年齢の子どもは、母語での読書力や話す力のほうが基本的に高いですが、日本語ではひらがなやカタカナが読めても、あらすじを再生することが難しい場合があります。そのような場合は、無理に日本語で話すことを求めるのではなく、可能であれば、最後に母語であらすじを話したり、内容について話し合ったりしながら、子どもが「読めた」「話せた」と達成感を感じられるようにサポートしてください。

ハチの話

（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ3）

読みましょう…

❶読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、初めから8ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。
後でどんな話か聞きます。しっかり聞いてください。

❷音読：続きを子どもが読む。

・9ページの初めからテキストの最後までを子どもに音読させるが、音読と黙読とどちらのほうが内容がよく理解できるかを確認する。



これから○○さんが読みます。ここから最後まで声に出して読んでください。
○○さんは声に出して読むのと、出さないで読むのと、どちらがよくわかりますか。
もしわからないことばがあったら聞いてください。
後でどんな話か聞きますね。しっかり読んでください。では始めましょう。

・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。
（特に訂正や指導はしない）

・音読が終わった後、子どもの取り組みを認めた上で、黙読のほうがよく理解できると言った子どもに対して次のように声をかける。



とても上手に／頑張って、読めましたね。



今、読んだところをもう一度黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

話しあいましょう…

❶あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。
実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこの話はどんな話でしたか。はじめてこの話を聞く人にわかるように話してください。
終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。
重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくてもよい。

・日本語が十分に話せない子どもに無理に話させようとして負担を感じさせないように注意する。
実施者が子どもの母語がわかれば、母語で内容を聞いてもよい。

あらすじチェック
□　1．先生がハチをもらいます。
□　2．毎日ハチと先生はいっしょです。
□　3．先生は大学へ行きます。ハチも一緒に駅へ行きます。
□　4．夕方、ハチと先生は一緒にうちへ帰ります。
□　5．その日、先生は帰りませんでした。
□　6．先生は大学で倒れました。もういません。
□　7．ハチはわかりません。先生を毎日待ちます。
□　8．春も夏も秋も冬も、雨も雪も風も、先生を待ちます。
□　9．10年毎日、渋谷駅へ行きました。
□　10．今、渋谷駅にハチの像があります。

ハチの話

（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ3）

❷理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に、以下の質問をする。



たくさん／頑張って／上手に話せましたね。今度は少し私が質問しますね。

質　問	解答例
1. どうして先生は帰ってきませんでしたか。	1. 大学で倒れて、亡くなってしまったから。
2. ハチはどうして毎日渋谷に行きましたか。	2. 先生に会いたかったから／先生が倒れたことを知らなかったから／先生に会えると思っていたから。
3. どうして、渋谷駅に今、ハチの像がありますか。	3. 10年も先生を待ったハチをみんながすごいと思ったから。
その他の質問（自由）	

❸解釈・感想：話を読んで、また、自分の体験と結びつけて、感じたことを話し合う。



この話は面白かったですか。　　どこが一番面白かったですか。
どうして（そこが一番面白かった）ですか。　思い出したことや考えたことはありますか。



この話の大事なメッセージはなんですか。どうしてそう思いますか。
そのメッセージに対して、○○さんはどう思いますか。

読んだあとで…

❶ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

・日本語でのやりとりが難しい場合、無理に読みへの内省や読書習慣についてやりとりを行わなくてもよい。

・可能であれば、母語で質問してもよい。

❷読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



（内容で）わかりにくいところがあったら、どうしますか。（読み返す、挿絵や写真を見る、イメージする、具体例を考える、自分の体験と結びつける、質問する、そのまま読み続けるなど）
わからないことばがあったときはどうしていますか。（読み返す、挿絵や写真を見る、声に出して言う、推測する、質問する、そのまま読み進める、辞書を使うなど）
○○語を使って考えたりしましたか。（した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか）

❷読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。○○語でよく本を読みますか。
いつ読みますか。（朝読書の時間、図書の時間、休み時間、放課後（うちで）など）
この1学期間（1年間、○休みの間など）に何冊ぐらい本を読みましたか。
○○語でどんな本を読みますか。
（物語・小説、説明・情報文、教材、マンガ、インターネット上の情報など）
○○語で好きな本の題名を教えてください。
日本語では、どんな本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

＼ 実践ガイド ／

あつまれ、楽器

（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ4～5）

読むまえに…

❶手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本を一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、そのあとを○○さんに読んでもらいますね。
読み終わったら、どんな話だったか話しましょう。

❷テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。



これは『あつまれ、楽器』という話です。どうですか。
読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

・１ページの冒頭の３文を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



はじめだけ少し読んでみて、決めましょう。ここ（3行目）までを声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども　☞そのままこの実践ガイドにそって進む。
・「読めない」と言った子ども　☞**中高学年・中高生用の一つ下のレベルのテキストに変更**

❸興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「楽器（がっき）」を知っていますか。どんな楽器を知っていますか。
「フライパン」「わゴム」「ストロー」を知っていますか。

❹予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。
これはどんな話だと思いますか。

テキストについての補足：

　このテキストは、過去に光村図書出版の国語教科書（小学２年生）に掲載されていた説明文です。ひらがな、カタカナを習得し、単語や文節、文や意味のまとまりで区切りながら安定して読めるようになった子どもに適しています。長さは短いですが、説明文の構成理解が求められるため、低年齢の子どもにとっては内容理解が難しい場合が少なくありません。身近なテーマで簡単なまとまり（構成）のある挿絵つきの説明文のため、滞日期間の比較的短い高学年や中高生の日本語の読書力の把握に活用してください。

　このテキストを選ぶ高年齢の子どもは、母語での読書力や話す力のほうが高いケースが多いです。この場合、音読が流暢でなくても黙読なら理解が深まる場合があります。黙読を繰り返してもよいことを伝えたり、わからない漢字や語彙について質問しやすい雰囲気を作るなど、適切なサポートを心がけてください。可能であれば、最後に母語であらすじを話したり、内容について話し合ったりしながら、子どもが「読めた」「話せた」という達成感を感じられるようサポートしてください。

あつまれ、楽器

（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ4～5）

読 み ま し ょ う …

❶読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、実施者が初めから２ページの最後まで声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。
後でどんな話か聞きます。しっかり聞いていてください。

❷音読：続きを子どもが読む。

・３ページの初めからテキストの最後までを子どもに音読させるが、音読と黙読とどちらのほうが内容がよく理解できるかを確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。○○さんは声に出して読むのと、出さないで読むのと、どちらがよくわかりますか。もし、わからないことばがあったら聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では始めましょう。

・実施者は音読の区切り方や、つまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。（特に訂正や指導はしない）

・音読が終わった後、子どもの取り組みを認めた上で、黙読のほうがよく理解できると言った子どもに対して次のように声をかける。



とても上手に／頑張って、読めましたね。



今、読んだところをもう一度黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

話 し あ い ま し ょ う …

❶あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。
実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんな話でしたか。はじめてこの話を聞く人にわかるように話してください。
終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。
重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくてもよい。

あらすじチェック
□　1．フライパン、わゴム、ストローは三つとも楽器としてつかうことができます。
□　2．楽器は音の出し方で三つのなかまに分けられます。
□　3．一つはたたいて音を出す楽器です。
□　4．たいこや木きん、フライパンもこのなかまです。
□　5．もう一つは糸をはじいたりこすったりして音を出す楽器です。
□　6．ギターやバイオリン、わゴムもこのなかまです。
□　7．さいごは、いきをふきこんで音を出す楽器です。
□　8．ふえやラッパ、ストローもこのなかまです。
□　9．楽器を作って、音楽会をひらいてみましょう。

あつまれ、楽器

（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ4～5）

❷理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に、以下の質問をする。



たくさん／頑張って／上手に話せましたね。今度は少し質問しますね。

質　問	解答例
1. フライパンとわゴムとストローは、同じことに使います。何に使いますか（何になりますか）。	1. 楽器
2. 楽器は三つのなかまに分けられます。どんななかまですか。	2. たいこや木きん、ギターやバイオリン、ふえやラッパのなかま。／たたいて音を出すなかま、糸をはじいたりこすったりして音をだすなかま、いきをふきこんで音を出すなかま。
3. この三つのなかまは、どこ（何）がちがいますか。	3. 音の出し方
その他の質問（自由）	

❸解釈・感想：話を読んで、また、自分の体験と結びつけて、感じたことを話し合う。



この話は面白かったですか。
どうして（そこが一番面白かった）ですか。
どこが一番面白かったですか。
思い出したことや考えたことはありますか。



この話で、大事なポイントはなんだと思いますか。どうしてそう思いますか。

02

読んだあとで…

❶ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

❷読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



（内容で）わかりにくいところがあったら、どうしますか。（読み返す、挿絵や写真を見る、イメージする、具体例を考える、自分の体験と結びつける、質問する、そのまま読み続けるなど）
わからないことばがあったときはどうしていますか。（読み返す、挿絵や写真を見る、声に出して言う、推測する、質問する、そのまま読み進める、辞書を使うなど）
○○語を使って考えたりしましたか。（した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか）

❸読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本を読みますか。
いつ読みますか。（朝読書の時間、図書の時間、休み時間、放課後（うちで）など）
この１学期間（１年間、○休みの間など）に何冊ぐらい本を読みましたか。
日本語と○○語では、どちらの本をよく読みますか。
日本語／○○語でどんな本を読みますか。
（物語・小説、説明・情報文、教材、マンガ、インターネット上の情報など）
日本語／○○語で好きな本の題名を教えてください。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

実践ガイド　貝がら
（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ6）

読むまえに…

❶手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本を一緒に読みましょう。読み終わったら、どんな話だったか話しましょう。

❷テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。



はじめは私が読んで、○○さんにはここ（５ページ）から読んでもらいます。
どうですか。読めそうですか。もう少し短い本にしますか。

・１ページの冒頭５行を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



少し読んでみて、決めましょう。
ここ（１ページの５行目）までを声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども　☞そのままこの実践ガイドにそって進む。
・「読めない」と言った中学年　☞低中学年用の一つ下のレベルのテキストに変更
・「読めない」と言った高学年以上　☞中高学年・中高生用の一つ下のレベルのテキストに変更

❸興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。９ページの絵を見せてもよい。



これは『貝がら』という話です。「ぼく」と「中山君」の話です。
「貝がら」を知っていますか。見たことがありますか。

❹予測：テキストを子どもに見せながら、２ページの12行目までを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。



では、もう一度はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

・読み終わったら、次のように質問する。



ここまで、どんなことが書いてありましたか。
では、この先、どんな話が続くと思いますか。

❺読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、続きから４ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

貝がら

（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ6）

読 み ま し ょ う …

❶音読：続きを子どもが読む。

・まず、音読と黙読とどちらが得意か確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。○○さんは、声に出して読むのと、黙って（声に出さないで）読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、話の内容がよくわかりますか。

＊黙読を選んだ子どもに対して　☞５ページ１行目から６ページの12行目までを音読で、６ページ13行目からテキストの最後までを黙読で読ませる。



では、○○さんがどんなふうに読んでいるか知りたいので、ここ（５ページの１行目）からここ（６ページの12行目）までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・６ページの12行目まで読み終えたら、次のように合図する。



黙って読んでいいですよ。

＊音読を選んだ子どもに対して　☞５ページ１行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ（５ページの１行目）から最後まで声に出して読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。
では、お願いします。

・実施者は音読の流暢さ、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。

・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

テキストについての補足：このテキストは、過去に光村図書出版の国語教科書（小学４年生）に掲載されていた物語文で、登場人物の心情や場面の描写、因果関係の理解が求められる内容です。ある程度の長さのある文章を、文や意味のまとまりで区切りながら読める子どもに適しています。まだ単語や文節で区切って読む子どもには、最後まで読み続けることが難しいかもしれません。そのような子どもがこのテキストを選んだ場合、様子を注意深く観察し、必要に応じてテキストレベルを下げてもかまいません。また、最後まで読めたとしても、あらすじ再生が難しい場合は、じっくり待ち、はげましながら、発話を引き出すようスモールステップのサポートを心がけてください。

母語で読書力が高い子どもの場合は、音読が流暢でなくても黙読なら理解が深まる場合があります。黙読を繰り返してもよいことを伝えたり、わからない漢字や語彙について質問しやすい雰囲気を作るなど、適切なサポートを心がけてください。

貝がら

（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ6）

話 し あ い ま し ょ う …

❶あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。
実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこの話はどんな話でしたか。はじめてこの話を聞く人にわかるように話してください。
終わったら『終わりです』と言ってください。

・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。

あらすじチェック
□ 1.（4年生に進級して）ぼくのとなりの席に（転校してきた）中山君がすわることになった。
□ 2. 中山君は自分のほうからは何も話しかけてくれなかった。
□ 3. 中山君は（ぼくとだけではなく）誰とも口をきかない（だまりこんでばかりいる）。
□ 4. 図工の時間、中山くんがすばらしい海辺の景色の絵をかいていた。
□ 5. 中山君は「前に住んでいた所」と自分のほうから説明してくれた。
□ 6. 中山君の言葉に変ななまりがあり、女の子たちが笑った。
□ 7. 中山君は一言もしゃべらなくなってしまった。
□ 8. ぼくが病気になって欠席したとき、中山君はみまいに来てくれた。
□ 9. 中山君がお母さんにあずけた箱には、いろいろな色や形の美しい貝がらがぎっしり入っていた。
□ 10. ぼくは、今度こそ中山君と仲良しになれると思った。

❷理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に、以下の質問をする。



たくさん／頑張って／上手に話せましたね。今度は少し私が質問しますね。

質　問	解答例
1. はじめの頃、ぼくは中山君のことをどう思っていましたか。	1. 話さないことに腹が立った／誰とも話さないから不思議だった。
2. 中山君は、なぜいつもだまっていましたか。	2. 自分の言葉のなまりがはずかしかったから。／笑われたくないので、しゃべらないように用心していた。
その他の質問（自由）	

❸解釈・感想：感じたこと、考えたことについて話し合う。



・中山君はどうして貝がらを持ってみまいに来たのだと思いますか。
・どうして「今度こそ中山君と友達になれると思った」のでしょうか。
・もし、あなたかがぼく／中山君だったら、どうしますか。どう感じますか。
・この話はどこが面白かった／大事だと思いますか。それはどうしてですか。



この話を書いた人が伝えたかったのはどんなことでしょう。どうしてそう思いますか。

貝がら

（小学校中高学年・中高生用　ステージD～F　ステップ6）

読んだあとで…

❶ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

❷読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



（内容で）わかりにくいところがあったら、どうしますか。
（読み返す、挿絵や写真を見る、イメージする、具体例を考える、自分の体験と結びつける、大事な情報が何か考える、質問する、そのまま読み続けるなど）
わからないことばがあったときはどうしていますか。（読み返す、挿絵や写真を見る、声に出して言う、推測する、質問する、そのまま読み進める、辞書を使うなど）
○○語を使って考えたりしましたか。（した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか）

❸読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本（教科書、マンガではない本）を読みますか。
いつ読みますか。（朝読書の時間、図書の時間、休み時間、放課後（うちで）など）
この１学期間（１年間、○休みの間など）に何冊ぐらい本を読みましたか。
どんな本（伝記、歴史小説、物語、冒険もの、こわい話、マンガなど）が好きですか。
（わかれば）好きな本の題名を教えてください。

・母語で読書力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか。（絵本、図鑑、物語、説明、教材、インターネットなど）
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

02

実践ガイド　アニメーションとわたし

（小学校高学年・中高生用　ステージE～F　ステップ6～7）

読むまえに…

❶手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本を一緒に読みましょう。読み終わったら、どんな話だったか話しましょう。

❷テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。



はじめは私が読んで、○○さんにはここ（5ページ3行目）から読んでもらいます。どうですか。読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

・1ページの冒頭の3行を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



少し読んでみて、決めましょう。
ここ（1ページの3行目）までを声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども　☞そのままこの実践ガイドにそって進む。
・「読めない」と言った子ども ☞ 中高学年・中高生用の一つ下のレベルのテキストに変更

❸興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・題名を読みながら、テーマ、作者について簡単に説明する。



これは『アニメーションとわたし』という話です。「手塚治虫」という人を知っていますか。○○さんはマンガが好きですか。この人は「マンガの神様」と呼ばれている人です。この話はその「マンガの神様」がマンガやアニメについて書いたものです。

❹予測：テキストを子どもに見せながら、はじめから2ページの2行目までを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。



では、もう一度はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

・読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



ここまで、どんなことが書いてありましたか。
では、この先、どんな話が続くと思いますか。

❺読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、続きから5ページの2行目まで実施者が声にだして読む。



ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

アニメーションとわたし

（小学校高学年・中高生用　ステージE～F　ステップ6～7）

読みましょう…

❶音読：続きを子どもが読む。

・まず、音読と黙読とどちらが得意か確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。○○さんは、声に出して読むのと、黙って（声に出さないで）読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、話の内容がよくわかりますか。

＊黙読を選んだ子どもに対して　☞５ページ３行目から６ページの５行目までを音読で、７ページ１行目からテキストの最後までを黙読で読ませる。



では、○○さんがどんなふうに読んでいるか知りたいので、ここ（５ページの３行目）からここ（６ページの５行目）までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・６ページの５行目まで読み終えたら、次のように合図する。



黙って読んでいいですよ。もし、今読んだところをもう一度、黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

＊音読を選んだ子どもに対して　☞５ページ３行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ（５ページの３行目）から最後まで声に出して読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・実施者は音読の流暢さ、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。

・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

テキストについての補足：

　このテキストは、過去に光村図書出版の国語教科書（小学５年生）に掲載されていた説明文です。語彙が増え、一定の長さとまとまり（構成）のある文章を、文や意味のまとまりで区切りながら流暢に読める子どもに適しています。まだ単語や文節で区切って読む子どもは、最後まで読み続けることが難しいかもしれません。そのような子どもがこのテキストを選んだ場合、様子を注意深く観察し、必要に応じてテキストレベルを下げてもかまいません。また、最後まで読めたとしても、あらすじ再生が難しい場合は、じっくり待ち、はげましながら、発話を引き出すようスモールステップのサポートを心がけてください。

　母語で読書力が高い子どもの場合は、音読が流暢でなくてもよく理解できていたり、黙読ならさらに理解が深まる場合があります。黙読を繰り返してもよいことを伝えたり、わからない漢字や語彙について質問しやすい雰囲気を作るなど、適切なサポートを心がけてください。

アニメーションとわたし

（小学校高学年・中高生用　ステージE～F　ステップ6～7）

話 し あ い ま し ょ う …

❶要点の再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。
実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこの話はどんな話でしたか。はじめてこの話を聞く人にわかるように話してください。
終わったら『終わりです』と言ってください。

・下の『要約チェック』を参考に、重要な内容・構成をどのくらい理解できているかをチェックする。

要約チェック		
時間の流れとエピソード：筆者とアニメーション		
□	1．小学生の頃	⇒ □ 動く漫画をノートに書いた
□	2．初めてのアニメーション製作	⇒ □ 百何十枚もの絵を撮影して、動画をつくった
□	3．大人になってから	⇒ □ ディズニー作品などを覚えるほど見て、勉強
□	4．本格的なアニメーション製作	⇒ □「ある街角の物語」を６人の仲間でつくった
□	5．日本で初めてのテレビ番組用アニメ「鉄腕アトム」の誕生	
まとめ：アニメーションとは		
□	6．現実にはありえない世界を作り、夢をかきたててくれる	
□	7．見ることもだが、作ることがもっと楽しい	
□	8．苦しさを乗りこえて新しいものを作ったり、協力するという人生の大切なことを体験できる仕事	

❷解釈：話し合いながら、要旨について理解を深める。

・テキストを見せながら、次の質問をする。



たくさん／頑張って／上手に話せましたね。今度は少し私が質問しますね。
この本を見ながら考えてもいいですよ。



アニメーションを作ることは大変なのに、どうして楽しいのでしょうか。
この話で作者が伝えたかったことは何だと思いますか。どうしてそう思いますか。

・その他の質問をしてもよい。

❸意見：内容・要旨について意見を述べる。



この話は面白かったですか。どこが（どうして）面白かったですか。
作者が伝えたかったことに対して○○さんはどう思いますか。どうしてそう思いますか。

アニメーションとわたし
（小学校高学年・中高生用　ステージE～F　ステップ6～7）

読んだあとで…

❶ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

❷読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



（内容で）わかりにくいところがあったら、どうしますか。
（読み返す、イメージする、具体例を考える、大事な情報が何か考える、テキストの構造を考える、要約する、言い換えをしながら読む、質問する、など）
わからないことばがあったときはどうしていますか。（読み返す、声に出して言う、推測する、挿絵や写真を見る、そのまま読み進める、質問する、辞書を使う、など）
○○語を使って考えたりしましたか。（した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか）

❸読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本（教科書、マンガではない本）を読みますか。
いつ読みますか。（朝読書・図書の時間、休み時間、放課後（うちで）など）
何のために読みますか。（楽しむ、新しい知識を得る、調べる（情報を集める）ため）
この１学期間（１年間、○休みの間など）に何冊ぐらい本を読みましたか。
どんな本（伝記、歴史小説、物語、冒険もの、科学などの説明文、マンガ、インターネットのサイトなど）をよく読みますか。（わかれば）題名を教えてください。

・母語で読書力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか。（物語・小説、説明・情報文、教材、インターネット）
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

＼ 実践ガイド ／

自然を守る

（小学校高学年・中高生用　ステージE～F　ステップ7）

読むまえに…

❶手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本を一緒に読みましょう。読み終わったら、どんな話だったか話しましょう。

❷テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。



はじめは私が読んで、○○さんにはここ（4ページ8行目）から読んでもらいます。
どうですか。読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

・冒頭の2文（1ページ4行目まで）を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



少し読んでみて、決めましょう。
ここ（1ページの4行目）までを声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども　☞そのままこの実践ガイドにそって進む。

・「読めない」と言った子ども ☞ 高学年・中高生用の他のテキストか、中高学年・中高生用の一つ下のレベルのテキストに変更

❸興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・題名を読みながら、テーマ、作者について簡単に説明する。



これは『自然を守る』という話です。自然や環境について考えたことがありますか。
どんなことですか。（子どもの発言内容に対して）それはいいですね。

・写真と語句について、簡単に説明する。



（5ページの写真）これは何でしょうか。木を食べる虫ですね。
（6ページの写真）これは何でしょうか。火事で、木が全部焼けてしまっていますね。
（10ページの写真）これは何でしょうか。稲（米）を食べる虫（害虫）ですね。

❹予測：テキストを子どもに見せながら、はじめから2ページの6行目までを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。



では、もう一度はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

・読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



ここまで、どんなことが書いてありましたか。
では、この先、どんな話が続くと思いますか。

❺読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、続きから4ページの7行目まで実施者が声にだして読む。



ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

自然を守る

（小学校高学年・中高生用　ステージE～F　ステップ7）

読みましょう…

❶音読：続きを子どもが読む。

・まず、音読と黙読とどちらが得意か確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。○○さんは、声に出して読むのと、黙って（声に出さないで）読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、話の内容がよくわかりますか。

＊黙読を選んだ子どもに対して：４ページ８行目から６ページの９行目までを音読で、
６ページ10行目からテキストの最後までを黙読で読ませる。



では、○○さんがどんなふうに読んでいるか知りたいので、ここ（４ページの８行目）からここ（６ページの９行目）までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・６ページの９行目まで読み終えたら、次のように合図する。



黙って読んでいいですよ。もし、今読んだところをもう一度、黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

＊音読を選んだ子どもに対して：４ページ８行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ（４ページの８行目）から最後まで声に出して読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・実施者は音読の流暢さ、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。

・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

テキストについての補足：

　このテキストは、過去に光村図書出版の国語教科書（小学６年生）に掲載されていた説明文です。語彙が豊富で、一定の長さとまとまり（構成）のある文章を、文や意味のまとまりで区切りながら流暢に読め、社会的なテーマにも興味を持つ子どもに適しています。

　母語で読書力が高い子どもの場合は、音読が流暢でなくてもよく理解できていたり、黙読ならさらに理解が深まる場合があります。黙読を繰り返してもよいことを伝えたり、わからない漢字や語彙について質問しやすい雰囲気を作るなど、適切なサポートを心がけてください。

自然を守る

（小学校高学年・中高生用　ステージE～F　ステップ7）

話 し あ い ま し ょ う …

❶要点の再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。
実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこの話はどんな話でしたか。はじめてこの話を聞く人にわかるように話してください。
終わったら『終わりです』と言ってください。

・下の『要約チェック』を参考に、重要な内容･構成をどのくらい理解できているかをチェックする。

要約チェック		
現状		□ 1. 人間は自然を資源として利用
		□ 2. 人間の都合のいいように自然を変えて生活
問い		□ 3. この現状のままでよいのか
主張の根拠	事実	□ 4. 自然界のさまざまな生物たちはつりあいを保って生活
	自然がつりあいを破った例	□ 5. 風で木が倒れた→キクイムシが大発生→森を破壊→山火事→大洪水
	人間がつりあいを破った例	□ 6. イネの害虫を殺すために農薬をまいた→害虫の天敵のクモもいなくなった→農薬に強い別の害虫が増えた
	例のまとめ	□ 7. 人間の活動が盛んになる→自然の破壊が進む→その結果、人間自身に不幸をもたらしている
筆者の主張	主張①	□ 8. 人間は自然の資源を利用し、開発を進めながらも、自然を守って行く必要がある
	主張②	□ 9. そのために、自然界の生物のつながりを正しく理解しておくことが大切
	主張③	□ 10. 自然を守ることは、人間自身のためである

❷解釈：話し合いながら、要旨について理解を深める。

・テキストを見せながら、次の質問をする。



たくさん／頑張って／上手に話せましたね。今度は少し私が質問しますね。
この本を見ながら考えてもいいですよ。



人間が思いのままに自然の姿を変え、その資源を自分たちのものにしてしまっていいでしょうか。それはどうしてですか。
自然を守ることがどうして人間自身のためになるのでしょうか。
この話で作者が伝えたかったことは何だと思いますか。どうしてそう思いますか。

・その他の質問をしてもよい。

❸意見：内容・要旨について意見を述べる。



○○さんは、自然の資源を利用し、開発を進めることについてどう思いますか。
作者が伝えたかったことに対して○○さんはどう思いますか。どうしてそう思いますか。

自然を守る

（小学校高学年・中高生用　ステージE～F　ステップ7）

読 ん だ あ と で …

❶ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

❷読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



（内容で）わかりにくいところがあったら、どうしますか。
（読み返す、イメージする、具体例を考える、大事な情報が何か考える、テキストの構造を考える、要約する、言い換えをしながら読む、質問する、など）
わからないことばがあったときはどうしていますか。（読み返す、声に出して言う、推測する、挿絵や写真を見る、そのまま読み進める、質問する、辞書を使う、など）
○○語を使って考えたりしましたか。（した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか）

❸読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本を読みますか。
いつ読みますか。（朝読書・図書の時間、休み時間、放課後（うちで）など）
何のために読みますか。（楽しむ、新しい知識を得る、調べる（情報を集める）ため）
この１学期間（１年間、○休みの間など）に何冊ぐらい本を読みましたか。
どんな本（伝記、歴史小説、物語、冒険もの、科学などの説明文、マンガ、インターネットのサイトなど）をよく読みますか。（わかれば）題名を教えてください。

・母語で読書力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか。（物語・小説、説明・情報文、教材、インターネット）
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

＼ 実践ガイド ／ 水の東西
（中高生用　ステージF　ステップ7～8）

読むまえに…

❶手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本を一緒に読みましょう。読み終わったら、どんな話だったか話しましょう。

❷テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。



はじめは私が読んで、○○さんにはここ（2ページ1行目）から最後まで読んでもらいます。どうですか。
読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

・冒頭1ページ5行目までを音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



少し読んでみて、決めましょう。
ここ（1ページ5行目まで）を声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども　☞そのままこの実践ガイドにそって進む。
・「読めない」と言った子ども ☞ 高学年・中高生用の一つ下のレベルのテキストに変更

❸興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・題名を読みながら、テーマ、作者について簡単に説明する。



「鹿おどし」を知っていますか。
（2ページの写真を見せて）これです。何のために使うか知っていますか？
これは『水の東西』という話です。この「東西」は何を表すと思いますか。

・このテキストの「東西」が「東洋」と「西洋」を表すことを知らない場合には説明を加える。

❹予測：テキストを子どもに見せながら、1ページを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。



では、はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

・読み終わったら、次のように質問する。



ここまで、どんなことが書いてありましたか。
では、この先、どんな話が続くと思いますか。

テキストについての補足：

　このテキストは、高校の複数の国語教科書に掲載されている論説文で、文化的な比較を通じて導き出される抽象的な概念について筆者の主張が述べられています。複雑な語彙や概念の理解に対応できる高校生向けの内容で、批判的に読み解く読解力が求められます。

　母語で読書力が高い子どもの場合は、音読が流暢でなくてもよく理解できていたり、黙読ならさらに理解が深まる場合があります。黙読を繰り返してもよいことを伝えたり、わからない漢字や語彙について質問しやすい雰囲気を作るなど、適切なサポートを心がけてください。

水の東西

（中高生用　ステージF　ステップ7～8）

読 み ま し ょ う …

❶音読：続きを子どもが読む。

・まず、音読と黙読とどちらが得意か確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。○○さんは、声に出して読むのと、黙って（声に出さないで）読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、話の内容がよくわかりますか。

＊黙読を選んだ子どもに対して：２ページ１行目から４ページ３行目までを音読で、４ページ４行目から最後までを黙読で読ませる。



では、○○さんがどんなふうに読んでいるか知りたいので、ここ（２ページの１行目）からここ（４ページの３行目）までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・４ページの３行目まで読み終えたら、次のように合図する。



黙って読んでいいですよ。もし、今読んだところをもう一度、黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

＊音読を選んだ子どもに対して：２ページ１行目から最後までを音読で読ませる。



では、ここ（２ページの１行目）から最後までを声に出して読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・実施者は音読の流暢さ、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。

・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

水の東西

（中高生用　ステージF　ステップ7～8）

話 し あ い ま し ょ う …

❶要点の再生：子どもが読んだ部分の内容を再生する。実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。（テキストを閉じる必要はない）



ではこの話はどんな話でしたか。はじめてこの話を聞く人にわかるように話してください。
終わったら『終わりです』と言ってください。

・下の『要約チェック』を参考に、重要な内容･構成をどのくらい理解できているかをチェックする。

要約チェック	
導入	□ 1.日本人（東洋）の水の捉え方としての「鹿おどし」の描写と、それに対する筆者の意見：鹿おどしの仕掛けがかえって流れるもの（流れてやまないもの）を感じさせる
対比	□ 2.「噴水」という西洋の水の紹介 西洋での筆者の経験１：忙しさの中で「鹿おどし」に興味を示さない人々 西洋での筆者の経験２：噴き上げる華やかな噴水の方が人々をくつろがせる
主題１	□ 3.日本と西洋の水文化の対比の抽象化 「流れる水」(日本)と「噴き上げる水」(西洋)→「時間的な水」(日本)と「空間的な水」(西洋)
主題２	□ 4.形なきものを恐れない（愛する）日本人の感性に関する考察と「見えない水」（日本）と「目に見える水」（西洋）への抽象化
	□ 5.「鹿おどし」は日本人の水の鑑賞行為の極致を表す仕掛け →水を見ないで感じるという価値の具象化

❷理解を深めるやりとり：適宜、話し合いながら、理解を深める。

追加質問
□ 1.３つの対比表現「流れる水と噴き上げる水」、「時間的な水と空間的な水」、「見えない水と見える水」は何を意味していますか。本文の展開の上でどのような役割を果たしていますか。
□ 2.「鹿おどし」はなぜ、「日本人の水の鑑賞行為の極致を表す仕掛け」だといえますか。

❸解釈・意見：話し合いながら、要旨について理解を深め、意見を述べる。

・テキストを見せながら、まとめの質問をする。



たくさん／頑張って／上手に説明できましたね。最後にまとめの質問をしますね。
この本を見ながら考えてもいいですよ。



筆者の考えを○○さんのことばでまとめてください。
筆者の考えに対して○○さんはどう思いますか。

・その他の質問をしてもよい。

❹作品に対する評価：作品の構造・内容について評価する。



筆者は、鹿おどしと噴水の比較を通して、日本人と西洋人の感性・文化の違いに関する意見を述べていますが、その意見に賛成しますか、反対しますか。それはどうしてですか。○○さんは日本の文化をどのように捉えていますか。自分自身や自分自身の文化を振り返ってどのように感じますか。

水の東西

（中高生用　ステージF　ステップ7～8）

読んだあとで…

❶ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

❷読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



（内容で）わかりにくいところがあったら、どうしますか。
（読み返す、イメージする、具体例を考える、大事な情報が何か考える、テキストの構造を考える、要約する、言い換えをしながら読む、別（反対）の視点から内容を考える、質問する、など）
わからないことばがあったときはどうしていますか。（読み返す、声に出して言う、推測する、挿絵や写真などを見る、そのまま読み進める、質問する、辞書を使うなど）
○○語を使って考えたりしましたか。（した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか）

❸読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本を読みますか。
いつ読みますか。（朝読書・図書の時間、休み時間、放課後（うちで）など）
何のために読みますか。（楽しむ、新しい知識を得る、調べる（情報を集める）ため）
この１学期間（１年間、○休みの間など）に何冊ぐらい本を読みましたか。
どんな本（文学作品、論説文、新聞・雑誌の報道文、インターネット情報）をよく読みますか。（わかれば）題名を教えてください。

・母語で読書力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか。（物語・小説、説明・情報文、教材、インターネット）
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

＼ 評価メモ ❶ ／

年　　月　　日

名前　　学年(年齢)　　年生(　　才)

以下のテキストを選択した場合、この評価メモ①の観点に基づいて、何がどの程度できたかをメモします。

テキストの対象年齢	「ことばの力のものさし」〈読む〉	テキストのタイトル	選択したテキストに○
低中学年用	ステージB～D ステップ2～3	えんそくのおとしもの	

読解力			
1	順序・流れ（あらすじ）	重要な出来事を順序通りに再生できる	□よくできる □できる □もう少し
2	人物・場面（様子）	登場人物や場面の様子を捉え、再生できる	□よくできる □できる □もう少し
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、話せる	□よくできる □できる □もう少し
読書行動			
4	予測・推測	絵から情報を読み取り、物語の流れを予測できる	□よくできる □できる □もう少し
音読行動			
5	音読の正確さ	ひらがな文字の読み間違い、読み飛ばし、挿入などの間違いがなく読める	□よくできる □できる □もう少し
6	文字と音の対応	文字を指すとき、文字と音との一対一の対応ができる	□よくできる □できる □もう少し
7	カタカナ語の識別と読み	カタカナ文字が読める	□よくできる □できる □もう少し
8	特殊読み	ひらがなの濁音・半濁音、拗音・長音・促音、助詞の「は」「へ」などの特殊読みができる	□よくできる □できる □もう少し
語彙・漢字			
9	あらすじ再生での重要語彙の使用度	登場人物、ものの名前を正確に再生できる	□よくできる □できる □もう少し
読書習慣・興味・態度			
10	読書嗜好	本や読書が好きである	□とても好き □まあまあ □あまり好きではない
11	読書の質と量 (一番よくできる言語で)	絵本などの短いまとまりのある本を読む／読んでもらう習慣がある	□よい習慣がある □まあまあ □あまり習慣がない

選択したテキストのレベルと評価メモの内容を、日常の観察などと共に「ことばの力のものさし」〈読む〉に照らして、評価します。

＼ 評価メモ ❷ ／

年　　月　　日

名前　　学年(年齢)　　年生(　　才)

以下のテキストを選択した場合、この評価メモ②の観点に基づいて、何がどの程度できたかをメモします。

テキストの対象年齢	「ことばの力のものさし」〈読む〉	テキストのタイトル	選択したテキストに○
低中学年用	ステージC～D ステップ4～5	花いっぱいになあれ	
低中学年用	ステージB～D ステップ3～4	ことりと木のは	

読解力			
1	順序・流れ（あらすじ）	はじめから終わりまで順序よく、重要な出来事を再生できる	□よくできる □できる □もう少し
2	人物・場面（様子）	登場人物や場面の様子を捉え、再生できる	□よくできる □できる □もう少し
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、話せる	□よくできる □できる □もう少し
読書行動			
4	予測・推測	挿絵や題名から情報を読み取り、話の展開を予測できる	□よくできる □できる □もう少し
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	□よくできる □できる □もう少し
音読行動			
6	区切り方	たいてい意味のまとまりや文節で区切って読める	□よくできる □できる □もう少し
7	音読の正確さ	読み間違いがなく、正確に読める	□よくできる □できる □もう少し
8	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にも注意できる	□よくできる □できる □もう少し
語彙・漢字			
9	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじの重要な語彙を再生できる	□よくできる □できる □もう少し
10	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	□よくできる □できる □もう少し
読書習慣・興味・態度			
11	読書嗜好	本や読書が好きである	□とても好き □まあまあ □あまり好きではない
12	読書の質と量 (一番よくできる言語で)	自分のレベルに合った好きな本をたくさん読む	□よい習慣がある □まあまあ □あまり習慣がない

選択したテキストのレベルと評価メモの内容を、日常の観察などと共に「ことばの力のものさし」〈読む〉に照らして、評価します。

＼ 評価メモ ❸ ／

年　　月　　日

名前　　学年(年齢)　　年生(　　才)

以下のテキストを選択した場合、この評価メモ①の観点に基づいて、何がどの程度できたかをメモします。

テキストの対象年齢	「ことばの力のものさし」〈読む〉	テキストのタイトル	選択したテキストに○
中高学年・中高生用	ステージD～F ステップ4～5	あつまれ、楽器	
中高学年・中高生用	ステージD～F ステップ　3	ハチの話	
中高学年・中高生用	ステージD～F ステップ1～2	カラスと水さし ～イソップ物語より～	

読解力			
1	内容理解と要約 (一番よくできる言語で)	話の構成を理解し、重要な内容を再生できる	□よくできる □できる □もう少し
2	要旨・主題の解釈 (一番よくできる言語で)	要旨・主題を理解し、根拠を示しながら、説明できる	□よくできる □できる □もう少し
3	要旨・主題に対する意見 (一番よくできる言語で)	自分の意見を、根拠を示しながら、説明できる	□よくできる □できる □もう少し
読書行動			
4	予測・推測 (一番よくできる言語で)	挿絵や題名から情報を読み取り、話の展開を予測できる	□よくできる □できる □もう少し
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	□よくできる □できる □もう少し
6	自分の読みへの内省 (一番よくできる言語で)	内容をよりよく理解するために、自分がどのように読んでいるか意識できる	□よくできる □できる □もう少し
音読行動			
7	区切り方	たいてい文節や単語で区切って読める	□よくできる □できる □もう少し
8	音読の正確さ	読み間違いがなく、正確に読める	□よくできる □できる □もう少し
語彙・漢字			
9	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく理解し、読める	□よくできる □できる □もう少し
読書習慣・興味・態度			
10	読書の質と量 (一番よくできる言語で)	目的やレベルに応じた様々なジャンルの本や文章を進んでたくさん読む	□よい習慣がある □まあまあ □あまり習慣がない

選択したテキストのレベルと評価メモの内容を、日常の様子や母語での読書力の観察などと共に「ことばの力のものさし」〈読む〉に照らして、評価します。

＼ 評価メモ ❹ ／

年　　月　　日

名前　　学年(年齢)　　年生(　　才)

以下のテキストを選択した場合、この評価メモ②の観点に基づいて、何がどの程度できたかをメモします。

テキストの対象年齢	「ことばの力のものさし」〈読む〉	テキストのタイトル	選択したテキストに○
中高生用	ステージ　F　　ステップ7～8	水の東西	
高学年・中高生用	ステージE～F　ステップ　7	自然を守る	
高学年・中高生用	ステージE～F　ステップ6～7	アニメーションとわたし	
中高学年・中高生用	ステージD～F　ステップ　6	貝がら	

	読解力		
1	内容理解と要約	話の構成を理解し、重要な内容を再生できる	□よくできる □できる □もう少し
2	描写・説明	細部の情報を捉え、再生できる	□よくできる □できる □もう少し
3	要旨・主題の解釈	要旨・主題を理解し、根拠を示しながら、説明できる	□よくできる □できる □もう少し
4	要旨・主題に対する意見	自分の意見を、根拠を示しながら、説明できる	□よくできる □できる □もう少し
5	テキストに対する評価(質問した場合)	テキストの構造や内容に対して、他のテキストと比較しながら、評価できる	□よくできる □できる □もう少し
	読書行動		
6	予測・推測	題名や挿絵、冒頭の内容などから情報を読み取り、話の展開を予測できる	□よくできる □できる □もう少し
7	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	□よくできる □できる □もう少し
8	自分の読みへの内省	内容をよりよく理解するために、自分がどのように読んでいるか意識できる	□よくできる □できる □もう少し
	音読行動		
9	区切り方	文や意味のまとまりで区切って流暢に読める	□よくできる □できる □もう少し
10	音読の正確さ	読み間違いがなく、正確に読める	□よくできる □できる □もう少し
	語彙・漢字		
11	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく理解し、読める	□よくできる □できる □もう少し
	読書習慣・興味・態度		
12	読書の質と量(一番よくできる言語で)	目的やレベルに応じた様々なジャンルの本や文章を進んでたくさん読む	□よい習慣がある □まあまあ □あまり習慣がない

選択したテキストのレベルと評価メモの内容を、日常の観察などと共に「ことばの力のものさし」〈読む〉に照らして、評価します。

ポルトガル語
Português



小さい夢を叶えるだけじゃなく、宇宙まで
ひろがるような大きな夢をもちたい。

1. DLA Multilíngue

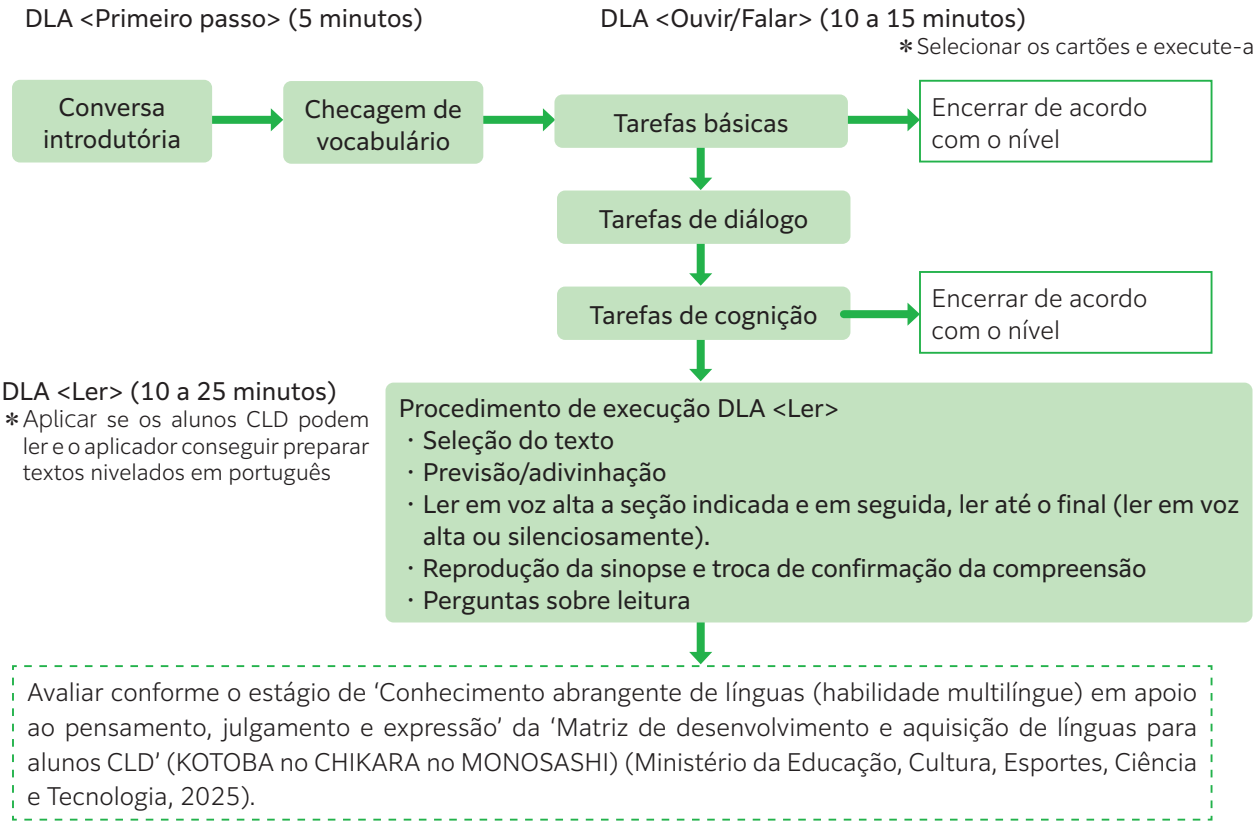
❶ Objetivo da DLA

- A Avaliação Dialógica da Linguagem (DLA) não é um teste para pontuar ou hierarquizar apenas o domínio da língua dos alunos com diversidade cultural e linguística (alunos CLD).
- É uma ferramenta de avaliação que tem como objetivo entender, por meio do diálogo, o que os alunos CLD são capazes de fazer, utilizando a linguagem não apenas de forma independente, mas também a ajuda do outro.
- É uma ferramenta que permite entender como os alunos CLD aprendem, e que busca verificar qual tipo de apoio é necessário para estimular o estudo e motivá-los a aprender, por meio do diálogo, ao mesmo tempo em que lhes oferece alternativas variadas de ajudas.
- O objetivo é utilizar as informações obtidas para orientar e apoiar o aprendizado subsequente.

❷ Importância da DLA multilíngue

- Para captar o 'maior potencial' dos alunos CLD, é essencial estimar não apenas suas habilidades em japonês ainda em processo de aquisição, mas também suas habilidades na língua materna.
- A DLA foi desenvolvida com base na teoria da educação bilíngue. Portanto, ela pode ser implementada em várias línguas e não só em japonês. Este livreto contém a DLA <Primeiro passo> e a DLA <Ouvir/Falar> em português, chinês, filipino, vietnamita, espanhol, inglês, nepalês e russo. Se o apoiador for fluente na língua nativa dos alunos CLD, a DLA multilíngue deve ser usada ativamente conforme necessário.
- Este livro não inclui a DLA multilíngue <Ler>, pois a o diagnóstico da capacidade de leitura exige textos específicos de nível nas respectivas línguas, e não textos traduzidos. Se quiser diagnosticar as habilidades de leitura dos alunos CLD em sua língua materna, poderá aplicar o procedimento da DLA <Ler>, mas é necessário preparar textos em cada local que sejam adequados à idade e ao nível da língua materna dos alunos CLD. Por exemplo, podem ser usados textos narrativos ou expositivos dos livros didáticos na língua materna dos alunos CLD.
- Para as habilidades de escrita, é preferível avaliar observando os alunos na suas atividades de aprendizagem em sala de aula em vez de fazer um teste, até que eles consigam escrever uma redação temática livremente por conta própria. Para os alunos CLD que podem escrever redações temáticas por conta própria, consulte as tarefas de redações nas páginas 186 a 199 da 'Matriz de desenvolvimento e aquisição de línguas para alunos CLD' (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) (Ministério da Educação, Cultura, Esportes, Ciência e Tecnologia, 2025).

❸ Fluxograma de implementação para DLA multilíngue



Avaliar conforme o estágio de 'Conhecimento abrangente de línguas (habilidade multilíngue) em apoio ao pensamento, julgamento e expressão' da 'Matriz de desenvolvimento e aquisição de línguas para alunos CLD' (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) (Ministério da Educação, Cultura, Esportes, Ciência e Tecnologia, 2025).

2. DLA <Primeiro passo>

① Objetivos

- O objetivo da aplicação da DLA <Primeiro Passo> em português é diagnoticar as competências básicas de conversação em português por meio de uma 'conversa introdutória' sobre cumprimentos e assuntos próprios da criança e de uma 'checagem de vocabulário' que consiste de uma bateria formada de 55 perguntas de vocabulário básico.
- Ao mesmo tempo, objetiva conhecer melhor as condições de vida cotidiana e de uso da linguagem da criança.
- Outro proposito é construir laço de confiança com os aplicadores da DLA, criando um ambiente em que a criança possa empenhar-se positivamente na DLA.

② A quem se destina

- O <Primeiro passo> é produzido para um grupos distintos de crianças que crescem em ambientes multilíngues, desde as que mal que têm um potencial mínimo para conversar até aquelas que já sabem falar fluentemente.
- Particularmente quando há uma grande necessidade de verificar o nível da língua que a criança tem maior domínio.

③ Composição

- O <Primeiro passo> é composto por uma 'Conversa introdutória', relacionada com os primeiros cumprimentos e com os assuntos das próprias crianças, e por uma 'Checagem de vocabulário', que se dá a partir de uma bateria formada de 55 perguntas de vocabulário básico que inclui substantivos, verbos e adjetivos.
- Os substantivos da 'Checagem de vocabulário' são palavras que as crianças ouvem e utilizam no dia-a-dia, como partes do corpo, alimentos, plantas e animais, e objetos da escola. Estão organizados de modo a incluir palavras que são usadas com maior ou menor frequência para as crianças, como 'olhos' e 'cílios', 'boca' e 'lábios', bem como vocabulário para o todo ou para as partes, como 'vaca' e 'chifre', 'árvore', 'folhas' e 'galho'. Os verbos e os adjetivos também utilizam vocabulário a que as crianças estão expostas na vida escolar e em casa.

④ Procedimento de aplicação

Preparativos prévios

- Recortar os 'Cartões de vocabulário da DLA <Primeiro passo>' (página 236-242) do apêndice1 no final deste guia, fazer fichas e apresentá-las uma de cada vez, por ordem numérica, fixando-as com uma argola ou transferindo para um tablet.
- Treinar a rotação dos cartões de vocábulos a um ritmo elevado. Assistir ao vídeo do modelo da DLA e observar a atitudes e o ritmo do aplicador.

・Preparar o Guia de execução DLA <Primeiro passo> (página 77-78) e os cartões de vocabulário em ordem numérica de modo a ficarem prontos para serem apresentados um de cada vez, preparar o equipamento de gravação de áudio e vídeo e um papel para anotações.

Como sentar-se

・O aplicador deve se posicionar, sentado ao lado do canto da mesa, diagonalmente em relação à criança e não frontalmente. Isto permitir-lhe-á partilhar os cartões e o espaço com a criança, e reduzir a intimidação.

Execução do diálogo

・Checar se as condições de uso do equipamento de gravação de áudio e vídeo e ligá-lo antes de iniciar o diálogo.
・Conforme as inscrições do Guia de execução DLA <Primeiro passo> (página 77-78), conduzir primeiro a 'Conversa Introdutória' e a 'Checagem de Vocabulário' em seguida.
・Durante a aplicação da DLA <Primeiro passo>, se considerar que a criança ainda não tem competências básicas de conversação suficientes e que será difícil continuar, o programa deve ser imediatamente encerrado, mesmo que esteja no meio da 'Conversa Introdutória' ou da 'Checagem de Vocabulário'.

❺ Cuidados na execução

Dar ênfase à fluência da avaliação

・A DLA <Primeiro passo> demora cerca de 5 minutos. Embora seja necessário ajustar o discurso do aplicador de acordo com o nível da criança, o diálogo deve prosseguir a uma velocidade e ritmo naturais, tanto quanto possível.
・Não se deve interromper, negar ou corrigir o discurso da criança.
・Se o aplicador tem um contacto regular com a criança, não e preciso fazer o 'primeiro cumprimento (auto apresentação)' no início.
・Se a criança não compreender a pergunta, repita-a lentamente. Se continuar a não entender, pode mudar para uma forma mais curta e fácil de compreender. Mas não acrescente explicações. Não pare o fluxo e passe para o passo seguinte.
・Não se deve ensinar e nem corrigir a resposta se a criança não conseguir responder a pergunta na <Checagem de vocabulário>, e passe rapidamente para o cartão seguinte. Se a criança demonstrar desejo de saber a resposta, diga a ela.
・Se a criança estiver pensando ou a demorando muito tempo a responder, espere cuidadosamente e não a apresse.

Criar um ambiente propício

・Mesmo as crianças fluentes na conversação podem ficar nervosas ou mostrar sinais de rejeição quando falam a sós com um adulto. Tente criar um ambiente calmo e acolhedor. Não realize isto como um teste, mas como um diálogo divertido com a criança.
・Reaja às respostas da criança acenando com a cabeça ou fazendo sinais de confirmação.
・<Primeiro passo> é também uma importante atividade de aquecimento para o aplicador. É necessário interagir sempre com a consciência de estimular a criançã a falar. É muito importante desempenhar o papel de facilitador (que é o de estimular a criança a falar) em vez do papel de professor.

Não avaliar durante o diálogo

- Não faça a pontuação ou avaliação em frente das crianças. A DLA <Primeiro passo> é realizado em conjunto com a DLA <Ouvir/Falar> e a DLA <Ler>, assim, as avaliações devem ser realizadas após todos os processos serem concluídos.
- Para uma avaliação e documentação precisas, faça gravações de áudio ou vídeo.

Finalizar com elogios

- Independentemente do resultado, termine com um comentário positivo sobre o fato da criança ter falado em português.

⑥ Pistas para a fase seguinte

- Se considerar que, em geral, a criança realiza mais de 70 a 80% da 'Conversa introdutória' e da 'Checagem do vocabulário', pode passar à fase seguinte. Se conseguir menos de 20 a 30%, encerre sem prosseguir para a próxima etapa. Se houver dúvidas se deve ou não continuar, tente seguir mais um pouco até ter certeza.
- Como foi descrito no item (4) deste capítulo, dependendo da aquisição da língua portuguesa pela criança, a DLA <Primeiro passo> pode ser terminado no meio do programa.

⑦ Tempo e métodos de avaliação

- A avaliação da DLA <Primeiro passo> deve ser realizada coletivamente no final da DLA <Ouvir/falar>.
- Enquanto revisa as gravações de áudio e vídeo, use a DLA <Primeiro passo> (página 79) para anotar o nível de alcance.
- Para realizar a avaliação da 'Checagem de vocabulário', consultar a 'Tabela de tolerância' (página 81).
- Avaliar o estágio de 'A capacidade de linguagem abrangente que apoia o pensamento, o julgamento e a expressão (habilidade multilíngue)' na 'Matriz de desenvolvimento e aquisição de línguas' (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) a partir de uma perspectiva abrangente e multifacetada.

Conversa introdutória

❶ Cumprimento inicial：



Bom dia, eu sou ○○ (auto apresentação).

❷ Explicação：explicar o procedimento de modo que a criança sinta-se motivada.



A partir de agora, eu quero saber o quanto você sabe falar em português.
Então, eu vou fazer umas perguntas para você e se você não souber responder, é só falar 'Não sei'. Tudo bem?

❸ Perguntas：

・Prosseguir as perguntas na seguinte ordem



① Qual é o seu nome? / Como se chama?
② Em que série/ano você está?
③ Quantos anos você tem?
④ Quando é o seu aniversário?
⑤ Você tem irmãos (irmãos mais velhos/novos, Irmã mais velhas/novas)

・Em relação a existência de irmãos, perguntar com cuidado levando em conta a situação familiar da criança.



⑥ Você tem amigos?
⑦ Me fale o nome do(s) seu(s) amigo(a/s)
⑧ Do que você costuma brincar com seu(s) amigo(a/s)?

・Os nomes dos amigos serão usados nas tarefas de diálogo. Deixar anotado.



⑨ Você acha a escola legal? / Gosta da escola?
⑩ Por quê?

・Se a criança frequentou uma escola no Brasil ou uma escola brasileira no Japão, pode perguntar sobre essa experiência e fazer comparações com a escola atual (no Japão).



⑪ O que você gosta na escola japonesa?
⑫ O que você não gosta na escola japonesa?

・Após as perguntas ⑪ e ⑫, pode acrescentar perguntas relacionadas a cada criança.



⑬ Você conversa em português na sua casa?
⑭ Em que língua sua mãe/seu pai fala com você?
Em que língua você fala com a sua mãe/seu pai?

・Em muitos casos os responsáveis falam português, mas a criança apenas ouve. Perguntar detalhamento sobre o uso de língua em casa. Perguntar com cuidado levando em conta a situação familiar da criança.



⑮ Você sabe ler português? Você sabe escrever português?

・Verificar se as crianças adquiriram a habilidade de ler e escrever em português. Pode adicionar perguntas como 'quanto você lê/escreve?' para verificar o nível de habilidade de leitura e escrita.

Checagem de vocabulário

❶ Cartões de substantivos (Número do cartão : 1~42)



O que é isso? É olho, né? Então quando eu falar '1', você responde 'olho'. Quando eu falar '2', você responde o que é isso (apontando a figura do cartão). Se não souber, fale 'não sei', está bem? Então, '1'.

❷ Cartões de verbos (Número do cartão : 43~50)

・A partir do cartão 43, perguntar da seguinte maneira:



O que ele está fazendo?

❸ Cartões de adjetivos (Número do cartão : 51~55)

・A partir do cartão 51 (adjetivo; curta), perguntar da seguinte maneira:



Como é essa saia?

・Se a criança não compreender, perguntar de seguinte maneira:



Esta saia é longa, né? E esta saia é... (apontando a saia curta).

Vamos para o próximo...

- Se a taxa de realização da criança na 'Conversa introdutória' e 'Checagem de vocabulário' estiver entre 20 e 30%, a avaliação pode ser encerrada.



É isso por hoje, terminamos a atividade. Muito obrigado.

- Se a criança realizou mais de 50% na 'Conversa introdutória' e 'Checagem de vocabulário', poderá continuar para o DLA <Ouvir/Falar>

＼ Notas de avaliação ／

Conversa introdutória

ano　　mês　　dia

Nome　　Série(idade)

Fala do implementador	Consegue responder de uma forma que faz sentido	Observações
① 'Qual é o seu nome? / Como se chama?'	☐	
② 'Em que série/ano você está?'	☐	
③ 'Quantos anos você tem?'	☐	
④ 'Quando é o seu aniversário?'	☐	
⑤ 'Você tem irmãos (irmãos mais velhos/novos, irmãs mais velhas/novas)?'	☐	
⑥ 'Você tem amigos?'	☐	
⑦ 'Me fale o nome do(s) seu(s) amigo(a/s)'	☐	
⑧ 'Do que você costuma brincar com seu(s) amigo(a/s)?'	☐	
⑨ 'Você acha a escola legal? / Gosta da escola?'	☐	
⑩ 'Por quê?	☐	
⑪ 'O que você gosta na escola japonesa?'	☐	
⑫ 'O que você não gosta na escola japonesa?'	☐	
⑬ 'Você conversa em português na sua casa?'	☐	
⑭ 'Em que língua sua mãe/seu pai fala com você? Em que língua você fala com a sua mãe/seu pai?'	☐	
⑮ 'Você sabe ler português? Você sabe escrever português?'	☐	
Número de respostas que fazem sentido／Número de perguntas		／15
Taxa de realização	⇒	%

Checagem de vocabulário

ano mês dia

Nome Série(idade)

Número	Vocabulário	Certo	Errado	Observações	Número	Vocabulário	Certo	Errado	Observações
1	Olho	☐	☐		30	Mesa	☐	☐	
2	Cílio	☐	☐		31	Gaveta	☐	☐	
3	Boca	☐	☐		32	Lousa/quadro	☐	☐	
4	Lábios	☐	☐		33	Apagador	☐	☐	
5	Mão	☐	☐		34	Mapa	☐	☐	
6	Polegar/dedão	☐	☐		35	Tesoura	☐	☐	
7	Unha	☐	☐		36	Caderno	☐	☐	
8	Nariz	☐	☐		37	Motorista	☐	☐	
9	Uva	☐	☐		38	Médico	☐	☐	
10	Ovo	☐	☐		39	Bombeiro	☐	☐	
11	Camarão	☐	☐		40	Ônibus	☐	☐	
12	Leite	☐	☐		41	Avião	☐	☐	
13	Vaca/Boi	☐	☐		42	Asa	☐	☐	
14	Chifre (do boi/da vaca)	☐	☐		43	Nadando	☐	☐	
15	Rabo/cauda (do cão)	☐	☐		44	Escrevendo	☐	☐	
16	Galinha	☐	☐		45	Escovando os dentes	☐	☐	
17	Cavalo	☐	☐		46	Vestindo	☐	☐	
18	Elefante	☐	☐		47	Acordando	☐	☐	
19	Rato	☐	☐		48	Sentando	☐	☐	
20	Bigode (do gato)	☐	☐		49	Limpando	☐	☐	
21	Árvore	☐	☐		50	Estar bravo	☐	☐	
22	Folha	☐	☐		51	Curto	☐	☐	
23	Galho	☐	☐		52	Fino	☐	☐	
24	Ventilador	☐	☐		53	Leve	☐	☐	
25	Telefone	☐	☐		54	Com frio	☐	☐	
26	Porta	☐	☐		55	Alto	☐	☐	
27	Telhado	☐	☐		Total	Respostas certas (%)			／55 (%)
28	Escada	☐	☐						
29	Janela	☐	☐						

Tabela de tolerância

No.	Categoria	Certo	Aceitável	Errado
1	Ⅰ Partes do corpo	Olho		
2		Cílio		Sobrancelha
3		Boca		
4		Lábios		
5		Mão	Palma da mão	
6		Plegar/dedão	Dedo, ponta do dedo	
7		Unha		
8		Nariz		
9	Ⅱ Alimentos	Uva		
10		Ovo	Ovo da galinha	
11		Camarão	Pitu, lagosta	
12		Leite		
13	Ⅲ Animais e plantas	Vaca/Boi		
14		Chifre (do boi/da vaca)		Vaca, boi
15		Rabo/cauda (do cão)		Cão, cachorro
16		Galinha	Galo	
17		Cavalo	Burro, asno	
18		Elefante		
19		Rato	Hamster, ratinho	
20		Bigode (do gato)		Pelo de gato
21		Árvore		
22		Folha		
23		Galho	Galho de árvore	Graveto, pau, pedaço de pau
24	Ⅳ Aparelhos	Ventilador	Ventoinhas	
25		Telefone	Celular, smartphone	
26	Ⅴ Partes da casa	Porta		Portão
27		Telhado	Telha	Casa, cabeça da casa, em cima da casa, parte de cima da casa
28		Escada		Corredor
29		Janela		
30	Ⅵ Materiais escolares	Mesa	Mesa de estudos, escrivaninha	
31		Gaveta		Parte de dentro da mesa
32		Lousa/quadro		Sala de aula, classe
33		Apagador		Borracha
34		Mapa	Mundo, Terra	
35		Tesoura		
36		Caderno	Livro, livro didático	
37	Ⅶ Profissões	Motorista	Homem/pessoa que dirige	
38		Médico	Doutor, médico do hospital	Pessoa do hospital, pessoa que faz consulta no hospital
39		Bombeiro	Homem/pessoa do carro de bombeiro	Quartel dos bombeiros, corpo de bombeiros
40	Ⅷ Veículos	Ônibus		Carro, ponto de ônibus
41		Avião	Aeronave, jato, avião jumbo	
42		Asa	Asa do avião	
43	Ⅸ Atividades da escola (movimentos)	Nadando	Nadar, natação, nado crawl	
44		Escrevendo	Escrever, escrever letras, estudar, estudando, fazendo dever/lição de casa	Lápis, desenhando, desenhar
45	Ⅹ Atividades do cotidiano (movimentos)	Escovando os dentes	Escovar os dentes, escovação dos dentes	Escova de dente
46		Vestindo	Vestir, se vestir, trocar de roupa, se trocar, colocar a roupa, por a roupa	
47		Acordando	Acordar, está acordado, acordou	Dormindo, não estar dormindo
48		Sentando	Sentar-se, está sentado, sentar-se na cadeira	Sente-se (imperativo)
49	Ⅺ Serviços (movimentos)	Limpando	Limpar, fazendo limpeza, aspirar, passando aspirador, deixando limpo	
50	Ⅻ Movimento emotivos	Estar bravo	Está bravo, ficou bravo, está mal-humorado	Ruim, dá medo, medonho
51	ⅩⅢ Estados (adjetivos)	Curto		Saia, não é longo
52		Fino		Palito, não é grosso, lápis de cor
53		Leve		Bagagem, bolsa, saco, mala, marrom, segurar a bolsa, bolsa grande, não é pesado
54		Com frio		
55		Alto	Altura grande	Adulto

3. DLA <Ouvir/Falar>

❶ Objetivo

- O objetivo de realizar a DLA <Ouvir/Falar> em Português é diagnosticar o nível da competência linguística necessária para o aprendizado das matérias, e da capacidade de conversação em português, que constitui a base e das competências de leitura e escrita.
- A DLA <Ouvir/Falar> tem por objetivo verificar a capacidade de conversação de forma abrangente e multifacetada, medindo-a em três aspectos: conversação básica, diálogo e cognição.

❷ A quem se destina

- A DLA <Ouvir/Falar> pode ser aplicada a grupos distintos de crianças que crescem num ambiente multilíngue, desde as que apresentam capacidade mínima de dialogar até as que conseguem falar fluentemente.
- Particularmente aplica-se quando existe uma grande necessidade de diagnosticar o nível de compreensão auditiva e de expressão oral em português.
- Contudo, não deve ser aplicada à criança que não conseguiu estabelecer quase nenhuma troca de respostas na DLA <Primeiro passo> em português.

❸ Composição

- A atividade consiste em três tarefas: 'Tarefas básicas', 'Tarefas de diálogo' e 'Tarefas de cognição'.
- As 'Tarefas básicas' diagnosticam a capacidade básica de conversação para formular e responder frases utilizando vocabulário, expressões e gramática usados frequentemente sobre temas familiares relacionados consigo próprio e com a sua vida quotidiana.
- As 'Tarefas de diálogo', diagnosticam a capacidade de interação individual em função das situações e ocasiões.
- As 'Tarefas de cognição' diagnosticam a capacidade cognitiva de exprimir os seus pensamentos e opiniões e de dar explicações coerentes sobre conteúdos relacionados com o aprendizado das matérias.
- A DLA <Ouvir/Falar> utiliza três tipos de cartões ilustrados no apêndice 2, no final deste guia. Os cartões com bordas rosas são 'Cartões básicos' utilizados para as 'Tarefas básicas', os cartões com bordas amarelas são os 'Cartões de diálogos' utilizados para as 'Tarefas de diálogo' e os cartões com bordas azuis são os 'Cartões cognitivos' para as 'Tarefas de cognição'.
- Há 4 cartões básicos, 3 cartões de diálogos e 6 cartões cognitivos. Deve-se selecionar de acordo com a idade, nível linguístico da criança e a situação no momento da aplicação da DLA (por exemplo, o tempo).
- Não é necessário utilizar todos os cartões. Escolher os cartões verificando a lista <Tipo de cartões ilustrados e faixa etária> (página 83).

❹ Procedimento de aplicação

Preparativos prévios

- Recortar os 'Cartões básicos', os 'Cartões de diálogos' e os 'Cartões cognitivos' da DLA <Ouvir/Falar> na apêndice 2 (página 243-249) no final deste guia ou transfira os dados para um tablet, e preparar os cartões de modo a poder apresentar um cartão de cada vez.
- Treinar a rotação dos cartões a um bom ritmo. Assistir ao vídeo do modelo da DLA e observar as atitudes e o ritmo do aplicador.
- Preparar o Guia de execução DLA <Ouvir/Falar> (página 87-89), os Cartões ilustrados DLA <Ouvir/Falar>, o material de gravação ou de registro e um papel para anotações.

Como utilizar os cartões/Como sentar-se

- Colocar os cartões virados para baixo, pela ordem em que vão ser utilizados. Empilhe os cartões de forma a que, ao virar o cartão que está em cima, apareça em seguida o cartão de que você precisa.
- O aplicador deve se posicionar diagonalmente em relação à criança, sentado ao lado do canto da mesa, e não frontalmente. Os cartões devem ser colocados onde tanto a criança quanto o aplicador possam vê-los.

Execução do diálogo

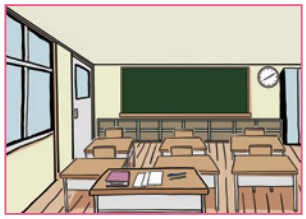
- Checar se o equipamento de gravação de áudio e vídeo está em boas condições, ligá-lo antes e iniciar o diálogo DLA <Ouvir/Falar>. Caso esteja continuando com DLA <Primeiro passo>, o aparelho de gravação deve continuar ligado.
- Aplicar as Tarefas na ordem de 'Tarefas básicas', 'Tarefas de diálogo' e 'Tarefas de cognição' de acordo com o Guia de execução DLA <Ouvir/Falar>(página 87-89).
- Dependendo do nível de português da criança, as tarefas podem ser encerradas depois das 'Tarefas básicas' ou depois das 'Tarefas de diálogo'. Por outro lado, há casos em que apenas se realiza as 'Tarefas de cognição', sem realizar as 'Tarefas básicas' ou as 'Tarefas de diálogo', e outros casos em que se realiza todas as tarefas até as 'Tarefas de cognição'.

Tipo de cartões ilustrados e faixa etária

	nome do cartões com imagem	1ª e 2ª série do Shougakkou	3ª e 4ª série do Shougakkou	5ª e 6ª série do Shougakkou
Tarefas básicas	❶ Sala de aula	○	○	○
	❷ Esportes	○	○	○
	❸ Cotidiano	○	○	○
	❹ Aspirações futuras	○	○	○
Tarefas de diálogo	❺ Perguntar ao professor	○	○	○
	❻ O novo professor	○	○	○
	❼ Convidar o amigo	○	○	○
Tarefas de cognição	❽ Historinhas	○	○	
	❾ Carro de bombeiro	○	○	
	❿ Digestão de alimentos	○	○	○
	⓫ Problemas ambientais		○	○
	⓬ Terremoto		○	○
	⓭ Ciclos da água			○

Objetivo de cada cartão

◇ As 'Tarefas Básicas' são utilizadas para verificar a capacidade das crianças de responder a perguntas e formar frases sobre tópicos familiares relacionados a elas próprias e com a sua vida cotidiana, usando vocabulário e expressões que são usadas com maior frequência. Selecionar os cartões de acordo com o tempo para a realização da tarefa e de acordo com a condição da criança.



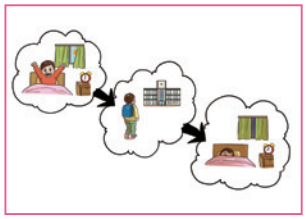
❶ Cartão 'Sala de aula'

Verificar se consegue expressar a existência de objetos e pessoas usando verbos de existência e presença (Ter, Estar) e expressões que expressam localização (em cima de〜). Para alunos acima da 2ª série, pedir para olhar o relógio e perguntar também o horário.



❷ Cartão 'Esporte'

Verificar se consegue responder a questões como 'Já fez/praticou? (experiências do passado)', 'Consegue/não consegue? (expressões de possibilidade)', 'De qual você gosta?(comparações)', etc.



❸ Cartão 'Fatos do cotidiano' como 'Acordar', 'Ir à escola', e 'Dormir'.

Verificar se consegue usar os tempos verbais presente (hábitos) e passado, assim como expressar ações em sequência.



❹ Cartão 'Aspirações futuras'

Verificar se consegue falar sobre seus sonhos para o futuro usando 'Eu quero (desejo)' e também perguntar sobre motivos.

◇ As 'Tarefas de diálogo' são utilizadas para saber a capacidade de propor um diálogo dispondo-se a iniciar a conversação de acordo com a situação e o contexto. O implementador assume o papel de um professor ou de um amigo, em um formato de dramatização. Os cartões devem ser selecionados de acordo com o tempo da implementação e a situação da criança.



❺ Cartão 'Perguntar ao professor'

A : Verificar se consegue pedir permissão para ir ao banheiro durante a aula.

B : Verificar se consegue fazer uma solicitação caso esqueça seu livro didático e precise pega-lo emprestado de um professor ou amigo.



❻ Cartão 'O novo professor'

Verificar se consegue fazer auto apresentação ou fazer perguntas ao novo professor.



❼ Cartão 'Convidar o amigo'

Verificar se consegue convidar o amigo. Verificar se consegue propor o diálogo (Consegue sugerir locais e horários por conta própria). (O implementador assume o papel de um amigo)

◇ As 'Tarefas de cognição' são utilizadas para saber se as crianças conseguem falar de forma coerente sobre o conteúdo relacionado ao aprendizado da matéria. Os cartões devem ser selecionados de acordo com a idade (série) das crianças. Se não houver uma tarefa adequada para as crianças acima do ensino médio (chuugakkou e koukou), pode pedir a elas para explicarem conceitos que já aprenderam no Brasil ou na escola brasileira ou em outras matérias em que são boas, levando em conta a situação de aprendizagem no Brasil ou na escola brasileira.



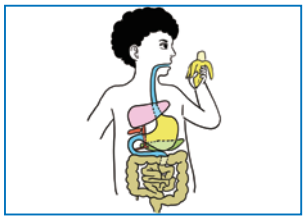
❽ Cartão 'Historinhas'

Escolher uma história que a criança conheça dentre os 3 desenhos e verificar se consegue contar a história na ordem. Pode escolher uma história diferente da que está desenhada no cartão.



❾ Cartão 'Carro de bombeiro'

Verificar se consegue falar sobre as semelhanças e diferenças entre os dois veículos e as funções que eles desempenham. Focar nas habilidades para distinguir semelhanças e diferenças na aparência (forma) ou semelhanças e diferenças na função.



❿ Cartão 'Digestão de alimentos'

Verificar se consegue falar sobre a digestão dos alimentos. Para os alunos acima da 5ª série do Shougakkou, verificar se conseguem explicar como funciona a digestão usando o vocabulário estudado na matéria (vocabulário acadêmico) apropriado para sua faixa etária.



⓫ Cartão 'Problemas ambientais'

Verificar se consegue explicar o que está acontecendo com o planeta atualmente e se consegue expressar suas opiniões sobre medidas para lidar com problemas ambientais. Para os alunos acima da 5ª série do Shougakkou verificar se conseguem explicar as causas e os mecanismos do aquecimento global usando o vocabulário estudado na matéria (vocabulário acadêmico).



⓬ Cartão 'Terremoto'

Verificar se conseguem falar sobre suas experiências com terremotos. Também se conseguem expressar suas opiniões sobre o que fazer no caso de um terremoto. Para os alunos acima da 5ª série do Shougakkou verificar se conseguem explicar as causas e os mecanismos dos terremotos usando o vocabulário estudado na matéria (vocabulário acadêmico).



⓭ Cartão 'Ciclos da água'

Verificar se conseguem explicar como funciona o ciclo da água usando o vocabulário aprendido na matéria (vocabulário acadêmico). Também verificar se conseguem fornecer evidências para responder a um evento hipotético, perguntando o que aconteceria se não houvesse sol, que é essencial para o ciclo da água.

⑤ Cuidados na execução

Dar ênfase a fluência da avaliação

- O tempo da DLA <Ouvir/Falar> é de 10 a 15 minutos. O diálogo deve prosseguir a uma velocidade e ritmo naturais tanto quanto possível é não se deve prolongar muito.
- Não se deve interromper, negar ou corrigir o discurso da criança.
- Se a criança não compreender a pergunta, repita-a lentamente. Se continuar a não entender, pode mudar para uma forma mais curta e fácil de compreender. Mas não acrescente explicações. Não pare o fluxo e passe para o passo seguinte.
- Se a criança estiver pensando ou demorando muito tempo para responder, espere cuidadosamente e não a apresse.

Criar um ambiente propício

- Tentar criar um ambiente calmo e acolhedor. Não realizar isto como um teste, mas como um diálogo divertido com a criança.
- É necessário reagir as respostas da criança acenando com a cabeça ou fazendo sinais de confirmação.

Não avaliar durante o diálogo

- Não faça pontuação ou avaliação na frente das crianças. As avaliações devem ser realizadas após a conclusão de todos os processos.
- Para uma avaliação e documentação precisas, faça uma gravação de áudio ou vídeo.

Finalizar com elogios

- Independentemente do resultado, termine com um comentário positivo sobre o fato da criança ter falado em português.

⑥ Métodos de avaliação

- A avaliação deve ser aferida após a DLA <Ouvir/Falar> verificando a gravação de áudio ou vídeo.
- Verifique o que a criança consegue fazer e quão bem consegue fazer, de acordo com os pontos de vista, usando a 'Notas de avaliação' da DLA <Ouvir/falar> (página 90).
- O alcance da criança na 'Conversa introdutória' e a porcentagem de respostas corretas na 'Checagem do vocabulário' da DLA <Primeiro passo> também devem ser levados em conta na avaliação.
- A avaliação será feita de acordo com o estágio de 'A capacidade de linguagem abrangente que apoia o pensamento, o julgamento e a expressão (habilidade multilíngue)' na Estrutura para o Ensino de Idiomas 'Matriz de desenvolvimento e aquisição de línguas' (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI). O 'A capacidade de linguagem abrangente que apoia o pensamento, o julgamento e a expressão (habilidade multilíngue)' é uma avaliação abrangente do 'que pode ser feito em português' e do 'que pode ser feito em japonês' juntos.
- A DLA não é um teste padronizado para pontuar as habilidades linguísticas das crianças e hierarquizar os resultados obtidos. É uma avaliação para observar, por meio do diálogo, o que as crianças conseguem fazer utilizando a língua e o que conseguem fazer com a ajuda, e aplicar essas informações ao ensino e o apoio da língua.
- Portanto, não pontue os resultados obtidos aqui, mas observe-os dentro de uma ótica de estágios sucessivos a partir de uma perspectiva abrangente e multifacetada e vincule-os ao ensino e ao apoio destinados ao próximo estágio.

Tarefas básicas

Não é necessário utilizar todos os 4 cartões. Os cartões devem ser selecionados dependendo da situação e da necessidade. Também não é necessário aplicar as tarefas básicas se estiver claro que a criança pode realizá-las.

Fala do implementador	Cuidados
❶ Cartão 'Sala de aula'	
● 'A partir de agora, vamos olhar o cartão e conversar, está bem? Se você não souber, pode falar 'não sei'. Então, vamos começar.' ① 'Que lugar é este?' ② 'O que há nesta sala?' ③ 'Tem a mesa do professor?' ④ 'Então, tem a cadeira do professor?' ⑤ 'O professor está aqui?' ⑥ 'Então, e as crianças?' ⑦ 'Onde está a caneta?'' ⑧ 'O relógio está aqui?' ⑨ 'Que horas você acha que são?'	・Não mudar a ordem das perguntas. ・④ Perguntar de modo que a criança responda 'Tem/Está'. ・⑥ Perguntar de modo que a criança responda 'Tem/Está'. ・⑦ Se a criança apontar para um cartão ilustrado e disser 'aqui', vire o cartão e faça a mesma pergunta novamente, incentivando a criança a explicar o local com palavras como 'Está em cima da mesa'. ・⑦ A 'caneta' pode ser substituída por 'lápis'. ・⑧ Se o aluno incluir o relógio na resposta da pergunta②, considerar que há relógio na sala como 'Tem relógio na sala mesmo, né.' ・⑨ Não há necessidade de questionar os alunos da 1ª série do shougakkou.
❷ Cartão 'Esportes'	
① 'Você gosta de esporte (se movimentar) ?' ② 'Qual esporte você pratica?' ③ 'E (nome do esporte)? Você... ' ④ 'Já praticou (nome do esporte) alguma vez?' ⑤ '(Nome do esporte) e (nome do esporte), Qual dos dois você gosta?'	・① Para crianças menores que não estão familiarizadas com a palavra 'esporte', troque-a por 'se movimentar'. ・③ Para as crianças que ainda não sabem o nome do esporte (principalmente as menores), o aplicador pergunta apontando para a ilustração do cartão. ・③ Perguntar de modo que a criança responda 'Pratico/Não pratico'.
❸ Cartão 'Acontecimentos do cotidiano como 'Acordar', 'Ir à escola', e 'Dormir'	
① 'A que horas você acordou esta manhã?' ② 'E depois, o que você fez?' ③ 'A que horas você costuma dormir?' ④ 'O que você faz depois que chega em casa? Me fala o que você faz até a hora de dormir.'	・① Perguntar sobre horário. ・② Verificar o quanto compreende e o uso do tempo verbal passado. ・③ Perguntar sobre as atividades habituais. ・④ Verificar se consegue relatar em ordem cronológica.
❹ Cartão 'Aspirações futuras'	
① 'No futuro/quando você crescer, o que você quer ser?' ② 'Por quê?'	・① Se a criança não informar o nome da profissão, você pode perguntar como 'o que você quer fazer'? Pode falar nomes de profissão de exemplo ('Professor?'), ou apontar para a ilustração e perguntar 'E isso?'.

Se a criança não conseguir responder quase nada, pode encerrar neste ponto.

'Aqui terminamos a nossa conversa. Muito obrigado. '

Se a criança conseguir responder a maioria das perguntas, passar diretamente para a 'Tarefas de diálogos' ou para a 'Tarefas de cognição'.
A decisão de realizar a 'Tarefas de diálogo' se baseia na situação (tempo) e na necessidade.

Tarefas de diálogo

Não é necessário utilizar todos os 3 cartões. Os cartões devem ser selecionados dependendo da situação e da necessidade.
Também não é necessário aplicar as Tarefas de diálogo se estiver claro que a criança pode realizá-las.

 Fala do implementador	Cuidados
❺ Cartão 'Perguntar ao professor' A,B	
A ① 'Ih, você ficou com vontade de ir ao banheiro (com dor de barriga). O que você vai falar ao professor? Eu sou o professor.' B ① 'Você esqueceu o livro didático de matemática e quer ver o livro junto com o colega do lado. O que você vai falar ao seu colega?'	・A① Perguntar apontando as ilustrações do menino e do banheiro que estão no cartão. ・Verificar se a criança sabe pedir permissão. ・B① Perguntar apontando a ilustração do livro didático. ・Verificar se a criança sabe fazer uma solicitação.
❻ Cartão 'O novo professor'	
① 'A partir de hoje, você terá um novo professor. Em primeiro lugar, faça a sua apresentação a ele. Depois, faça duas perguntas ao seu novo professor. Eu sou seu novo professor. '	・O aplicador desempenhará o papel do novo professor. ・Se a criança não souber como se apresentar, pode falar 'Me fale sobre você'. Se ainda não souber falar, pode ajudar falando 'O seu nome?', 'Que Série?' ou incentivar falando 'Eu sou...'.
❼ Cartão 'Convidar o amigo'	
① 'Você vai querer brincar com seu amigo ○○ hoje quando terminar a aula. Convide ○○. Você encontrou com ○○ em frente a sapateira. '	・Usar o nome do amigo que a criança falou na conversa introdutória. O aplicador fará o papel do amigo. ・Esta tarefa objetiva verificar a habilidade de tomar iniciativa para começar a conversa, convidar marcar horário/local e finalizar. O aplicador deve tomar cuidado para não falar antes da criança e liderar a conversa.

Se a criança não conseguir responder quase nada, pode encerrar neste ponto



'Aqui terminamos a nossa conversa. Muito obrigado. '

Se a criança conseguir responder a maioria das perguntas da 'Tarefas de diálogo', passar diretamente para a 'Tarefas de cognição'.

Tarefas de cognição

Selecione os cartões de acordo com a idade (série) das crianças. Caso for aplicar para criança acima do ensino médio (chuugakkou e koukou) e não houver uma tarefa adequada para elas, pode pedir para a criança explicar os conceitos que já aprendeu em outras matérias e que tenha bom domínio, levando em conta a situação de aprendizagem na escola no Brasil ou escola brasileira.

Fala do implementador	Cuidados
❽ Cartão 'Historinhas' (para 1ª série a 4ª série)	
① 'Uma criança pediu para contar uma historinha. Conte uma historinha para ela.'	・Escolha uma historinha que a criança conheça bem. Se não houver nenhuma historinha conhecida nos cartões ilustrados, pode escolher uma outra historinha.
❾ Cartão 'Carro de bombeiro' (para 1ª série a 4ª série)	
① 'Você conhece o nome destes veículos?' ② 'Como eles trabalham? Para que servem?' ③ 'Quais são as semelhanças/diferenças?'	・① Aponte para os dois veículos de cada vez e faça perguntas. Se a criança não souber os nomes, pode dizer o nome para fazer a próxima pergunta. ・③ Faça perguntas sobre as semelhanças e diferenças entre os dois veículos. Algumas crianças podem não perceber as semelhanças e diferenças na maneira como eles funcionam e podem responder sobre a aparência (forma).
❿ Cartão 'Digestão de alimentos'	
① 'O que acontece com o alimento que a pessoa come?' ② 'Explique como funciona a digestão (para crianças acima da 5ª série).'	・Para as crianças da 1ª série a 4ª série verificar se conseguem falar sobre digestão. No caso de alunos acima da 5ª série, verificar se conseguem explicar como a digestão funciona usando o vocabulário estudado na matéria que e apropiado à sua faixa etária.
⓫ Cartão 'Problemas ambientais' (para crianças acima da 3ª série)	
① 'O que é essa ilustração?' ② '(Apontando cada ilustração) O que é isso?' ③ 'O planeta Terra está chorando. Por que você acha que está chorando?' ④ 'O que você acha que pode ser feito para o planeta não chorar?' ⑤ 'Isso e um desenho de aquecimento global. Explique por que ocorre o aquecimento global? (especialmente para crianças acima da 5ª série)'	・① Verificar se percebe que a ilustração representa o conceito de problemas ambientais e aquecimento global e ver se conhece o vocabulário. ・ Se a resposta for dada em ①, pule o ②. Se a criança não conseguir responder, verifique do que trata cada figura (Terra, cortando as árvores, um carro emitindo fumaça de escapamento, fumaça proveniente de uma fábrica). ・Se a criança não souber em ①, ensine-lhe o vocabulário 'aquecimento global' em ⑤. Em seguida, veja se consegue explicar os fatores/mecanismos usando o vocabulário estudado na matéria.
⓬ Cartão 'Terremoto' (para crianças acima da 3ª série)	
① 'Já sentiu um terremoto? Me fale quando ocorreu o terremoto.' ② 'O que você faria se acontecesse um terremoto quando estiver na escola?' ③ 'Já estudou sobre terremoto na escola? Explique porque ocorre o terremoto. (especialmente para crianças acima da 5ª série)'	・① Se a criança nunca sentiu um terremoto, pergunte sobre a experiência dos pais. ・③ Verificar se consegue explicar a causa e o mecanismo usando o vocabulário aprendido na matéria.
⓭ Cartão 'Ciclos da água' (para crianças acima da 5ª série)	
① 'Explique o ciclo da água.' ② 'De onde você acha que vem a água que bebemos?' ③ 'O que você acha que aconteceria com a Terra se não chovesse mais/se não existisse o sol?'	

'Aqui terminamos a nossa conversa. Muito obrigado.'

Notas de avaliação

ano mês dia

Nome Série(idade)

Verificar o que e em que medida as crianças conseguem ouvir e falar em português de acordo com os seguintes aspectos.
O estágio é avaliado de acordo com o 'Matriz de desenvolvimento e aquisição de línguas' (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI).

Compreensão auditiva		
Habilidades básicas de audição	Consegue entender perguntas simples sobre si mesmo e sobre tópicos familiares	☐Muito bem ☐Bem ☐Mais um pouco
Pronúncia / fluência		
Pronúncia / entonação	Consegue falar com a pronúncia e entonação naturais	☐Muito bem ☐Bem ☐Mais um pouco
Fluência	A conversação é espontânea e natural	☐Muito bem ☐Bem ☐Mais um pouco
Atitude na fala		
Atitude na fala	Fala por iniciativa própria; lidera o diálogo	☐Muito bem ☐Bem ☐Mais um pouco
Vocabulário		
Vocabulário cotidiano	Consegue usar vocabulários / expressões do cotidiano	☐Muito bem ☐Bem ☐Mais um pouco
Qualidade do vocabulário (Vocabulários estudados na matéria / Vocabulário acadêmico)	Consegue usar vocabulário e expressões apropriados (inclusive vocabulários estudados na matéria/vocabulário acadêmico)	☐Muito bem ☐Bem ☐Mais um pouco
Precisão gramatical		
Precisão gramatical	A fala e gramaticalmente correta	☐Muito bem ☐Bem ☐Mais um pouco
Qualidade da frase / parágrafo		
Geração de frases	Consegue produzir orações simples	☐Muito bem ☐Bem ☐Mais um pouco
Qualidade do parágrafo	Consegue construir parágrafos usando não somente orações simples mas também orações compostas	☐Muito bem ☐Bem ☐Mais um pouco
Conteúdo e concisão da fala		
Grau de realização das tarefas	Consegue realizar as tarefas atribuídas	☐Muito bem ☐Bem ☐Mais um pouco
Sequenciamento na fala	Consegue falar de forma sequencial e conectada	☐Muito bem ☐Bem ☐Mais um pouco
Conteúdo e concisão da fala	Conteúdo rico e conciso; consegue explicar, falar o motivo e a opinião	☐Muito bem ☐Bem ☐Mais um pouco

中国語
中文



鳳凰（ほうおう）の絵を描きました。
中国では縁起の良い鳥です。想像上の鳥です。未来を明るく照らしてくれる鳥です。

1. 多语言DLA测试

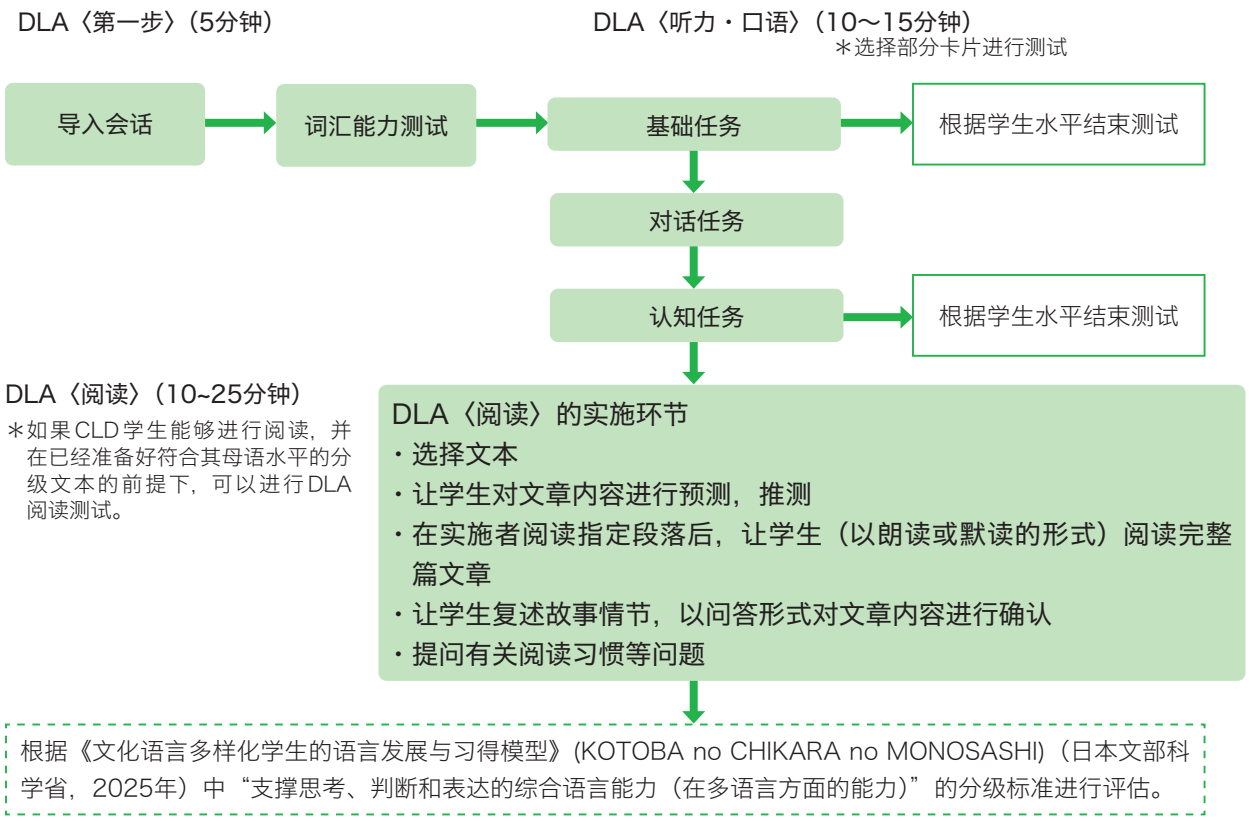
❶DLA测试的目的

- 对话式语言评估测试（Dialogic Language Assessment, DLA）是一种针对文化语言多样化学生（Culturally and Linguistically Diverse Students, CLD）的测试工具。该测试并不试图将这些学生所拥有的语言知识用分数量化，并根据测试结果进行高低排名。
- DLA测试的目标是通过对话的形式，来评估CLD学生在语言运用中“能够做到什么”。DLA测试不仅关注学生“可以独自完成”的事情，还包括学生“可以在外界支持帮助下完成”的事情。
- DLA测试旨在通过一对一的对话形式，在给予CLD学生多种支持帮助的同时，展现CLD学生是如何进行学习的、什么样的行为可以帮助促进他们学习、以及如何才能激发他们的学习动力。
- 同时，从DLA测试评估中所获取的信息也将用于今后对学生学习的辅导与帮助当中。这也是实施DLA测试的目的之一。

❷多语言DLA测试的重要性

- 为了全面展现CLD学生“语言能力的最大潜力”，我们不仅需要评估其还在习得过程中的日语能力，更需要评估其母语能力。
- DLA测试的开发基于双语教育理论。因此，DLA测试不仅可以使用日语进行，也可以使用多种语言进行。在本手册中，收录了葡萄牙语、中文、菲律宾语、越南语、西班牙语、英语、尼泊尔语以及俄语的DLA测试〈第一步〉以及DLA测试〈听力・口语〉的内容。如果教师能够使用CLD学生的母语，请根据具体情况，积极活用多语言DLA测试。
- 在阅读能力测评方面，多语言DLA测试需要使用根据不同语言及其相应水平划分的分级文本，而非翻译文本。因此，本手册并没有收录DLA测试〈阅读〉的内容。如果需要测评CLD学生的母语阅读能力，可参考DLA测试〈阅读〉中的实施内容，并需要提前准备好适合CLD学生年龄与母语水平的文本。例如，文本可以从CLD学生自己国家的语文教科书中所收录的记叙文或说明文中进行灵活筛选。
- 在写作能力测评方面，如果学生还没有达到可以独立进行主题作文写作的水平，则不能以考试的形式进行测评，最好可以观察学生在课堂上写作活动的具体情况后再进行评价。针对可以独立完成主题作文的CLD学生，可以参考《文化语言多样化学生的语言发展与习得模型》(KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI)（日本文部科学省，2025年）pp.186-199的作文主题来布置写作任务。

❸多语言DLA测试的实施流程图



2. DLA〈第一步〉

①目的

・使用中文实施DLA测试〈第一步〉的目的，在于评估儿童所拥有的中文基础会话能力。在此阶段，评估将通过问候环节、询问与儿童自身相关情况的“导入会话”和由55个基础词汇所构成的“词汇能力测试”进行。
・同时，测试的另一个目的是为了进一步了解儿童现在所处的生活环境与语言环境。
・DLA 实施者在进行 DLA 测试〈第一步〉的过程中，应逐步与儿童建立信赖关系，并尽力营造鼓励儿童积极参与测试的氛围。这同样也是DLA测试〈第一步〉的目标之一。

②测试对象

・DLA测试〈第一步〉的测试对象为在多种语言环境下成长的、语言能力分布范围较广的儿童。其中既包含勉强可以使用中文进行最低限度问答的儿童，也包含可以使用中文进行流畅对话的儿童。
・在需要测量儿童当前水平最高的语言能力处于哪种阶段时，尤其有必要进行 DLA〈第一步〉的测试。

③测试环节

・DLA测试〈第一步〉首先从第一次见面时的问候环节开始；接着是询问儿童自身情况的“导入会话”环节；最后是由包含名词、动词、形容词的基础词汇构成的共计 55 个问题的“词汇能力测试”环节。
・“词汇能力测试”当中的名词由儿童日常生活当中常听到的、常使用的词汇所构成。如身体的一部分、食物、动植物以及在学校学习生活中出现的事物等。词汇卡片中既包括如“眼睛”与“眼睫毛”、“嘴”与“嘴唇”等儿童日常高频-低频使用的词汇;也包括如“牛”与“角”、“树”“树叶”“树枝”等表示事物整体-部分的词汇。“词汇能力测试”当中的动词与形容词也同样使用了儿童在学校生活或家庭中日常接触到的词汇。

④实施流程

事前准备工作

・请将卷末资料1的“DLA测试〈第一步〉词汇卡片”（pp.236-242）裁剪成卡片状，并按照号码顺序排列后用圆环穿孔固定，或将数据导入平板电脑，以便测试时逐张展示。
・请在测试前充分练习翻动卡片的动作，以确保动作流畅，富有节奏感。可以通过观看DLA示范视频，参考视频中实施者的态度与操作节奏。
・请在手边准备好DLA测试〈第一步〉实践指南（pp.97-98）、可以逐张展示给小朋友的DLA测试〈第一步〉词汇卡片、录音或录像设备、备忘录。

座位安排

・在测试的时候，请注意不要坐在小朋友的正对面，尽量和小朋友隔一个桌角坐下。通过这样的座位安排，可以和小朋友共同分享卡片内容以及桌面空间，减少并缓和测试所带来的压力。

对话实施流程

・请先确认录音以及录像设备的状态是否良好，在打开开关后开始对话测试。
・请参照DLA测试〈第一步〉实践指南（pp.97-98）的内容，按照“导入会话”“词汇能力测试”的顺序进行测试。

・如果在尝试进行DLA测试〈第一步〉的过程中发现儿童还未充分习得基础会话能力，并判断测试很难继续进行的情况下，不管是在“导入会话”还是在“词汇能力测试”的过程当中，都可以马上结束测试。

⑤实施过程中的注意事项

重视流程

・DLA测试〈第一步〉所需时长为5分钟左右。实施者需要按照小朋友的语言水平调整自己的提问，以自然的速度，流畅连贯地推进对话。
・请注意不要在会话中抢话，或打断、否定、纠正小朋友的发言。
・如果测试对象是日常生活中已有接触的小朋友，且实施者判断不需要进行测试开头的“初次见面的问候”（自我介绍），可以直接跳过这一环节。
・如果小朋友不明白问题，请将语速减缓并重复一次。如果小朋友还是不明白的话，可以改用更加简短易懂的说法再次进行提问，但请不要增加说明性的内容。请保持对话的流畅性，无需停顿，直接进行下一个问题。
・在进行“词汇能力测试”时，即使小朋友回答不出来或回答错误，也请不要告诉小朋友正确答案或对小朋友的回答进行纠正，请直接快速移到下一张卡片。在小朋友表示希望实施者告诉自己答案的情况下，也可以将答案告诉小朋友。
・如果出现小朋友思考或回答问题时所用时间较长的情况，请不要着急催促，给予小朋友一些回答的时间。

营造轻松氛围

・即使是口语表达非常流畅的小朋友，在与大人一对一的对话过程中也不免会出现紧张、抗拒回答等情况。请注意在测试过程中营造出温和轻松的氛围。实施者注意不要以一种考官的立场，而是要以享受与小朋友之间的交流为前提进行测试。
・小朋友回答的时候，请用“嗯嗯”或“好”等口头语言或点头等动作，对小朋友的回答作出回应，表达关注。
・对实施者而言，〈第一步〉不仅仅是测试的关键内容，也是重要的暖场环节。请在实施的过程中充分注意引导并激发小朋友作答。实施者在这一场景中不仅仅担任教师的职责，也担任引导者（引导激发话语）的重要职责。

不要在会话过程中评分

・请不要在小朋友面前进行评分或对小朋友进行评估。同时，由于DLA测试〈第一步〉通常与DLA测试〈听力・口语〉或DLA测试〈阅读〉连续进行，因此请在所有测试都结束之后再进行评估工作。
・为确保评估与记录的准确性，请将测试过程录音或录像。

以称赞结束

・无论小朋友的语言水平处于什么样的阶段，请一定在测试的最后对小朋友的表现进行高度赞扬，让小朋友对于自己使用中文“表达了很多”这一事实产生积极向上的情感。

⑥针对下一环节的提示

・在“导入会话”与“词汇能力测试”环节当中，实施者如果判断儿童可以大致回答70%～80%以上的内容，即可进入下一环节。如果只能回答20%～30%以下的内容，请不要进行下一环节，直接终止测试。如果感到完成程度处于中间值且难以判断，可以先尝试继续测试，然后再做出进一步判断。
・正如本章（4）所述，根据儿童中文的习得程度，也可以在进行DLA测试〈第一步〉的过程中直接结束测试。

❼评价的时机与方法

・请在后续实施的DLA测试〈听力・口语〉结束之后，再统一进行针对DLA测试〈第一步〉的评价。
・请在确认录音或录像的内容的同时，使用DLA测试〈第一步〉的评价记录表（p.99），记录儿童语言能力的习得程度。
・针对“词汇能力测试”的评价，请参照词汇能力测试《正误表》（p.101）。
・实施者需要从综合性和多角度的视点出发，根据《文化语言多样化学生的语言发展与习得模型》(KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI)中“支撑思考、判断与表达的综合语言能力〈使用多语言的能力〉”的分级标准，评估儿童的语言能力阶段。

导入会话

❶初次见面问候：



你好，我叫（自我介绍）。

❷说明：在说明接下来的环节的时候，请注意调动小朋友的积极性，营造轻松愉快的氛围。



接下来，我想知道○○会说多少中文。所以○○知道什么就说什么。如果不知道的问题，就跟老师说“不知道”就可以了。好吗？

❸提问：

・请按照如下顺序进行提问。



① 请告诉我你的名字/你的名字叫什么？
② 你今年几年级？
③ 你今年多大？/你今年几岁？
④ 你的生日是什么时候？
⑤ 你有哥哥/姐姐（弟弟、妹妹）吗？

・在询问兄弟姐妹时，请根据每个小朋友的自身情况和家庭成员构成的具体情况等灵活提问。



⑥ 你有朋友吗？
⑦ 请告诉老师你的朋友的名字。
⑧ 你平时和朋友玩什么？

・在后续的任务会话中需要用到朋友的名字，此处请一定要询问朋友的姓名。（可以做笔记）



⑨ 学校开心吗/你喜欢学校吗？
⑩ 为什么呢？

・如果儿童在自己的国家或在日本国内的外国人学校就读过，可以询问当时上学的情况，也可以提问与现在就读的（日本）学校的异同。



⑪ 你喜欢日本学校的什么地方？
⑫ 你讨厌日本学校的什么地方？

・在⑪⑫的问题之后，可以根据每个儿童的具体情况进一步提问。



⑬ 你在家说中文吗？
⑭ 你妈妈（爸爸）跟你用什么语言说话？
你跟妈妈（爸爸）用什么语言说话？

・通常情况下，即使家长用中文跟小朋友沟通，小朋友也往往以听为主，很少自己使用中文与家长对话。因此在询问家庭当中所使用的语言的具体情况时，请一定注意细节。同时，在询问家庭成员构成等的时候，要根据具体情况灵活提问。



⑮ 你会读中文吗？
你会写中文吗？

・这一提问是为了确认儿童是否习得了一定程度的中文阅读以及写作能力。实施者还可以追加一些问题，如儿童可以阅读什么程度的文本，或可以进行哪种程度的写作等，以便进一步确认儿童的阅读写作水平。

词汇能力测试

❶词汇卡片为名词的情况(卡片号码：1～42)



这个是什么？对，是眼睛。那老师说“1”，你就说“眼睛”，好吗？老师说“2”的话（用手指卡片号码为 2 的图片），你就说这个。如果不知道的话，说“不知道”就可以。准备好了吗？开始，1。

❷词汇卡片为动词的情况(卡片号码：43～50)

・测试到卡片号码为43号（游泳）的时候，请按照下文进行指示。



他在做什么？／他正在做什么？

❸词汇卡片为形容词的情况(卡片号码：51～55)

・测试到卡片号码为51号（短）的时候，请按照下文进行指示。



这是一条什么样的裙子？

・如果儿童不明白“什么样”一词的含义的话，请按照下文进行提示。



这是“长”，对吧。那这是（用手指显示“短”的图片）什么呢？

进入下一环节……

●如果导入对话与词汇能力测试的完成程度在20%～30%左右的情况下，可以在这一步直接结束测试。



我们今天到这里就结束了。谢谢你！

●如果导入会话与词汇能力测试的完成程度在一半以上的情况下，可以进入下一环节 DLA 测试〈听力・口语〉。

＼ 评价记录表 ／

导入会话

年　　月　　日

姓名　　年级(年龄)　　年级(　　岁)

实施者的提问	能够做出意思明确的回答	备注
①“请告诉我你的名字/你的名字叫什么？”	□	
②“你今年几年级？”	□	
③“你今年多大？ /你今年几岁？”	□	
④“你的生日是什么时候？”	□	
⑤“你有哥哥/姐姐（弟弟、妹妹）吗？”	□	
⑥“你有朋友吗？”	□	
⑦“请告诉老师你的朋友的名字。”	□	
⑧“你平时和朋友玩什么？”	□	
⑨“学校开心吗/你喜欢学校吗？”	□	
⑩“为什么觉得学校开心/喜欢学校呢？”	□	
⑪“你喜欢日本学校的什么地方？”	□	
⑫“你讨厌日本学校的什么地方？”	□	
⑬“你在家说中文吗？”	□	
⑭“你妈妈（爸爸）跟你用什么语言说话？” “你跟妈妈（爸爸）用什么语言说话？”	□	
⑮“你会读中文吗？”“你会写中文吗？”	□	
意思明确的回答数目／提问数目 会话达成率	⇒	／15 %

词汇能力测试

年 月 日

姓名 年级(年龄) 年级(岁)

号码	词汇	正	误	备注	号码	词汇	正	误	备注
1	眼睛	□	□		30	桌子	□	□	
2	眼睫毛	□	□		31	抽屉	□	□	
3	嘴	□	□		32	黑板	□	□	
4	嘴唇	□	□		33	黑板擦	□	□	
5	手	□	□		34	地图	□	□	
6	大拇指	□	□		35	剪刀	□	□	
7	指甲	□	□		36	笔记本	□	□	
8	鼻子	□	□		37	司机	□	□	
9	葡萄	□	□		38	医生	□	□	
10	鸡蛋	□	□		39	消防员	□	□	
11	虾	□	□		40	公交车	□	□	
12	牛奶	□	□		41	飞机	□	□	
13	牛	□	□		42	机翼	□	□	
14	(牛的) 角	□	□		43	游泳	□	□	
15	(狗的) 尾巴	□	□		44	写字	□	□	
16	鸡	□	□		45	刷牙	□	□	
17	马	□	□		46	穿衣服	□	□	
18	大象	□	□		47	起床	□	□	
19	老鼠	□	□		48	坐	□	□	
20	(猫的) 胡子	□	□		49	打扫	□	□	
21	树	□	□		50	生气	□	□	
22	树叶	□	□		51	短	□	□	
23	树枝	□	□		52	细	□	□	
24	电风扇	□	□		53	轻	□	□	
25	电话	□	□		54	冷	□	□	
26	门	□	□		55	个子高	□	□	
27	屋顶	□	□		共计	正确回答数目 (正确率)			／55 (%)
28	楼梯	□	□						
29	窗户	□	□						

词汇能力测试正误表

No.	分类	正确答案	可接受范围	错误范例
1	Ⅰ 身体的一部分	眼睛	眼	
2		眼睫毛		眉毛
3		嘴	嘴巴	
4		嘴唇		
5		手	手掌	
6		大拇指	拇指，手指、指尖、大拇哥	
7		指甲	手指甲	
8		鼻子	鼻	
9	Ⅱ 食物	葡萄		
10		鸡蛋	母鸡的蛋，蛋	
11		虾	小龙虾、大龙虾	
12		牛奶	奶	
13	Ⅲ 动植物	牛		
14		（牛的）角	牛角	牛
15		（狗的）尾巴	狗尾巴	狗
16		鸡	母鸡	
17		马		
18		大象		
19		老鼠	仓鼠　鼠	
20		（猫的）胡子	胡须　猫胡子	猫的毛
21		树		
22		树叶	叶子	
23		树枝	树的枝，树杈	树的棍子
24	Ⅳ 机器	电风扇	风扇，电扇	
25		电话	手机、智能手机，智能机	
26	Ⅴ 房子的一部分	门		
27		房顶	瓦，屋顶	房子、房子的头、房子的上面
28		楼梯		走廊
29		窗户	窗，窗子	
30	Ⅵ 学校里的物品	桌子	茶几、书桌	
31		抽屉		桌子的中间
32		黑板		教室
33		黑板擦		橡皮
34		地图	世界、地球	
35		剪刀	剪子	
36		笔记本	教科书、书，书本　本子	
37	Ⅶ 职业	司机	开车的人	
38		医生	大夫、医院的大夫	
39		消防员	消防车的人、消防队员	消防局
40	Ⅷ 交通工具	公交车	巴士，大巴，公共汽车	车
41		飞机	航空飞机、喷气式飞机、波音飞机	
42		机翼	飞机的翅膀	
43	Ⅸ 学校生活中的日常动作	游泳	游、划水、自由泳	
44		写字	写、书写、学习、写作业	铅笔、画画
45	Ⅹ 日常生活当中的动作	刷牙	正在刷牙，刷着牙	牙刷
46		穿	穿衣服、穿着衣服、换衣服、正在换衣服	
47		起床	起来、正在起床、起床了、起来了	没在睡觉
48		坐	坐下、坐着、坐在椅子上	
49	Ⅺ 工作中的动作	打扫	打扫干净、清扫	
50	Ⅻ 表示感情的动作	生气	生着气、生气了、心情不好	坏、吓人
51	ⅩⅢ 形容词	短		裙子、不长
52		细		棍子、不粗
53		轻		包、褐色、包包、不重
54		冷		
55		个子高	个子大	大人

3. DLA〈听力·口语〉

①目的

・使用中文实施DLA测试〈听力・口语〉的目的在于评估儿童的会话能力。这种会话能力是学科学习所需语言能力以及读写能力的基础。
・DLA测试〈听力・口语〉将通过基础会话、对话与认知三个方面对儿童的会话能力进行测评。这一测试的目的在于将儿童的会话能力以一种综合性的、多角度的方式进行评估。

②测试对象

・DLA测试〈听力・口语〉的测试对象为在多种语言环境下成长的、语言能力分布范围较广的儿童。其中既包含勉强可以使用中文进行最低限度问答的儿童，也包含可以使用中文进行流畅对话的儿童。
・在特别需要了解儿童当前的中文听力及口语水平时，尤其有必要进行本测试。
・需要注意，如果儿童在使用中文实施的DLA测试〈第一步〉中几乎无法完成问答，则不能针对该儿童实施本次测试。

③测试环节

・本次测试由“基础任务”“对话任务”“认知任务”三个任务环节组成。
・在“基础任务”中，通过围绕儿童自身情况以及日常生活中熟悉的话题，要求儿童使用高频词汇、各种表达方式以及语法表现来组成句子进行问答，以此测试儿童在基础会话层面的语言能力。
・在“对话任务”中，要求儿童根据情境以及场合与实施者进行一对一问答交涉，以此测试儿童在对话层面的语言能力。
・在“认知任务”中，要求儿童表达自己的想法与意见，对学科学习相关的内容进行连贯的说明，以此测试儿童在认知层面的语言能力。
・在DLA测试〈听力・口语〉当中，需要使用三种图卡。在卷末资料2的DLA测试〈听力・口语〉图卡当中，粉色边框的图卡为完成“基础任务”所需的“基础卡片”；黄色边框的图卡为完成“对话任务”所需的“对话卡片”；蓝色边框的图卡为完成“认知任务”所需的“认知卡片”。
・基础卡片有四张，对话卡片有三张，认知卡片有六张。在测试的时候，需要根据儿童的年龄、中文水平以及DLA测试实施时的具体情况（如时间等）来从中选择需要使用的卡片。
・在测试过程中不需要使用所有的卡片，具体可以参考《图卡种类及适用年龄一览表》(p.103) 来选择所需卡片。

④实施流程

事前准备工作

・请将卷末资料2中DLA测试〈听力・口语〉的“基础卡片”“对话卡片”“认知卡片”（pp.243-249）裁剪成卡片状，或将数据导入平板电脑，以便测试时逐张展示。
・请在测试前充分练习翻动卡片的动作，以确保动作流畅，富有节奏感。可以通过观看DLA示范视频，参考视频中实施者的态度与操作节奏。
・请在手边准备好DLA测试〈听力・口语〉实践指南（pp.107-109）、预计使用的DLA测试〈听力・口语〉图卡、录音或录像设备、备忘录。

卡片的使用方法与座位安排

・请将卡片按照使用顺序叠放，背面朝上。测试的时候只要将最上面的卡片翻过来即可按照顺序将卡片展示给小朋友。

・在测试的时候，请注意不要坐在小朋友的正对面，尽量和小朋友隔一个桌角坐下。注意尽量将卡片放在小朋友与实施者都可以看到的位置。

对话实施流程

・请先确认录音以及录像设备的状态是否良好，在打开开关后开始DLA测试〈听力・口语〉。

・如果是紧接DLA测试〈第一步〉继续进行测试的情况，请确保录音机仍在运行状态。

・请遵照DLA测试〈听力・口语〉实践指南（pp.107-109），依次进行“基础任务”“对话任务”“认知任务”。

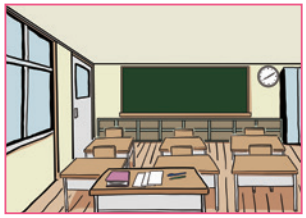
・根据儿童的中文水平，可以在“基础任务”或“对话任务”之后结束测试。或可以跳过“基础任务”与“对话任务”，直接进行“认知任务”；亦或完成所有任务直到“认知任务”为止。

图卡种类及适用年龄一览表

	图卡名称	小学 低年级	小学 中年级	小学 高年级及以上
基础任务	❶ 教室	○	○	○
	❷ 体育运动	○	○	○
	❸ 日常活动	○	○	○
	❹ 将来的梦想	○	○	○
对话任务	❺ 向老师提问	○	○	○
	❻ 新老师	○	○	○
	❼ 约朋友一起玩	○	○	○
认知任务	❽ 讲故事	○	○	
	❾ 消防车	○	○	
	❿ 食物的消化过程	○	○	○
	⓫ 环境问题		○	○
	⓬ 地震		○	○
	⓭ 水的循环			○

各图卡的目标

◇“基础任务”是一个观察儿童是否可以使用高频词汇和表达方式，在与自身及日常生活相关的熟悉话题中回答问题并组成句子的任务。
请根据实施时间与儿童的具体情况选择适当的卡片进行测试。



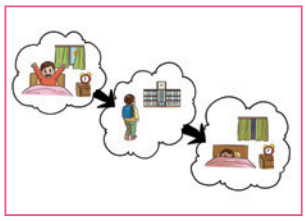
❶“教室”卡片

考察儿童是否能使用表示存在的动词（如有 / 在），以及表示位置的表达方式（如“在～上”）来回答关于物品或人的存在的提问。
对于2年级及以上的儿童，还要询问他们看时间和表达时间的能力。



❷“体育运动”卡片

考察儿童是否能回答有关“有没有做过某事”（过去经验）、“能不能做某事”（可能性表达）、“喜欢不喜欢某事”、“更喜欢哪一件事”（比较）等问题。



❸“日常活动〈起床〉〈上学〉〈睡觉〉”卡片

考察儿童是否具有能正确表达发生在过去和现在的行为动作，并按照时间顺序阐述行为动作的能力。



❹“将来的梦想”卡片

考察儿童是否具有使用表示愿望的“想～”来谈论未来的梦想的口语能力。同时，实施者还需要询问其原因。

◇“对话任务”是一个考查学生是否能依据不同情境自主发言并主导对话的任务。实施者在对话中扮演老师或朋友的角色，对话以角色扮演的形式进行。可以根据实施时间和儿童的具体情况选择适当的卡片进行测试。



❺“向老师提问”卡片

A：考察儿童是否能在课堂上向老师获得去洗手间的许可。
B：考察儿童在忘记带教科书的时候，是否能向同学或者老师请求借用课本。



❻“新老师”卡片

考察儿童是否能向新老师进行自我介绍，并对老师进行提问。



❼“邀请朋友”卡片

考察儿童是否能邀请朋友。
考察儿童主导对话的能力（如是否能主动提出集合地点或时间的建议）。（实施者扮演对话中朋友的角色。）

◇“认知任务”是一个考察儿童是否能根据学科学习相关内容进行通顺、连贯的叙述说明的任务。请根据儿童的年龄（年级）选择适当的卡片进行测试。
在对中学以及高中生实施测试时，如果卡片当中没有适合的任务，可以结合学生在自己国家的学习情况，请学生对自己擅长科目中学习过的知识概念进行叙述说明。



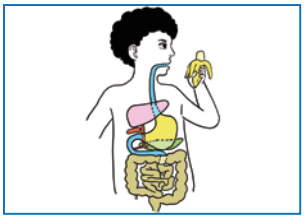
❽“讲故事”卡片

请儿童在三幅图中选择自己知道的故事，并考察儿童是否能按照故事情节发展顺序进行讲述。也可以选择图卡上描述之外的其他故事。



❾“消防车”卡片

考察儿童是否能描述两辆车分别具有什么作用、它们的相同点与不同点。特别注意儿童的回答是着重于两辆车外形（形状）上的异同点，还是着重于两辆车功能上的异同点。



❿“食物的消化”卡片

考察儿童是否能解释说明食物消化的过程。对于小学高年级及以上的学生，需要观察是否能使用与其年龄段相符的学科学习词汇解释说明消化的机制。



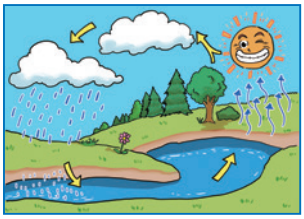
⓫“环境问题”卡片

考察儿童是否拥有解释说明地球目前状态的语言能力。同时考察是否能就环境问题的解决方法发表意见。对于小学高年级及以上的学生，需要考察是否能使用学科学习词汇解释说明全球变暖的原因与机制。



⓬“地震”卡片

考察儿童是否能描述自己经历地震的体验。同时考察是否能就地震发生时应当采取的应对措施发表意见。对于小学高年级及以上学生，需要考察是否能用学科学习词汇解释说明地震发生的原因与机制。



⓭“水的循环”卡片

考察学生是否能使用学科学习词汇解释说明水的循环的机制。同时，通过假设性的提问，如“如果没有了对于水循环来说必不可少的太阳的话，会怎么样？”，考察学生是否能就假定的事件提出论据进行回答。

⑤实施过程中的注意事项

重视流程

- DLA测试〈听力・口语〉所需时间为10～15分钟左右。请注意不要花费过多时间，以自然的速度流畅连贯地推进对话。
- 请注意不要在会话中抢话，或打断、否定、纠正小朋友的发言。
- 如果小朋友不明白问题，请将语速减缓并重复一次。如果小朋友还是不明白的话，可以改用更加简短易懂的说法再次进行提问，但请不要增加说明性的内容。请保持对话的流畅性，无需停顿，直接进行下一个问题。
- 如果出现小朋友思考或回答问题时所用时间较长的情况，请不要着急催促，给予小朋友一些回答的时间。

营造轻松氛围

- 请注意在测试过程中营造出温和轻松的氛围。实施者注意不要以一种考官的立场，而是以享受与小朋友之间的交流为前提进行测试。
- 在小朋友进行回答的时候，请用“嗯嗯”或“好”等口头语言或点头等动作，对小朋友的回答作出回应，表达关注。

不要在对话过程中评分

- 请不要在小朋友面前评分或对小朋友进行评估。评估工作应在测试结束后进行。
- 为确保评估与记录的准确性，请将测试过程录音或录像。

以称赞结束

- 无论小朋友的语言水平处于什么样的阶段，请一定在测试的最后对小朋友的表现进行高度赞扬，让小朋友对于自己使用中文“表达了很多”这一事实产生积极向上的情感。

⑥评价方法

- 请在DLA测试〈听力・口语〉结束后，确认录音或录像的内容。
- 请使用DLA测试〈听力・口语〉评价记录表（p.110），根据指标判断儿童的语言能力处于哪个程度。
- 请同时参考DLA测试〈第一步〉中“导入会话”的完成程度以及“词汇能力测试”回答的正确率，将这些内容综合考虑后纳入评价。
- 请将记入评价记录表的内容对照《文化语言多样化学生的语言发展与习得模型》(KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) 中的“支撑思考、判断与表达的综合语言能力（使用多语言的能力）”的分级标准，评估儿童的语言能力阶段。其中“支撑思考、判断与表达的综合语言能力（使用多语言的能力）”既包含“运用中文能做到的事情”，也包含“运用日语能做到的事情”，是一种综合性的语言能力视角。
- DLA测试并非是一个以量化学生语言能力为目的，并试图将测试结果进行高低排名的标准化的考试。该评估旨在以对话的形式观察儿童在运用语言的过程中“可以独立完成的”事情，以及“可以在外界支持帮助下完成的”事情，并力求将这些信息用于接下来的语言教育和辅导。
- 因此，请勿将此处得出的结果单纯分数化，而需以一种综合的、多维度的视角评估其语言能力所处阶段，并将结果用于帮助儿童迈向更高语言阶段的教育和辅导当中。

基础任务

<u>在测试过程中，无需实施四张图卡的所有内容。</u>请根据具体情况与需求，选择合适的图卡进行测试。同时，如果儿童在未实施基础任务的情况下已明确展现其能力，则无需实施本任务。

实施者的提问	注意事项
❶“教室”卡片	
● “接下来请看卡片，然后跟老师一起说话。如果不明白老师说的内容的话，可以直接说不知道。那我们开始吧。” ①“这里是哪儿？” ②“这个房间里有什么？” ③“这里有老师的桌子吗？” ④“那么，老师的椅子呢？” ⑤“这里有老师吗？” ⑥“那么，小朋友呢？” ⑦“笔在哪里？” ⑧“这里有表吗？” ⑨“现在几点了？”	・请注意不要改变提问的顺序 ・问题④：以省略动词的形式，诱导小朋友说出“有/在” ・问题⑥：以省略动词的形式，诱导小朋友说出“有/在” ・问题⑦：如果小朋友只是用手指卡片并回答“这里”的话，请将卡片翻过来，并重复一遍问题，鼓励小朋友用语言来描述事物的具体位置（如“在桌子上”） ・问题⑦：可以将“笔”替换成“铅笔”进行提问 ・问题⑧：如果小朋友在回答问题②的时候已经说出了钟表的话，可跳过问题⑧，直接说“教室里有表” ・问题⑨：无需向一年级儿童提出此问题
❷“体育运动”卡片	
①“你喜欢体育运动吗？” ②“○○会什么样的体育运动？” ③“（体育运动名称）呢？” ④“你玩过（体育运动名称）吗？” ⑤“（体育运动名称）和（体育运动名称），你喜欢哪个？”	・问题①：对于不熟悉“体育运动”这一词汇的低年级儿童，可以改用“活动”提问。 ・问题③：在小朋友还不太清楚具体体育运动的名称（尤其是低年级儿童）的情况下，实施者可以一边用手指着图片，一边进行提问。 ・问题③：以省略动词的形式诱导小朋友说出“会/不会”
❸“日常活动〈起床〉〈上学〉〈睡觉〉”卡片	
①“你今天早上是几点起床的？” ②“然后你做什么了？” ③“你平时几点睡觉？” ④“你回家以后，一般都做什么呢？请你告诉老师从回家到睡觉之前的所有事情。”	・问题①：提问有关时间的内容 ・问题②：考察儿童是否可以表达过去发生的事件以及行为动作 ・问题③：提问有关习惯性动作的内容 ・考察儿童是否能将动作以时间顺序进行连贯叙述
❹“将来梦想”卡片	
①“你将来／长大以后，想当什么呢？” ②“为什么想当呢？”	• 问题①：如果小朋友回答不出具体的职业名称，可以改问“你想做什么？”。或可以提示具体的职业名称（“学校老师怎么样？”），或用手指卡片，询问“这个呢？”

如果儿童在这一阶段几乎不能完成问答的话，可以在此结束测试。



“我们今天到这里就结束了。谢谢你！”

如果儿童可以回答出大部分问题，则可以直接进入对话任务或认知任务。
是否实施对话任务，需要实施者根据具体情况（时间）或必要性进行判断。

对话任务

<u>在测试过程中，无需实施三张图卡的所有内容。</u>请根据具体情况与需求，选择合适的图卡进行测试。同时，如果儿童在未实施对话任务的情况下已明确展现其能力，则无需实施本任务。

实施者的提问	注意事项
❺“向老师提问”卡片　A,B	
A ①“不好了。○○现在非常想去洗手间（肚子非常痛）。这个时候要对老师说什么？比如我现在是老师。” B ①“○○忘带算数（数学）的课本了。○○想让同桌的同学给自己看课本。这个时候要对同桌说什么？”	・A问题①：可以一边用手指“想去洗手间／肚子非常痛的小朋友”的图画，一边进行提问 ・考察儿童是否可以完成获得许可这一语言行为 ・B问题①：可以一边用手指“课本”的图画一边进行提问 ・考察儿童是否可以完成请求这一语言行为
❻“新老师”卡片	
①“这位是今天新来的老师。首先请介绍一下自己（○○）。然后向老师提两个问题。比如我现在是新来的老师。”	・实施者在这里扮演新老师这一角色 ・如果儿童不明白“自我介绍”的话，可改问“请告诉我○○是什么样的人”。如果还是不明白的话，实施者可以通过“名字？”“几年级？”等给出提示，鼓励儿童用“我是..”句型来回答
❼“约朋友一起玩”卡片	
①“今天放学以后，你想跟○○一起玩儿。请你问○○跟你一起玩儿。比如你们现在在学校换鞋的地方遇到了。”	・请在提问时使用在导入会话中问到的朋友的姓名。同时，实施者在这里扮演朋友的角色 ・在该任务中，需要考察儿童是否拥有主动发起对话、提出邀请、决定时间和地点并结束对话的能力。因此，实施者需注意不要占据对话主导权，不要抢先儿童说出内容，而应等待儿童主动发言

如果儿童在这一阶段几乎不能完成问答的话，可以在此结束测试。



“我们今天到这里就结束了。谢谢你！”

如果儿童可以完成大部分对话任务的内容，则可以直接进入认知任务

认知任务

请根据儿童的年龄（年级）选择适当的图卡进行测试。在针对中学以及高中生实施测试时，如果卡片当中没有适合的任务，可以结合学生在自己国家的学习情况，请学生对自己擅长科目中学习过的知识概念进行叙述说明。

实施者的提问	注意事项
⑧“讲故事”卡片（小学低年级、中年级）	
①“有一个小朋友想拜托你给他讲一个故事。请你给他讲一个故事。”	・请选择小朋友都知道的故事进行讲述。如果图卡中没有小朋友知道的故事的话，讲别的故事也可以
⑨“消防车”卡片（小学低年级、中年级）	
①“你知道这个车的名字吗？” ②“这个车是做什么用的？／这个车是为了什么用的？” ③“两辆车一样的地方是什么？不一样的地方是什么？”	・问题①：实施者可以按照顺序一边用手指两辆车，一边进行提问。如果不知道车的名称的话，可以直接告诉小朋友 ・问题③：询问两辆车的相同点和不同点。也可能会出现儿童注意不到两辆车在功能上的异同点，只回答两辆车在外观（形状）上的异同点的情况
⑩“食物的消化”卡片	
①“这个人吃下的东西会变成什么？” ②“请你解释一下消化的机制”（小学高学年及以上）	・对于小学低中学年的儿童主要考察是否可以描述消化过程，而对于高年级及以上的学生，主要考察是否可以使用学科学习词汇就消化的机制进行说明
⑪“环境问题”卡片（小学中年级及以上）	
①“这是一张关于什么的画？” ②（确认各个图画）“这是什么？” ③“地球正在哭。你觉得地球为什么正在哭呢？” ④“为了地球以后不哭，你觉得应该怎么办？／我们可以做什么？” ⑤“这是一张有关全球变暖的图画。请你解释为什么会发生全球变暖的现象。”（以小学高学年及以上为主）	・问题①：考察学生是否意识到这是一张展现环境问题与全球变暖概念的图画，以及考察学生是否知道相关词汇 ・如果在问题①中回答正确，则可以跳过问题②。如果学生未能回答，实施者需逐张确认图画内容（地球、砍树、汽车排放尾气、工厂排放烟雾） ・如果在问题①中不清楚相关概念，则可以在问题⑤中告诉学生“全球变暖”这一词汇。并且考查学生是否能使用学科学习词汇解释全球变暖的原因以及机制
⑫“地震”卡片（小学中年级及以上）	
①“你遇到过地震吗？请讲述一下那个时候发生的事情。” ②“如果在学校发生地震的话，应该怎么办？” ③“你在学校学过有关地震的内容了吗？请你解释一下为什么会发生地震。”（以小学高年级以上为主）	・问题①：如果学生没有亲身经历过地震，可以询问其父母的地震体验。 ・问题③：考查学生是否能使用学科学习词汇，就地震发生的原因以及机制进行解释说明
⑬“水的循环”卡片（小学高学年及以上）	
①“请解释水的流动。” ②“你认为我们喝的水是从哪里来的？” ③“如果不下雨／没有太阳的话，你觉得地球会变成什么样子？”	

“我们今天到这里就结束了。谢谢你！”

＼ 评价记录表中文 ／

年　　月　　日

姓名　　年级(年龄)　　年级(　　岁)

我们将根据如下的视角来考察儿童运用中文时的听力以及口语能力，并判断其可以达到的水平。
请将这份评价记录表与《文化语言多样化学生的语言发展与习得模型》(KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) 进行参照，以此对儿童语言能力所处阶段进行评估。

听力		
基础听力能力	能够理解他人提出的与自己或身边话题相关的简单提问	□完成得很好　□可以完成　□还差一点
发音・流利程度		
发音・音调	能够用自然的发音和语调说话	□完成得很好　□可以完成　□还差一点
流利程度	与他人互动自然且流畅	□完成得很好　□可以完成　□还差一点
口语表达		
口语表达	能够主动发言并主导对话	□完成得很好　□可以完成　□还差一点
词汇		
日常词汇	能够使用日常相关词汇和表达方式	□完成得很好　□可以完成　□还差一点
词汇质量 （学科学习词汇）	能够使用恰当的词汇和表达方式 （包含学科学习词汇）	□完成得很好　□可以完成　□还差一点
语法使用的正确程度		
语法准确度	能够使用正确的语法表达	□完成得很好　□可以完成　□还差一点
句子・段落的质量		
句子的生成	能够自己造出单句	□完成得很好　□可以完成　□还差一点
段落的质量	不仅能够使用单句，还能够使用复句，并构成段落形式	□完成得很好　□可以完成　□还差一点
叙述内容与结构		
任务完成程度	能够完成要求的对话任务	□完成得很好　□可以完成　□还差一点
叙述顺序	能够按照顺序，连贯通顺地进行表达	□完成得很好　□可以完成　□还差一点
叙述内容与结构	表达内容丰富且结构完整， 包括叙述说明、阐述理由、提出观点等	□完成得很好　□可以完成　□还差一点

フィリピン語
Filipino (Tagalog)



私は将来パン屋をひらきたいです。
私のパン屋では、お客様の様子を通して社会を見ることができます。世界が安全で、永遠に平和に暮らせるようになってほしいです。

1. DLA sa iba`t-ibang wika (Multi-language DLA)

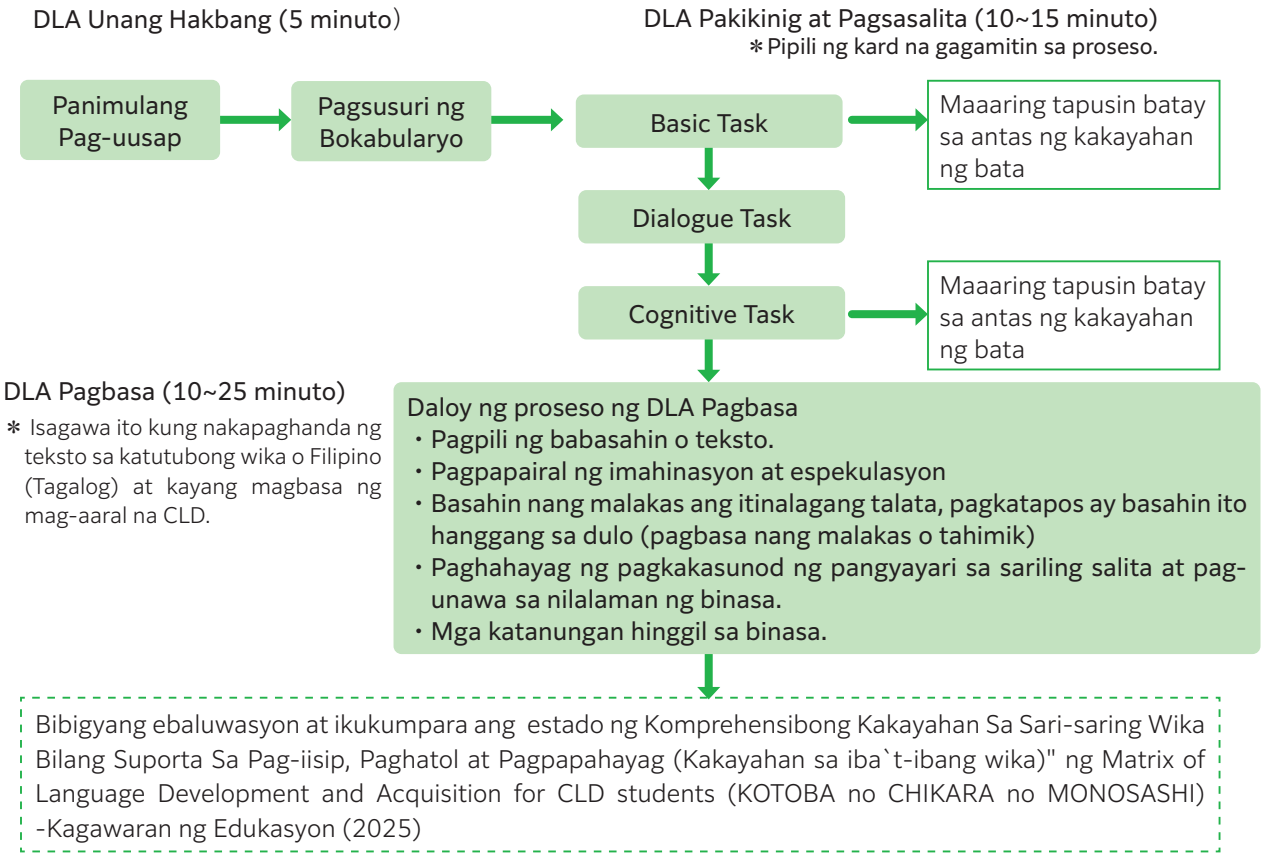
❶ Ang layunin ng DLA

- Ang DLA (Dialogic Language Assessment) ay hindi isang pagsusulit upang bigyan ng puntos at ranggo ang kaalaman sa wikang mayroon ang mga mag-aaral na Culturally and Linguistically Diverse (CLD students).
- Ang tool na ito ay isang paraan upang matukoy kung anong wika ang mayroon ang mga mag-aaral na CLD sa pamamagitan ng dayalogo o pag-uusap. Hindi lamang ang mga bagay na kaya nilang gawin, at pati narin ang mga bagay na magagawa nila sa tulong ng iba.
- Sa pamamagitan ng one-on-one na dayalogo, hinahangad na matukoy nito kung paano nag-aaral ang mag-aaral na CLD, anong uri ng suporta ang makakatulong upang mapadali ang kanilang pag-aaral at kung paano mapapataas ang kanilang interes at motibasyon sa pag-aaral habang sila ay binibigyan ng ibat-ibang uri ng suporta.
- Layunin din nito na magamit ang lahat ng nakalap na impormasyon upang matukoy kung anong gabay at suporta ang kinakailangan sa pag-aaral ng bata.

❷ Ang kahalagahan ng Multi-language DLA

- Upang matukoy nang lubos ang kakayahan ng mag-aaral na CLD, mahalaga din na masukat, hindi lamang ang kakayahan sa wikang Hapon kundi pati na rin ang kakayahan sa katutubong wika o Filipino (Tagalog).
- Nilikha ang DLA base sa Bilingual Education Theory. Kaya naman, maaari itong isagawa sa iba`t-ibang wika pati na rin sa wikang Hapon. Ang buklet na ito ay naglalaman ng DLA Unang Hakbang at DLA Pakikinig at Pagsasalita sa wikang Portuges, Intsik, Filipino, Vietnamese, Espanyol, Ingles, Nepali at Ruso. Kung ang tagapagsagawa ay may kakayahan sa anumang wikang nabanggit, aktibong gamitin ang Multi-language DLA hangga`t kinakailangan.
- Hindi kasama sa buklet na ito ang DLA Pagbasa sa iba`t-ibang wika, dahil ang pagsukat ng kasanayan sa pagbabasa ay nangangailangan ng mga partikular na teksto para sa antas o lebel ng bata sa bawat wika at hindi mga tekstong isinalin mula sa wikang Hapon. Kung nais sukatin ang kasanayan sa pagbabasa ng mga mag-aaral na CLD sa kanilang sariling wika, maaaring ilapat ang pamamaraan ng DLA Pagbasa ngunit kakailanganing maghanda ng angkop na teksto sa antas ng edad at katutubong wika o Filipino (Tagalog) ng mga mag-aaral na CLD. Halimbawa, maaaring gamitin ang mga tekstong pasalaysay (kuwento) o talata ng paglalarawan mula sa mga aklat na nasa katutubong wika ng mga mag-aaral na CLD.
- Para sa kakayahan sa pagsusulat, makabubuting tiyakin ang kakayahan ng bata sa pamamagitan ng pag-oobserba ng kanilang aktibidad sa aralin ng komposisyon ng pangungusap o talata, hanggang sa makaya na nilang sumulat ng sariling tema ng komposisyon, sa halip na isailalim sa pagsusulit ang bata. Para sa mag-aaral na CLD na kayang gumawa o sumulat ng sariling tema ng komposisyon, gamitin ang gabay ng komposisyon sa pahina 186-199 ng Matrix of Language Development and Acquisition for CLD students (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) -Kagawaran ng Edukasyon (2025) bilang reperensiya.

❸ Ang Flow Chart Guide ng Multi-language DLA



2. DLA Unang Hakbang

① Layunin

- Ang layunin ng pagsasagawa ng DLA Unang Hakbang sa wikang Filipino (Tagalog) ay ang masukat ang kakayahan ng bata sa pakikipag-usap sa pamamagitan ng Panimulang Pag-uusap at 55 na katanungan sa Pagsusuri ng Bokabularyo, mula sa pangunahing bokabularyo sa wikang Filipino (Tagalog) .
- Layunin rin nito ang matiyak ang kalagayan ng pamumuhay at wika o lengguwahe ng bata.
- Dagdag pa rito, layunin rin nito ang makabuo ng pagtitiwala sa pagitan ng bata at taong tagapagsagawa ng DLA at makalikha ng situwasyon na kung saan ang bata ay magkakaroon rin ng positibong pananaw sa pagsasagawa nito.

② Para kanino ito?

- Ito ay para sa mga batang lumaki sa isang multilinggwal na kapaligiran na may kakayahang sumagot ng basic o mahusay sa wikang Filipino (Tagalog).
- Isinasagawa rin ito kung kinakailangang matiyak kung ano ang dominanteng wika na mayroon ang mag-aaral.

③ Komposisyon

- Ito ay binubuo ng mga pagbati at katanungan patungkol sa bata sa Panimulang Pag-uusap at Pagsusuri ng Bokabularyo na mayroong 55 na katanungan, na binubuo ng Pangngalan, Pandiwa at Pang-uri.
- Ang Pangngalan (Noun) sa Pagsusuri ng Bokabularyo ay binubuo ng mga katanungan hinggil sa bahagi ng katawan o pagkain, hayop at halaman, bagay na matatagpuan sa paaralan, bokabularyong naririnig at ginagamit sa pang-araw-araw na pamumuhay. “Mata at pilikmata, bibig at labi” na kumbinasyon ng mataas at mababang antas ng bokabularyo, ipinapakita rin ang “baka, sungay, puno, dahon” na bokabularyong kumakatawan sa isang kabuuan at isang bahagi. Ginagamit rin ang Pandiwa at Pang-uri na karaniwang maririnig sa pang-araw-araw na buhay-eskuwela at pamumuhay.

④ Paraan ng pagsasagawa

Paunang paghahanda

- Gupitin ang mga larawan ng DLA Unang Hakbang mula sa Appendix 1 (pahina 236-242) at gawing kard, gamit ang ring binder ipunin ito sa magkakasunod na numero, o ilagay sa tablet ang data at ipakita ito nang paisa-isa sa oras ng pagsasagawa nito.
- Mag-ensayo ng tamang bilis at tiyempo ng pagpapakita ng Vocabulary Cards. Panoorin ang DLA model demo, tiyakin mula rito ang tiyempo at kilos ng tagapagsagawa ng DLA.
- Ihanda ang Gabay sa Pagsasagawa, DLA Unang Hakbang- Pagtiyak sa Bokabularyo Vocabulary Cards na inihanda at ipapakita nang isa-isa (pahina 117-118), mga kagamitang pang-rekord o pang-bidyo at papel na susulatan para sa sariling talaan.

Ang posisyon ng pag-upo

- Umupo sa gilid ng mesa nang hindi direktang nakaharap sa bata upang mabigyan ng sapat na espasyo ang bata at ang mga kard, ito ay makakabawas sa tensiyon na maaaring mabuo sa loob ng silid.

Ang pagsasagawa ng Dayalogo o Pag-uusap

- Tiyakin ang gamit na pang-rekord ng boses o bidyo, umpisahan ang pag-rekord at isunod na umpisahan ang dayalogo.
- Sundin ang Gabay sa Pagsasagawa DLA Unang Hakbang (pahina 117-118), magkasunod na isagawa ang Panimulang Pag-uusap at Pagsusuri ng Bokabularyo.
- Kung kulang ang kakayahan sa wika ng bata upang maisagawa ang DLA Unang Hakbang, at mapagdesisyunan ng tagapagsagawa na mahirap na itong ipagpatuloy pa, kaagad itigil ang proseso kahit pa sa kalagitnaan ng Panimulang Pag-uusap o Pagsusuri ng Bokabularyo.

❺ Mga dapat tandaan sa pagsasagawa ng DLA

Bigyang-halaga ang daloy ng proseso

- Humigit-kumulang 5 minuto ang oras na magagamit sa DLA Unang Hakbang. Bagamat kinakailangan na iakma ng tagapagsagawa ang kanyang pagsasalita ayon sa lebel ng bata, hangga't maaari ay isulong ang dayalogo sa natural na bilis ng tiyempo.
- Sa durasyon ng proseso, iwasang pigilan, itanggi o itama ang naging sagot ng bata.
- Kung ang bata ay pamilyar o palagian nang nakakasalamuha, maaari nang hindi gawin ang Paunang Pagbati at Pagpapakilala ng sarili.
- Sa durasyon ng proseso, kung hindi naunawaan ng bata ang katanungan ay ulitin ito sa mabagal na pagsasalita. Kung hindi pa rin nauunawaan, palitan ng mga salitang mas maigsi at madaling maintindihan. Subalit, iwasan ang magpaliwanag hinggil sa katanungan. Huwag ihinto ang daloy ng proseso at ipagpatuloy sa susunod na hakbang.
- Sa Pagsusuri ng Bokabularyo kung nahihirapan o nagkamali ang bata sa pagsagot, huwag itama o ituro ang sagot at ipagpatuloy sa kasunod na kard. Kung nais ng bata na malaman ang tamang sagot, maari itong ituro.
- Kung nag-iisip o hindi kaagad nakakasagot ang bata, huwag itong madaliin at maghintay lamang.

Paglikha ng kaaya-ayang kapaligiran

- Kahit na ang batang bihasa na sa pagsasalita ay maaaring makaramdam ng kaba o magpakita ng pagtanggi sa “one-on-one” na pakikipag-usap sa isang nakatatanda. Sikaping makabuo ng isang magaan na kapaligiran. Iwasang isipin na ito ay test, bagkus ay ituring itong isang pagkakataon na masiyahan sa pakikipag-usap ang bata.
- Magbigay ng reaksyon sa mga sagot ng bata sa pamamagitan ng pagtango o pagsang-ayon.
- Ang DLA Unang Hakbang ay nagsisilbing napakahalagang "warm up" na aktibidad ng tagapagsagawa ng DLA. Sikaping mahikayat ang bata na magsalita at mahalagang isaisip ng tagapagsagawa ng DLA ang kanyang papel bilang isang facilitator at hindi bilang guro.

Huwag mag-tsek o magbigay ng ebaluwasyon habang isinasagawa ang dayalogo

- Huwag mag-tsek o magbigay ng ebaluwasyon sa harapan ng bata. Magbigay ng ebaluwasyon o mag-tsek lamang pagkatapos ng proseso. Dagdag pa rito, magkakasunod na isasagawa ang DLA Unang Hakbang, DLA Pakikinig at Pagsasalita at DLA Pagbabasa.
- Para sa wastong pagbibigay ng ebaluwasyon, mag-rekord o mag-bidyo bilang talaan.

Tapusin nang binibigyang papuri ang bata

・Kahit na ano pa ang antas ng kakayahan ng bata, bigyan ng positibong puna o feedback ang bata sa ginawang “pagsasalita” sa wikang Filipino (Tagalog).

❻ Pahiwatig (hint) sa kasunod na hakbang

・Kung ang Panimulang Pag-uusap at Pagsusuri ng Bokabularyo ay napagdesisyunang mahigit 70%~80% ang resulta, maaaring ipagpatuloy ang proseso. Kung ang resulta naman ay mas mababa sa 20%~30%, maaaring ihinto at tapusin ang proseso. Kung nasa pagitan ito at nahihirapan sa pagdedesisyon subukang ipagpatuloy pa bago magpasya.
・Katulad ng binanggit sa (4) ng kabanatang ito, depende sa antas ng kakayahan ng bata sa wikang Filipino (Tagalog) ay maaaring itigil sa kalagitnaan ang proseso.

❼ Kailan dapat at paano gagawin ang ebaluwasyon

・Ang pagbibigay ng ebaluwasyon ng DLA Unang Hakbang, kasunod ang DLA Pakikinig at Pagsasalita ay isasagawa pagkatapos ng proseso.
・Balikan ang nai-rekord na boses o bidyo at gamitin ang DLA Unang Hakbang Evaluation Memo (pahina 119) upang itala ang bilang ng nakuhang wastong sagot.
・Sa ebaluwasyon ng Pagsusuri ng Bokabularyo ay gamitin bilang reperensiya ang listahan (pahina 121) ng mga tamang sagot.
・Mula sa komprehensibo at sari-saring pananaw, susuriin ang komprehensibong kakayahan sa Pag-iisip, Paghatol at Pagpapahayag (Kakayahan sa iba‘t-ibang wika) batay sa Matrix of Language Development and Acquisition for CLD Students (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI).

Panimulang Pag-uusap

❶ Pagbati sa unang pagkikita



Magandang araw. Ako si (Ipakilala ang sarili).

❷ Paliwanag: Upang madagdagan ang interes ng bata ay masayang ipaliwanag ang gagawin.



Ngayon, nais kong malaman kung gaano ka kahusay sa Filipino (Tagalog).
Sagutin mo ang lahat ng kaya mong sagutin. Sabihin lang na "Hindi ko alam." kung hindi mo alam ang isasagot. OK ba sa iyo?

❸ Katanungan:

・Isulong ang mga katanungan ayon sa pagkakasunod-sunod sa ibaba.



① Sabihin mo ang pangalan mo. o Ano ang pangalan mo?
② Anong grade o baitang ka na?
③ Ilang taon ka na?
④ Kailan ang kaarawan mo?
⑤ Mayroon ka bang kuya o ate (kapatid na batang lalaki o babae)?

・Sa tanong hinggil sa kapatid, kailangan maging flexible batay sa situwasyon ng bawat bata at komposisyon ng miyembro ng pamilya.



⑥ Mayroon ka bang kaibigan?
⑦ Ano ang pangalan ng kaibigan mo?
⑧ Ano ang mga nilalaro ninyong magkakaibigan?

・Dahil kakailanganin ang pangalan ng kaibigan sa Dialogue Task, itanong at isulat ito.



⑨ Masaya ba sa eskuwelahan? o Gusto mo dito sa paaralan?
⑩ Bakit?

・Kung nag-aral sa Pilipinas o sa International School sa Japan, maaaring itanong ang mga nangyari doon at ikumpara sa kasalukuyang paaralan sa Japan.



⑪ Ano ang gusto mo sa paaralan dito sa Japan?
⑫ Ano ang ayaw mo sa paaralan dito sa Japan?

・Maaaring magdagdag ng katanungan batay sa sagot ng bata sa Tanong ⑪ at ⑫.



⑬ Nagsasalita ba kayo ng Filipino (Tagalog) sa bahay?
⑭ Ano ang wikang ginagamit ng nanay (tatay) mo sa pakikipag-usap sa iyo?
Ano ang wikang ginagamit mo sa pakikipag-usap sa nanay (tatay) mo?

・Maraming kaso na kahit nakakapagsalita ng Filipino (Tagalog) ang mga magulang o guardian, ang bata ay nakikinig lamang. Magtanong nang maayos at detalyado hinggil sa wikang ginagamit sa loob ng tahanan. Gayundin naman, magtanong hinggil sa komposisyon ng miyembro ng pamilya.



⑮ Nakakabasa ka ng Filipino (Tagalog)?
Nakakasulat ka ng Filipino (Tagalog)?

・Dito ay titiyakin kung nakakabasa o nakakasulat sa wikang Filipino (Tagalog). Dagdag pa rito, tiyakin rin kung ano ang antas o lebel ng kanyang kakayahang magsulat o magbasa.

Pagsusuri ng Bokabularyo

❶ Ang Pangngalan sa Vocabulary Card (Kard 1~42)



Ano ito? Tama, ito ay “mata”. Kapag sinabi kong “1” ang isasagot mo ay “Mata.” Kung "2" naman ang sinabi ko, ito naman ang sasabihin mo (ituro ang nasa larawan habang sinasabi ito). Kung hindi mo alam ang sagot ay sabihin mo lamang na “Hindi ko alam.” OK ba? O sige, simulan na natin. “1”.

❷ Sa Pandiwa naman (Kard 43~50)

・Kung dumating na sa kard 43 (lumalangoy) ay ganito naman ang gawing pagtatanong.



Ano ang gagawin ng nasa larawan?/ o Ano ang ginagawa ng nasa larawan?

❸ Ang Pang-uri (Kard 51~55)

・Kung dumating na sa kard 51 (maigsi) ay ganito naman ang gawing pagtatanong.



Anong klaseng palda ito?

・Kung hindi nauunawaan ang ibig sabihin ng katanungan, ganito ang gawing pagtatanong.



Kung ito ay mahaba. Ano naman ito? (Ituro ng daliri ang maigsing palda)

Magpatuloy sa kasunod na hakbang...

- Sa Panimulang Pag-uusap at Pagsusuri ng Bokabularyo, kung 20~30% lamang ang naabot na resulta ay ihinto na sa bahaging ito ang proseso.



Dito na nagtatapos. Maraming Salamat.

- Kung mahigit kalahati ang porsyentong nakuha sa Panimulang Pag-uusap at Pagtiyak ng Bokabularyo ay magpatuloy sa DLA Pakikinig at Pagsasalita.

＼ Evaluation Memo ／

Panimulang Pag-uusap

Taon　　Buwan　　Petsa

Pangalan　　Edad　　Baitang

Ang sasabihin ng tagapagsagawa	Nagawang magbigay ng sagot na naiintindihan	Komento
① "Sabihin mo ang iyong pangalan." o "Ano ang iyong pangalan?"	☐	
② "Anong grade o baitang ka na?"	☐	
③ "Ilang taon ka na?"	☐	
④ "Kailan ang kaarawan mo?"	☐	
⑤ "Mayroon ka bang kuya o ate (kapatid na batang lalaki o babae)?"	☐	
⑥ "Mayroon ka bang kaibigan?"	☐	
⑦ "Ano ang pangalan ng mga kaibigan mo?"	☐	
⑧ "Ano ang mga nilalaro ninyong magkakaibigan?"	☐	
⑨ "Masaya ba sa paaralan?" o "Gusto mo ba sa paaralan?"	☐	
⑩ "Bakit masaya o gusto mo sa paaralan?"	☐	
⑪ "Ano ang gusto mo sa paaralan ng Japan?"	☐	
⑫ "Ano ang ayaw mo sa paaralan ng Japan?"	☐	
⑬ "Ano ang wika o lengguwahe na ginagamit ninyo sa bahay?"	☐	
⑭ "Ano ang wikang ginagamit mo sa pakikipag-usap sa nanay (tatay) mo?" Ano ang wikang ginagamit ng nanay (tatay) mo sa pakikipag-usap sa iyo?"	☐	
⑮ "Nakakabasa ka ng Filipino (Tagalog)? " o "Nakakapagsulat ka ng Filipino (Tagalog)?"	☐	
Bilang ng sagot na naunawaan／Bilang ng tanong Nakamit na porsiyento	⇒	／15 %

Pagsusuri ng Bokabularyo

Taon Buwan Petsa

Pangalan Edad Baitang

Numero ng kard	Bokabularyo	Tama	Mali	Komento	Numero ng kard	Bokabularyo	Tama	Mali	Komento
1	mata	☐	☐		30	mesa/desk	☐	☐	
2	pilikmata	☐	☐		31	lalagyan/drawer	☐	☐	
3	bibig	☐	☐		32	pisara/blackboard	☐	☐	
4	labi	☐	☐		33	pambura	☐	☐	
5	kamay	☐	☐		34	mapa	☐	☐	
6	hinlalaki (daliri)	☐	☐		35	gunting	☐	☐	
7	kuko	☐	☐		36	kuwaderno/notebook	☐	☐	
8	ilong	☐	☐		37	drayber/tsuper	☐	☐	
9	ubas	☐	☐		38	doktor	☐	☐	
10	itlog	☐	☐		39	bumbero	☐	☐	
11	hipon	☐	☐		40	bus	☐	☐	
12	gatas	☐	☐		41	eroplano	☐	☐	
13	baka	☐	☐		42	pakpak (ng eroplano)	☐	☐	
14	sungay (ng baka)	☐	☐		43	lumalangoy	☐	☐	
15	buntot (ng aso)	☐	☐		44	nagsusulat	☐	☐	
16	manok	☐	☐		45	nagsisipilyo ng ngipin	☐	☐	
17	kabayo	☐	☐		46	nagsusuot ng damit	☐	☐	
18	elepante	☐	☐		47	gumising	☐	☐	
19	daga	☐	☐		48	umupo	☐	☐	
20	balbas (ng pusa)	☐	☐		49	naglilinis	☐	☐	
21	puno	☐	☐		50	nagagalit/galit	☐	☐	
22	dahon	☐	☐		51	maigsi	☐	☐	
23	sanga	☐	☐		52	payat	☐	☐	
24	bentilador	☐	☐		53	magaan	☐	☐	
25	telepono	☐	☐		54	malamig/giniginaw	☐	☐	
26	pinto	☐	☐		55	matangkad/mataas	☐	☐	
27	bubong	☐	☐		Kabuuan	Bilang ng tamang sagot (porsiyento)	(	／55 %)	
28	hagdan	☐	☐						
29	bintana	☐	☐						

Talaan ng tamang sagot

No.	Kategorya	Tamang sagot	Posibleng kasagutan	Halimbawa ng maling sagot
1	Ⅰ Bahagi ng katawan	mata		
2		pilikmata		kilay
3		bibig		
4		labi		
5		kamay	palad	
6		hinlalaki	daliri	
7		kuko		
8		ilong		
9	Ⅱ Pagkain	ubas		
10		itlog	itlog ng manok	
11		hipon	alimasag, crayfish, lobster	
12		gatas	gatas	
13	Ⅲ Hayop at halaman	baka		
14		sungay (ng baka)		baka
15		buntot (ng aso)		aso
16		manok		
17		kabayo		
18		elepante	elepante	
19		daga	hamster	
20		balbas (ng pusa)		buhok ng pusa
21		puno		
22		dahon		
23		sanga	sanga ng puno o kahoy	istik ng puno o kahoy
24	Ⅳ De-makinang gamit	bentilador	electric fan	
25		telepono	selpon o smartphone	
26	Ⅴ Bahagi ng bahay	pinto	Pinto, pintuan	bakod
27		bubong	bubong	bahay
28		hagdan		koridor
29		bintana		
30	Ⅵ Bagay sa loob ng paaralan	mesa/desk	mesa, desk	
31		lalagyan/ drawer		loob ng drawer
32		pisara/blackboard		silid-aralan
33		pambura		pambura ng lapis
34		mapa	mundo, globo	
35		gunting		
36		kuwaderno/ notebook	textbook, aklat o libro	
37	Ⅶ Trabaho	drayber/tsuper	taong nagmamaneho	
38		doktor	doktor	
39		bumbero	bumbero	fire department
40	Ⅷ Sasakyan	bus		kotse
41		eroplano	eroplano	
42		pakpak	pakpak ng eroplano	
43	Ⅸ Pagkilos sa buhay-eskuwela	lumalangoy	swimming	
44		nagsusulat ng letra	nag-aaral, gumagawa ng homework	lapis, drawing
45	Ⅹ Pagkilos sa araw-araw na pamumuhay	nagsisipilyo ng ngipin	nagtu-toothbrush	toothbrush
46		nagsuot ng damit	nagbibihis ng damit	
47		gumising	gigising na	hindi makatulog
48		umupo	uupo	
49	Ⅺ Pagkilos sa trabaho	naglilinis	maglilinis	
50	Ⅻ Nararamdaman	nagagalit	galit	nakakatakot
51	XIII Pang-uri	maigsi		palda, hindi mataas
52		payat		stik, hindi mataba
53		magaan		bag
54		malamig		
55		matangkad	mataas	matanda

3. DLA Pakikinig at Pagsasalita

❶ Layunin

- Ang layunin ng DLA Pakikinig at Pagsasalita sa wikang Filipino (Tagalog) ay ang matiyak ang kakayahan ng bata sa katutubong wika o Filipino (Tagalog) na siyang magsisilbing pundasyon ng kakayahan ng wika sa pag-aaral ng asignatura , pagbabasa at pagsusulat.
- Sa DLA Pakikinig at Pagsasalita ay masusukat ang kakayahan sa pakikipag-usap mula sa 3 aspeto na Basic Conversation, Dayalogo, at Pang-unawa upang makakuha ng komprehensibong impormasyon mula sa iba't-ibang anggulo.

❷ Para kanino ito?

- Ang DLA Pakikinig at Pagsasalita ay para sa mga batang may kakayahang sumagot ng basic o mahusay sa Filipino (Tagalog) at lumaki sa multilinggwal na kapaligiran.
- Mga batang lubhang kinakailangan na masukat ang kakayahan sa Filipino (Tagalog).
- Subalit, hindi ito maaaring isagawa kung hindi halos nakasagot ang bata sa DLA Unang Hakbang sa Filipino (Tagalog).

❸ Komposisyon

- Ito ay magsisimula sa 3 task na Basic Task (Kisou), Dialogue Task (Kaiwa) at Cognitive Task (Ninchi).
- Sa Basic Task ay masusukat ang kakayahan sa basic conversation sa pagbuo at pagsagot sa mga pangungusap gamit ang bokabularyo, pagpapahayag at komposisyon ng pangungusap.
- Sa Dialogue Task naman ay masusukat ang kakayahan sa pakikipag-usap nang one-on-one batay sa situwasyon at eksena.
- Sa Cognitive Task naman masusukat ang kakayahang magpahayag ng sariling ideya o opinyon at magbigay ng paliwanag ng paksang may kaugnayan sa asignatura o aralin.
- Sa DLA Pakikinig at Pagsasalita ay gagamit ng 3 uri ng kard. Sa appendix 2, ang Basic Card na kulay pink ay para sa Basic Task, ang kulay dilaw ay Dialogue Card para sa Dialogue Task, ang kulay asul naman ay Cognitive Card ng Cognitive Task.
- Ang Basic Card ay 4 na piraso, ang Dialogue Card ay 3 piraso, ang Cognitive Card naman ay 6 na piraso. Subalit depende sa edad, antas o lebel ng kaalaman sa Filipino (Tagalog), situwasyon sa pagsasagawa ng DLA (naubusan ng oras, atbp.) ay maaaring pumili ng ilan lamang upang maisagawa ang proseso.
- Hindi kinakailangang gawin ang lahat ng kard, tiyakin sa Listahan Ng Uri Ng Picture Card At Para Sa Angkop Na Edad (pahina 123) at pumili ng kard na gagamitin.

❹ Paraan ng Pagsasagawa

Paunang Paghahanda

- Gupitin ang larawan ng DLA Pakikinig at Pagsasalita sa appendix 2 na Basic Card, Dialogue Card at Cognitive Card (pahina 243-249) at gawin itong kard, maaari rin ilagay ang data sa tablet at ipapakita ito nang paisa-isa.
- Mag-ensayo ng tamang tiyempo . Panoorin ang _DLA video ng pagpapaliwanag at tiyakin mula rito ang tiyempo at gawi ng tagapagsagawa ng DLA.
- Ihanda ang Gabay sa Pagsasagawa ng DLA Pakikinig at Pagsasalita (pahina 127-129), ang picture cards ng DLA Pakikinig at Pagsasalita, gamit na pang-rekord ng boses o bidyo at papel para sa sariling pagtatala.

Ang paggamit ng kard at Posisyon ng pag-upo

- Tipunin ang kard at pagsunod-sunurin, itaob ang mga ito. Tiyakin na nasa ibabaw ang kard na kailangan at magkakasunod ang mga napiling kard na gagamitin kapag itinahaya at ipinakita ito sa bata.
- Huwag maupo sa mismong harapan ng bata, umupo sa gilid ng mesa nang hindi direktang nakaharap sa bata at tiyakin na parehong makikita ng bata at ng tagapagsagawa ang mga kard.

Ang pagsasagawa ng Dayalogo o Pag-uusap

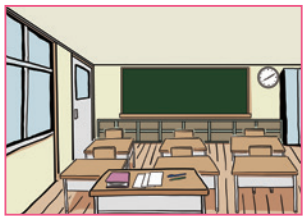
- Tiyakin ang gamit na pang-rekord ng boses o bidyo, umpisahan ang pag-rekord at isunod na umpisahan ang DLA Pakikinig at Pagsasalita. Panatilihing naka-rekord kung itinuloy mula sa inumpisahang DLA Unang Hakbang.
- Sundin ang Gabay sa Pagsasagawa ng DLA Pakikinig at Pagsasalita (pahina 127-129) at isagawa nang magkakasunod ang Basic Task, Dialogue Task at Cognitive Task.
- Depende sa antas ng kakayahan sa wikang Filipino (Tagalog) ay may pagkakataong tinatapos ang proseso sa Basic Task o Dialogue Task. Maaari rin namang hindi na gawin ang Basic Task o Dialogue Task, tapusin na lamang ang lahat ng kard ng Cognitive Task.

Listahan Ng Uri Ng Picture Card At Para Sa Angkop Na Edad

	Pangalan ng picture card	Mababang antas (elementarya)	Gitnang antas (elementarya)	Mataas na antas (elementarya)
Basic Task	❶ Silid-aralan	○	○	○
	❷ Isports	○	○	○
	❸ Araw-araw Na Gawain	○	○	○
	❹ Pangarap Sa Hinaharap	○	○	○
Dialogue Task	❺ Tanong Para Sa Guro	○	○	○
	❻ Bagong Guro	○	○	○
	❼ Imbitasyon Sa Kaibigan	○	○	○
Cognitive Task	❽ Pag-uusap	○	○	
	❾ Trak Ng Bumbero	○	○	
	❿ Pagtunaw Ng Kinain	○	○	○
	⓫ Suliranin Ng Kapaligiran		○	○
	⓬ Lindol		○	○
	⓭ Siklo Ng Tubig			○

Layunin ng picture card

◇Ang Basic Task ay pagsagot sa mga tanong tungkol sa sarili at pang-araw-araw na buhay at paggamit ng salitang madalas na ginagamit.
Tinitiyak sa task na ito kung may kakayahang bumuo ng pangungusap gamit ang bokabularyo at ekspresyon.
Pumili ng kard na angkop sa oras ng pagsasagawa at antas ng kakayahan ng bata.



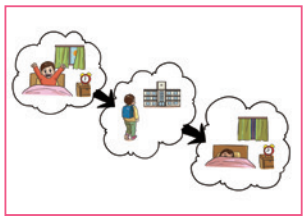
❶ Silid-aralan Kard

Titiyakin rito kung magagamit sa pagsagot ang Pandiwa ng presensiya (mayroon o nariyan) o ekspresyon na nagpapahiwatig ng lugar o puwesto (sa itaas ng ~) sa pagtukoy ng mga bagay na nasa kard.
Sa mga batang mas mataas sa ikalawang baitang ng elementarya, ituro ang orasan at tanungin ng kasalukuyang oras.



❷ Isport Kard

Titiyakin rito kung masasagot ang mga katanungan ng "Nakaranas na bang gawin" o "Hindi pa nakaranas na gawin" (nagkaroon ng karanasan)、"Kayang gawin" o "Hindi kayang gawin" (ekspresyon ng posibilidad)、"Gusto" o "Ayaw" o "Ano ang gusto sa dalawang bagay" (pagkukumpara).



❸ Araw-araw Na Gawain (Paggising, Pagpasok sa paaralan, Pagtulog) Kard

Ang matukoy ang kakayahan sa pagpapahayag ng pagkakasunod-sunod na pagkilos gamit ang present tense at past tense ng Pandiwa (nakagawian).



❹ Pangarap Sa Hinaharap Kard

Ang magamit ang "Gusto kong maging..." (aspirasyon), matiyak ang kakayahan magsalita patungkol sa sariling pangarap sa hinaharap. Gayundin naman, magtanong kung ano ang dahilan ng pangarap.

◇Sa Dialogue Task naman, magsasalita batay sa situwasyon at eksena sa larawan at titiyakin ang kakayahan na mamuno sa pag-uusap.
Maaaring gumanap bilang guro o kaibigan ang tagapagsagawa at gawing role play ang proseso. Pumili ng kard na gagamitin depende sa oras at antas ng kakayahan ng bata.



❺ Tanong Para Sa Guro Kard

A : Titiyakin dito kung kaya niyang humingi ng permiso sa guro habang nagleleksiyon upang magtungo sa palikuran.
B : Titiyakin dito kung kaya niyang makiusap sa guro o kaibigan na siya ay pahiramin ng aklat/ libro dahil nakalimutan niya ito.



❻ Bagong Guro Kard

Titiyakin kung kaya niyang ipakilala ang sarili at magtanong sa guro.



❼ Imbitasyon Sa Kaibigan Kard

Titiyakin dito kung kaya niyang imbitahan ang kaibigan.
Kung may kakayahang mamuno sa pangungusap (magbigay suhestiyon ng lugar o oras. Gaganap na kaibigan ang tagapagsagawa)

◇Sa Cognitive Task naman ay matitiyak kung may kakayahan siyang magbuod ng paksang may kaugnayan sa aralin.Pipili ng kard depende sa edad (baitang) ng bata.
Kung isasagawa ito sa Filipino (Tagalog) sa mag-aaral ng junior high school o senior high school at kung walang angkop na task mula sa mga kard na ito, maaari rin magtanong tungkol sa asignatura kung saan mahusay ang bata batay na rin sa kanyang napag-aralan sa sariling bansa.



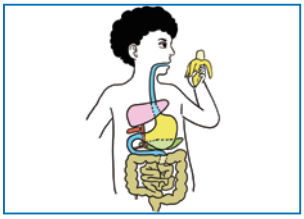
❽ Pagsasalita Kard

Pipili ng isa sa mga kuwentong nasa larawan, titiyakin kung kaya niya itong ikuwento ayon sa pagkakasunod-sunod na pangyayari. Maaari rin gamitin ang ibang kuwento bukod pa sa nasa larawan.



❾ Trak Ng Bumbero Kard

Titiyakin kung masasabi niya ang trabaho ng 2 sasakyan. Kung kaya niyang sagutin ang pagkakapareho o pagkakaiba sa hitsura lamang, pagkakapareho o pagkakaiba sa trabahong magagawa nito.



❿ Pagtunaw Ng Kinain Kard

Titiyakin kung kaya niyang ipaliwanag ang "Sistema ng pagtunaw ng kinain" (Digestion of food). Para sa mataas na baitang, gumamit ng bokabularyo mula sa mga asignaturang napag-aralan na angkop sa edad ng bata.



⓫ Suliranin Sa Kapaligiran Kard

Titiyakin rito ang kakayahan na magpaliwanag tungkol sa mga isyung kinakaharap ng kapaligiran. Gayundin naman, kung makakaya niyang sabihin ang sariling opinyon ng prebensiyon upang maiwasan ang mga suliranin na ito. Sa mag-aaral ng mataas na baitang, tiyakin ang kakayahan sa paggamit ng bokabularyo ng asignaturang napag-aralan na angkop sa edad patungkol sa dahilan at mekanismo ng Global Warming.



⓬ Lindol Kard

Titiyakin kung may kakayahan magpahayag ng sariling karanasan ng lindol. Gayundin naman, kung masasabi ang nararapat na gawin sa oras na dumating ang lindol. Sa mag-aaral ng mataas na baitang, tiyakin ang kakayahan sa paggamit ng bokabularyo ng asignaturang napag-aralan na angkop sa edad patungkol sa dahilan at mekanismo ng lindol.



⓭ Siklo Ng Tubig Kard

Titiyakin ang kakayahan sa paggamit ng bokabularyo ng asignaturang napag-aralan patungkol sa mekanismo ng Siklo Ng Tubig. Gayundin naman, mula sa katanungan ng kahalagahan ng “araw” maipapahayag ba ang posibilidad base sa totoong kaganapan.

❺ Mga dapat tandaan sa pagsasagawa ng DLA

Bigyang halaga ang daloy ng proseso

- Humigit-kumulang 15 minuto ang oras na magagamit sa DLA Pakikinig at Pagsasalita. Huwag masyadong patagalin kundi isulong ang proseso sa natural na bilis at tiyempo.
- Sa durasyon ng proseso, iwasan ang pigilan, itanggi o itama ang naging sagot ng bata
- Sa durasyon ng proseso, kung hindi naunawaan ng bata ang katanungan ay ulitin ito sa mabagal na pagsasalita. Kung hindi pa rin nauunawaan, palitan ng mga salitang mas maigsi at madaling maintindihan. Subalit, iwasan ang magpaliwanag hinggil sa katanungan. Huwag ihinto ang daloy ng proseso at sumulong sa susunod na hakbang.
- Kung nag-iisip at hindi agad makasagot ang bata, huwag magmadali at hintayin lamang ang bata.

Paglikha ng kaaya-ayang kapaligiran

- Subukang lumikha ng masayang kapaligiran, huwag isiping ito ay test kundi masayang isagawa ang pakikipag-usap sa bata.
- Magbigay ng reaksiyon sa pamamagitan ng pagsagot at pagtango sa bawat pagsagot ng bata.

Huwag mag-tsek habang isinasagawa ang dayalogo

- Huwag mag-tsek o magbigay ng ebaluwasyon sa harapan ng bata. Isasagawa ito pagkatapos ng proseso.
- Para sa wastong pagbibigay ng ebaluwasyon, para sa pagtatala ay i-rekord ang boses o i-bidyo ang proseso.

Tapusin nang binibigyang papuri ang bata

- Kahit na ano pang antas ng kakayahan ng bata, bigyan ng positibong puna o feedback ang ginawang “pagsasalita” ng bata sa wikang Filipino (Tagalog).

❻ Paraan ng ebaluwasyon

- Pagkatapos ng DLA Pakikinig at Pagsasalita, tiyakin ang nilalaman ng nai-rekord na proseso.
- Gamitin ang Evaluation Memo (pahina 130) ng DLA Pakikinig at Pagsasalita, tiyakin kung ano ang antas na ibibigay batay sa punto ng pananaw na nakasaad sa listahan.
- Isaalang-alang rin ang naging resulta ng Panimulang Pag-uusap at Pagsusuri ng Bokabularyo ng DLA Unang Hakbang.
- Ang nilalaman ng Evaluation Memo ay ikukumpara sa estado ng komprehensibong kakayahan sa Pag-iisip, Paghatol at Pagpapahayag (Kakayahan sa iba`t-ibang wika) mula sa Matrix of Language Development and Acquisition for CLD students (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI). Ang komprehensibong kaalaman sa Pag-iisip, Paghatol at Pagpapahayag ay komprehensibong pananaw kung ano ang kayang gawin sa wikang Filipino (Tagalog) at kayang gawin sa wikang Hapon.
- Ang DLA ay hindi isang pagsusulit kung paano matitiyak ang kakayahan sa wika ng isang bata at bigyan ng antas mula sa nakuhang resulta. Ito ay isang paraan ng pagtiyak o assessment upang maobserbahan sa pamamagitan ng dayalogo ang kakayahan ng bata sa wika, ang matukoy ang suportang maibibigay sa kanila at magamit ang nakalap na impormasyon para sa edukasyon ng wika at suporta.
- Samakatuwid, iwasan ang ituon ang pansin sa iskor na makukuha rito kundi tingnan ito sa estado ng komprehensibong pananaw at iugnay sa suporta ng edukasyon na nakatuon sa pagsulong sa susunod na antas.

Basic Task

Hindi kinakailangang gamitin ang 4 na kard. Pumili batay sa pangangailangan o situwasyon. Gayundin naman, kung natitiyak ang kakayahan ng bata ay hindi na ito kailangang isagawa.

Sasabihin ng tagapagsagawa	Mga dapat pag-ingatan
❶ Silid-aralan Kard	
● "Tingnan mo ang kard at tayo ay mag-usap. Kung hindi mo nauunawaan ang aking sinabi ay sabihin mo lamang na hindi mo nauunawaan o hindi mo alam. Magsimula na tayo." ① "Saan ang lugar na ito?" ② "Ano ang mayroon sa silid na ito?" ③ "May mesa o desk ba ng guro?" ④ "Ang upuan naman ng guro, mayroon ba?" ⑤ "Nariyan ba ang guro?" ⑥ "Nariyan ba ang mga mag-aaral?" ⑦ "Nasaan ang pen?" ⑧ "Mayroon bang orasan?" ⑨ "Sa palagay mo, anong oras na ngayon?"	・Huwag baguhin ang pagkakasunod-sunod ng mga katanungan. ・Sa Tanong④, magtanong at magbigay udyok upang sumagot ng "mayroon, nariyan." ・Sa Tanong⑥, magtanong at magbigay udyok upang sumagot ng "mayroon, nariyan." ・Sa Tanong⑦, kung itinuro ng bata ang larawan at sinabing "dito", ibaligtad ang picture card at muling magtanong, kumbinsihin ang bata na magpaliwanag (sa ibabaw ng mesa o desk) sa pamamagitan ng salita. ・Sa Tanong⑦, maaari rin sabihin na "lapis" ang "pen". ・Sa Tanong⑧, kung nasagot sa Tanong② ay sabihin na “Mayroon ngang orasan.” ・Huwag na itanong ang Tanong⑨ sa mag-aaral sa unang baitang (Grade 1).
❷ Isport Kard	
① "Gusto mo ba ang isport (ehersisyo) ?" ② "Ano ang gusto mong isport (ehersisyo) ?" ③ "Ano ang pangalan ng isport ?" ④ "Nakapaglaro ka na ba ng (pangalan ng isport)?" ⑤ "Ano ang mas gusto mo sa (pangalan ng isport) at (pangalan ng isport)?"	・Sa Tanong①, kung hindi nauunawaan ang salitang "isport" ay palitan ng "ehersisyo." ・Sa Tanong③, kung hindi alam ang pangalan ng isport (lalo na ang mga nasa mababang baitang), ituro ng tagapagsagawa ang larawan sa kard at magtanong. ・Sa Tanong③, magtanong at magbigay udyok upang sumagot ng "Kaya kong gawin" o "Hindi ko kayang gawin."
❸ Araw-araw Na Gawain (Paggising, Pagpasok sa paaralan, Pagtulog) Kard	
① "Anong oras ka nagising kaninang umaga?" ② "Pagkatapos ay ano ang sunod mong ginawa?" ③ "Anong oras ka palaging natutulog?" ④ "Pagkauwi mo ng bahay, ano ang lagi mong ginagawa? Sabihin mo nga ang ginagawa mo hanggang sa oras ng iyong pagtulog."	・Sa Tanong①, magtatanong tungkol sa oras. ・Sa Tanong②, titiyakin ang pag-unawa ng past tense o madalas na paggamit ng past tense. ・Sa Tanong③, magtatanong tungkol sa nakagawiang gawin. ・Sa Tanong④, titiyakin kung masasabi ang pagkakasunod-sunod ng mga ginagawa.
❹ Pangarap Sa Hinaharap Kard	
① "Ano ang pangarap mo o gusto mo sa iyong paglaki?" ② "Bakit mo ito napili?"	・Sa Tanong①, kung hindi masabi ng bata ang trabaho, maaari itong palitan ng "Ano ang gusto mong gawin?" Bigyan ng halimbawa ng mga trabaho. "Gusto mong maging guro o titser?" o maaari rin ituro ang nasa picture card at sabihing "Ito kaya?"

Kung hindi halos nakasagot sa mga katanungan ay tapusin na sa bahaging ito.

"Dito na tayo nagtatapos. Maraming salamat sa iyo."

Kung nasagot halos ang mga katanungan, ituloy ito sa Dialogue Task at Cognitive Task. Gawin ang Dialogue Task depende sa sitwasyon (oras) o kung ito ba ay kinakailangan.

Dialogue Task

Hindi kinakailangan gamitin ang 3 kard. Pumili batay sa pangangailangan o situwasyon. Gayundin naman, kung natitiyak ang kakayahan ng bata ay hindi na ito kailangang isagawa.

 Sasabihin ng tagapagsagawa	Mga dapat pag-ingatan
❺ Tanong Para Sa Guro Kard A,B	
A ① "Naku! Biglang gusto mong magtungo sa kubeta o CR (sumakit ang tiyan). Ano ang sasabihin mo sa guro? Kunyari, ako ang guro." B ① "Nakalimutan mo ang aklat o libro mo sa arithmetic. Gusto mo sanang ipakita ng katabi mo ang aklat niya sa iyo. Ano ang sasabihin mo?"	・Sa Tanong A①, ituro ang larawan at magtanong (kubeta o batang masakit ang tiyan). ・Titiyakin kung kaya niyang humingi ng permiso. ・Sa TanongB①, ituro ang larawan ng aklat o libro at magtanong. ・Tiyakin kung kaya niyang humiling o makiusap.
❻ Bagong Guro Kard	
① "Simula ngayong araw ay may bagong guro. Ipakilala mo ang iyong sarili. Pagkatapos ay magtanong ka ng 2 katanungan sa kanya. Kunyari, ako ang iyong bagong guro."	・Gumanap bilang bagong guro. ・Kung hindi alam ng bata ang "ipakilala ang sarili" ay sabihin ang "Sabihin mo sa guro kung sino ka.." Kung hindi pa rin nauunawaan ay magbigay ng hint na "pangalan, baitang o grade" at magsabi ng "Ako ay si…".
❼ Imbitasyon Sa Kaibigan Kard	
① "Ngayong araw, pagkatapos ng eskuwela ay gusto mong makipaglaro kay ○○. Imbitahan mo siya. Nagkita kayo sa lalagyan ng sapatos."	・Gagamitin ng tagapagsagawa ang mga pangalan ng kaibigan na narinig sa Panimulang Pag-uusap. Ang tagapagsagawa ang magsisilbing kaibigan. ・Upang matiyak kung kaya ng bata ang sumulong sa pakikipag-usap, magyaya, magdesisyon ng oras at lugar, tapusin ang pag-uusap, maaaring magbigay ng inisyatibo ang tagapagsagawa subalit maghintay at iwasan na unahan ang bata sa pagsasalita.

Kung hindi halos nakasagot sa mga katanungan ay tapusin na sa bahaging ito.



"Dito na tayo nagtatapos. Maraming salamat sa iyo. "

Kung nagawa halos lahat ang Dialogue Task ay ituloy ito sa Cognitive Task.

Cognitive Task

Pumili ng kard batay sa edad (baitang) ng bata. Kung isasagawa ito sa Filipino (Tagalog) sa mag-aaral ng junior high school o senior high school at kung walang angkop na task mula sa mga kard na ito ay maaari rin magtanong tungkol sa asignatura kung saan mahusay ang bata batay na rin sa kanyang napag-aralan sa sariling bansa.

Sasabihin ng tagapagsagawa	Mga dapat pag-ingatan
❽ Pag-uusap Kard (mababa o gitnang antas ng elementarya)	
① "Pinakiusapan ka ng bata na kausapin mo siya. Magkuwento ka sa kanya."	・Pumili ng kuwentong alam ng bata. Kung walang alam ang bata sa kuwentong nasa kard ay maaaring magkuwento ng iba.
❾ Trak Ng Bumbero Kard (mababa o gitnang antas ng elementarya)	
① "Alam mo ang pangalan o tawag sa sasakyan na ito?" ② "Ano ang trabaho ng sasakyan na ito? O para saan ginagamit ito?" ③ "Sa anong bahagi sila nagkakapareho? Saan sila magkaiba?"	・Sa Tanong①, magkasunod na ituro ang 2 sasakyan at magtanong. Kung hindi alam ang pangalan ng mga ito, maaari rin ituro para sa susunod na katanungan. ・Sa Tanong③, magtanong tungkol sa pagkakapareho at pagkakaiba ng 2 sasakyan. Depende sa bata, hindi napupuna ang pagkakapareho o pagkakaiba, sumasagot lamang sila depende sa nakikita nila.
❿ Pagtunaw Ng Kinain Kard	
① "Ano ang mangyayari sa kinain ng taong ito?" ② "Ipaliwanag mo ang mekanismo ng Pagtunaw ng Kinain (Panunaw) ng isang tao (mag-aaral ng mataas na antas)."	・Sa mababa o gitnang antas ng elementarya, matitiyak kung maaaring pag-usapan ang proseso ng panunaw, sa mag-aaral sa mataas na antas naman ay matitiyak kung maipapaliwanag ang mekanismo ng panunaw gamit ang bokabularyo ng asignatura ayon sa edad.
⓫ Suliranin Ng Kapaligiran Kard (Gitnang antas ng elementarya at pataas)	
① "Ano itong nasa larawan?" ② (Sa bawat isang larawan)"Ano ito?" ③ "Umiiyak ang mundo. Ano sa palagay mo ang dahilan bakit ito umiiyak?" ④ "Ano ang dapat nating gawin upang hindi na umiyak ang mundo? " "Ano kaya ang maaari nating gawin?" ⑤ "Ito ang larawan ng global warming. Ipaliwanag mo kung bakit nangyayari ang global warming." (Lalo na sa mag-aaral ng mataas na antas)	・Sa Tanong①, pansinin na ang larawan ay kumakatawan sa konsepto ng mga suliraning pangkapaligiran at global warming, at tiyakin kung alam ng bata ang bokabularyo ng nasa larawan. ・Kung nasagot ang Tanong①, laktawan ang Tanong②. Kung hindi naman nasagot, tiyakin isa-isa kung ano ang nasa larawan (mundo, pinuputol na puno, nagbubuga ng usok na sasakyan, nagbubuga ng usok na factory). ・Kung hindi alam ang Tanong①, ituro ang salitang global warming sa Tanong⑤. At tiyakin kung kayang magpaliwanag ng dahilan at mekanismo gamit ang bokabularyo ng asignaturang pinag-aralan.
⓬ Lindol Kard (Gitnang antas ng elementarya)	
① "Nakaranas ka na ba ng lindol? Ikuwento mo ang iyong naranasan?" ② "Kung nangyari ang lindol habang ikaw ay nasa paaralan, ano ang gagawin mo?" ③ "Pinag-aralan na ninyo ang tungkol sa lindol? Ipaliwanag mo ang mekanismo ng lindol." (lalo na sa mag-aaral ng mataas na antas)	・Sa Tanong①, kung hindi pa nakakaranas ang bata ng lindol, magtanong tungkol sa naging karanasan ng magulang. ・Sa Tanong③, tiyakin kung kayang magpaliwanag ng dahilan at mekanismo gamit ang bokabularyo ng asignaturang pinag-aralan.
⓭ Siklo Ng Tubig Kard (mataas na antas ng elementarya at pataas)	
① "Ipaliwanag mo ang daloy ng tubig." ② "Sa palagay mo, saan nanggagaling ang tubig na iniinom natin?" ③ "Kung hindi uulan o kung walang araw, ano ang mangyayari sa mundo?"	

"Dito na tayo nagtatapos. Maraming salamat sa iyo."

Evaluation Memo

Taon Buwan Petsa

Pangalan Edad Baitang

Tiyakin ang antas ng kakayahan sa Pakikinig at Pagsasalita sa wikang Filipino (Tagalog) batay sa punto ng pananaw na nasa Evaluation Memo.
Ang Evaluation Memo na ito ay susuriin at ikukumpara batay sa Matrix of Language Development and Acquisition for CLD students(KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI).

Kakayahang sumagot		
Basic na kakayahan sa pakikinig	Nauunawaan ang tanong mula sa kausap hinggil sa sarili o pangyayari sa paligid.	☐Kayang-kaya ☐Medyo Kaya ☐Kaunti pang pagsusumikap
Pagbigkas at Kahusayan sa pagsasalita		
Pagbigkas at Intonasyon	May likas na kahusayan sa pagbigkas at intonasyon sa pakikipag-usap.	☐Kayang-kaya ☐Medyo Kaya ☐Kaunti pang pagsusumikap
Kahusayan	Natural at maayos ang pakikipag-usap.	☐Kayang-kaya ☐Medyo Kaya ☐Kaunti pang pagsusumikap
Saloobin sa pagsasalita		
Saloobin sa pagsasalita	May kusa sa pagsulong sa pakikipag-usap, namumuno sa pakikipag-usap.	☐Kayang-kaya ☐Medyo Kaya ☐Kaunti pang pagsusumikap
Bokabularyo		
Pang-araw-araw na bokabularyo	Pang-araw-araw na bokabularyo at gumagamit ng ekspresyon	☐Kayang-kaya ☐Medyo Kaya ☐Kaunti pang pagsusumikap
Kalidad ng bokabularyo (bokabularyo ng asignatura)	Angkop na bokabularyo at marunong gumamit ng ekspresyon (kasama ang bokabularyo ng asignatura)	☐Kayang-kaya ☐Medyo Kaya ☐Kaunti pang pagsusumikap
Wastong komposisyon ng pangungusap		
Wastong komposisyon ng pangungusap	May kakayahang makipag-usap sa wastong pangungusap.	☐Kayang-kaya ☐Medyo Kaya ☐Kaunti pang pagsusumikap
Pangungusap · Kalidad ng talata		
Pagbuo ng pangungusap	May kakayahang bumuo ng maigsing pangungusap.	☐Kayang-kaya ☐Medyo Kaya ☐Kaunti pang pagsusumikap
Kalidad ng talata	Hindi lamang maigsing pangungusap, kundi ang makagamit ng ilan pang pangungusap at makabuo ng talata.	☐Kayang-kaya ☐Medyo Kaya ☐Kaunti pang pagsusumikap
Nilalaman at Buod ng kuwento		
Antas ng katuparan ng task	May kakayahang kumpletuhin ang task .	☐Kayang-kaya ☐Medyo Kaya ☐Kaunti pang pagsusumikap
Pagkakasunod-sunod ng pangyayari sa kuwento	Nasabi ang pagkakasunod-sunod ng pangyayari at maiugnay ang kuwento	☐Kayang-kaya ☐Medyo Kaya ☐Kaunti pang pagsusumikap
Nilalaman at Buod ng kuwento	May kakayahang magbuod ng nilalaman ng kuwento, magpaliwanag, magsabi ng dahilan at opinyon.	☐Kayang-kaya ☐Medyo Kaya ☐Kaunti pang pagsusumikap

ベトナム語
Tiếng Việt



物を買うとき、その物にはたくさんの人が手間かけてその物が完成するから、その人の気持ちを大切にする人を町に増やしていきたいです。

1. DLA đa ngôn ngữ

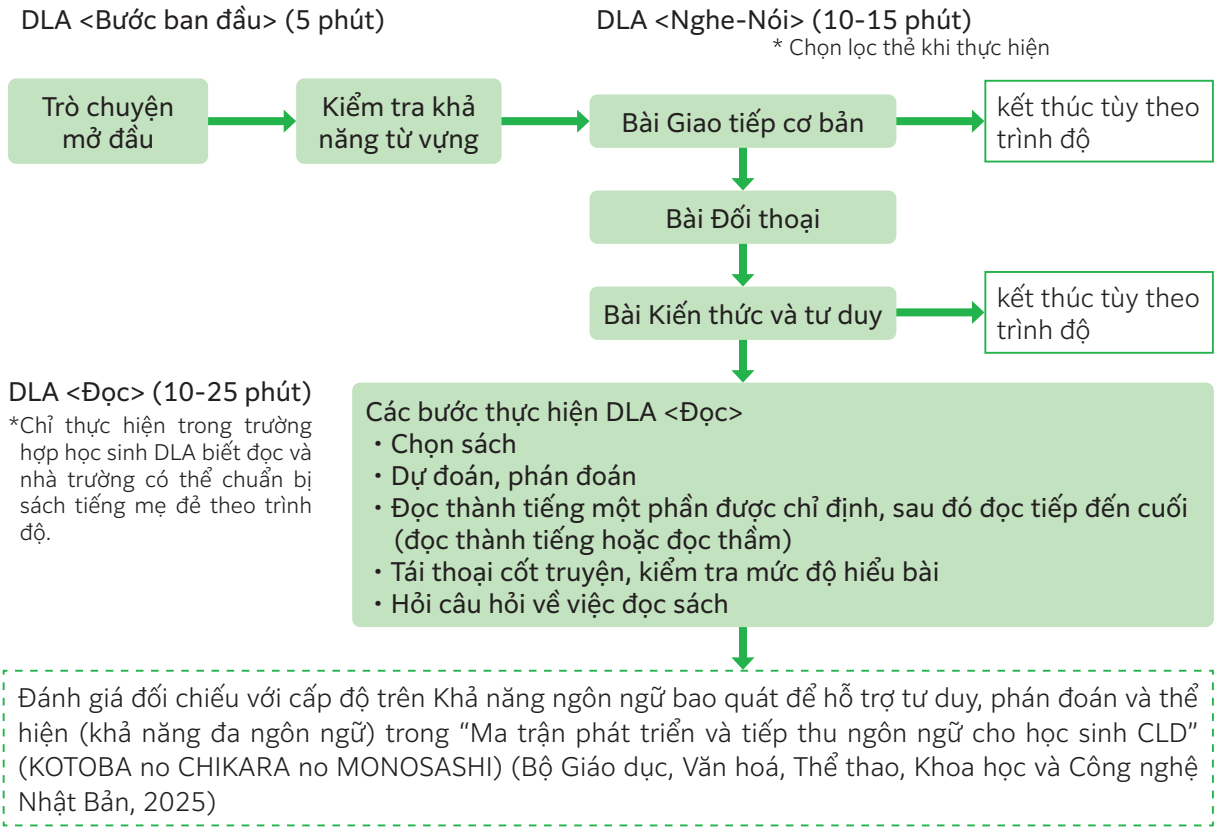
❶ Mục đích của DLA

- DLA (Dialogic Language Assessment) không phải là bài kiểm tra chấm điểm hoặc xếp hạng những kiến thức ngôn ngữ mà học sinh đa ngôn ngữ-đa văn hoá Culturally and Linguistically Diverse Students (học sinh CLD) có.
- DLA nhằm mục đích là nắm bắt trẻ có thể sử dụng ngôn ngữ đó và "có thể làm được điều gì" thông qua đối thoại. DLA không những xem xét những điều trẻ "có thể làm được một mình" mà còn xem xét trẻ "có thể làm được điều gì khi nhận được sự hỗ trợ"
- Trong trò chuyện 1 đối 1, chúng ta vừa hỗ trợ học sinh theo nhiều kiểu khác nhau vừa cố gắng nắm bắt khả năng của trẻ. DLA giúp chúng ta tìm hiểu: học sinh CLD đang học tập như thế nào; những điều gì sẽ khiến cho học sinh đó học hiệu quả hơn; những điều gì có thể tạo động lực học tập cho học sinh v.v..
- Ứng dụng kết quả DLA để lập kế hoạch hỗ trợ / hướng dẫn học tập sau này cũng là mục đích của DLA.

❷ Tầm quan trọng của DLA đa ngôn ngữ

- Để nắm bắt "khả năng tối đa" của học sinh CLD, cần phải đánh giá cả khả năng tiếng mẹ đẻ, chứ không chỉ đánh giá khả năng tiếng Nhật đang học giữa chừng.
- DLA được phát minh dựa vào lí luận giáo dục song ngữ. Vì vậy, không chỉ thực hiện bằng tiếng Nhật mà còn có thể thực hiện bằng nhiều ngôn ngữ. Trong quyển này gồm có phần <Bước ban đầu> và phần <Nghe-Nói> bằng tiếng Bồ Đào Nha, tiếng Trung Quốc, tiếng Philippines, tiếng Việt, tiếng Tây Ban Nha, tiếng Anh, tiếng Nepal, tiếng Nga. Trong trường hợp có hỗ trợ viên mà có thể sử dụng tiếng mẹ đẻ của học sinh CLD thì hãy tích cực sử dụng DLA đa ngôn ngữ dựa theo nhu cầu.
- Khi đánh giá khả năng đọc của học sinh DLA, chúng ta cần phải chọn sách theo trình độ từng ngôn ngữ, chứ không thể sử dụng bản dịch của sách theo trình độ tiếng Nhật, vì vậy trong quyển này không có phần <Đọc>. Trong trường hợp muốn đánh giá khả năng đọc tiếng mẹ đẻ của học sinh CLD, hỗ trợ viên có thể áp dụng các bước trong phần <Đọc> của DLA, tuy nhiên cần tự chuẩn bị sách. Ví dụ, hỗ trợ viên có thể sử dụng câu chuyện hoặc bài văn thuyết minh trên sách giáo khoa của nước trẻ được sinh ra.
- Còn về khả năng viết, nếu trẻ chưa thể viết bài theo chủ đề một mình thì chúng ta không nên cố kiểm tra, mà chỉ cần đánh giá bằng cách quan sát hoạt động viết bài trong giờ học. Với những trẻ có thể viết bài theo chủ đề một mình, hỗ trợ viên có thể tham khảo các chủ đề tập làm văn trên trang 186-199 trên "Ma trận phát triển và tiếp thu ngôn ngữ cho học sinh CLD" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) (Bộ Giáo dục, Văn hoá, Thể thao, Khoa học và Công nghệ Nhật Bản, 2025).

❸ Lưu đồ thực hiện DLA bằng đa ngôn ngữ



2. DLA <Bước ban đầu>

❶ Mục đích

- Mục đích thực hiện DLA <Bước ban đầu> bằng tiếng Việt là nắm bắt khả năng giao tiếp cơ bản bằng tiếng Việt thông qua các bước "Trò chuyện mở đầu" gồm có các câu chào hỏi và các câu hỏi liên quan đến bản thân học sinh (HS) và "Kiểm tra khả năng từ vựng" gồm có 55 từ cơ bản.
- Phần này cũng nhằm giúp giáo viên hiểu rõ hơn về tình hình cuộc sống và môi trường ngôn ngữ hiện tại của HS.
- Ngoài ra, đây cũng là bước làm quen để tạo mối quan hệ thân tín giữa HS và giáo viên khảo sát (GVKS), từ đó tạo ra được không khí để HS có thể tích cực tham gia DLA.

❷ Đối tượng

- Đối tượng thực hiện là HS ở nhiều trình độ khác nhau từ những HS chỉ có thể hỏi đáp tối thiểu đến những HS có thể nói tiếng Việt một cách lưu loát.
- Đặc biệt, GVKS nên thực hiện phần này khi cần phải nắm bắt trình độ ngôn ngữ mạnh nhất của HS.

❸ Cấu trúc

- Phần này gồm có "Trò chuyện mở đầu" là những câu chào hỏi trong lần đầu gặp mặt và những câu hỏi liên quan đến bản thân HS và "Kiểm tra khả năng từ vựng" gồm có 55 từ cơ bản (có cả danh từ, động từ và tính từ).
- Các danh từ trong "Kiểm tra khả năng từ vựng" là những từ vựng mà HS có thể thường xuyên nghe thấy hoặc sử dụng trong cuộc sống hàng ngày như bộ phận cơ thể, đồ ăn, động, thực vật, vật dụng trong trường học v.v.. Trong đó bao gồm: những danh từ HS thường xuyên nghe hay là ít khi nghe và sử dụng như "mắt" và "lông mi", "miệng" và "môi", hoặc những mảng từ vựng chỉ toàn thể và bộ phận như "con bò", "sừng bò", "cây", "lá cây" và "cành cây". Các động từ, các tính từ cũng là những từ mà HS hay sử dụng trong trường hoặc trong nhà.

❹ Các bước thực hiện

Chuẩn bị trước:

- Cắt ra "Thẻ từ vựng DLA <Bước ban đầu>" (trang 236-242) trong Phụ lục 1, làm thành thẻ, xếp theo thứ tự và cố định bằng móc tròn để GVKS có thể lật từng tờ một. Hoặc cũng có thể quét ảnh và lưu vào thiết bị như máy tính bảng.
- GVKS luyện tập sao cho có thể lật được nhuần nhuyễn. Xem video mẫu DLA để tham khảo thái độ của GVKS và tốc độ lật thẻ v.v..
- Chuẩn bị sẵn bên mình quyển Hướng dẫn thực hiện DLA <Bước ban đầu> (trang 137-138), Thẻ từ vựng DLA <Bước ban đầu> đã chuẩn bị từ trước để lật được từng trang, máy ghi âm hoặc máy quay và giấy ghi chép.

Vị trí ngồi:

- Không ngồi đối mặt với HS, bố trí bàn ghế thành chữ L và ngồi vuông góc với HS. Ngồi như thế tiện cho việc cùng nhau xem tài liệu và chia sẻ không gian cùng với HS. Vị trí ngồi này cũng có thể làm giảm bớt áp lực cho HS.

Thực hiện đối thoại:

- Kiểm tra máy ghi âm hoặc máy quay, bật máy rồi bắt đầu trò chuyện.
- Theo Hướng dẫn thực hiện DLA <Bước ban đầu> (trang 137-138), GVKS thực hiện theo thứ tự: "Trò chuyện mở đầu" rồi "Kiểm tra khả năng từ vựng".
- Trong trường hợp HS chưa đủ khả năng nói chuyện cơ bản và khó tiếp tục thực hiện thì, dù là trong khi đang làm "Trò chuyện mở đầu" hoặc "Kiểm tra khả năng từ vựng", GVKS cần phải dừng lại giữa chừng ngay.

❺ Những điều cần lưu ý

Chú trọng mạch trò chuyện:

- Thời gian thực hiện DLA <Bước ban đầu> chỉ mất khoảng 5 phút. GVKS trò chuyện với HS theo tốc độ tự nhiên và nhịp nhàng trong phạm vi có thể. GVKS có thể điều chỉnh lại lời nói của mình sao cho phù hợp với trình độ của HS.
- Không được ngắt lời, phủ định hay sửa sai cho HS trong suốt quá trình kiểm tra.
- Đối với các HS đã tiếp xúc thì GVKS có thể bỏ qua phần "Làm quen" (Giới thiệu về bản thân).
- Trong trường hợp HS không hiểu câu hỏi thì GVKS có thể nói lại chậm hơn hoặc nói lại bằng lời ngắn hơn, đơn giản hơn, nhưng không được giải thích thêm. Cứ giữ lại mạch trò chuyện và chuyển sang câu hỏi tiếp theo.
- Ở bước "Kiểm tra khả năng từ vựng", dù HS không thể trả lời được ngay hoặc trả lời sai, GVKS cũng không nói đáp án đúng hoặc sửa lỗi cho HS, mà cứ tiếp tục lật các thẻ cho HS trả lời. Trong trường hợp HS tỏ thái độ muốn biết câu trả lời đúng thì GVKS có thể chỉ cho.
- Trong khi HS đang suy nghĩ, dù mất khá lâu để đáp lại, GVKS không nên thúc giục, cứ chờ đợi phản ứng của HS.

Tạo bầu không khí:

- Tuy là HS có khả năng nói chuyện lưu loát nhưng cũng có thể có cảm giác hồi hộp, căng thẳng, sợ và né tránh trong khi trò chuyện 1 đối 1 với người lớn. Vì thế GVKS cần lưu tâm đến việc tạo ra bầu không khí thân thiện với HS. GVKS xem như mình đang vui vẻ trò chuyện với HS, chứ không phải là đang thực hiện kiểm tra.
- Có thể gật đầu hoặc nói những câu thể hiện sự đồng tình với cách trả lời của HS.
- "Bước ban đầu" là phần khởi động quan trọng đối với cả HS và GVKS. GVKS cần luôn chú trọng đến việc khơi gợi để cho HS phát biểu ý kiến, suy nghĩ của bản thân. Ở đây, GVKS không nên làm giáo viên giảng dạy mà nên đóng vai trò là người dẫn dắt để cho HS có thể bật ra câu trả lời.

Không chấm điểm trong khi trò chuyện:

- Không chấm điểm và điền bảng đánh giá trước mặt HS. Sau khi thực hiện phần "Bước ban đầu" xong, thường tiếp tục thực hiện phần "Nghe-Nói" và phần "Đọc", cho nên khi hoàn thành tất cả các khảo sát thì mới bắt đầu thực hiện chấm điểm.
- Cần thực hiện ghi âm hoặc quay video để lưu trữ và đánh giá chính xác.

Kết thúc bằng lời khen:

・Dù HS ở trình độ nào đi nữa, GVKS cũng nên đánh giá cao về việc "HS nói tiếng Việt" và khen ngợi HS khi kết thúc cuộc trò chuyện.

❻ Cách chuyển tiếp sang phần khảo sát khác

・Nếu GVKS nhận thấy HS đạt 70-80% ở phần "Trò chuyện mở đầu" và "Kiểm tra khả năng từ vựng" thì có thể tiếp tục các khảo sát khác. Trường hợp chỉ đạt dưới 20-30% thì dừng lại. Trường hợp khó đưa ra quyết định, GVKS có thể thử thực hiện mục kiểm tra tiếp theo và xem xét tình hình.

・Như đã đề cập ở mục (4), tùy vào khả năng tiếng Việt của HS mà có thể dừng lại giữa chừng của DLA "Bước ban đầu".

❼ Thời điểm và phương pháp chấm điểm

・Sau khi kết thúc phần "Nghe-Nói" xong, GVKS mới bắt đầu chấm điểm cho cả phần "Bước ban đầu" và phần "Nghe-Nói".

・Xem lại nội dung đã ghi âm hoặc quay để kiểm tra HS đã đạt được đến mức độ nào dựa trên Bảng đánh giá (tr. 139).

・Để đánh giá bước "Kiểm tra khả năng từ vựng", xem Bảng câu trả lời đúng/sai ở (tr. 141).

・Đánh giá đối chiếu với cấp độ trên "Khả năng ngôn ngữ bao quát để hỗ trợ tư duy, phán đoán và thể hiện (khả năng đa ngôn ngữ)" trong "Ma trận phát triển và tiếp thu ngôn ngữ cho học sinh CLD" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) từ góc nhìn bao quát và đa chiều.

Trò chuyện mở đầu

❶Chào hỏi trong lần đầu gặp nhau:



Chào em! Thầy/Cô tên là ... (giới thiệu tên)

❷Giải thích một cách vui vẻ về việc sẽ làm để làm tăng sự hứng thú cho HS:



Thầy/Cô đang muốn biết em có thể nói được bao nhiêu tiếng Việt, nên thầy/cô và em cùng nói chuyện nhé. Em biết được gì hãy nói cho thầy/cô biết, khi nào em không biết thì bảo là "em không biết" nhé. Có được không?

❸Hỏi câu hỏi:

・Hỏi theo trình tự sau:



① Em tên là gì? Em cho thầy/cô biết tên em được không?
② Em đang học lớp mấy?
③ Em mấy/bao nhiêu tuổi?
④ Ngày sinh của em là ngày bao nhiêu?
⑤ Em có anh chị em không?

・ Với câu hỏi về anh chị em, GVKS có thể điều chỉnh lại câu hỏi tùy theo tình hình của HS hoặc cấu trúc gia đình của HS v.v..



⑥ Em có bạn bè không?
⑦ Bạn của em tên là gì?
⑧ Em thường chơi trò gì với bạn ấy?

・Ghi lại thông tin của bạn bè để sử dụng cho bài "Đối thoại".



⑨ Em đi học ở trường có vui không?
⑩ Vì sao thế?

・Trong trường hợp HS đã từng đi học ở nước mà mình được sinh ra thì có thể hỏi về kinh nghiệm ở đó hoặc có thể cho HS so sánh trường ở Nhật Bản và trường ở Việt Nam.



⑪ Em thích điều gì ở trường?
⑫ Em ghét điều gì ở trường?

・Sau câu hỏi ⑪, ⑫, GVKS có thể hỏi thêm câu hỏi tùy theo tình hình của HS.



⑬ Ở nhà em có nói tiếng Việt không?
⑭ Bố/mẹ nói chuyện với em bằng tiếng gì?
Em nói chuyện với bố/mẹ bằng tiếng gì?

・Có nhiều trường hợp ở nhà bố mẹ nói tiếng Việt nhưng HS thì không nói tiếng Việt mà chỉ nghe thôi. Vì vậy GVKS cố gắng hỏi kỹ về tình hình sử dụng ngôn ngữ trong nhà. Cần lưu ý đến cấu trúc gia đình của HS.



⑮ Em có đọc được tiếng Việt không?
Em có viết được tiếng Việt không?

・Hỏi về khả năng đọc và viết tiếng Việt. Có thể hỏi thêm câu hỏi để biết trình độ đọc và viết.

Kiểm tra khả năng từ vựng

❶Các từ thuộc loại danh từ (thẻ số 1 ~ 42)



Em xem đây là gì, là mắt phải không. Thế thì sau khi thầy/cô nói "1" thì em sẽ nói là "mắt" nhé, (vừa chỉ vào thẻ số 2 vừa nói) khi thầy/cô nói "2" thì em nói cho thầy/cô nghe đây là gì nhé. Nếu em không biết đó gọi là gì thì em nói là "em không biết" nhé, như thế có được không? Vậy chúng ta bắt đầu nhé! "1" ...

❷Các từ thuộc loại động từ (thẻ số 43 ~ 50)

・Khi lật đến thẻ số 43 (bơi) thì GVKS sẽ hỏi như sau:



Bạn này làm gì thế nhỉ? Bạn đang làm gì thế nhỉ?

❸Các từ thuộc loại tính từ (thẻ số 51 ~ 55)

・Khi lật đến thẻ số 51 (ngắn) thì GVKS sẽ hỏi như sau:



Cái váy này trông thế nào nhỉ?

・Nếu HS không hiểu câu hỏi "trông thế nào?", GVKS có thể gợi ý như sau:



Cái váy này "dài" em nhỉ? (vừa chỉ vào cái váy ngắn vừa nói) Thế còn cái váy này thì sao?

03

Tiếp tục các bước kiểm tra khác

- Nếu HS chỉ đạt được khoảng 20-30% ở phần "Trò chuyện mở đầu" và "Kiểm tra khả năng từ vựng" thì có thể kết thúc ở đây.



Hôm nay mình kết thúc ở đây nhé. Cảm ơn em rất nhiều.

- Nếu HS có thể đạt được 50% trở lên thì chuyển sang phần DLA <Nghe-Nói>.

Bảng đánh giá

Trò chuyện mở đầu

Ngày　　Tháng　　Năm

Họ tên học sinh

Năm học/ tuổi tác　　Lớp　　(　　tuổi)

Lời nói của GVKS	HS hiểu câu hỏi và đáp lại	Ghi chú
① Em tên là gì?	☐	
② Em đang học lớp mấy?	☐	
③ Em mấy/bao nhiêu tuổi?	☐	
④ Ngày sinh của em là ngày bao nhiêu?	☐	
⑤ Em có anh chị em không?	☐	
⑥ Em có bạn bè không?	☐	
⑦ Bạn của em tên là gì?	☐	
⑧ Em thường chơi trò gì với bạn ấy?	☐	
⑨ Em đi học ở trường có vui không?	☐	
⑩ Vì sao thế?	☐	
⑪ Em thích điều gì ở trường?	☐	
⑫ Em ghét điều gì ở trường?	☐	
⑬ Ở nhà em có nói tiếng Việt không?	☐	
⑭ Bố/mẹ nói chuyện với em bằng tiếng gì? Em nói chuyện với bố/mẹ bằng tiếng gì?	☐	
⑮ Em có đọc được tiếng Việt không? Em có viết được tiếng Việt không?	☐	
Số câu hỏi mà HS có thể hiểu ý và đáp lại		／15
Tỉ lệ đạt được	⇒	%

Kiểm tra khả năng từ vựng

Ngày Tháng Năm

Họ tên học sinh

Năm học/ tuổi tác Lớp (tuổi)

STT	Từ vựng	Đ	S	Ghi chú	STT	Từ vựng	Đ	S	Ghi chú
1	(Con) mắt	☐	☐		30	(Cái) bàn	☐	☐	
2	Lông mi	☐	☐		31	Ngăn kéo	☐	☐	
3	(Cái) miệng	☐	☐		32	(Cái) bảng	☐	☐	
4	(Cái) môi	☐	☐		33	Lau bảng	☐	☐	
5	(Cái) tay	☐	☐		34	Bản đồ	☐	☐	
6	Ngón cái	☐	☐		35	(Cái) kéo	☐	☐	
7	Móng tay	☐	☐		36	Vở	☐	☐	
8	(Cái) mũi	☐	☐		37	Tài xế	☐	☐	
9	(Chùm/quả) nho	☐	☐		38	Bác sĩ	☐	☐	
10	(Quả) trứng	☐	☐		39	Lính cứu hoả	☐	☐	
11	(Con) tôm	☐	☐		40	Xe buýt	☐	☐	
12	Sữa	☐	☐		41	Máy bay	☐	☐	
13	(Con) bò	☐	☐		42	Cánh	☐	☐	
14	(Cái) sừng (con bò)	☐	☐		43	(Đang) bơi	☐	☐	
15	(Cái) đuôi (con chó)	☐	☐		44	(Đang) viết chữ	☐	☐	
16	(Con) gà	☐	☐		45	(Đang) đánh răng	☐	☐	
17	(Con) ngựa	☐	☐		46	(Đang) mặc áo	☐	☐	
18	(Con) voi	☐	☐		47	Thức dậy	☐	☐	
19	(Con) chuột	☐	☐		48	Ngồi	☐	☐	
20	Rau (con mèo)	☐	☐		49	Hút bụi	☐	☐	
21	(Cái) cây	☐	☐		50	Cáu giận	☐	☐	
22	(Chiếc) lá	☐	☐		51	Ngắn	☐	☐	
23	Cành	☐	☐		52	Thon dài	☐	☐	
24	(Cái) quạt (máy)	☐	☐		53	Nhẹ	☐	☐	
25	Điện thoại	☐	☐		54	Lạnh	☐	☐	
26	(Cái) cửa	☐	☐		55	Cao	☐	☐	
27	Mái nhà	☐	☐		Tổng	Số từ trả lời đúng (tỉ lệ)			／55 (%)
28	Cầu thang	☐	☐						
29	Cửa sổ	☐	☐						

Trò chuyện mở đầu

STT	Chủ đề	câu trả lời đúng	Phạm vi trả lời chấp nhận	Ví dụ câu trả lời sai
1		(Con) mắt		
2		Lông mi	Mi, sợi mi, sợi lông mi	Mày, lông mày
3		(Cái) miệng		
4	Ⅰ Bộ phận cơ thể	(Cái) môi		
5		(Cái) tay	Bàn tay	
6		Ngón cái	Ngón tay cái, ngón tay, ngón tay bố	
7		Móng tay		
8		(Cái) mũi	Lỗ mũi	
9		(Chùm/quả) nho		
10	Ⅱ Thức ăn	(Quả) trứng	Trứng gà	
11		(Con) tôm	(Con) tép	
12		Sữa	Sữa bò, sữa tươi	
13		(Con) bò	(Con) bò sữa	
14		(Cái) sừng (con bò)	Đôi sừng, 2 cái sừng	(Con) bò
15		(Cái) đuôi (con chó)		(Con) chó
16		(Con) gà		
17		(Con) ngựa		
18	Ⅲ Động, thực vật	(Con) voi		
19		(Con) chuột	(Con) chuột hamster	
20		Rau (con mèo)		Lông (con) mèo
21		(Cái) cây	Cây xanh	
22		(Chiếc) lá	Lá cây	
23		Cành	Cành cây, nhánh, nhánh cây	
24	Ⅳ Đồ điện	(Cái) quạt (máy)		
25		Điện thoại	Điện thoại di động, điện thoại thông minh	
26		(Cái) cửa	Cánh cửa, cửa phòng	Cổng, cửa cái
27	Ⅴ Bộ phận nhà	Mái nhà	Nóc nhà	Nhà, đầu nhà, trên nhà
28		Cầu thang	Bậc thang	Hành lang
29		Cửa sổ		
30		(Cái) bàn	(Cái) bàn học, bàn làm việc	Ngăn tủ, hộc tủ
31		Ngăn kéo	Ngăn bàn, ngăn kéo bàn, hộc bàn	trong bàn
32		(Cái) bảng	(Cái) bảng đen, bảng phấn, bảng viết	Lớp học
33	Ⅵ Đồ dùng trường học	Lau bảng	Bông lau bảng, đồ lau bảng, đồ bôi bảng	Cục gôm, cục tẩy
34		Bản đồ	Thế giới, trái đất	
35		(Cái) kéo		
36		Vở	Tập, sách, sách giáo khoa	
37		Tài xế	Tài xế xe buýt, bác tài, người lái xe	
38	Ⅶ Nghề nghiệp	Bác sĩ		
39		Lính cứu hoả	Nhân viên cứu hoả, nhân viên cứu cháy	Sở (cục) phòng cháy
40		Xe buýt	Xe khách, xe đò	Xe ô tô
41	Ⅷ Phương tiện giao thông	Máy bay		
42		Cánh	Cánh máy bay	
43	Ⅸ Hoạt động trường học	(Đang) bơi	Bơi, lội, bơi lội	
44		(Đang) viết chữ	Viết, học, học bài, làm bài tập	Vẽ, bút chì
45		(Đang) đánh răng	Chải răng	Bàn chải
46	Ⅹ Sinh hoạt đời sống	(Đang) mặc áo	Mặc đồ/quần áo, thay đồ/quần áo	
47		Thức dậy	Thức, dậy, ngủ dậy	Không ngủ
48		Ngồi	Ngồi xuống, ngồi xuống ghế	Ngồi xuống đi
49	Ⅺ Hoạt động đời sống	Hút bụi	Quét dọn, dọn vệ sinh	
50	Ⅻ Biểu cảm	Cáu giận	Cáu, giận	Sợ, xấu
51		Ngắn		(Cái) váy, nhỏ, không dài
52		Thon dài*	Thon, mành, nhỏ	Bút chì, không to
53	ⅩⅢ Trạng thái	Nhẹ		(Cái) túi, màu nâu, không nặng
54		Lạnh		Không nóng
55		Cao		Người lớn

*Trong tiếng Việt, không dùng tính từ phù hợp để thể hiện kích cỡ của bút chì như trong hình vẽ, vì vậy GVKS có thể coi câu trả lời "nhỏ" cũng là đáp án đúng. Hoặc cũng có thể bỏ qua thẻ này.

3. DLA <Nghe-Nói>

❶ Mục đích

- Mục đích thực hiện DLA <Nghe-Nói> bằng tiếng Việt là nắm bắt khả năng giao tiếp bằng tiếng Việt của HS. Khả năng giao tiếp sẽ là nền tảng của năng lực ngôn ngữ học tập và kỹ năng đọc-viết.
- Phần DLA <Nghe-Nói> sẽ đo khả năng giao tiếp của HS theo 3 khía cạnh: Giao tiếp cơ bản; Đối thoại; Kiến thức và tư duy để đánh giá một cách bao quát và đa chiều.

❷ Đối tượng

- Đối tượng thực hiện là những HS sống trong môi trường đa ngôn ngữ ở nhiều trình độ khác nhau từ những HS chỉ có thể hỏi đáp tối thiểu đến những HS có thể nói tiếng Việt một cách lưu loát.
- Đặc biệt, GVKS nên thực hiện phần này khi cần phải nắm bắt trình độ nghe và nói tiếng Việt của HS.
- Tuy nhiên, không nên thực hiện đối với những HS hầu như hoàn toàn không thể trả lời được trong phần DLA <Bước ban đầu> của tiếng Việt.

❸ Cấu trúc

- Phần DLA <Nghe-Nói> bao gồm 3 bài: Giao tiếp cơ bản; Đối thoại; Kiến thức và tư duy.
- Trong bài Giao tiếp cơ bản, HS được đo khả năng giao tiếp cơ bản, trong đó HS sẽ trả lời các câu hỏi bằng cách sử dụng từ vựng, cách diễn đạt và ngữ pháp thường gặp về các chủ đề quen thuộc liên quan đến bản thân và cuộc sống hàng ngày của HS.
- Trong bài Đối thoại, HS được đo khả năng giao tiếp đối thoại, là khả năng trò chuyện 1 đối 1 theo tình hình hoặc tình huống.
- Trong bài Kiến thức và tư duy, HS được đo khả năng tư duy. GVKS quan sát xem HS có thể tóm tắt và trình bày lại những nội dung liên quan đến các môn học.
- Trong phần DLA <Nghe-Nói>, GVKS sử dụng 3 loại thẻ tranh. Có các bộ thẻ tranh ở trong Phụ lục 2: những cái thẻ có khung màu hồng là bộ thẻ “Giao tiếp cơ bản”; những cái thẻ có khung màu vàng là bộ thẻ “Đối thoại”; những cái thẻ có khung màu xanh là bộ thẻ “Kiến thức và tư duy”.
- Bộ thẻ “Giao tiếp cơ bản” gồm 4 thẻ, bộ thẻ “Đối thoại” gồm 3 thẻ và bộ thẻ “Kiến thức và tư duy” gồm 6 thẻ. GVKS chọn ra mấy thẻ tùy theo độ tuổi hoặc trình độ tiếng Việt của HS hoặc là tình hình khi thực hiện DLA (Ví dụ, thời gian thực hiện v.v..)
- GVKS không cần phải sử dụng tất cả thẻ. Hãy tham khảo Bảng thẻ tranh và độ tuổi (tr.143) để chọn ra thẻ mà dùng.

❹ Các bước thực hiện

Chuẩn bị trước:

- Cắt ra bộ thẻ "Giao tiếp cơ bản", bộ thẻ "Đối thoại" và bộ thẻ "Kiến thức và tư duy" (trang 243-249) trong Phụ lục 2, làm thành thẻ hoặc quét ảnh và lưu vào thiết bị như máy tính bảng để GVKS có thể lật từng tờ một.
- GVKS luyện tập sao cho có thể lật được nhuần nhuyễn. Xem video mẫu DLA để tham khảo thái độ của GVKS và tốc độ lật thẻ v.v..
- Chuẩn bị sẵn bên mình quyển Hướng dẫn thực hiện DLA <Nghe-Nói> (trang 147-149), Thẻ từ vựng DLA <Nghe-Nói>, máy ghi âm hoặc máy quay và giấy ghi chép.

Cách sử dụng thẻ và vị trí ngồi:

- Sắp xếp các thẻ theo thứ tự ngược sao cho thẻ đầu tiên nằm dưới cùng, sau đó đặt bộ thẻ úp xuống dưới, khi thực hiện thì bắt đầu lật ngược tuần tự từ tấm thẻ trên cùng.
- Không ngồi đối mặt với HS, bố trí bàn ghế thành chữ L và ngồi vuông góc với HS sao cho cả hai cùng có thể nhìn rõ hình ảnh trên các thẻ.

Thực hiện đối thoại:

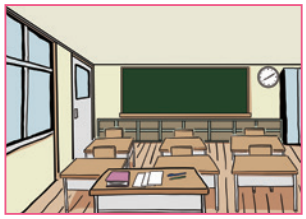
- Kiểm tra máy ghi âm hoặc máy quay, bật máy rồi bắt đầu thực hiện DLA <Nghe-Nói>. Trường hợp thực hiện liền sau phần <Bước ban đầu> thì lúc đó máy đang hoạt động, chỉ cần chú ý để nguyên chế độ ghi âm.
- Theo quyển Hướng dẫn thực hiện DLA <Nghe-Nói> (trang 147-149), GVKS thực hiện theo thứ tự: "Giao tiếp cơ bản", "Đối thoại" rồi "Kiến thức và tư duy".
- Tùy theo trình độ tiếng Việt của HS, cũng có trường hợp kết thúc ở mục "Giao tiếp cơ bản" hoặc mục "Đối thoại". Ngược lại cũng có trường hợp bỏ qua 2 mục "Giao tiếp cơ bản" và "Đối thoại" và chỉ thực hiện mục "Kiến thức và tư duy" hoặc cũng có thể thực hiện cả 3 mục đầy đủ.

Bảng thẻ tranh và độ tuổi

	Tên thẻ tranh	HS lớp 1-2	HS lớp 3-4	HS lớp 5 trở lên
Giao tiếp cơ bản	❶ Lớp học	○	○	○
	❷ Thể thao	○	○	○
	❸ Một ngày của em	○	○	○
	❹ Ước mơ tương lai	○	○	○
Đối thoại	❺ Xin phép	○	○	○
	❻ Thầy giáo mới	○	○	○
	❼ Rủ bạn cùng chơi	○	○	○
Kiến thức và tư duy	❽ Kể chuyện	○	○	
	❾ Xe cứu hoả	○	○	
	❿ Tiêu hoá thức ăn	○	○	○
	⓫ Vấn đề môi trường		○	○
	⓬ Động đất		○	○
	⓭ Vòng tuần hoàn nước			○

Mục đích sử dụng của các thẻ tranh

◇ Bộ thẻ "Giao tiếp cơ bản" dùng để kiểm tra xem liệu HS có thể trả lời các câu hỏi về các chủ đề liên quan đến bản thân và cuộc sống hàng ngày của mình hay không và liệu HS có thể sử dụng từ vựng và ngữ pháp thường gặp để tạo câu được hay không.
GVKS không cần phải sử dụng tất cả thẻ. Hãy chọn ra thẻ để dùng tùy theo thời gian thực hiện và tình hình của HS.



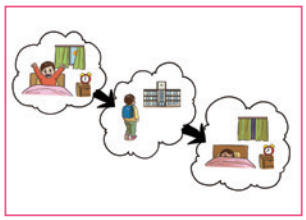
❶ Thẻ Lớp học

Xem HS có thể sử dụng động từ chỉ tồn tại (có ...) và những danh từ chỉ vị trí (trên …) để mô tả sự tồn tại của người/đồ vật hay không.
Với HS lớp 2 trở lên, GVKS yêu cầu HS xem đồng hồ và hỏi về thời gian.



❷ Thẻ Thể thao

Xem HS có thể trả lời câu hỏi bằng cách sử dụng các mẫu câu: nói về kinh nghiệm quá khứ (đã từng .../ chưa từng ...); nói về khả năng có thể (có thể .../ không thể ...); nói về sở thích (thích .../ không thích ...) hoặc so sánh (thích A hơn B) hay không.



❸ Thẻ Một ngày cua em <Thức dậy> <Đi học> <Đi ngủ>

Xem HS có thể mô tả trình tự các hành động diễn ra hay không.



❹ Thẻ Ước mơ tương lai

Xem HS có thể sử dụng mẫu câu chỉ mong muốn (muốn...) để kể về ước mơ tương lai của mình hay không. GVKS hỏi thêm về cả lý do.

◇ Bộ thẻ "Đối thoại" dùng để xem liệu HS có thể trò chuyện chủ động và dẫn dắt đối thoại theo tình hình hoặc tình huống hay không. Phần này được thực hiện theo hình thức nhập vai (trở thành một nhân vật nào đó để nói chuyện). GVKS phân vai giáo viên hoặc bạn bè của HS.
GVKS không cần phải sử dụng tất cả thẻ. Hãy chọn ra thẻ để dùng tùy theo thời gian thực hiện và tình hình của HS.



❺ Thẻ Xin phép

A: Xem HS có thể xin phép giáo viên cho đi vệ sinh khi đang trong giờ học hay không.
B: Xem HS có thể nhờ giáo viên/bạn bè cho mượn sách giáo khoa khi lỡ quên sách ở nhà hay không.



❻ Thẻ Thầy giáo mới

Xem HS có thể tự giới thiệu bản thân với thầy giáo mới và có thể hỏi han thầy giáo mới hay không.



❼ Thẻ Rủ bạn cùng chơi

Xem HS có thể rủ bạn cùng chơi hay không, và quan sát khả năng dẫn dắt đối thoại của HS (Có thể chủ động đề xuất thời gian và địa điểm hẹn hay không). (GVKS đóng giả làm bạn).

◇ Bộ thẻ “Kiến thức và tư duy” dùng để quan sát xem HS có thể tóm tắt và trình bày lại những nội dung liên quan đến các môn học. Tùy vào độ tuổi và sự phát triển của HS mà GVKS có thể chọn ra thẻ để thực hiện.
Với HS cấp 2, cấp 3, trong trường hợp không tìm thấy thẻ tranh phù hợp với tình hình của HS, GVKS dựa trên tham khảo tình hình học tập ở nước mà HS được sinh ra và có thể yêu cầu HS trình bày về một khái niệm nào đó đã từng được học trong một môn học mà HS đó học giỏi.



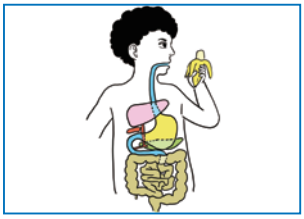
❽ Thẻ Kể chuyện

Cho HS chọn ra 1 trong 3 hình ảnh quen thuộc trong thẻ tranh, và xem HS có thể kể lại câu chuyện theo trình tự hay không. Có thể cho chọn câu chuyện khác ngoài 3 câu chuyện được đề xuất.



❾ Thẻ Xe cứu hoả

Xem HS có thể mô tả về chức năng và công dụng của 2 loại xe này hay không và có thể nêu lên điểm chung và điểm khác nhau của 2 loại xe này hay không.
GVKS chú ý xem liệu HS có thể nói về điểm chung và điểm khác nhau về cả vẻ bề ngoài và về chức năng, cách hoạt động hay không.



❿ Thẻ Tiêu hoá thức ăn

Xem HS có thể mô tả về quá trình tiêu hoá thức ăn hay không. Đối với học sinh lớp 5 trở lên, GVKS quan sát xem HS có thể sử dụng các thuật ngữ môn học phù hợp với độ tuổi của HS để giải thích về cơ chế tiêu hoá hay không.



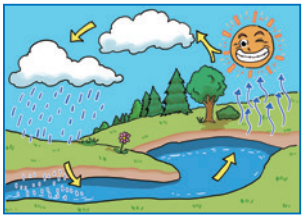
⓫ Thẻ Vấn đề môi trường

Xem khả năng giải thích về tình trạng hiện tại của trái đất của HS và xem HS có thể đưa ra ý kiến để bảo vệ trái đất của HS hay không. Đối với học sinh lớp 5 trở lên, GVKS quan sát xem HS có thể sử dụng các thuật ngữ môn học phù hợp với độ tuổi của HS để trình bày về nguyên nhân và quá trình xảy ra hiện tượng trái đất nóng dần lên hay không.



⓬ Thẻ Động đất

Xem HS có thể kể lại kinh nghiệm gặp động đất của bản thân và đưa ra ý kiến về những điều nên làm khi có động đất xảy ra hay không.
Đối với học sinh lớp 5 trở lên, GVKS quan sát xem HS có thể sử dụng các thuật ngữ môn học phù hợp với độ tuổi của HS để trình bày về nguyên nhân và quá trình xảy ra của động đất hay không.



⓭ Thẻ Vòng tuần hoàn nước

Xem HS có thể sử dụng các thuật ngữ môn học để trình bày về quá trình tuần hoàn của nước hay không. Ngoài ra, quan sát xem HS sẽ lí luận và trả lời ra sao đối với câu hỏi giả định rằng nếu như không có mặt trời (là điều kiện cần của quá trình tuần hoàn nước) thì vấn đề gì sẽ xảy ra.

⑤ Những điều cần lưu ý

Chú trọng mạch trò chuyện

- Thời gian thực hiện DLA <Nghe-Nói> chỉ mất khoảng 10-15 phút. GVKS không nên mất quá lâu, trò chuyện với HS theo tốc độ tự nhiên và nhịp nhàng.
- Không được ngắt lời, phủ định hay sửa sai cho HS trong suốt quá trình kiểm tra.
- Trong trường hợp HS không hiểu câu hỏi thì GVKS có thể nói lại chậm hơn hoặc nói lại bằng lời ngắn hơn, đơn giản hơn, nhưng không được giải thích thêm. Cứ giữ lại mạch trò chuyện và chuyển sang câu hỏi tiếp theo.
- Trong khi HS đang suy nghĩ, dù mất khá lâu để đáp lại, GVKS không nên thúc giục, cứ chờ đợi phản ứng của HS.

Tạo bầu không khí

- GVKS cần lưu tâm đến việc tạo ra bầu không khí thân thiện với HS. GVKS xem như mình đang vui vẻ trò chuyện với HS, chứ không phải là đang thực hiện kiểm tra.
- Có thể gật đầu hoặc nói những câu thể hiện sự đồng tình với cách trả lời của HS.

Không chấm điểm trong khi trò chuyện

- Không chấm điểm và điền bảng đánh giá trước mặt HS. Xong hết tất cả các khảo sát thì mới bắt đầu chấm điểm.
- Cần thực hiện ghi âm hoặc quay video để lưu trữ và đánh giá chính xác.

Kết thúc bằng lời khen

- Dù HS ở trình độ nào đi nữa, GVKS cũng nên đánh giá cao về việc "HS nói tiếng Việt" và khen ngợi HS khi kết thúc cuộc trò chuyện.

⑥ Phương pháp chấm điểm

- Sau khi kế thúc phần "Nghe-Nói" xong, GVKS xem lại nội dung đã ghi âm hoặc quay.
- GVKS kiểm tra HS có thể làm được những điều gì và có thể làm đến mức độ nào theo các quan điểm dựa trên Bảng đánh giá (tr. 150).
- GVKS tham khảo cả tỉ lệ đạt của phần <Trò chuyện mở đầu> và tỉ lệ trả lời đúng của phần <Kiểm tra khả năng từ vựng>.
- Đánh giá đối chiếu với cấp độ trên "Khả năng ngôn ngữ bao quát để hỗ trợ tư duy, phán đoán và thể hiện (khả năng đa ngôn ngữ)" trong "Ma trận phát triển và tiếp thu ngôn ngữ cho học sinh CLD" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) từ quan điểm bao quát và đa chiều. Trong "Khả năng ngôn ngữ bao quát để hỗ trợ tư duy, phán đoán và thể hiện (khả năng đa ngôn ngữ)" sẽ xem xét "những gì HS có thể làm được khi sử dụng tiếng Việt" và "những gì HS có thể lầm được khi sử dụng tiếng Nhật" một cách bao quát.
- DLA không phải là một bài kiểm tra tiêu chuẩn để chấm điểm trình độ thông thạo ngôn ngữ của HS và xếp hạng kết quả đó. Đây là thông qua đối thoại để quan sát những gì HS "có thể làm được" khi sử dụng ngôn ngữ và "có thể làm được gì khi nhận được sự hỗ trợ", đồng thời dựa vào kết quả đó chúng ta có thể lập kế hoạch hỗ trợ học tập hiệu quả.
- Vì vậy, thay vì chấm điểm các kết quả đạt được ở đây, thì GVKS cần phải nắm bắt cấp độ của HS từ góc nhìn bao quát và đa chiều, và lập kế hoạch hỗ trợ học tập để HS có thể nâng cao lên giai đoạn tiếp theo.

Giao tiếp cơ bản

Không cần phải sử dụng tất cả 4 cái thẻ. GVKS có thể chọn ra thẻ để dùng tùy theo tình hình hoặc nhu cầu. Trong trường hợp GVKS biết trước là HS có khả năng giao tiếp lưu loát thì có thể bỏ quả mục này.

Lời thoại của GVKS	Chú ý
❶ Thẻ Lớp học	
● Bây giờ em hãy xem bức tranh này và trò chuyện với thầy/cô nhé. Có gì không biết thì em hãy nói với thầy/cô là "em không biết" nhé. Giờ mình bắt đầu nào. ① Đây là đâu thế nhỉ? ② Ở trong phòng này em thấy có những gì? ③ Có bàn của thầy/cô giáo không? ④ Thế còn ghế của thầy/cô giáo thì sao? ⑤ Có thầy/cô giáo ở đây không nhỉ? ⑥ Thế còn học sinh thì sao? ⑦ Cái bút nằm ở đâu nhỉ? ⑧ Thế đồng hồ thì có không nhỉ? ⑨ Thế đồng hồ đang chỉ mấy giờ, em có biết không?	・Không thay đổi thứ tự câu hỏi. ・Về câu ④, chỉ hỏi "sao?" để HS sự dùng động từ "có". ・Về câu ⑥, chỉ hỏi "sao?" để HS sự dùng động từ "có". ・Về câu ⑦, trong trường hợp HS vừa trả lời "đây" vừa chỉ tay vào thẻ tranh, thì GVKS úp xuống cái thẻ và hỏi lại câu hỏi một lần nữa sao cho HS giải thích vị trí của cái bút (trên bàn) bằng lời nói. ・Về câu ⑦, có thể nói "cái bút"/"bút chì". ・Về câu ⑧, trong trường hợp HS đã nêu lên đồng hồ trong câu ② thì GVKS không hỏi mà là chỉ xác nhận lại như "Như em đã nói, ở đây có đồng hồ phải không?". ・Đối với HS lớp 1, không hỏi câu ⑨.
❷ Thẻ Thể thao	
① Em có thích chơi thể thao (trò chơi vận động) không? ② Em biết chơi môn (chơi trò) gì nhỉ? ③ Còn "tên môn thể thao" thì sao? ④ Em đã từng chơi "tên môn thể thao" bao giờ chưa? ⑤ "tên môn thể thao" và "tên môn thể thao", em thích cái nào hơn?	・Về câu ①, nếu HS chưa quen từ "thể thao" thì GVKS có thể dùng từ "trò chơi vận động". ・Về câu ③, với HS chưa biết tên các môn thể thao (chủ yếu là HS lớp 1-2), GVKS có thể chỉ tay vào tranh và nói "trò này/cái này" để hỏi câu hỏi. ・Về câu ③, chỉ hỏi "sao?" để HS sự dùng mẫu câu "có thể ... được/không thể ... được".
❸ Thẻ Một ngày cua em <Thức dậy> <Đi học> <Đi ngủ>	
① Sáng nay em thức dậy lúc mấy giờ? ② Sau đó thì em làm gì? ③ Bình thường thì mấy giờ em đi ngủ? ④ Đi học về thì em thường làm gì ở nhà cho đến khi đi ngủ?	・Câu hỏi ① hỏi về thời gian. ・Câu hỏi ③ xem HS có thể miêu tả thói quen hàng ngày hay không. ・Câu hỏi ④ xem HS có thể sử dụng kết cấu chuỗi động từ hay không.
❹ Thẻ Ước mơ tương lai	
① Trong tương lai/Lớn lên, em muốn làm nghề gì? ② Vậy thì tại sao?	・Về câu ①, nếu HS không nói được tên nghề nghiệp, GVKS có thể hỏi lại "em muốn làm gì?". Hoặc GVKS có thể cung cấp sự lựa chọn như "Giáo viên thì em thấy thế nào?", cũng có thể chỉ tay vào tranh và nói "nghề này thì sao?" v.v..

Nếu HS hầu như không trả lời được thì tạm dừng tại đây.

Mình nghỉ ở đây nhé. Cảm ơn em nhé!

Nếu HS có thể trả lời được gần như các câu hỏi thì chuyển sang bài tiếp theo. Tùy theo tình hình (thời gian thực hiện) hoặc nhu cầu, GVKS quyết định thực hiện cả bài "Đối thoại" hay bỏ qua bài "Đối thoại" và chuyển sang bài "Kiến thức và tư duy".

Đối thoại

Không cần phải sử dụng tất cả 3 cái thẻ. GVKS có thể chọn ra thẻ để dùng tùy theo tình hình hoặc nhu cầu. Trong trường hợp GVKS biết trước là HS có khả năng đối thoại lưu loát thì có thể bỏ quả mục này.

Lời thoại của GVKS	Chú ý
❺ Thẻ Xin phép	
A ① Ấy chết, đang trong giờ học mà em lại muốn đi vệ sinh (bị đau bụng). Thế lúc này em nên nói gì với thầy/cô nhỉ? Giả sử thầy/cô là thầy/cô giáo nhé. B ① Em nhỡ quên sách giáo khoa Toán ở nhà mất rồi, nên muốn được xem nhờ sách của bạn bên cạnh. Vậy thì em nên nói thế nào với bạn bên cạnh nhỉ?	A ・GVKS chỉ tay vào hình vẽ của học sinh bị đau bụng /muốn đi vệ sinh và hỏi HS. ・Xem HS có thể xin phép với giáo viên hay không. B ・GVKS chỉ tay vào hình vẽ của sách giáo khoa và hỏi HS. ・Xem HS có thể yêu cầu bạn bè giúp đỡ hay không.
❻ Thẻ Thầy giáo mới	
① Từ hôm nay lớp mình sẽ có thầy giáo mới. Trước tiên, em giới thiệu về mình cho thầy giáo biết nhé. Sau đó, em thử hỏi thầy 2 câu hỏi có được không? Thầy/Cô sẽ đóng làm thầy giáo mới đây.	・GVKS sẽ đóng vai làm thầy giáo mới. ・Nếu HS có vẻ không biết nói gì để "giới thiệu về mình" thì GVKS có thể gợi ý như "tên gì?" "lớp mấy?" v.v.. hoặc cũng có thể động viên bằng cách nói giúp "Em tên là...?" v.v..
❼ Thẻ Rủ bạn cùng chơi	
① Hôm nay, sau khi tan học thì em muốn chơi cùng với bạn ○○. Em gặp bạn ở tủ thay giày, vậy em rủ bạn cùng chơi thử xem nhé.	・Ở phần "Trò chuyện mở đầu" đã có hỏi tên bạn của HS, GVKS dùng đúng tên của bạn để đặt câu hỏi. Lúc này GVKS sẽ đóng giả làm người bạn ấy của HS. ・Đây chính là bài tập để xem HS có thể chủ động bắt mở đầu câu chuyện, rủ rê, chọn thời gian và địa điểm v.v.. hay không rồi xem HS sẽ kết thúc câu chuyện như thế nào. Vì thế GVKS cần phải lưu ý không được nắm thế chủ động ở bài này.

Nếu HS hầu như không trả lời được thì tạm dừng tại đây.



Mình nghỉ ở đây nhé. Cảm ơn em nhé!

Nếu HS có thể trả lời được gần như các câu hỏi thì chuyển sang bài "Kiến thức và tư duy".

Kiến thức và tư duy

GVKS cần phải chọn ra thẻ để dùng tùy theo độ tuổi của HS. Với HS cấp 2, cấp 3, trong trường hợp không tìm thấy thẻ tranh phù hợp với tình hình của HS, GVKS dựa trên tham khảo tình hình học tập ở nước mà HS được sinh ra và có thể yêu cầu HS trình bày về một khái niệm nào đó đã từng được học trong một môn học mà HS đó học giỏi.

Lời thoại của GVKS	Chú ý
❽ Thẻ Kể chuyện (Dành cho học sinh lớp 1-4)	
① Có một em nhỏ đang muốn nghe kể chuyện, em kể cho em nghe nhé.	・Chọn một câu chuyện quen thuộc đối với HS. Nếu không có câu chuyện quen thuộc trong thẻ tranh, GVKS có thể cho HS chọn câu chuyện khác.
❾ Thẻ Xe cứu hoả (Dành cho học sinh lớp 1-4)	
① Xe này tên gọi là gì, em có biết không? ② Xe này làm những việc gì nhỉ? Xe này dùng để làm gì nhỉ? ③ Hai xe này giống nhau ở điểm nào/khác nhau ở điểm nào?	・GVKS lần lượt chỉ tay vào hình hai chiếc xe và hỏi HS. Nếu học sinh không biết tên gọi thì GVKS có thể cho biết tên để chuyển sang câu hỏi tiếp theo. ・Câu ③ hỏi về điểm chung và điểm khác nhau giữa 2 loại xe. Có thể có HS không để ý đến điểm khác nhau về chức năng mà chỉ trả lời về điểm khác nhau về ngoại hình.
❿ Thẻ Tiêu hoá thức ăn	
① Những thức ăn mà người" này đã ăn thì sẽ ra sao? ② Em hãy giải thích về quá trình tiêu hoá. (Dành cho học sinh lớp 5 trở lên).	・Đối với HS lớp 4 trở xuống, xem HS có thể nói về quá trình tiêu hoá hay không. Còn đối với HS lớp 5 trở lên, xem HS có thể sử dụng các thuật ngữ môn học phù hợp với độ tuổi để trình bày hay không.
⓫ Thẻ Vấn đề môi trường (Dành cho học sinh lớp 3 trở lên)	
① Đây là tranh về cái gì gì? ② (Vừa chỉ tay vào từng hình vẽ) "Đây là gì?" ③ Trái đất đang khóc này. Em có biết lý do tại sao không? ④ Theo em nghĩ, chúng ta nên làm như thế nào/có thể làm được điều gì để trái đất không phải khóc nữa? ⑤ Bức tranh này nói về hiện tượng nóng lên toàn cầu. Em hãy giải thích về việc xảy ra hiện tượng này. (câu hỏi chủ yếu dành cho học sinh lớp 5 trở lên).	・Câu ① xem HS nhận ra chủ đề của tranh này là vấn đề môi trường hoặc hiện tượng nóng lên toàn cầu hay không, HS có từ vựng liên quan đến chủ đề này không. ・Nếu HS có thể trả lời câu hỏi ① thì có thể bỏ qua câu hỏi ②. Nếu không, GVKS cho HS xem từng hình vẽ và hỏi đó là gì (Trái đất, chặt cây, khí thải ô tô, khí thải từ nhà máy) ・HS không nói từ "hiện tượng nóng lên toàn cầu" trong câu hỏi ① thì GVKS nói cho HS biết về tên gọi của hiện tượng trong câu hỏi ⑤. Và xem HS có thể sử dụng các thuật ngữ môn học phù hợp với độ tuổi để trình bày nguyên nhân và quá trình xảy ra hay không.
⓬ Thẻ Động đất (Dành cho học sinh lớp 3 trở lên)	
① Em gặp động đất bao giờ chưa? ② Nếu đang ở trường học mà có động đất thì em sẽ làm sao? ③ Ở trường em đã học về hiện tượng động đất chưa? Em hãy giải thích về quá trình xảy ra động đất. (cau hỏi chủ yếu dành cho học sinh lớp 5 trở lên)	・Về câu ①, Nếu bản thân HS chưa gặp động đất bao giờ thì GVKS hỏi HS về kinh nghiệm của bố mẹ. ・Về câu ③, xem HS có thể sử dụng các thuật ngữ môn học phù hợp với độ tuổi để trình bày nguyên nhân và quá trình xảy ra hay không.
⓭ Thẻ Vòng tuần hoàn nước (Dành cho học sinh lớp 5 trở lên)	
① Em hãy giải thích về dòng chảy của nước. ② Theo em thì nước mà chúng ta đang uống là lấy từ đâu? ③ Nếu như không có mưa/không có mặt trời, thì theo em nghĩ trái đất sẽ ra sao?	



Mình nghỉ ở đây nhé. Cảm ơn em nhé!

Bảng đánh giá

Ngày Tháng Năm

Họ tên học sinh

Năm học/ tuổi tác Lớp (tuổi)

Về khả năng nghe-nói tiếng Việt, GVKS xem xét HS có thể làm được những điều gì và làm được đến mức độ nào theo các quan điểm trong bảng dưới đây.
Đối chiếu nội dung bảng này với "Ma trận phát triển và tiếp thu ngôn ngữ cho học sinh CLD" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) để đánh giá cấp độ của HS.

Khả năng nghe		
Kỹ năng nghe cơ bản	Có thể nghe hiểu câu hỏi về bản thân hoặc về những chủ đề gần gũi mà người đối thoại đưa ra.	☐ Rất tốt ☐ Tốt ☐Chưa được
Phát âm và mức độ lưu loát		
Phát âm, ngữ điệu	Có thể nói được bằng phát âm và ngữ điệu tự nhiên.	☐ Rất tốt ☐ Tốt ☐Chưa được
Mức độ lưu loát	Có thể giao tiếp một cách trôi chảy.	☐ Rất tốt ☐ Tốt ☐Chưa được
Thái độ giao tiếp		
Thái độ giao tiếp	Có thể làm chủ, dẫn dắt cuộc trò chuyện.	☐ Rất tốt ☐ Tốt ☐Chưa được
Từ vựng		
Từ vựng thông thường	Có thể diễn tả và sử dụng từ vựng quen thuộc trong cuộc sống hàng ngày.	☐ Rất tốt ☐ Tốt ☐Chưa được
Chất lượng của từ vựng (Thuật ngữ môn học)	Có thể diễn tả và dùng từ ngữ thích hợp với các chủ đề (bao gồm cả thuật ngữ môn học)	☐ Rất tốt ☐ Tốt ☐Chưa được
Mức độ sử dụng đúng ngữ pháp		
Mức độ sử dụng đúng ngữ pháp	Có thể nói đúng ngữ pháp.	☐ Rất tốt ☐ Tốt ☐Chưa được
Chất lượng của câu và phân đoạn		
Tạo câu văn	Có thể tự đặt câu đơn.	☐ Rất tốt ☐ Tốt ☐Chưa được
Chất lượng của đoạn văn	Có thể dùng cả câu đơn, câu phức và tạo thành đoạn văn.	☐ Rất tốt ☐ Tốt ☐Chưa được
Nội dung và bố cục câu chuyện		
Mức độ đạt được	Có thể hoàn thành bài tập được giao.	☐ Rất tốt ☐ Tốt ☐Chưa được
Trình tự trò chuyện	Có thể trình bày theo trình tự và nói liền các nội dung.	☐ Rất tốt ☐ Tốt ☐Chưa được
Nội dung và bố cục câu chuyện	Có thể trình bày câu chuyện với nội dung phong phú, có bố cục mạch lạc, nêu lý do để giải thích sự việc, đưa ý kiến cá nhân v.v..	☐ Rất tốt ☐ Tốt ☐Chưa được

スペイン語
Español



日本とボリビアでさまざまなものをおくりあったり、ゆずりあったり、たすけあったりして、たくさんのこうりゅうをしてなかよくひとつにまとまることをねがいました。

1. DLA multilingüe

❶ Objetivo de la DLA

- La DLA (Evaluación Dialógica del Lenguaje) no es una prueba para puntuar o clasificar únicamente los conocimientos lingüísticos que poseen los alumnos con Diversos Lenguajes y Culturas (alumnos CLD).
- Esta herramienta de evaluación pretende comprender, a través del diálogo, lo que los alumnos CLD "pueden hacer" con el lenguaje y lo que "pueden hacer con apoyo", no sólo lo que "pueden hacer por sí solos".
- Se trata de obtener por medio de conversaciones individuales con los alumnos CLD, brindándoles distintos apoyos para comprender cómo están aprendiendo, qué tipo de apoyo sería necesario para facilitar su aprendizaje, así como fomentar su deseo de aprender.
- El objetivo es utilizar la información obtenida para orientar y apoyar el aprendizaje posterior.

❷ Importancia de la DLA multilingüe.

- Para captar la "máxima potencia" de los alumnos de CLD, es esencial medir no sólo el dominio del idioma japonés en el proceso de aprendizaje, sino también el dominio de la lengua materna.
- La DLA se desarrolla basándose en la teoría de la educación bilingüe. Por lo tanto, puede aplicarse en varios idiomas, así como en japonés. Este folleto contiene el DLA <Primeros pasos> y el DLA <Escuchar y hablar> en portugués, chino, filipino, vietnamita, español, inglés, nepalí y ruso. Si la persona que apoya a los alumnos CLD es capaz de hablar su lengua materna, deberá utilizar activamente las DLA multilingües cuando sea necesario.
- Este folleto no contiene el DLA <Leer> en varios idiomas, ya que la medición de la capacidad de lectura requiere textos específicos para cada nivel en los idiomas respectivos, no textos traducidos. Si desea medir las habilidades de lectura de los alumnos CLD en su lengua materna, puede aplicar el procedimiento DLA <Leer>, pero deberá preparar textos en cada centro que sean apropiados para la edad y el nivel de lengua materna de los alumnos CLD. Por ejemplo, se pueden utilizar textos narrativos o explicativos de los libros de texto de lenguaje en la lengua materna de los alumnos CLD.
- En cuanto a las habilidades de escribir, es preferible evaluar las habilidades de escritura mediante la observación de actividades de aprendizaje como la composición en clase, en lugar de en un formato de prueba, hasta que los estudiantes sean capaces de escribir libremente composiciones de temas libres. Para los alumnos de CLD que puedan escribir composiciones temáticas libremente por su cuenta, consulte las tareas de composición de las págs.186-199 de la "Matriz de desarrollo y adquisición del lenguaje para alumnos de CLD" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) (MEXT, 2025)

❸ Diagrama de desarrollo de la realización de la DLA multilingüe.

DLA <Primeros pasos> (5 minutos)

Conversación de introducción → Comprobación de vocabulario

DLA <Escuchar y Hablar> (10~15 minutos)

＊Seleccione unas tarjetas y aplíquelas.

Tarea básica → Terminar de acuerdo al nivel

↓

Tarea de dialogo

↓

Tarea cognitiva → Terminar de acuerdo al nivel

↓

DLA <Leer> (10~25 minutos)

＊ Se aplica si los alumnos CLD saben leer y pueden preparar textos aptos a su nivel en su lengua materna.

Procedimiento de implementación de la DLA <leer>.
-Selección de textos
-Predicción/adivinación
-Lectura en voz alta de la sección especificada y, a continuación, leer hasta el final (lectura en voz alta o en silencio).
-Intercambio de la reproducción de la sinopsis y confirmación de la comprensión.
-Preguntas sobre la lectura

↓

Evaluación con respecto a la etapa de “Competencias lingüísticas globales (competencia en varias lenguas) en apoyo del pensamiento, el juicio y la expresión” de la "Matriz de desarrollo y adquisición del lenguaje para alumnos de CLD" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) (MEXT, 2025)

2. DLA <Primeros pasos>

① Objetivo

- El objetivo de la DLA (Primeros Pasos) en español es captar las capacidades básicas de conversación en español a través de una "conversación de introducción" sobre saludos "Matriz de desarrollo y adquisición del lenguaje para alumnos de CLD" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) (MEXT, 2025), y una "comprobación de vocabulario básico" que consiste de 55 preguntas.
- Al mismo tiempo, tiene como objetivo tratar de conocer mejor el entorno de vida y lingüístico del niño.
- También tiene como objetivo establecer una relación de confianza entre el niño y el implementador de DLA creando un ambiente positivo para que el niño participe proactivamente en la DLA.

② Dirigido

- Está dirigido para una amplia gama de niños que crecen en un entorno multilingüe, desde los que apenas pueden responder una mínima cantidad de español hasta los que pueden hablarlo con fluidez.
- En particular, está pensado para determinar el nivel lingüístico más avanzado del niño alumno.

③ Configuración

- Consiste en una "Conversación introductoria", relativa a los primeros saludos y al niño mismo, y de una "Comprobación de vocabulario", que consta de 55 preguntas que cubren vocabulario básico con sustantivos, verbos y adjetivos.
- Los sustantivos de "comprobación de vocabulario" son palabras de vocabulario que los niños suelen escuchar y utilizan en la vida cotidiana, como partes del cuerpo, alimentos, plantas y animales, y objetos de la escuela. Incluyen una serie de vocabulario de alta y baja frecuencia para los niños, como "ojos" y "pestañas", "boca" y "labios", así como vocabulario que representa el todo y una parte, como "vaca" y "cuernos", "árbol", "hoja" y "rama". Los verbos y los adjetivos utilizados son vocabulario al que los niños están expuestos diariamente en la vida escolar y en casa.

④ Procedimiento de realización

Preparativos previos a la realización

- Recortar las tarjetas de vocabulario de la DLA (p.236-242) de la Referencia 1 al final del libro y convertirlas en tarjetas, numerándolas por orden y fijándolas con anillas o importando los datos a una tableta para poder presentarlas de una por una.
- Practicar de antemano el hojeo de las tarjetas de vocabulario para hacerlo en buen ritmo. Vea el vídeo del modelo de cómo realizar la DLA (DVD) para hacerse una idea de la actitud y el ritmo del implementador.
- Prepare la Guía práctica (p.157-158) de la DLA (Primeros Pasos), tarjetas de vocabulario de la DLA (Primeros Pasos) para presentar de una en una, equipo de grabación de audio o video y papel de notas a mano.

Cómo sentarse

- No sentarse frente al niño, sino en la esquina del escritorio del niño, sin mirarle directamente. De este modo, compartirá la tarjeta y el espacio con el niño, lo que puede ayudar a reducir la intimidación.

Dirigir el diálogo

- Verificar el estado del equipo de grabación de audio o video está en buenas condiciones y enciéndalo antes de iniciar el diálogo.
- Siga la guía práctica de la DLA (Primeros pasos) (p.157-158) y realizar en la orden de “Conversación de introducción” y “Comprobación de vocabulario”.
- Si se intenta la DLA (Primeros Pasos) pero no se han desarrollado suficientemente las habilidades básicas de conversación y se considera difícil continuar, finalizar el curso aun estando a mitad de la "Conversación de introducción" o de la "Comprobación de vocabulario".

⑤ Puntos a tener en cuenta sobre la realización

Centrarse en el flujo

- La DLA <Primeros pasos> dura unos cinco minutos. Aunque el habla del implementador debe ajustarse al nivel del niño, el diálogo debe ser de una velocidad lo más natural y a buen ritmo posible.
- No interrumpa, niegue ni corrija las expresiones del niño durante el proceso.
- En caso de tratarse de un niño con el que tiene contacto habitual y no necesita un “Saludos del primer encuentro” (Presentación) al principio de la sesión puede omitirla.
- Si el niño no entiende la pregunta, repítala lentamente. Si sigue sin entenderla, puede cambiar a una forma más corta y sencilla. Pero no añada explicaciones. Seguir adelante sin detener el flujo.
- Si el niño se queda atascado o se equivoca con una respuesta en la “Comprobación de vocabulario”, no le diga la respuesta correcta ni le corrija, sino que pase rápidamente a la siguiente tarjeta. Si el niño expresa su deseo saber la respuesta, puede hacerlo.
- Si el niño está tarda en pensar o en responder, no lo apresure y espere a que responda.

Crear un buen ambiente

- Incluso los niños que dominan el lenguaje hablado pueden sentirse nerviosos o mostrar signos de rechazo en las interacciones individuales con los adultos. Intente crear un ambiente amistoso. No realice la prueba como un examen, sino como un diálogo en el que disfrute con el niño.
- Reaccionar a las respuestas del niño con un gesto de asentimiento o un gesto con la cabeza.
- Para el implementador, los <Primeros pasos> es también una importante actividad de calentamiento. Hay que ser consciente de que se está intentando sonsacar la mayor cantidad de expresiones del niño. Es importante asumir el papel de facilitador (papel de sonsacar) más que el de profesor.

No se califica durante el diálogo

- No califique ni evalúe delante del niño. Además, como la DLA <Primeros Pasos> continúa con la DLA <Escuchar y Hablar> y la DLA <Leer>, las evaluaciones deben hacerse después de que se hayan completado todos los procesos.
- Grabe en audio o video para una evaluación y registro preciso.

Terminar con elogios

- Sea cual sea el nivel, al final, termine valorando altamente y en forma positiva el hecho que "habló" en español.

⑥ Consejos para el siguiente paso

- Si considera que, en general, puede completar la "Conversación de introducción" y "Comprobación de vocabulario" al menos en un 70-80%, o mas puede pasar al siguiente paso; si está por debajo del 20-30%, no siga adelante y de por finalizado. Si tiene dificultades para tomar una decisión en algún punto intermedios, intente avanzar un poco más y tome una decisión.
- Como se menciona en el apartado (4) de este capítulo, dependiendo del dominio que tenga el niño del español, la DLA <Primeros pasos> puede darse por finalizado aún estando por la mitad.

⑦ ¿Cuándo y cómo evaluar?

- La evaluación del DLA <Primeros pasos> se realiza en conjunto, después de finalizar la DLA <Escuchar y Hablar> que sigue.
- Revisando la grabación de audio o video, anote cuánto ha conseguido utilizando la DLA<Primeros Pasos> Nota de evaluación (p.159).
- Para evaluar la «comprobación de vocabulario», consulte la «Lista de respuestas correctas e incorrectas» (p.161) de la comprobación de vocabulario.
- Evaluar la etapa de "Capacidad lingüística global para apoyar el pensamiento, el juicio y la expresión (capacidad en varias lenguas)" del "Matriz de desarrollo y adquisición del lenguaje para alumnos de CLD" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) desde una perspectiva global y multifacética.

Conversación de introducción

❶ Saludos de primer encuentro：



Hola. Yo soy (auto presentación).

❷ Explicación：Explique lo que va a hacer de una forma divertida que motive al niño.



A partir de ahora, me gustaría saber cuánto puedes hablar en español, ○○. Por favor, dime todo lo que entiendas. Si no entiendes, di “No entiendo”. ¿De acuerdo?

❸ Preguntas：

・Proceda con las preguntas en el siguiente orden.



① Enséñame tu nombre./¿Cuál es tu nombre?
② ¿En qué grado estás?
③ ¿Cuánto años tienes?/¿Cuál es tu edad?
④ ¿Cuándo es tu cumpleaños?
⑤ ¿Tienes hermano(a) mayor (menor)?

・Sobre el trato hacia los hermanos es flexible, dependiendo de la situación de cada niño y de la estructura familiar.



⑥ ¿Tienes amigos?
⑦ Enséñame el nombre de tu amigo.
⑧ ¿A qué juegas con tus amigos?

・Asegúrese de preguntarle el nombre de su amigo, ya que lo necesitará para la tarea de la conversación. (También puede anotarlo)



⑨ ¿Te diviertes en la escuela?/¿Te gusta?
⑩ ¿Por qué?

・Si fueron a la escuela en su país de origen o a una escuela (de personas) extranjera en Japón, pueden hacer preguntas sobre lo que hicieron entonces y cómo se compara con su escuela actual (japonesa).



⑪ ¿Qué te gusta de las escuelas de Japón?
⑫ ¿Qué te disgusta de las escuelas de Japón?

・Después de ⑪ y ⑫, puede añadir preguntas de acuerdo a cada niño.



⑬ ¿Hablas español en casa?
⑭ ¿En qué idioma te habla tu madre (padre)?
¿En qué idioma le hablas a tu madre (padre)?

・Pregunte detenidamente sobre el uso del idioma en casa, ya que en muchos casos los padres hablan español y el niño sólo escucha.
También, tenga en cuenta la estructura familiar a la hora de hacer preguntas.



⑮ ¿Sabes leer en español?
¿Sabes escribir en español?

・Compruebe si domina la capacidad de leer y escribir en español. Pueden realizarse preguntas adicionales para determinar el nivel de capacidad de lectura y escritura.

Comprobación del vocabulario

❶ Si la tarjeta de vocabulario es un sustantivo(N.º de Tarjeta：1〜42)



¿Qué es esto? Bien, es un ojo, Ahora, cuando yo diga “1”, por favor di “ojo”. Si digo “2”, di esto (señalando la imagen del 2 con el dedo). Si no entiendes, di “no entiendo”. ¿De acuerdo? Ahora “1”.

❷ Si la tarjeta de vocabulario es un verbo (N.º de Tarjeta：43〜50)

・Cuando llegue a la tarjeta número 43 (nadar), diga lo siguiente,



¿Qué hace?/¿Qué está haciendo?

❸ Si la tarjeta de vocabulario es un adjetivo (N.º de Tarjeta：51〜55)

・Cuando llegue a la tarjeta número 51 (corta), diga lo siguiente,



¿Qué tipo de falda es?

・Si no entiende lo que significa “¿Qué tipo?, pregunte como sigue,



Esta es “larga”. ¿Y ésta? (señalando la imagen de “corto”.)

03

Pase a la siguiente sección……

●Si el porcentaje de logros en la conversación de introducción y la comprobación de vocabulario es de alrededor 20-30%, puede terminar aquí.



Aquí terminamos. Muchas gracias.

●Si consigue dialogar con más de la mitad de la conversación de introducción y la comprobación del vocabulario, continuar con la DLA <Escuchar y Hablar>.

＼ Nota de Evaluación ／

Conversación de introducción

año　　mes　　día

Nombre　　grado(edad)　　º(　　años)

Palabras del implementador	Pudo responder de una manera que se entienda.	Observaciones
① “Enséñame tu nombre./¿Cuál es tu nombre?”	☐	
② “¿En qué grado estás?”	☐	
③ “¿Cuánto años tienes?/¿Cuál es tu edad?”	☐	
④ “¿Cuándo es tu cumpleaños?”	☐	
⑤ “¿Tienes hermano(a) mayor (menor)?”	☐	
⑥ “¿Tienes amigos?”	☐	
⑦ “Enséñame el nombre de tu amigo.”	☐	
⑧ “¿A qué juegas con tus amigos?”	☐	
⑨ “¿Te diviertes en la escuela?/¿Te gusta?”	☐	
⑩ “¿Por qué (te diviertes/ te gusta)?”	☐	
⑪ “¿Qué te gusta de las escuelas de Japón?”	☐	
⑫ “¿Qué te disgusta de las escuelas de Japón?”	☐	
⑬ “¿Hablas español en casa?”	☐	
⑭ “¿○○, en qué idioma te habla tu mamá (papá)?” “¿○○, en qué idioma le hablas a tu mamá (papá)?”	☐	
⑮ “¿Sabes leer español? ¿Sabes escribir español?”	☐	
Cantidad de respuestas que se entienden／Cantidad de preguntas		／15
Porcentaje de logros	⇒	%

Nota de Evaluación

año mes día

Nombre grado(edad) º(años)

N.º	Vocabulario	Correcto	Incorrecto	Obs.	N.º	Vocabulario	Correcto	Incorrecto	Obs.
1	ojo	☐	☐		30	escritorio	☐	☐	
2	pestañas	☐	☐		31	cajón	☐	☐	
3	boca	☐	☐		32	pizarra	☐	☐	
4	labios	☐	☐		33	borrador de pizarra	☐	☐	
5	mano	☐	☐		34	mapa	☐	☐	
6	pulgar	☐	☐		35	tijeras	☐	☐	
7	uña	☐	☐		36	cuaderno	☐	☐	
8	nariz	☐	☐		37	conductor	☐	☐	
9	uva	☐	☐		38	médico	☐	☐	
10	huevo	☐	☐		39	bombero	☐	☐	
11	camarón	☐	☐		40	autobús	☐	☐	
12	leche	☐	☐		41	avión	☐	☐	
13	vaca	☐	☐		42	ala	☐	☐	
14	cuerno (de vaca)	☐	☐		43	nadando	☐	☐	
15	cola (de perro)	☐	☐		44	escribiendo letras	☐	☐	
16	gallina	☐	☐		45	cepillándose los dientes	☐	☐	
17	caballo	☐	☐		46	vestirse	☐	☐	
18	elefante	☐	☐		47	levantarse	☐	☐	
19	ratón/rata	☐	☐		48	sentarse	☐	☐	
20	bigotes (de gato)	☐	☐		49	limpiar	☐	☐	
21	árbol	☐	☐		50	enojarse	☐	☐	
22	hoja	☐	☐		51	corto	☐	☐	
23	rama	☐	☐		52	delgado	☐	☐	
24	ventilador	☐	☐		53	ligero	☐	☐	
25	teléfono	☐	☐		54	frío	☐	☐	
26	puerta	☐	☐		55	alto	☐	☐	
27	techo	☐	☐		Cuenta	Cantidad de respuestas correctas (en porcentaje)	(	／55 %)	
28	escalera	☐	☐						
29	ventana	☐	☐						

Lista de respuestas correctas e incorrectas

No.	Categoría	Respuesta correcta	Tolerancia	Ejemplo de uso incorrecto
1	I Partes del cuerpo	ojo		
2		pestaña		cejas
3		boca		
4		labio		
5		mano	palma de la mano	
6		pulgar	dedos, las yemas de los dedos, dedo gordo	
7		uña		
8		nariz		
9	II Alimentos	uva		
10		huevo	huevo de gallina	
11		camarón	cangrejo de rio, langosta, langostino, gamba	
12		leche	leche de vaca	
13	III Animales y plantas	vaca		
14		cuerno (de vaca)		vaca
15		cola (de perro)		perro
16		gallina	pollo	
17		caballo		
18		elefante		
19		ratón	hámster, rata	
20		bigotes (de gato)		pelo de gato
21		árbol		
22		hoja		
23		rama	rama de árbol	palo de madera
24	IV Equipo	ventilador	abanico	
25		teléfono	celular, teléfono móvil, smartphone, teléfono inteligente	
26	V Partes de la casa	puerta		portón
27		techo	teja, tejado	casa, cabeza de casa, arriba de casa
28		escalera		corredor
29		ventana		
30	VI Lo que hay en la escuela	escritorio	mesa, pupitre	
31		cajón	gaveta	dentro del escritorio
32		pizarra		sala de clase
33		borrador de pizarra		borrador de goma, borrador de caucho
34		mapa	mundo, tierra	
35		tijeras		
36		cuaderno	libro de texto, libro	
37	VII Prefosiones	conductor	persona que conduce, chófer	
38		médico	doctor, doctor de hospital	
39		bombero	bomberos, persona del camión de bomberos	estación de bomberos
40	VIII Vehículos	autobús	bus, ómnibus, colectivo, micro, autocar, guagua, buseta	carro, coche
41		avión	aeroplano, aeronave, jet, jumbo	
42		ala	alas de avión	
43	IX Actividades en la vida escolar	nadando	nadar, natación, crol	
44		escribiendo letras	escribir, escribir letras, estudiar, hacer la tarea	lápiz, dibujar
45	X Actividades en la vida cotidiana	cepillándose los dientes	cepillarse, cepillarse los dientes	cepillo de dientes
46		vestirse	se viste, se pone la ropa, se cambia, se cambia la ropa	
47		levantarse	se levanta, está levantándose, se ha levantado, levántate	no duerme
48		sentarse	se sienta, está sentado, se sienta en una silla, toma asiento	
49	XI Acción de trabajo	limpiar	asear, limpieza, aseo	
50	XII Acción emocional	enojarse	enfadarse, molestarse, está enojado, mal humor	malo, da miedo
51	XIII Adjetivos	corta		falda, no larga
52		delgado	fino	palo, no grueso
53		ligero		bolso, marrón, bolsa, no pesa
54		frío		
55		alto	estatura alta	adulto

3. DLA <Escuchar y Hablar>

❶ Objetivo

- El objetivo de la DLA <Escuchar y Hablar> en la lengua española es captar en qué medida la capacidad lingüística en español constituye la base para el aprendizaje de la lengua académica así como la capacidad de escritura y lectura.
- DLA <Escuchar y Hablar> tiene como objetivo proporcionar una visión integral y multifacética evaluando las habilidades de conversación desde tres aspectos: conversación básica, diálogo y cognición.

❷ Dirigido

- DLA <Escuchar y Hablar> está dirigido a niños de todos los niveles que crecen en un entorno multilingüe, desde los que apenas pueden comunicarse en español hasta los que lo hablan con fluidez.
- Especialmente se realiza cuando existe una gran necesidad de evaluar el nivel de capacidad de escuchar y hablar en español.
- Sin embargo, esto no puede realizar con los niños que no han podido responder la mayor parte de la DLA (Primeros Pasos) en español.

❸ Composición

- Está compuesta por 3 tareas: la “Tarea básica”, la “Tarea de diálogo” y la “Tarea cognitiva”.
- La “Tarea Básica” evalúa las habilidades conversacionales básicas para crear y responder a frases sobre temas familiares relacionados a sí mismo y su vida cotidiana, utilizando vocabulario, expresiones y gramática de alta frecuencia.
- La "Tarea de diálogo" mide la capacidad de interactuar cara a cara en respuesta a cada situación y ocasión.
- La "Tarea cognitiva" mide la capacidad cognitiva para expresar sus pensamientos y opiniones, y de dar explicaciones coherentes sobre contenidos relacionados con la asignatura estudiada.
- En la DLA <Escuchar y Hablar> se utilizan tres tipos de tarjetas con imágenes. Entre las tarjetas con imágenes del la DLA <Escuchar y Hablar> Apéndice 2, las tarjetas con recuadros color rosados son para la “Tarea básica”, tarjetas con recuadros color amarillos son para la “Tarea de diálogo” y tarjetas con recuadros color azules son para la “Tarea cognitiva”.
- Hay 4 tarjetas básicas, 3 de diálogo y 6 tarjetas cognitivas, que se seleccionan en función de la edad del niño, su nivel de lengua española y la situación (por ejemplo, el momento) en que se realiza la DLA.
- No es necesario aplicar todas las tarjetas, por lo que se recomienda consultar la <Lista de Tipos de tarjetas con imágenes y edades a las que se dirigen> (p.163) al seleccionar las tarjetas.

④ Procedimiento de realización

Preparación previa

- Recortar las "Tarjetas básicas", "Tarjetas de diálogo" y "Tarjetas de cognición" (p.243-249) de la DLA <Escuchar y Hablar> del Apéndice 2 y convertirlas en tarjetas, o importar los datos a una tableta para poder presentarlos uno por uno.
- Practique para poder pasarlas a un buen ritmo; vea el vídeo instructivo de DLA observando la actitud y el ritmo del implementador.
- Prepare la Guía práctica de DLA <Escuchar y Hablar>(págs.167-169), las tarjetas con imágenes de DLA <Escuchar y Hablar> que vaya a utilizar, un dispositivo de grabación de audio o video y papel para tomar notas.

Cómo utilizar las tarjetas y cómo sentarse

- Las tarjetas se apilan en el orden que se van a utilizar y se colocan boca abajo. Apilarlas de manera que al dar la vuelta a la tarjeta que está encima aparezca la tarjeta necesaria.
- Sentarse al otro lado de la esquina del escritorio, no frente al niño, y colocar las tarjetas de forma que sean visibles tanto para el niño como para el implementador.

Dirigir el diálogo

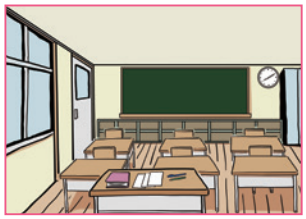
- Verificar el estado del dispositivo de grabación de audio o video y enciéndalo antes de iniciar DLA <Escuchar y Hablar>. Al continuar con DLA (Primeros pasos), la grabadora ya estará encendida.
- Siga la Guía práctica de DLA <Escuchar y Hablar>. (pp. 167-169) y realice en el orden de la "tarea básica", la "tarea de diálogo" y la "tarea cognitiva".
- Dependiendo del nivel del español, la tarea puede completarse en la "tarea básica" o en la "tarea de diálogo". A la inversa, hay casos en los que sólo se realiza la "tarea cognitiva" sin realizar la "tarea básica" ni la "tarea de diálogo", y otros casos en los que se completa todas las tarjetas y se termina hasta la "tarea cognitiva".

Tipos de tarjetas con imágenes y edades a las que se dirigen

	Tarjeta con imagen	Primaria 1º y 2º	Primaria 3º y 4º	Primaria 5º, 6º y superior
Tarea básica	❶ Salón de Clase	○	○	○
	❷ Deportes	○	○	○
	❸ Rutina diarias	○	○	○
	❹ Sueños para el futuro	○	○	○
Tarea de diálogo	❺ Preguntar al profesor	○	○	○
	❻ Nuevo profesor	○	○	○
	❼ Invitar a un amigo	○	○	○
Tarea cognitiva	❽ Cuentos infantiles	○	○	
	❾ Camiones de bomberos	○	○	
	❿ Digestión de los alimentos	○	○	○
	⓫ Problemas medioambientales		○	○
	⓬ Terremoto		○	○
	⓭ Ciclo del Agua			○

Objetivos de cada tarjeta con imagen

◇ La "Tarea básica" es una tarea que prueba la capacidad de responder a preguntas y formar frases sobre temas familiares relacionados con ellos mismos y su vida cotidiana, utilizando vocabulario y expresiones de alta frecuencia. Las tarjetas se seleccionan en función del momento de realización y de la situación del niño.



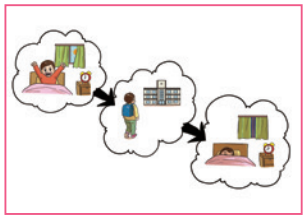
❶ Tarjeta de “Salón de clase”

Comprobar si sabe responder a preguntas sobre la existencia de objetos y personas utilizando verbos de existencia (ser/estar) y expresiones que indiquen la ubicación (en/arriba).
De 2º grado en adelante, mirando un reloj también se puede preguntar cómo se dice la hora.



❷ Tarjeta de “Deportes”

Comprobar si sabe responder a preguntas como “¿Lo has hecho antes o no?” (experiencia pasada), “¿puedes hacerlo o no?” (expresiones de posibilidad),
“¿Te gusta o no?” y “¿Qué prefieres?” (comparaciones).



❸ Tarjeta de “Rutinas diarias <despertar> <ir a la escuela> <ir a la cama>”

Examinar la capacidad de utilizar los tiempos verbales en tiempo presente (habitual) y pasado así como la capacidad de expresar acciones en secuencia.



❹ Tarjeta de “Sueño para el futuro”

Se examina la capacidad de hablar sobre sus sueños para el futuro utilizando “quiero …” (deseo). También pueden hacerle preguntas sobre el motivo de sus sueños.

◇ La «tarea de diálogo» es una tarea que sirve para comprobar la capacidad que dispone para dirigir una conversación hablando por sí mismo dependiendo de la situación o escena. La tarea se lleva a cabo en forma de juego de roles, en el que el implementador adopta el papel de un profesor o un amigo. Las tarjetas se seleccionan y utilizan en función del momento y de la situación de los niños.



❺ Tarjeta de “Preguntar al profesor”

A: Ver si puede pedir permiso para ir al baño durante la clase.
B: Ver si en el caso de que se haya olvidado un libro de texto, es capaz de solicitar uno prestado a un profesor o un amigo.



❻ Tarjeta de “Nuevo profesor”

Ver si puede presentarse y hacer preguntas a un nuevo profesor.
.



❼ Tarjeta de “Invitar a un amigo”

Ver si puede invitar a un amigo. Ver su capacidad de dirigir unaconversación (ver si él mismo puede sugerir lugares y horarios).
(el examinador desempeña el rol de amigo).

◇ La “Tarea cognitiva” sirve para evaluar la capacidad de hablar en forma coherente sobre contenidos relacionados con el aprendizaje de las asignaturas. Se selecciona las tarjetas que se utilizará dependiendo de la edad y grado escolar. En el caso de realizarlo con alumnos de secundaria y no hay tareas adecuadas en esta lista, puede pedirles que expliquen conceptos que ya hayan aprendido en su asignatura favorita, teniendo en cuenta la situación de aprendizaje en su país de origen o en otro lugar.



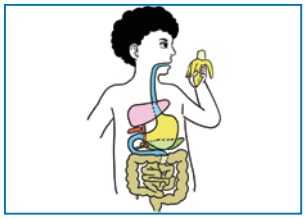
❽ Tarjeta “Cuentos infantiles”

Elegir un cuento que el niño conozca de los tres dibujos y ver si puede contar en orden la historia. Puede ser un cuento distinto de la representada en la tarjeta.



❾ Tarjeta “Camiones de bomberos”

Ver si el niño puede hablar de las semejanzas y diferencias entre los dos coches y sobre las funciones de cada uno de ellos. La atención se centra en si pueden responder sobre similitudes y diferencias de aspecto (forma) o similitudes y diferencias de función.



❿ Tarjeta “Digestión de los alimentos”

Ver si puede hablar de la digestión de los alimentos. Para alumnos mayores de 5º y 6º grado, ver si pueden explicar el mecanismo de digestión utilizando vocabulario aprendido en la asignaturas, apropiados para su edad.



⓫ Tarjeta “Problemas medioambientales”

Ver la capacidad de explicar lo que está pasando en la tierra. Ver si puede expresar su opinión sobre medidas para hacer frente a los problemas medioambientales. Para alumnos mayores de 5º y 6º grado, ver si pueden explicar las causas y los mecanismos del calentamiento global con vocabulario aprendido en la asignaturas, apropiados para su edad.



⓬ Tarjeta “Terremoto”

Ver si puede contar su experiencia con los terremotos. Ver también si puede expresar su opinión sobre qué hacer en caso de terremoto. Para los estudiantes de 5º, 6º grado y mayores, ver su capacidad para explicar las causas y los mecanismos de los terremotos utilizando el vocabulario aprendido en la asignaturas, apropiados para su edad.



⓭ Tarjeta “Ciclo del agua”

Ver si puede explicar cómo funciona el ciclo del agua utilizando el vocabulario aprendido en la asignaturas, apropiados para su edad. Al preguntar “¿Qué pasaría si no hubiera sol, que es esencial para el ciclo del agua?“ ver si el alumno puede aportar pruebas para responder a un hecho hipotético.

⑤ Puntos a tener en cuenta sobre la realización

Centrarse en el flujo

- El DLA <Escuchar y Hablar> dura unos 10 a 15 minutos. No dedique demasiado tiempo, pero mantenga el diálogo a una velocidad y un ritmo natural.
- No interrumpa, niegue ni corrija lo que dice el niño durante el proceso.
- Si el niño no entiende una pregunta, repítala lentamente. Si sigue sin entenderla, puede cambiar a una forma más corta y sencilla. Pero no añada explicaciones. y continúe sin interrumpir el flujo.
- Si el niño está pensando o tarda mucho en responder, no lo apresure y espere con calma.

Crear ambiente

- Intente crear un ambiente amistoso. No lo realice como una prueba, sino disfrutando del diálogo con el niño.
- Reaccione a las respuestas del niño mostrando su asentimiento o asintiendo con la cabeza.

No se califica durante el diálogo

- No califique ni evalúe delante del niño. Las evaluaciones se realizan después.
- Realice una grabación de audio o video para una evaluación y un registro preciso.

Termine con un elogio

- Independientemente del nivel, finalice con una valoración positiva y elogiosa de que haya "hablado" español.

⑥ Cómo evaluar

- Luego de concluir la DLA <Escuchar y Hablar>, compruebe el contenido de la grabación de audio o video.
- Utilizando la nota de evaluación de DLA <Escuchar y Hablar> (p.170), para comprobar lo que puede hacer y en qué medida según las perspectivas..
- Se evaluará también el grado de logros alcanzados en la "Conversación de introducción" de DLA <Primeros pasos> y el porcentaje de respuestas correctas en la "Comprobación de vocabulario".
- Consulte el contenido de las notas de evaluación de "Competencias lingüísticas globales (competencia en varias lenguas) en apoyo del pensamiento, el juicio y la expresión" de la "Matriz de desarrollo y adquisición del lenguaje para alumnos de CLD" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) . Se evaluará según la etapa de "Conocimiento integral lingüístico en apoyo del pensamiento, el juicio y la expresión (en más de una lengua)" es una evaluación global de "lo que se puede hacer en español" y "lo que se puede hacer en japonés".
- La DLA no es una prueba estandarizada para puntuar la capacidad lingüística de un niño y clasificar los resultados. Es una evaluación para observar, a través del diálogo, lo que los niños "pueden hacer" con el lenguaje y lo que "pueden hacer con apoyo", y utilizar esta información para la educación y el apoyo lingüísticos.
- Por lo tanto, no se puntualiza los resultados obtenidos aquí, sino verlos por etapas desde una perspectiva global y multifacética, y vincularlos a la educación y el apoyo dirigidos a la siguiente etapa.

Tarea básica

No es necesario realizar las cuatro tarjetas. Dependiendo de la situación y de la necesidad, debe utilizarse una selección de tarjetas con imágenes. Tampoco es necesario llevar a cabo la tarea básica si está claro que puede realizarlo.

Palabras del implementador	Puntos a tener en cuenta
❶ Tarjeta de "Salón de clase"	
● "Ahora mirarás las tarjetas y hablarás conmigo. Si no entiendes lo que digo, di que no entiendes. Entonces, empecemos." ① "¿Dónde es esto?" ② "¿Qué hay en esta sala?" ③ "¿Hay un escritorio del profesor?" ④ "Y ¿la silla del profesor?" ⑤ "¿Está el profesor?" ⑥ "Y¿los niños?" ⑦ "¿Dónde está el bolígrafo?" ⑧ "¿Hay un reloj?" ⑨ "¿Qué hora crees que es?"	• No cambie el orden de las preguntas • ④ Inducir "hay/está" diciendo solo la mitad de la frase interrogativa • ⑥ Utilice solo la mitad de la frase interrogativa para inducir "hay/está". • ⑦ Cuando el niño señale una tarjeta con dibujo y diga "aquí", déle la vuelta y vuelva a hacer la misma pregunta, animándole a describir el lugar con palabras (en el escritorio). • ⑦ "Bolígrafo" puede sustituirse por "lápiz". • ⑧ Si la respuesta a ② incluye un reloj, diga "Hay un reloj". • ⑨ No es necesario preguntar a los alumnos de primer grado.
❷ Tarjeta de "Deporte"	
① "¿Te gustan los deportes/ejercicios?" ② "○○, ¿Qué tipo de deporte (ejercicio) puedes hacer?" ③ "¿Y, (nombre de deporte)?" ④ "¿Has jugado alguna vez al (nombre de deporte)?" ⑤ "¿Cuál te gusta más, (nombre de deporte) o (nombre de deporte)?"	• ① Para los niños de grados inferiores que no estén familiarizados con la palabra "deporte", cámbiela por "ejercicio". • ③ Para los niños (principalmente de grados inferiores) que aún no conocen el nombre del deporte, el implementador señala la tarjeta con la imagen y les pregunta • ③ Inducir "puedo/ no puedo" diciendo solo la mitad de la frase de interrogación.
❸ Tarjeta de "Rutina diaria" <despertar> <ir a la escuela> <ir a la cama>	
① "¿A qué hora te has levantado esta mañana?" ② "¿Qué has hecho después de eso?" ③ "¿A qué hora duermes siempre?" ④ "Cuando llegas a casa ¿Qué es lo que haces siempre? Háblame de lo que haces antes de Dormir."	• ① Hacer preguntas sobre los horarios • ② Ver la comprensión y el uso del tiempo pasado • ③ Hacer preguntas sobre acciones habituales • ④ Ver si pueden hablar de acciones en orden cronológico
❹ Tarjeta de "Sueño para el futuro"	
① "En el futuro/cuando seas mayor, ¿qué te gustaría ser?" ② "¿Y eso por qué?"	• ① Si el niño no da ningún nombre de profesión, puede cambiar la pregunta por "¿Qué gustaría hacer?". Puede darle varios nombres de profesiones ("¿Qué tal maestro de escuela?"), o bien), o señale una tarjeta ilustrada y le pregunta sobre eso: "¿Y esto?"

Aquí es donde termina si no pudo responder o respondió poco.

"Aquí termina. Muchas gracias."

Si en general responde a la mayoría de las preguntas, se pasa directamente a la tarea de diálogo o a la tarea cognitiva.
La decisión de realizar o no la tarea de diálogo se determina dependiendo de la situación (tiempo) y la necesidad.

Tarea de diálogo

<u>No es necesario aplicar todas las 3 tarjetas.</u> Dependiendo de la situación y la necesidad, seleccione y utilice las tarjetas con imágenes.
Además si está claro que es capaz de realizar la tarea del diálogo, no es necesario realizarla.

 Palabras del implementador	Puntos a tener en cuenta
❺ Tarjetas "Preguntar al profesor" A, B	
A ① "Tenemos un problema. ○○, necesitas ir al baño (te duele el estómago). ¿Qué le dirías al profesor? Yo soy el profesor." B ① "○○, has olvidado tu libro de texto de matemáticas. Quieres que tu amigo que está sentado a tu lado te lo muestre. ¿Qué le dirías a tu amigo?	• A① Señalar la imagen del "baño/niño con dolor de estómago" en la parte inferior de la tarjeta y hacer la pregunta. • Ver si puede pedir permiso. • B① Pregunte señalando la imagen del "libro de texto". • Ver si puede hacer una petición.
❻ Tarjeta "Nuevo profesor"	
① "Hay un nuevo profesor desde hoy. Primero, (○○) preséntate. Luego hazle dos preguntas al profesor. Yo soy el nuevo profesor."	• El implementador hace el papel de nuevo profesor. • Si no sabe que es "preséntate", diga: "Enséñame algo de ti, ○○". Si sigue sin entender, ayudarle diciendo: "¿Nombre?, ¿Grado? o incitar "yo soy…."
❼ Tarjeta "Invitar a un amigo"	
① "Hoy quieres jugar con ○○ después de la escuela. Invita a ○○. Te has encontrado con él en el zapatero."	• Utilizar el nombre del amigo por el que preguntó en la conversación de introducción. El implementador hace el rol de amigo. • En esta tarea, para ver la capacidad del niño de tomar la iniciativa de invitar, determinar la hora y lugar, etc., y concluir la conversación. El implementador tiene que tener cuidado de no tomar la iniciativa y esperar a que el niño se exprese con sus propias palabras.

Aquí es donde termina si no pudo responder o respondió poco.



"Aquí terminamos. Muchas gracias."

Cuando la tarea de diálogo se haya completado en su mayor parte, pase directamente a la tarea cognitiva.

Tarea cognitiva

Seleccione y realice las tarjetas en función de la edad (grado) del niño. Si se implementa en alumnos de secundaria o secundaria superior y no hay ninguna tarea adecuada en esta lista, puede pedirles que expliquen conceptos que ya hayan aprendido en su asignatura preferida, teniendo en cuenta su situación de aprendizaje en su país de origen.

Palabras del implementador	Puntos a tener en cuenta
⑧ Tarjeta "Cuentos infantiles" (1º a 4º de Primaria)	
①"Un niño pequeño te pidió que le contaras un cuento. Por favor, cuéntale un cuento."	・Elija un cuento que el niño conozca y cuénteselo. Si en las tarjetas con ilustraciones no hay ningún cuento que conozca, puede ser otro cuento.
⑨ Tarjeta "Camiones de Bomberos" (1º a 4º de Primaria)	
① "¿Sabes el nombre de este auto?" ② "¿Qué tipo de función hace este auto? / ¿Para qué sirve?" ③ "¿Cuáles son las partes iguales? ¿Cuáles son las diferencias? "	・① Señalar los dos vehículos en orden y hacer preguntas. Si no conoce el nombre, puede enseñarle para hacer la siguiente pregunta. ・③ Pregunte por las semejanzas y diferencias entre los dos vehículos. Algunos niños pueden no darse cuenta de las similitudes y diferencias en la forma en que funcionan y pueden responder sobre la apariencia (forma).
⑩ Tarjeta "Digestión de los alimentos"	
① "¿Qué pasa con los alimentos que come esta persona?" ② "Explique el mecanismo de ."(Mayores de de 5º y 6º grado de primaria)	・Compruebe si son capaces de hablar sobre la digestión en los grados de 1º a 4º de primaria, y si pueden explicar cómo funciona la digestión utilizando el vocabulario didáctico de la asignatura correspondiente a su edad en los grados mayores de 5º y 6º de primaria.
⑪ Tarjeta "Problemas medioambientales" (Mayor de Secundaria)	
① "¿Qué dibujo es éste?" ② (Sobre cada dibujo)"¿Qué es esto?" ③ "La tierra está llorando. ¿Por qué crees que llora?" ④ "¿Qué crees que deberíamos hacer / qué puedes hacer para evitar que la tierra llore?" ⑤ "Éste es un dibujo del calentamiento global. Explica por qué se produce el calentamiento global."(Principalmente mayor de 5º y 6º de primaria)	・① Compruebe si se da cuenta de que el dibujo representa el concepto de medio ambiente y calentamiento global y vea si conoce el vocabulario. ・Si lo responde en el ①, pasar al ②. Si no puede responder, identifique de qué trata cada imagen (la tierra, talando un árbol, un coche que emite gases de escape, humo procedente de una fábrica). ・Si no lo sabía en ①, enséñele el vocabulario "calentamiento global" en ⑤. A continuación, compruebe si pueden explicar los factores/mecanismos utilizando el vocabulario de la asignatura.
⑫ Tarjeta "Terremoto" (Mayor de Secundaria)	
① "¿Has experimentado alguna vez un terremoto? Cuéntame cómo fue." ② "¿Qué harías si se produjera un terremoto en tu colegio?" ③ "¿Aprendiste sobre los terremotos en la escuela?". (Principalmente mayor de 5º y 6º grado de primaria)	・① Si los niños no han experimentado nunca un terremoto, pregúnteles por las experiencias de sus padres. ・③ Compruebe si pueden explicar los factores y mecanismos utilizando el vocabulario de la asignatura. Compruebe si pueden explicar los factores y mecanismos utilizando el vocabulario aprendido en la asignatura.
⑬ Tarjeta "Ciclo del agua" (Mayor de 5º y 6ª de Primaria)	
① "Explícame sobre el flujo de agua." ② "¿De dónde crees que viene el agua que bebemos?" ③ "¿Qué crees que le pasaría a la tierra si no lloviera / si no hubiera sol?"	

"Aquí termina. Muchas gracias."

Nota de evaluación

año mes día

Nombre grado(edad) º(años)

Compruebe la capacidad y hasta qué punto puede desenvolverse en las habilidades de escuchar y hablar en español de acuerdo con los siguientes aspectos. Esta nota de evaluación se utiliza para evaluar la etapa con respecto a la "Matriz de desarrollo y adquisición del lenguaje para alumnos de CLD" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI).

Capacidad de escuchar		
Capacidad básica de escuchar	Es capaz de comprender preguntas sencillas de los demás sobre sí mismo y sobre temas que le son familiares.	☐Puede hacerlo muy bien ☐Puede hacerlo bien ☐Un poco más
Pronunciación / Fluidez		
Pronunciación y entonación	Pronunciación y entonación	☐Puede hacerlo muy bien ☐Puede hacerlo bien ☐Un poco más
Fluidez	La interacción es natural y fluida	☐Puede hacerlo muy bien ☐Puede hacerlo bien ☐Un poco más
Actitud al hablar		
Actitud al hablar	Está dispuesto a hablar y a dirigir la conversación	☐Puede hacerlo muy bien ☐Puede hacerlo bien ☐Un poco más
Vocabulario		
Vocabulario cotidiano	Puede utilizar vocabulario y expresiones cotidianas familiares cotidiano y expresiones familiares	☐Puede hacerlo muy bien ☐Puede hacerlo bien ☐Un poco más
Calidad del vocabulario (Vocabulario aprendido en las asignaturas)	Puede utilizar vocabulario y expresiones adecuadas (incluye vocabulario para el aprendizaje de las asignaturas)	☐Puede hacerlo muy bien ☐Puede hacerlo bien ☐Un poco más
Grado de precisión gramatical		
Grado de precisión gramatical	Puede hablar con una gramática correcta	☐Puede hacerlo muy bien ☐Puede hacerlo bien ☐Un poco más
Calidad de oración / párrafos		
Generación de oración	Puede hacer oraciones sencillas por sí mismo	☐Puede hacerlo muy bien ☐Puede hacerlo bien ☐Un poco más
Calidad de párrafo	Además de oraciones sencillas, puede utilizar oraciones compuestas para formar párrafos	☐Puede hacerlo muy bien ☐Puede hacerlo bien ☐Un poco más
Contenido / Coherencia del relato		
Nivel de logro de tarea	Puede completar las tareas que se le asignan	☐Puede hacerlo muy bien ☐Puede hacerlo bien ☐Un poco más
Orden de la conversación	Puede hablar en forma secuencial y conectada	☐Puede hacerlo muy bien ☐Puede hacerlo bien ☐Un poco más
Contenido y coherencia en los relatos	Puede contar historias, explicaciones, opiniones etc., de un contenido rico y coherente	☐Puede hacerlo muy bien ☐Puede hacerlo bien ☐Un poco más

英語
English



My dream is to help the people in need in the future and give them clean food and drinking water.

1. Multilingual DLA

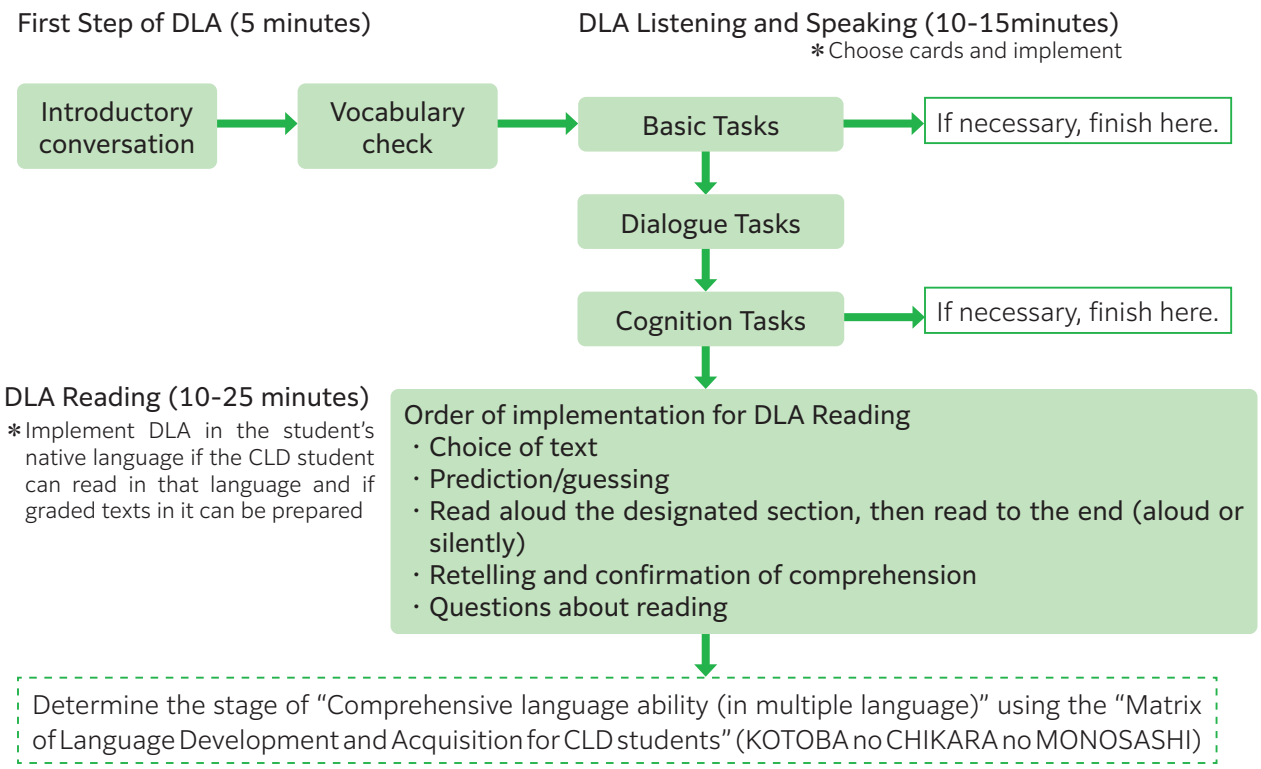
❶ Purpose of DLA

- DLA (Dialogic Language Assessment) is not a test designed to measure the linguistic knowledge of Culturally and Linguistically Diverse Students (CLD students) or rank them.
- Rather, it is an assessment tool that uses dialogue to understand what CLD students can do independently and what they can do when given support.
- The aim is to gather information about how CLD students are learning, what types of support would facilitate their learning, and how to motivate them. This is achieved through a one-on-one dialogue in which the implementor provides various kinds of support.
- Ultimately, the purpose is to use the obtained information to guide and support future learning.

❷ Importance of Multilingual DLA

- In order to measure the maximum abilities of CLD students, it is essential to assess not only their Japanese language ability (which they are currently learning) but also their abilities in their native language.
- DLA was developed based on principles of bilingual education, allowing it to be implemented in multiple languages. This booklet contains The First Step of DLA and DLA Listening and Speaking in Portuguese, Chinese, Filipino, Vietnamese, Spanish, English, Nepali and Russian. If the supporter can speak the native language of the CLD students, please utilize the multilingual DLA.
- Measuring reading skills requires leveled texts in each language, not translated materials. Therefore, this booklet does not include DLA Reading in multiple languages. If you wish to assess the reading skills of CLD students in their native language, you can use DLA Reading, but it will be necessary to prepare texts appropriate for the CLD students' age and native language proficiency. For example, narrative or expository texts from the CLD students' native language textbooks can be used.
- For writing skills, until they can write theme-based essays freely on their own, it is advisable to assess students' writing skills through observation of their writing activities in class, rather than in a test format. For CLD students able to write theme compositions independently, please refer to the writing assignment on pp.186-199 of "Matrix of Language Development and Acquisition for CLD students" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) (MEXT, 2025)

❸ Flowchart for implementation of Multilingual DLA



2. The First Step of DLA

① Purpose

- The purpose of implementing The First Step of DLA in English is to assess the child's basic conversational skills. We use the "Introductory Conversation," which includes greetings and questions about the child, and a "Vocabulary Check" with 55 basic vocabulary questions.
- It also aims to understand the child's living and language environment.
- Another aim is to build a trusting relationship between the child and the DLA implementor, and to create a positive atmosphere to motivate the child to engage in DLA.

② Target group

- DLA is designed for a wide range of children growing up in multilingual environments, from those who can respond only minimally to those who speak fluently.
- DLA is especially useful for determining the child's proficiency level in their strongest language.

③ Structure

- It includes an "Introductory Conversation," covering greetings and information about the child, and a "Vocabulary Check" with 55 basic vocabulary questions on nouns, verbs, and adjectives.
- The nouns in the "Vocabulary Check" are words that children commonly hear and use in daily life, such as body parts, food, plants and animals, and classroom objects. The vocabulary includes both high- and low-frequency words, like "eye" and "eyelash," "mouth" and "lips," as well as terms for complete objects and their individual parts, such as like "cow" and "horn" or "tree," "leaf," and "branch." The verbs and adjectives are also words that children are exposed to at home or in school.

④ Implementation procedure

Things to prepare in advance

- Cut out the "Vocabulary Cards for the First Step of DLA" from the end of the book (pp.236-242) and prepare them as individual cards. Arrange them in numerical order and secure them with a ring (or if needed upload the data to a tablet) and show one card at a time.
- Practice handling the vocabulary cards at a good pace. Watch the DLA Instructional Video and observe the attitude and tempo of the implementor.
- Have the following materials ready: a copy of the "First Step of DLA - Practical Guide" (pp. 177-178), the "Vocabulary Cards for the First Step of DLA," a recording device, and a notepad.

Sitting position

- Sit at the desk, positioned to one side of the child rather than directly across from the child. This allows you to see the cards from the same perspective as the child and helps make the experience less intimidating.

Conducting the conversation

- Ensure the recording device is working, turn it on and start the conversation.
- Follow the "Practical Guide to the First Step of DLA" (pp.177-178) and conduct the "Introductory Conversation" followed by the "Vocabulary Check".
- If, after attempting the First Step of DLA, you determine that the child does not have sufficient basic conversational skills, and continuing seems difficult, you may end the exercise immediately, even in the middle of the "Introductory Conversation" or "Vocabulary Check".

❺ Key points for implementation

Focus on the flow

- The First Step of DLA should take about 5 minutes. While it is important for the implementor to adapt to the child's level, the dialogue should remain as natural and fast-paced as possible.
- Do not interrupt, reject or correct what the child says.
- If you are already familiar with the child and feel an introduction is unnecessary, you may skip it.
- If the child does not understand the question, repeat it slowly. If they still do not understand it, say it in a shorter, easier way. Do not give a long explanation – this will just confuse them further. Do not stop the flow and proceed to the next question.
- If the child gets stuck or makes a mistake during the Vocabulary Check, do not correct them or provide the correct answer, just move on to the next card. If the child expresses interest in knowing the answer, it is acceptable to share it.
- If the child is thinking or taking a long time to respond, wait patiently.

Create a positive atmosphere

- Even children who speak English fluently may get nervous or even reject one-on-one interactions with adults. Try to foster a friendly atmosphere. Think of it as an enjoyable dialogue rather than a test.
- Respond to the child's answers by nodding and showing you understand them.
- The First Step of DLA is an important warm-up activity for the implementor as well. Be mindful of the need to encourage the child to speak at all times. Remember to act as a facilitator rather than a teacher.

Do not grade during the conversation

- Avoid grading or evaluating the child in their presence. Assess their performance only after all components (The First Step, Listening and Speaking, and Reading) have been completed.
- Make an audio or video recording to be able to conduct an accurate evaluation.

End with a compliment to the child

- Regardless of the child's skill level, praise their effort in speaking English and conclude the conversation on a positive note.

⑥ Hints for the next step

- If the child completes 70-80% of the Introductory Conversation and Vocabulary Check, you can proceed to the next parts of DLA. If the child completes less than 20-30%, conclude the session at that point. If the child completes around 50%, continue to the next part and then decide how to proceed.
- As mentioned in Section (4) of this chapter, depending on the child's English ability, you can end the session even in the middle of the Introductory Conversation or Vocabulary Check.

⑦ Grading method

- Conduct the grading for The First Step of DLA after completing the other parts (Listening and Speaking).
- Review the recording, use the Evaluation Notes and assess each aspect of the child's performance.
- When assessing the Vocabulary Check, refer to Table of answers. (p.181)
- Determine the stage of "Comprehensive language ability (in multiple languages) to support thinking, judgement and expression" as outlined in the "Matrix of Language Development and Acquisition for CLD students" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) from a comprehensive and multidimensional perspective.

Introductory conversation

❶ Greetings:



Hello. I am... (introduce yourself).

❷ Explanation: Tell the child what you are going to do in a fun and engaging manner.



I'd like to find out how well you speak English! Please share anything you know. If you're unsure about something, just say, 'I don't know,' okay?

❸ Questions:

・Ask these questions in the following order:



① What's your name?
② Which grade are you in?
③ How old are you?
④ When is your birthday?
⑤ Do you have any brothers or sisters?

・When discussing siblings, tailor your answers to the child's circumstances and family structure.



⑥ Do you have any friends?
⑦ Can you tell me the name of one of your friends?
⑧ What do you like to do with your friends?

・Using the friend's name will be necessary in the Dialogue Tasks, so take a memo of it.



⑨ Do you like school?
⑩ What do you like about it?

・If the child has attended school in their home country or was enrolled in an international school in Japan, ask about that experience and then compare it to their current school.



⑪ What do you like about school in Japan?
⑫ What do you not like about school in Japan?

・After ⑪ and ⑫ , you can ask additional questions based on the child's situation.



⑬ Do you speak English at home?
⑭ What language does your mother (or father) speak with you?
What language do you use to talk to your mother (or father)?

・There are many cases where the parent speaks English but the child only listens, so ask in detail about language usage at home. Also, consider the specific family structure when asking questions.



⑮ Can you read in English? Can you write in English?

・Check if the child has the ability to read and write in English. You may ask additional questions to assess their level of reading and writing skills.

Vocabulary check

❶ In case the vocabulary card refers to a noun (1〜42)



What is this? Yes, it's an eye. From now on, when I say "one", I want you to say "eye". When I say "two", tell me what this is (pointing to the picture on card 2). If you don't know the answer, just say "I don't know". Is everything clear? Great! Then let's begin. "One."

❷ In case the vocabulary card refers to a verb (43〜50)

・ From card 43 onward, ask in this way.



What is the person doing?

❸ In case the vocabulary card refers to an adjective (51〜55)

・From card 51 onward, ask in this way.



What kind of skirt is this?

・ If the child does not understand "what kind of", ask them in the following way.



This is "long", right? Then what is this? (while pointing to the card for "short")

Let's continue

- If the child completed only 20-30% of the Introductory Conversation and Vocabulary Check, you can conclude the session here.



That's it. Thank you very much.

- If the child completed more than half of the Introductory Conversation and Vocabulary Check, proceed to DLA Listening and Speaking.

Evaluation notes

Introductory conversation

Date Y M D

Name Grade(age) ( )

Implementor's questions	Gave a comprehensible response	Notes
① "What's your name?"	☐	
② "Which grade are you in?"	☐	
③ "How old are you?"	☐	
④ "When is your birthday?"	☐	
⑤ "Do you have any brothers or sisters?"	☐	
⑥ "Do you have any friends?"	☐	
⑦ "Please tell me the name of one of your friends."	☐	
⑧ "What do you like to do with your friends?"	☐	
⑨ "Do you like school?"	☐	
⑩ "What do you like about it?"	☐	
⑪ "What do you like about school in Japan?"	☐	
⑫ "What do you not like about school in Japan?"	☐	
⑬ "Do you speak English at home?"	☐	
⑭ "What language does your mother (or father) speak with you?" "What language do you use to talk to your mother (or father)?"	☐	
⑮ "Can you read English? Can you write in English?"	☐	
Comprehensible responses／Number of questions		／15
Percentage of appropriate answers	⇒	%

Vocabulary check

Date Y M D

Name Grade(age) ( )

Number	Word	True	False	Notes	Number	Word	True	False	Notes
1	Eye	☐	☐		30	Desk	☐	☐	
2	Eyelashes	☐	☐		31	Drawer	☐	☐	
3	Mouth	☐	☐		32	Blackboard	☐	☐	
4	Lips	☐	☐		33	Blackboard eraser	☐	☐	
5	Hand	☐	☐		34	Map	☐	☐	
6	Thumb	☐	☐		35	Scissors	☐	☐	
7	Nail	☐	☐		36	Notebook	☐	☐	
8	Nose	☐	☐		37	Driver	☐	☐	
9	Grapes	☐	☐		38	Doctor	☐	☐	
10	Egg	☐	☐		39	Firefighter	☐	☐	
11	Shrimp	☐	☐		40	Bus	☐	☐	
12	Milk	☐	☐		41	Airplane	☐	☐	
13	Cow	☐	☐		42	Wing	☐	☐	
14	(A cow's) Horn	☐	☐		43	Swim	☐	☐	
15	(A dog's) Tail	☐	☐		44	Write	☐	☐	
16	Chicken	☐	☐		45	Brush teeth	☐	☐	
17	Horse	☐	☐		46	Wear	☐	☐	
18	Elephant	☐	☐		47	Wake up	☐	☐	
19	Mouse	☐	☐		48	Sit	☐	☐	
20	(A cat's) Whiskers	☐	☐		49	Clean	☐	☐	
21	Tree	☐	☐		50	Get angry	☐	☐	
22	Leaf	☐	☐		51	Short	☐	☐	
23	Branch	☐	☐		52	Thin	☐	☐	
24	Electric fan	☐	☐		53	Light	☐	☐	
25	Telephone	☐	☐		54	Cold	☐	☐	
26	Door	☐	☐		55	Tall	☐	☐	
27	Roof	☐	☐		Total	Appropriate answers	(	／55 %)	
28	Stairs	☐	☐						
29	Window	☐	☐						

Table of answers

No.	Category	Correct answer	Acceptable answers	Incorrect answers
1	Ⅰ Parts of the body	Eye		
2		Eyelashes		Eyebrows
3		Mouth		
4		Lips		
5		Hand	Palm of the hand	
6		Thumb	Finger, fingertip	
7		Nail		
8		Nose		
9	Ⅱ Food	Grapes		
10		Egg	Chicken egg	
11		Shrimp	Crayfish, lobster	
12		Milk		
13	Ⅲ Animals and plants	Cow		
14		(A cow's) Horn		Cow
15		(A dog's) Tail		Dog
16		Chicken		
17		Horse		
18		Elephant		
19		Mouse	Hamster	
20		(A cat's) Whiskers		A cat's hair
21		Tree		
22		Leaf		
23		Branch	Tree branch	Stick
24	Ⅳ Devices	Electric fan	Fan	
25		Telephone	Phone, smartphone	
26	Ⅴ Parts of the house	Door		Gate
27		Roof	Tiles	House, Top of the house
28		Stairs		Hallways
29		Window		
30	Ⅵ Classroom objects	Desk	Table	
31		Drawer		Inside the desk
32		Blackboard		Classroom
33		Blackboard eraser		Rubber
34		Map	World, the Earth	
35		Scissors		
36		Notebook	Student book, book	
37	Ⅶ Professions	Driver		
38		Doctor	Medic, surgeon	
39		Firefighter	Fire brigade	Fire station
40	Ⅷ Vehicles	Bus		Car
41		Airplane	Aircraft, jet	
42		Wing	Aircraft wing, airplane wing	
43	Ⅸ Activities at school	Swim	Swimming, crawl	
44		Write	Writing, studying, doing homework	Pencil, draw a picture
45	Ⅹ Everyday activities	Brush teeth	Brushing teeth	Toothbrush
46		Wear	Wearing, wearing clothes, changing clothes	
47		Wake up	Awake, waking up	Not sleep, not asleep
48		Sit	Sitting, sitting in a chair	
49	Ⅺ Chores	Clean	Cleaning	
50	Ⅻ Emotions	Get angry	Getting angry, angry, annoyed, mad	Bad, scary
51	ⅩⅢ Adjectives	Short		Skirt, not long
52		Thin		Stick, not thick
53		Light		Bag, brown, not heavy
54		Cold		
55		Tall	Big	Adult

3. DLA Listening and Speaking

❶ Purpose

- The purpose of DLA Listening and Speaking in English is to determine the level of conversational ability in English, which serves as the foundation of academic language skills, as well as reading and writing skills.
- DLA Listening and Speaking aims to provide a comprehensive and multidimensional view of conversational skills by measuring three aspects: basic conversation, dialogue, and cognition.

❷ Target group

- DLA Listening and Speaking is designed for a wide range of children growing up in a multilingual environment, from those who can respond minimally to those who speak fluently.
- It is especially valuable for assessing the level of listening and speaking ability in English.
- However, it cannot be used for children who are unable to complete The First Step of DLA in English.

❸ Structure

- It includes Basic Tasks, Dialogue Tasks and Cognition Tasks.
- Basic Tasks assess fundamental conversational skills, including the use of high-frequency vocabulary and expressions, the application of grammar to form sentences, and discussions about topics related to the child's personal experiences and daily life.
- Dialogue Tasks evaluate the ability to interact one-on-one and speak appropriately in various situations and settings.
- Cognition Tasks measure the child's ability to express thoughts and opinions, as well as provide coherent explanations of content related to subjects studied in school.
- Three types of picture cards are used in DLA Listening and Speaking. As shown in Appendix 2, the picture cards with a pink frame are Basic Cards for Basic Tasks, those with a yellow frame are Dialogue Cards for Dialogue Tasks, and those with a blue frame are Cognition Cards for Cognition Tasks.
- Select cards based on the child's age, English proficiency level, and the time available for the session.
- It is not necessary to use all cards, so please refer to the "List of Picture Card Types and Target Age Groups" when making your selections.

❹ Implementation procedure

Things to prepare in advance

- Cut out the Basic Cards, Dialogue Cards and Cognition Cards for DLA Listening and Speaking from Reference 2 (pp.243-249) and prepare them as individual cards (or as needed upload the data into a tablet) and show one card at a time.
- Practice handling the cards at a good pace, and watch the DLA Instructional Video and observe the attitude and tempo of the implementor.
- Have the following materials ready: a copy of the DLA Listening and Speaking Practice Guide, (pp.187-189), the DLA Listening and Speaking picture cards you will be using, a recording device and a notepad.

Card arrangement and sitting position

- Arrange the cards in the order they are to be used and place them face down. Stack the cards in such a way that when the top card is flipped over, the required card appears.
- Sit at the desk, positioned to one side of the child rather than directly across from the child. This allows you to see the cards from the same perspective as the child.

Conducting the conversation

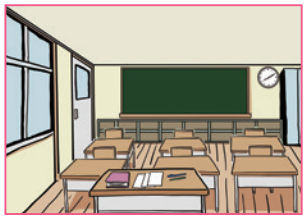
- Ensure the recording device is working and turn it on before starting DLA Listening and Speaking. If this is a continuation from The First Step of DLA, it should already be on.
- Follow the DLA Listening and Speaking Practice Guide (pp.187-189) and conduct the Basic Tasks, Dialogue Tasks, and Cognitive Tasks in that order.
- Depending on the child's level in English, you may finish with Basic Tasks or Dialogue Tasks. In some cases, you might skip the Basic Tasks and Dialogue Tasks and proceed directly to Cognition Tasks. In other cases, you may complete all tasks.

Types of cards and recommended ages for use

	Card title	Primary school years 1-2	Primary school years 3-4	Primary school years 5-6 and above
Basic Tasks	❶ Classroom	○	○	○
	❷ Sports	○	○	○
	❸ Daily routine	○	○	○
	❹ Dreams for the future	○	○	○
Dialogue Tasks	❺ Asking a question	○	○	○
	❻ A new teacher	○	○	○
	❼ Invitation	○	○	○
Cognitive Tasks	❽ Story	○	○	
	❾ Fire truck	○	○	
	❿ Food digestion	○	○	○
	⓫ Environmental problems		○	○
	⓬ Earthquake		○	○
	⓭ Water cycle			○

Aims for each card

◇ Basic Tasks aim to see whether the child can answer questions related to themselves or familiar topics, as well as create sentences using high-frequency vocabulary and expressions. Select a card based on the available time and the child's specific situation.



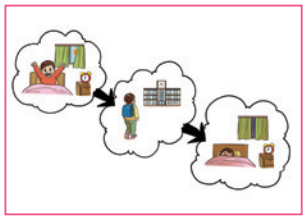
❶ Classroom card

See if the child can answer questions about the existence of objects and people using verbs of existence (is/are) and expressions using location (on, in, etc.)
For students in grades 2 and up, also check if they can read the clock and say what time it is.



❷ Sports card

See if the child can use phrases such as "I have done...," "I can/can't," and answer questions such as "Do you like/dislike this?" and "Which one do you prefer?" to talk about past experiences, abilities, and making comparisons.



❸ Daily routine card (waking up, going to school, going to bed)

See if the child can correctly use the present tense (for habits) and the past tense (for specific events) of verbs, as well as express actions in sequence.



❹ Dreams about the future card

See if the child can talk about the future using "I want to..." and ask them to provide a reason for their choice.

◇ Dialogue Tasks aim to see if the child can lead a conversation and speak appropriately for the situation or setting. The implementor plays the role of a teacher or a friend in a role play. Select a card based on the available time and the child's situation.



❺ Asking a question card

A: See if the child can ask for permission to go to the bathroom during class.
B: See if the child can ask the teacher or a friend to borrow a textbook in case they forgot theirs.



❻ A new teacher card

See if the child can introduce themselves to the teacher and ask questions.



❼ Invitation

See if the child can invite friends to play. Assess their ability to lead a conversation by suggesting a time and a place on their own. The implementor plays the role of the friend.

◇ Cognitive Tasks aim to see if the child can talk coherently about content related to subject matter studied at school. Select a card according to the child's age (grade). For middle or high school students, if there is no appropriate task in this list, you can ask them about a concept they have learned in a subject they are proficient in. (while taking into account their learning situation in their home country).



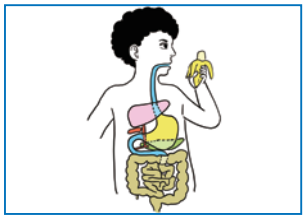
❽ Story card

Ask the child to choose a story they know well and observe their ability to tell it in order. If they are unfamiliar with the stories on the cards, they can choose a different one.



❾ Fire truck card

See if the child can describe the differences in the purpose of the two vehicles. Focus on whether the child is talking about their appearance (form) or their function.



❿ Food digestion card

See if the child can talk about food digestion. For pupils in Year 5 and above, see if they can explain the mechanism using subject-specific vocabulary.



⓫ Environmental problems card

See if the child can explain what is currently happening to the Earth and express their opinions on measures to address environmental problems. For pupils in Year 5 and above, see if they can explain the mechanism using subject-specific vocabulary.



⓬ Earthquake card

See if the child can talk about their experiences with earthquakes and share their opinions on what to do in case of an earthquake. For pupils in Year 5 and above, see if they can explain the causes using subject specific vocabulary.



⓭ Water cycle card

See if the child can explain how the water cycle works using vocabulary learned at school. Ask them what would happen if the Sun (which is essential for the water cycle) did not exist, and see if they can provide reasoning for this hypothetical event.

⑤ Key points for implementation

Focus on the flow

- DLA Listening and Speaking should take 10-15 minutes. Keep the conversation moving at a natural pace without taking too much time on any one question.
- Do not interrupt, reject or correct what the child is saying.
- If the child does not understand the question, repeat it slowly. If they still do not understand it, say it in a shorter, easier way. Do not give a long explanation – you will just confuse them further. Do not stop the flow and go to the next question.
- If the child is thinking or taking a long time to respond, wait patiently.

Create a positive atmosphere

- Try to foster a friendly atmosphere. Think of it as an enjoyable dialogue rather than a test.
- Respond to the child's answers by nodding and showing you understand them.

Do not grade during the conversation

- Avoid grading or evaluating the child in their presence. Assess their performance only after all components have been completed.
- Make a sound or video recording for an accurate evaluation.

End with a compliment to the child

- Regardless of the child's skill level, praise their effort in speaking English and conclude the conversation on a positive note.

⑥ Grading method

- After completing DLA Listening and Speaking, review the recording you made.
- Use the Evaluation Notes (p.196) to assess each aspect of the child's performance.
- This evaluation should also consider their performance during The First Step of DLA and the percentage of accurate responses in the Vocabulary Check.
- Determine the stage of "Comprehensive language ability (in multiple languages) to support thinking, judgement and expression" as outlined in the "Matrix of Language Development and Acquisition for CLD students" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) from a comprehensive and multidimensional perspective. View the Comprehensive language ability (in multiple languages) comprehensively, considering what they can do in both English and Japanese.
- It is important to note that DLA is not a standardized test designed to score the child's language ability or rank results. Instead, it serves as an assessment tool that uses dialogue to observe what the child can accomplish independently, what they can do with support, and how this information can guide their language education and facilitation.
- Consequently, refrain from scoring the results seen here. Instead, view them as a stage of progress from a comprehensive and multidimensional perspective, and use the insights gathered to guide education and support aimed at reaching the next stage.

Basic tasks

It is not necessary to use all four cards. Depending on the situation, select the appropriate card to use. If you assess that the student demonstrates a clear ability to complete the basic tasks, you may skip them altogether.

Implementor's questions	Points to remember
❶ Classroom card	
● "Look at these cards and tell me about them. If you do not understand what I am saying, please say "I don't understand". Let's begin." ① "Where is this?" ② "What is in this room?" ③ "Is there a desk for the teacher?" ④ "How about a chair?" ⑤ "Is there a teacher?" ⑥ "How about a child?" ⑦ "Where is the pen?" ⑧ "Is there a clock?" ⑨ "What time is it?"	・Do not change the order of the questions. ・④ ⑥Leave the question vague to elicit a "there is" response. ・⑦ If the child points to the card and says "here", turn over the card and ask the question again. Try to elicit a verbal description of its place (on the desk). ・⑦ You can say "pencil" instead of "pen" ・⑧ If the answer for number ② contains the clock, say "There is a clock, right?" ・⑨ No need to ask first-grade students.
❷ Sports card	
① "Do you like sports?" ② "What sports can you play?" ③ "How about X (sport name)" ④ "Have you played X (sport name) before?" ⑤ "Which do you prefer – X (sport name) or Y (sport name)?"	・③ If the child does not know the name of the sport (mainly younger children), point to a card and ask "How about this?" ・③ Keep the question short to elicit a "I can/can't" response.
❸ Daily routine card (waking up, going to school, going to bed)	
① "What time did you wake up today?" ② "What did you do after that?" ③ "What time do you usually go to bed?" ④ "When you get home, what do you do? Tell me about all the things you do throughout the day until you go to bed."	・① Ask about time. ・② Check understanding of past tense. ・③ Ask about habits. ・④ Check whether the child can list actions in a chronological order.
❹ Dreams for the future card	
① "When you grow up, what do you want to be?" ② "Why is that?"	・① If the child does not mention an occupation, ask "what do you want to do?", offer options e.g. "How about a teacher?" or point to the card and say "How about this?"

If there were few or no responses, finish here.

"That's it. Thank you very much!"

If the child could answer most of the questions, proceed to Dialogue or Cognitive Tasks. Decide whether to skip the Dialogue Tasks based on the time and situation.

Dialogue Tasks

There is no need to use all three cards. Choose which card to use based on the situation. If you determine that the student can clearly perform the dialogue tasks, you can proceed to the next steps.

Implementor's questions	Points to remember
❺ Asking a question A, B card	
A ① "Uh-oh! You need to go to the bathroom (or your stomach hurts). What do you say to the teacher? I will act as the teacher." B ① "You forgot your math textbook. You want your friend sitting next to you to let you look at theirs. What do you say to your friend?"	・A① Point to the picture of a toilet/a child with a stomachache and ask the question. ・See if the child can ask for permission. ・B① Point to the picture of a textbook and ask the question. ・See if the child can make requests.
❻ A new teacher card	
① "Today, there's a new teacher. First, please introduce yourself to them. Then, ask them two questions. I will act as the new teacher."	・The implementor plays the role of the new teacher. ・If the child does not understand "introduce", say "Tell them about yourself". If needed, gives them hints like "name?", "age?".
❼ Invitation card	
① "Today you want to play with X (a friend's name) after school. Invite them to play. Imagine you met them at the shoe cupboard."	・Use the name of the friend you heard in the Introductory Conversation. The implementor plays the role of the friend. ・The goal of this task is to see if the child can initiate a conversation, decide a time and a place and conclude the conversation independently. Therefore, the implementor should wait patiently for the child's response.

If there were few or no responses, finish here.



"That's it. Thank you very much!"

If the child was generally able to complete the task, proceed to Cognitive Tasks.

Cognitive Tasks

Select an appropriate card based on the age of the child. For middle or high school students, if there is no appropriate task in this list, you may ask them about a concept they have learned in a subject they are proficient in, while taking into account their learning situation in their home country.

Implementor's questions	Points to remember
❽ Story card (Primary school year 1-4)	
① "A small child has asked you to tell them a story. Tell them one."	・Ask the child to choose a story they know well. If they do not know the stories from the cards, they can choose another one.
❾ Firetruck card (Primary school year 1-4)	
① "Do you know what this vehicle (car) is called?" ② "What does the vehicle (car) do? What do you use it for?" ③ "How are they similar? How are they different?"	・① Point to the two vehicles in turn and ask questions. If the child does not know the names of the vehicles, you can teach them the names, as they will need them for the next question. ・③ Ask about similarities and differences between the two vehicles. Sometimes children may only look at the appearance (form) and overlook differences in purpose, so encourage them to consider both aspects.
❿ Food digestion card	
① "What happens to the food this person eats?" ② "Explain how digestion works." (for year 5 and above)	・For years 1-4, see if they can talk about digestion in general. For year 5 and above, see if they can use subject-specific language to describe the mechanism of digestion.
⓫ Environmental problems card (Primary school year 3 and above)	
① "What is this a picture of?" ② (about each picture) "What is this?" ③ "The Earth is crying. Why do you think it's crying?" ④ "What should/can we do to make it stop crying?" ⑤ "This is a picture of global warming. Explain why and how global warming occurs." (mainly year 5 and above)	・① See if the child recognises that this picture is about environmental problems/global warming and see if they know the associated vocabulary. ・If the child was able to answer question ①, skip question ②. If they could not, ask what each picture represents (Earth, trees being cut, car emissions, factory smoke) ・If the child did not know the term "global warming" in ①, introduce it in ⑤ and see if they can explain the mechanism using subject-specific vocabulary.
⓭ Earthquake card (Primary school year 3 and above)	
① "Have you experienced an earthquake? Tell me what happened then." ② "What will you do if there is an earthquake at school?" ③ "Did you learn about earthquakes at school? Explain why they happen." (mainly year 5 and above)	・① If the child has never experienced an earthquake, ask them to talk about their parents' experiences instead. ・③ See if the child can use subject-specific vocabulary to explain factors and mechanisms.
⓮ Water cycle card (Primary school year 5 and above)	
① "Explain about the flow of water." ② "Where do you think the water we drink comes from?" ③ "What do you think would happen to Earth if it never rained/if the Sun disappeared?"	

"That's it. Thank you very much!"

Evaluation Notes

Date Y M D

Name Grade(age) ( )

Assess the extent to which the student can listen and speak in English from the following perspectives.
Use these evaluation notes to determine their stage according to the "Matrix of Language Development and Acquisition for CLD students" (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI)

Listening ability		
Basic listening ability	Can understand simple questions about themselves or familiar topics	☐Good ☐Sufficient ☐Needs work
Pronunciation and fluency		
Pronunciation and intonation	Can speak with natural pronunciation and intonation	☐Good ☐Sufficient ☐Needs work
Fluency	Interaction is smooth and natural	☐Good ☐Sufficient ☐Needs work
Speaking attitude		
Speaking attitude	Can speak proactively and lead the conversation.	☐Good ☐Sufficient ☐Needs work
Vocabulary		
Everyday vocabulary	Can use familiar everyday vocabulary and phrases.	☐Good ☐Sufficient ☐Needs work
Quality of vocabulary (subject specific vocabulary)	Can use appropriate vocabulary and phrases, including subject-specific terminology.	☐Good ☐Sufficient ☐Needs work
Grammatical accuracy		
Grammatical accuracy	Can speak with correct grammar.	☐Good ☐Sufficient ☐Needs work
Quality of sentences and paragraphs		
Sentence generation	Can create simple sentences.	☐Good ☐Sufficient ☐Needs work
Quality of paragraphs	Can create complex sentences and connect them to form coherent paragraphs.	☐Good ☐Sufficient ☐Needs work
Contents and coherence of speech		
Completion of tasks	Can complete assigned tasks.	☐Good ☐Sufficient ☐Needs work
Speech structure	Can speak in a coherent and logical order.	☐Good ☐Sufficient ☐Needs work
Coherence of speech	Can tell detailed and coherent stories, providing reasons, explanations, and opinions.	☐Good ☐Sufficient ☐Needs work

ネパール語
नेपाली भाषा



海には、いっぱいゴミがすてられている。みんながいっしょにがんばって海をきれいにしている。

1. बहुभाषी DLA

① DLA को उद्देश्य

- DLA (Dialogic Language Assessment) ले, Culturally and Linguistically Diverse Students (CLD students) भएको भाषा को ज्ञान लाई मात्र स्कोर गर्ने वा श्रेणी निर्धारण गर्ने परिक्षा होईन ।
- CLD students एक मुल्याङ्न उपकरण हो ,CLD विधार्थीहरूले भाषा प्रयोग गरेर के गर्न सक्छन र उनीहरू आफैले के गर्न सक्छन भन्ने मात्र होईन ,उनिहरूले समर्थन पाएमा के गर्न सक्छन ,भन्ने कुरा संवादको माध्यम द्वारा बुझ्ने उद्देश्य राख्दछ।
- CLD विधार्थीहरू संग एक –आपसमा कुराकानी गर्दै कसरी सिकिरहेका छन् ,उनिहरूको सिकाईलाई अझ सहज बनाउन कस्तो प्रकारको सहयोग र सहायता चाहिन्छ र विभिन्न प्रकारका सहयोग वा सहायता उपलब्ध गराउँदा उनिहरूको सिक्ने ईच्छा लाई कसरी प्रोत्साहित गर्ने भन्ने बारेमा बुझ्न खोज्दैछौ ।
- साथै,, प्राप्त जानकारीको उपयोग उनीहररूको पछीको सिकाई लाई मार्गदर्शन र सहायता गर्नमा प्रयोग गर्ने उदेश्य रहेको छ ।

② बहुभाषी DLA को महत्व

- CLD विधार्थीहरूको "अधिकतम क्षमता "बुझ्नको लागी ,उनिहरूले सिक्ने क्रममा जापानीज भाषाको क्षमता मात्र होइन् , उनिहरूको मातृभाषाको क्षमता लाई पनि मापन गर्न आवश्यक छ ।
- DLA द्विभाषीय शिक्षा सिद्धान्तको आधारमा विकसित गरिएको हो ।तसर्थ,यो प्रशिक्षण जापानी भाषा मात्र होईन ,धेरै भाषाहरूमा संचालन गर्न सम्भव छ ।यस पुस्तिकमा DLA (पहिलो चरण) र DLA (सुन्ने र बोल्ने)पोर्तुगाली, चिनियाँ,फिलिपिनो,भियतनामी, स्पेनीस, अंग्रेज़ी,नेपाली र रूसी भाषामा रेकर्ड गरेर समावेश गरिएको छ ।यदी तपाईको सहायताकर्ताले CLD विधार्थीहरूको मातृभाषा बोल्न सक्छ भने ,कृपया सक्रिय रूपमा बहुभाषिक DLA आवश्यकता अनुसार प्रयोग गर्नुहोस ।
- यस पुस्तिकामा बहुभाषी DLA (पढने) समावेश छैन किनभने पढने क्षमता मापन गर्न अनुवादित पाठ (ट्रान्सलेट टेक्स्ट) भन्दा,प्रत्येक भाषाको विभिन्न स्तर (लेभल)को पाठहरूको आवश्यकता हुन्छ ।यदी तपाई CLD विधार्थीहरूको मातृभाषामा पढ़ने क्षमता मापन गर्न चाहानुहुन्छ भने ,DLA (पढने) प्रक्रिया लागु गर्न सक्नुहुन्छ ,भने कृपया प्रत्येक फिल्डमा CLD विधार्थीहरूको उमेर र मातृभाषाको स्तर अनुसारको उपयुक्त पाठ तयार गर्नुहोस।जस्तै,CLD विधार्थीहरूको गृह देशको मातृभाषाका पाठ्यपुस्तकमा भएका कथाहरू र व्याख्यात्मक पाठहरू प्रयोग गर्न सक्नुहुन्छ ।
- लेख्ने क्षमताको सन्दर्भमा,विधार्थी एक्लैले स्वतन्त्ररूपमा विषयहरूमा निबन्ध लेख्न सक्षम नभए सम्म परिक्षा ढाँचामा भन्दा कक्षामा लेख्ने निबन्धको पाठको गतिविधि अवलोकन गरेर लेख्ने क्षमता मापन गर्नु राम्रो हुन्छ CLD विधार्थी जो आफ्नै विषयमा निबन्ध लेख्न सक्षम छन ।ऊनिहरूको लागी (CLD विधार्थीहरूको लागी भाषा विकास र अधिग्रहणको म्याट्रिक्स)(KOTOBA no CHIKHARA no MONOSASHI) (शिक्षा,संस्कृति,खेलकूद,विज्ञान र प्रविधि मन्त्रालय) को pp.१८६-१९९ को निबन्धको पाठ उपयोग गर्नुहोस ।

❸ बहुभाषी DLA कार्यान्वयन फ्लोचार्ट

DLA (पहिलो चरण) （५ मिनेट ）

परिचयात्मक कुराकानी → शब्दावली जाँच → आधारभूत कार्य → स्तर अनुसार समाप्त

DLA (सुन्ने / बोल्ने) （ १० ~ १५ मिनेट ）

＊कार्ड छानेर कार्यान्वयन गर्नुहोस ।

आधारभूत कार्य → संवाद कार्य → संज्ञानात्मक कार्य → स्तर अनुसार समाप्त

DLA (पढने) (१० ~ २५ मिनेट)

＊यदि LD विधार्थीले पढन सक्छन र उनिहरूको मातृभाषाको स्तर अनुसारको पाठ्यक्रम (किताब) तयार गर्न वा भएको सकेको खण्डमा कार्यान्वयन गर्नुहोस।

DLA (पढनु) ・कार्यान्वयन चरण

- ・पाठ्यक्रम को चयन (छनौट)
- ・भविष्यवाणी र अनुमान
- ・तोकिएको अनुच्छेद आवाज निकालेर पढने र त्यसपछी अन्तिम सम्म (आवाज निकालेर वा मनमनै पढने)
- ・सारांश रिपिड गर्दै,पाठको सामाग्रीको बारेमा कति बुझेको छ पुष्टि गर्दै जाने
- ・पढेको कुराहरूको बारेमा प्रश्नहरू गर्ने

(CLD विधार्थीहरूको लागी भाषा विकास र अधिग्रहणको म्याट्रिक्स) (KOTOBA no CHIKHARA no MONOSASHI) (शिक्षा,संस्कृति,खेलकूद ,विज्ञान तथा प्रविधि मन्त्रालय 2025) को (सोच , निर्णय र अभिव्यक्ति)लाई समर्थन गर्ने व्यापक मौखिक क्षमता (शब्दहरूको शक्तिको मापन) को स्टेज

2. DLA (को पहिलो चरण)

① लक्ष्य

- DLA (पहिलो चरण) नेपाली भाषामा लागु गर्नुको उद्देश्य अभिवादन वा बच्चाको आफ्नो बारेमा र आफु संलग्न बातावरण र भाषाको वातावरण लाई अझ राम्रो सँग बुझ्न मद्दत गर्नु हो।यसबाहेक,हामी बच्चाहरू र DLA आयोजकहरू बिच विश्वासको निर्माण र बच्चाहरूले DLA संग सकरात्मक रूपमा संलग्न हुन सक्ने वातावरण सिर्जना गर्ने लक्ष्य रहेको छ ।

② लक्षित

- नेपाली भाषामा हामी बहुभाषीक विभिन्न वातावरणमा हुर्केका विशेष गरी त्यो विधार्थीको सबैभन्दा बलियो भाषाको स्तर बुझ्नको लागी अति आवश्यक भएको खण्डमा संचालन गर्छौं ।

③ रचना

- यसमा पहिलो भेटको अभिवादन र बच्चाको आफ्नोबारेमा (परिचयात्मक कुराकानी)र ५५ प्रश्नहरूको नाम.क्रिया र विशेषण को आधारभुत (शब्दावली जाँच)समावेश गरिएको छ ।
- (शब्दावली पावर चेक) को नाम ,शरीरको भाग,खानेकुरा , जनावर,स्कुलमा भएका बस्तुहरू,दैनिक जिवनमा बच्चाहरूले प्रयोग गर्ने ,सुन्ने शब्दहरू हो। (आँखा) र (परेला) , (मुख) र (ओठ) जस्ता बच्चाहरूको लागी सजिलो र कठिन शब्द वा (गाई) र (सिङ्ग), (रूख) (पात) (डाँठ) जस्ता सबै भाग जनाउने शब्दावली पनि समावेश छन।क्रियापढ र विशेषणहरू पनि जुन बच्चाले स्कुल वा घरमा धेरै प्रयोग गर्ने गर्दछ ।

④ कार्यान्वयन चरणहरू

अग्रिम तयारी

- परिशिष्ट १ मा रहेको DLA (पहिलो चरण) (शब्दावली कार्ड) (pp.२३६-२४२) लाई काटेर कार्ड बानाउन सक्नुहुन्छ ,कार्ड नंबरको क्रममा रिङ्गले बाँधेर राख्ने वा डेटालाई ट्याबलेटमा आयात गरेर ,एउटा-एउटा प्रस्तुत गर्न मिल्ने गरेर राख्नुहोस ।
- शब्दावली कार्डहरू लाई राम्रो गतीमा पल्टाउन सक्ने गरेर अभ्यास गर्नुहोस ,कृपया DLA मोडलको भिडियो हेर्नुहोस र कार्यान्वयनकर्ताको मनोवृत्ति र गति लाई हेरेर सान्दर्भको रूपमा प्रयोग गर्नुहोस ।
- DLA (पहिलो चरण) को व्यवहारिक गाइड (pp.१९७-१९८) एउटा –एउटा प्रस्तुत गर्न मिल्ने गरेर तयार परिएका DLA (पहिलो चरण) का शब्दावली कार्डहरू ,अडियो रेकर्डिङ उपकरण र मेमोको लागी पेपरको तयार गरेर राख्ने।

बस्ने तरिका

- बच्चाको सिधा अगाडी नबसी ,डेस्कको कुनामा बस्नुहोस।यसो गर्दा बच्चासंग कार्ड र स्पेस शेयर गरेर,बच्चामा डरको भावना कम गर्न सकिन्छ ।

संवादको कार्यान्वयन (संचालन)

- रेकर्डिङ/ रेकर्डिङ उपकरणको स्थिति जाँच गर्नुहोस,स्विच अन गर्नुहोस र संवाद शुरू गर्नुहोस ।
- DLA (पहिलो चरण)को व्यवहारिक गाइड (pp.१९७-१९८) अनुसार, (परिचयात्मक कुराकानी) र (शब्दावली जाँच)को क्रममा संचालन गर्ने ।

・DLA (पहिलो चरण) कार्यान्वयन गर्ने प्रयास गर्नु भएको छ तर पर्याप्त आधारभूत वार्तालाप पनि गर्न सकेन् र वार्तालाप जारी राख्न कठिन भएको खण्डमा,(परिचयात्मक कुराकानी) को क्रमको बिचमा वा (शब्दावली जाँच) को बिचमा भएपनि तुरून्त समाप्त गर्न सक्नुहुन्छ ।

⑤ कार्यान्वयनमा ध्यान दिनुपर्ने कुराहरू

प्रवाहमा प्रबाहमा ध्यान दिनुहोस

・DLA (पहिलो चरण) मा लाग्ने समय लगभग ५ मिनेट हो ।यद्दपी,कार्यान्वयनकर्ताको उच्चारण बच्चाको स्तर अनुसार समायोजित गर्न आवश्यक छ ।वार्तालाप यथासंभव प्राकृतिक गतिमा अगाडी बढाउनको लागी ।
・बच्चाको बोलीमा बाधा, ईन्कार वा सुधार नगर्नुहोस ।
・पहिले देखि चिनजान भएको बच्चा भएमा (पहिलो भेटको अभिवादन) (व्यक्तिगत परिचय) को आवश्यकता छैन भने स्किप गरेपनि हुन्छ।
・यदि बच्चाले सोधिएको प्रश्न नबुझेको खण्डमा,बिस्तारै फेरी दोहोर्याउनुहोस , अझै बुझेन भने छोटो र सरल तरिकामा परिवर्तन गरेपनि हुन्छ तर कुनै व्याख्या थप नगर्नुहोस,प्रवाह लाई रोक्न नदिई अघि बढनुहोस।
・“शब्दावली जाँच”को समयमा बच्चाको जवाफ अड्कियो वा जवाफ दिन सकेन भने ,सही जवाफ नसिकाउने र जवाफ लाई नसच्याई ,तुरून्त अर्को कार्डमा जानुहोस।यदी बच्चाले जवाफ जान्न चाहेको खण्डमा सिकाई दिएपनि फरक पर्दैन।
・यदी बच्चाले सोचिरहेको छ वा प्रतिक्रिया दिन समय लिईरहेको छ भने,हतार नगरी धैर्यपूर्बक पर्खिनुहोस।

वातावरण सिर्जना

・बोल्नमा धाराप्रवाह भएका बच्चाहरू लाई पनि वयस्क व्यक्तिहरू संग अन्तरक्रिया गर्दा नर्भस हुने वा नकारात्मक प्रितिक्रिया दिन सक्छन ।शान्त वातावरण बनाउने प्रयास गर्नुहोस।यस लाई परिक्षाको रूपमा प्रयोग गर्नुको सट्टा ,बच्चासंगको कुराकानीको आनन्द लिने उद्देश्यले संचालन गर्नुहोस।
・बच्चाहरूको प्रतिक्रिया लाई इशाराले वा टाउको हल्लाएर प्रतिक्रिया दिनुहोस ।
・संचालनकर्ताको लागी (पहिलो चरण) पनि एक महत्वपूर्ण वार्मअप गतिविधि हो ,बच्चाहरू बाट कुराहरू निकाल्न कोशिश गरौ भन्ने भावनाका साथ व्यवहार गर्नुहोस।शिक्षकको भन्दा पनि सहजकर्ताको भुमिका निर्वाह गर्न जरूरी छ ।

संवादको क्रममा स्कोरिङ नगर्ने

・कृपया,बच्चाको अगाडी स्कोरिङ गर्ने र मुल्याङन गर्ने नगर्नुहोस।थप रूपमा DLA (पहिलो चरण) DLA (सुन्ने/बोल्ने) र DLA (पढने)क्रमशः संचालन गर्ने हुनाले,सबै चरणहरू पुरा भएपछी मुल्याकङन गर्नुहोस ।
・सही मुल्याङकनको र रेकर्डको लागी अडियो वा भिडियो रेकर्डिङ गरौ ।

प्रशंसा गरेर समाप्त गर्नुहोस

・बच्चाको भाषाको स्तर जस्तोसुकै भएपनी ,अन्तमा नेपाली भाषामा (बोल्नुभयो) भनेर सकारात्मक मुल्याङकन गरेर समाप्त गर्नुहोस ।

⑥ अर्को चरणको लागी संकेत

・बच्चाले (परिचयात्मक कुराकानी) र (शब्दावली जाँच) ७० ～ ८० % गर्न सकेको खण्डमा ,अर्को चरणमा जान सक्नुहुन्छ । यदि २०～ ३० % मात्रै गर्न सकेमा ,अर्को चरणमा नगई समाप्त गर्न सक्नुहुन्छ ।यदि बिचमा कुनै निर्णय लिन गार्हो भएको अवस्थामा अलि अगाडी बढेर ,त्यसपछी आफ्नो निर्णय लिनुहोस ।
・यस अध्यायको (४)मा उल्लेख गरिए अनुसार ,बच्चाको नेपाली भाषाको स्तरको आधारमा DLA (पहिलो चरण) बिचमा समाप्त गरेपनि हुन्छ ।

⑦ समय र मूल्यांकन विधि

- DLA (पहिलो चरण) को मूल्यांकन,DLA (सुन्ने /बोल्ने) समाप्त भएपछी गर्नुहोस ।
- रेकर्ड गरिएको सामाग्री चेक गर्दै DLA (पहिलो चरण) मूल्यांकन नोट (p.१९९) प्रयोग गरेर कति कति प्रगति भएको छ भन्ने बारेमा नोट गर्नुहोस ।
- (शब्दावली जाँच) मूल्यांकन गर्नको लागी , कृपया शब्दावली चेकको ईरेटा (उत्तर तालिका) (सहि/गलत तालिका) (p.२०१) हेर्नुहोस । ।
- भाषा शिक्षा (सुन्ने र बोल्ने) को लागी एक व्यापक र बहुमुखी दृष्टिकोणबाट सोच , निर्णय र अभिव्यक्ति (CLD विधार्थीहरूको लागी भाषा विकास र अधिग्रहणको म्याट्रिक्स) (KOTOBA no CHIKHARA no MONOSASHI) को समर्थन गर्ने व्यापक मौखिक क्षमताको चरणको मूल्यांकन गर्ने ।

परिचयात्मक कुराकानी

❶ प्रारम्भिक भेटको अभिवादन :



नमस्ते. म, (आफ्नो परिचय) हो.

❷ व्याख्या : अब बाट गर्ने कामको बारेमा बच्चा लाई रमाईलो तरिकाले व्याख्या गर्नुहोस,जसले बच्चाको प्रेरणा बढाउनेछ।



अब तपाईले नेपाली भाषामा के कति कुरा गर्न सक्नुहुन्छ , भनेर जान्न चाहान्छु । त्यसैले थाहा भएको कुरा जे कुरा गर्नु भएपनी हुन्छ । यदी थाहा छैन भने थाहा छैन भन्नुहोस।

❸ प्रश्न :

・निम्नक्रममा प्रश्नहरु अगाडी बढाउनुहोस ।



① कृपया आफ्नो नाम भन्नुहोस / तपाईको नाम के हो?
② कति कक्षा हो ?
③ कति बर्षको हुनुभयो ?
④ तपाईको जन्मदिन / जन्म मिती कहिले हो ?
⑤ तपाईको दाजु-भाई वा दिदी-बहिनी छ ?

・दाजु-भाई, दिदी-बहिनी बारेमा प्रत्येक बच्चाको अवस्था र पारिवारिक अवस्थाको बारेमा लचिलो रूपमा प्रतिक्रिया दिने।



⑥ साथी छ ?
⑦ मलाई आफ्नो साथीको नाम भन्नुहोस ?
⑧ साथी संग के खेल्नुहुन्छ ?

・सम्बन्धित कार्यको लागी साथीको नाम आवश्यक पर्न सक्दछ,त्यसैले साथीको नाम नोट गरेर राख्नुहोस ।



⑨ स्कुल मन पर्छ ?
⑩ किन स्कुल मन पर्छ ? / रमाईलो लाग्छ ?

・आफ्नो देशको स्कुलको बारेमा वा यदी जापानको विदेशी स्कुलमा पढेको खण्डमा, त्यो समयको र उक्त स्कुल संग तुलना गरेर् प्रश्नहररू सोध्नुहोस ।



⑪ जापानको स्कुलको मन पर्ने कुरा के हो ?
⑫ जापानको स्कुलको मन नपर्ने कुरा के हो ?

・⑪⑫ नंबरको प्रश्नपछी प्रत्येक बच्चाको लागी अनुकुल प्रश्नहरू थप्न सक्नुहुन्छ।



⑬ तपाईको परिवारमा के/कुन भाषा बोलिन्छ ?
⑭ आमाबुबाले तपाई संग के/कुन भाषामा कुरा गर्नु हुन्छ ?
तपाईले आमाबुबा संग के/कुन भाषामा कुरा गर्नु हुन्छ ?

・बुबाआमाले नेपाली बोल्ने भए पनि ,धेरै केसहरू छन ,जसमा बच्चाले सुन्छन मात्र ,त्यसैले ध्यानपूर्वक घरमा प्रयोग गरिने भाषाको बारेमा नम्ररूपमा प्रश्नहरू सोध्नुहोस साथै पारिवारीक संरचनामा ध्यानमा राखेर प्रश्न राख्नुहोस ।



⑮ नेपाली पढ्न आउछ ?
नेपाली लेख्न आउछ ?

बच्चाहरूले पढ्न र लेख्न सक्षम छ कि छैन भनी जाँच गर्नुहोस ,थपरूपमा कति स्तर सम्म पढन लेख्न सक्छ जाँच गर्न प्रश्नहरू सोध्न सक्नुहुन्छ ।

शब्दावली जाँच

❶ यदी शब्दावली कार्ड संज्ञा भएको खण्डमा (कार्ड नंबर : १〜४२)



यो के हो ? हो आँखा हो है त्यसो भए मैले “1”भन्दा “आँखा”भन है ।
.“2” भन्दा （औलाले 2 देखाएर के हो） भन्नुहोस ।
थाहा नभएको खण्डमा “थाहा छैन ”भन्नुहोस है ।त्यसो भए ...“1”.

❷ शब्दावली कार्ड क्रिया भएको खण्डमा (कार्ड नंबर ४३ 〜 ५०) कार्ड नंबर ४३ (स्विमिंग) मा पुग्नुहुन्छ ,निम्न कुरा भन्नुहोस ।



के गर्छौं ?. /के गरिरहेको छ ?

❸ यदी शब्दावली कार्ड विशेषण भएको खण्डमा (कार्ड नंबर : ५१ 〜 ५५)

・कार्ड नंबर ५१ (छोटो) सम्म आएमा निम्न कुरा भन्नुहोस.



यो कस्तो स्कर्ट हो ?

・“कस्तो”को अर्थ थाहा नभएको खण्डमा निम्न प्रश्न सोध्नुहोस .



यो “लामो” छ है . त्यसो भए (“छोटो ” को चित्र देखाएर) यो ?

अगाडी बढौ .....

- परिचयात्मक कुराकानी / यदी शब्दावली जाँचमा उत्तीर्ण प्रतिशत लगभग २० 〜 ३० भएमा ,यहीं समाप्त गरे हुन्छ .



यही समाप्त हुन्छ । धन्यवाद.

- परिचयात्मक कुराकानी / शब्दावली जाँचमा आधा भन्दा बढी संबाद गर्न सक्षम हुनुभएको खण्डमा DLA (सुन्नु / कुरा गर्नु) मा अगाडी बढनुहोस.

परिचयात्मक कुराकानी

साल　　महिना　　तारीख़

नाम　　कक्षा (ग्रेड)　　उमेर (　　बर्ष)

कार्यान्वयन कुराकानी	उचित जवाफ दिन सके	टिप्पणी
① "कृपया आफ्नो नाम भन्नुहोस/तपाईंको नाम के हो ? "	☐	
② "कति कक्षा हो ?"	☐	
③ "कति बर्षको हुनुभयो / कति बर्ष हो ?"	☐	
④ "जन्मदिन कहिले हो ?"	☐	
⑤ "दाजु भाई वा दिदीबहिनी छ ?"	☐	
⑥ "साथीहरू छन ?"	☐	
⑦ "साथीको नाम भन्नुहोस ?"	☐	
⑧ "साथीहरू संग के गरेर खेल्नुहुन्छ?"	☐	
⑨ "स्कुल रमाईलो छ ?/स्कुल मनपर्छ ?"	☐	
⑩"किन रमाईलो लाग्छ /मन पर्छ? "	☐	
⑪ "जापानको स्कुलको मन पर्ने कुरा के हो ?"	☐	
⑫ "जापानको स्कुलको मन नपर्ने कुरा के हो ?"	☐	
⑬ "घरमा नेपाली बोल्छौ ?"	☐	
⑭ "आमाबुबाले तिमी संग के भाषामा कुरा गर्नुहुन्छ ?" "तिमी आमाबुबा संग के भाषामा कुरा गर्छौ ?"	☐	
⑮ "नेपाली भाषा पढ्न आउछ ? ""नेपाली भाषा लेख्न आउछ ? "	☐	
अर्थपूर्ण जवाफको संख्या ／प्रश्नको संख्या उपलब्धि दर	⇒	／15 %

शब्दावली जाँच

साल　　महिना　　तारीख़

नाम　　कक्षा (ग्रेड)　　उमेर (　　बर्ष)

नंबर	शब्द	सही	गलत	टिप्पणी स्तम्भ	नंबर	शब्द	सही	गलत	टिप्पणी स्तम्भ
1	आँखा	☐	☐		30	डेस्क	☐	☐	
2	परेला	☐	☐		31	दराज/ड्रयर	☐	☐	
3	मुख	☐	☐		32	ब्ल्याकबोर्ड / कालोपाती	☐	☐	
4	ओठ	☐	☐		33	डस्टर / मेट्ने	☐	☐	
5	हात	☐	☐		34	नक्सा	☐	☐	
6	बुढी औला	☐	☐		35	कैची	☐	☐	
7	नङ	☐	☐		36	नोट	☐	☐	
8	नाक	☐	☐		37	ड्राईवर /बस चालक	☐	☐	
9	अंगुर	☐	☐		38	डक्टर	☐	☐	
10	अण्डा	☐	☐		39	फायर फाईटर	☐	☐	
11	झिङ्गे माछा	☐	☐		40	बस	☐	☐	
12	दुध / मिल्क	☐	☐		41	हवाईजहाज़/प्लेन	☐	☐	
13	गाई	☐	☐		42	पखेटा	☐	☐	
14	(गाईको) सिंङ	☐	☐		43	पौडी रहेको	☐	☐	
15	(कुकुरको) पुच्छर	☐	☐		44	अक्षर लेखिरहेको	☐	☐	
16	कुखुरा	☐	☐		45	दाँत माझिरहेको	☐	☐	
17	घोडा	☐	☐		46	कपडा लगाउनु	☐	☐	
18	हात्ती	☐	☐		47	सुतेर उठ्नु	☐	☐	
19	मुसा	☐	☐		48	बस्नु	☐	☐	
20	(बिरालोको) जुगां	☐	☐		49	सफ़ाई गर्नु	☐	☐	
21	रूख	☐	☐		50	रिसाउनु	☐	☐	
22	पात	☐	☐		51	छोटो	☐	☐	
23	हाङ्गा/डाँठ	☐	☐		52	पातलो	☐	☐	
24	पंखा	☐	☐		53	हलुको	☐	☐	
25	टेलिफोन/फोन	☐	☐		54	जाडो/चिसो	☐	☐	
26	ढोका	☐	☐		55	अग्लो	☐	☐	
27	छाना/छत	☐	☐		कुल	सही उत्तरहरूको संख्या (दर)			／55 (　　%)
28	भर्याङ्ग/सिढी	☐	☐						
29	झ्याल	☐	☐						

शब्दावली जाँच

नंबर	श्रेणी	सही उत्तर	स्वीकार्य जवाफ	ग़लत जवाफ
1	I शरीरको भाग	आँखा	आई	
2		परेला	आई ल्यासेस	आँखी भौ /आईब्रो
3		मुख	माउठ	लिप्स
4		ओठ	लिप्स	मुख
5		हात	हातको हत्केला	
6		बुढी औला	औला, औलाको भाग	हात
7		नङ	नेल	
8		नाक	नोज	
9	II खानेकुरा	अंगुर	ग्रेप्स	
10		अण्डा	कुखुराको अण्डा /ऐग	
11		झिङ्गेमाछा	स्रिम्प	गग्डुटो,किरा
12		दुध	मिल्क	
13	III जीवजन्तु र वनस्पति	गाई	काऊ	
14		(गाईको) सिङ्ग	हर्न्स	गाई
15		(कुकुरको) पुच्छर	डगको टेल	कुकुर
16		कुखुरा	चिकेन /हेन	
17		घोडा	हार्स	
18		हात्ती	ईलेफेन्ट	
19		मुसा	न्याउरी मुसो /माउस	
20		(बिरालोको) जुङ्गा	बिरालो/क्याट	बिरालोको रौ
21		रूख	ट्री	
22		पात	लिफ	
23		हाङ्गा / डाँठ	रूखको हाङ्गा/ब्रान्च	काठ
24	IV मेसिन	पंखा	फेन	
25		टेलिफोन/फोन	मोबाइल , मोबाईल फ़ोन, स्मार्ट फ़ोन	
26	V घरको भाग	ढोका	डोर	गेट
27		छाना/छत	रूफ	घर , घरको माथी,ईटा
28		भर्याङ्ग /सिढीं	स्टेर/स्टेप	लबी
29		झ्याल	विन्दोउ	
30	VI स्कुलमा भएको सामान	डेस्क	टेबल	मेच
31		दराज	ड्रायर	टेबलको भित्र
32		ब्ल्याकबोर्ड	कालो बोर्ड /ह्वाईट बोर्ड	कक्षा कोठा
33		डस्टर	मेट्ने,ब्ल्याकबोर्ड मेट्ने	
34		नक्सा	विश्व /म्याप /वर्ल्ड म्याप	पृथ्वी
35		कैची	सिजर	
36		नोट /कपी	नोट कपी	किताब , टेक्स्ट बुक
37	VII पेशा	ड्राईभर	बस चालक	
38		चिकित्सक	डक्टर	
39		फ़ायर फाइटर	आगो निभाउने मान्छे	आगो निभाको
40	VIII सवारी साधन	बस	गाडी	कार , बस चलाएको
41		हवाईजहाज /विमान	प्लेन /ऐरोप्लेन	
42		पखेटा	हवाईजहाज़को पखेटा	
43	IX विधालय जीवनको कार्य	पौडी खेलिरहेको	पौडेको , स्विमिंग	
44		अक्षर लेखिरहेको	लेखेकोपढेको, होमवर्क गरेको	कलम , चित्र कोरेको
45	X दैनिक जीवनको कार्य	दाँत माझीरहेको /ब्रस गरिरहेको	ब्रस गरेको , दाँत टल्काको	ब्रस
46		लुगा लगाउनु	कपडा लगाको, ड्रेस चेंज गरेको	लुगा फुकालेको
47		सुतेर उठ्नु	उठेको , उठिरहेको	नसुतेको
48		बस्नु	बसेको, कुर्सीमा बसेको वा बसिरहेको	
49	XI काम	सफा गर्नु	सरसफाई गरेको , भ्याकुम लगाको	
50	XII भावनात्मक व्यवहार	रिसाउनु	रिसाएको,क्रोधित /ऐन्ग्री	नराम्रो , डरलाग्दो
51	XIII आकार	छोटो	सर्ट	स्कर्ट, लामो छैन
52		पातलो	ठिन	लठ्ठी, मोटो छैन
53		हलुका	हलुको	झोला, ब्याग, सामान उठाको,
54		जाडो /चिसो	कोल्ड	
55		अग्लो	ठूलो मान्छे/टल	मान्छे

3. DLA (सुन्ने / बोल्ने)

① लक्ष्य

- DLA (सुन्ने / बोल्ने) नेपाली भाषा मा परिक्षण संचालन गर्नुको उद्देश्य नेपालीमा कुराकानी गर्ने क्षमताको स्तर बुझ्न र अध्ययन गर्नु हो।,जुन स्कूलको पढ़ाईको विषयहरू सिक्न र पढ्ने र लेख्ने स्तरको लागी आवश्यक र उपयोगी छ।
- DLA (सुन्ने र बोल्ने) मा तीनवटा पक्षहरू बाट वार्तालाप क्षमताको मापन गरेर : आधारभूत कुराकानी, संवाद र अनुभुती,हामी यसलाई व्यापक र धेरै कोणबाट बुझ्ने लक्ष्य राख्दछौ ।

② लक्षित

- DLA (सुन्ने / बोल्ने) मा नेपाली भाषामा अति न्युन प्रतिक्रिया दिनेहरू देखी नेपाली धाराप्रवाह बोल्न र बुझ्न सक्नेहरू सम्म,हामी बहुभाषीक परिवेशमा हुर्किरहेका विभिन्न तहका बालबालिकाहरू लाई लक्षित गर्दछौ।
- यो विशेष नेपाली भाषामा सुन्ने र बोल्ने सीपको स्तर बुझ्न अति आवश्यक हुँदा प्रयोग गरिने छ ।
- तर , नेपाली भाषा को DLA (प्रथम पाईला) मा लगभग सवाल-जवाफ गर्न नसक्ने बालबालिकाको लागी यो संचालन गर्न सकिदैन्।

③ विवरण

- "आधारभूत कार्य " "संवाद कार्य " "संज्ञानात्मक कार्य " यी ३ कार्यहरू समावेश छन ।
- "आधारभूत कार्य"मा आफ्नो बारेमा र आफ्नो दैनिक जीवन संग सम्बंधित परिचित विषयहरूमा धेरै प्रयोग हुने शब्दावली, अभिव्यक्ति र ब्याकरण प्रयोग गरेर वाक्य बनाउने र प्रतिक्रिया दिने आधारभूत संवादात्मक क्षमताको मापन गरिने छ ।
- "संवाद कार्य "मा परिस्थिति र परिस्थितिको आधारमा एक अर्का संग अन्तरक्रिया गर्ने क्षमताको मापन गर्ने छौ।
- "संज्ञानात्मक कार्य "मा आफ्नो विचार र विचार व्यक्त गर्न र विषय सिकाई संग सम्बंधित सामाग्रीको बारेमा सुसंगत व्याख्या गर्न सक्ने क्षमताको मापन गर्ने छौ।
- DLA (सुन्ने / बोल्ने) मा ३ प्रकारको कार्ड हरू प्रयोग गर्ने छौ।परिशिष्ट २ को DLA (सुन्ने / बोल्ने) मा चित्र कार्ड हरू मध्य,गुलाबी फ्रेम (आधारभूत कार्य) को लागीको (आधारभूत कार्ड) हो,पहेलो फ्रेमको (संवाद कार्य)को लागीको (संवाद कार्ड) हो ,निलो फ्रेम (संज्ञानात्मक कार्य) को लागीको (संज्ञानात्मक कार्ड) हो ।
- आधारभूत कार्ड ४ वटा , संवाद कार्ड ३ वटा , संज्ञानात्मक कार्ड ६ वटा छन,बच्चाको उमेर वा नेपाली भाषाको स्तर , DLA लागू गर्दाको परिस्थिती (समय आदि) को आधारमा छानेर प्रयोग गरिने छ।
- सबै कार्ड हरू प्रयोग गर्न ज़रूरी छैन,त्यसैले (चित्र कार्डको प्रकार र लक्षित उमेरको सुची)को आधारमा कार्ड छान्नुहोस । (pp.२०३)

④ कार्यान्वयन चरण

अग्रिम तैयारी

- परिशिष्ट २ मा DLA (सुन्ने /बोल्ने) बाट (आधारभूत कार्ड) (संवाद कार्ड) र (संज्ञानात्मक कार्ड)(pp.२४३-२४९) काटेर कार्डहरू बनाउन सक्नुहुन्छ वा डेटा लाई ट्याबलेटमा आयात गरेर , एक-एक गरेर प्रस्तुत गर्न सक्नुहुन्छ।
- राम्रो गतिमा पृष्ठ पल्टाउनको लागी अभ्यास गर्नुहोस र DLA परिचयात्मक भिडियो हेरेर यसलाई कार्यान्वयन गर्ने यक्तिको मनोवृत्ति र गति लाई ध्यान गर्नुहोस।
- DLA (सुन्ने / बोल्ने) व्यवहारिक गाइड (pp.२०७-२०९) , प्रयोग गर्ने DLA (सुन्ने / बोल्ने) को चित्र कार्ड अडियो वा भिडियो रेकर्डिङ उपकरण र नोटको तैयारी गरेर राख्नुहोस ।

कार्डको प्रयोग गर्ने तरिका / बस्ने तरिका

- कार्ड लाई प्रयोग गर्न चाहानुहुने क्रम अनुसार तल फर्काएर चाङग् पारेर राख्नुहोस सबैभन्दा माथीको कार्ड पल्टाउदा आफुलाई आवश्यक पर्ने कार्ड आउने गरेर चाङग् पारेर राख्नुहोस ।
- बच्चाको अगाडी बस्नुको सट्टा कुन्नामा बस्नुहोस र कार्ड लाई बच्चा र शिक्षक दुबैले देख्ने स्थानमा राख्नुहोस .।

संबाद संचालन

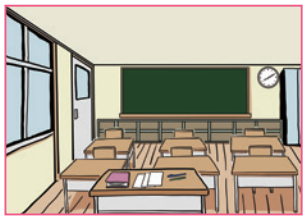
- रेकर्डिङ अडियो/भिडियोको स्थितिको राम्रो सित जाँच गर्नुहोस र स्विच अन गरीसकेपछी,DLA (सुन्ने/बोल्ने)शुरू गर्नुहोस।यदी DLA(हाजीमेनो ईप्पो) फलो गर्दै हुनुहुन्छ भने रेकर्डरको स्विच पहिलेनै अन गर्नुहोस।
- DLA (सुन्ने/बोल्ने) व्यवहारिक गाइड (pp.२०७-२०९) अनुसार (आधारभूत कार्य) (संवाद कार्य) र (संज्ञानात्मक कार्य) को क्रममा गरिने छ।
- नेपाली भाषा को स्तर अनुसार (आधारभूत कार्य) वा (संवाद कार्य) मा समाप्त गर्न सक्नुहुन्छ ।अथवा,(आधारभूत कार्य)र (संवाद कार्य) संचालन नगरी (संज्ञानात्मक कार्य) मात्र संचालन गर्ने वा सबै संचालन पनि गरिने छ।

चित्र कार्डको प्रकार र लक्षित उमेरको सुची

	चित्र कार्डको नाम	प्राथमिक विद्यालय तल्लो ग्रेड	निम्न माध्यमिक विद्यालय मध्यम ग्रेड	उच्च माध्यमिक विद्यालय माथिल्लो ग्रेड/ माथीको ग्रेड
आधारभूत कार्य	❶ कक्षा	○	○	○
	❷ खेलकूद	○	○	○
	❸ दैनिक कार्य	○	○	○
	❹ भविष्यको सपना	○	○	○
संवाद कार्य	❺ शिक्षक लाई प्रश्न	○	○	○
	❻ नयाँ शिक्षक	○	○	○
	❼ साथीहरू बोलाउने	○	○	○
संज्ञानात्मक कार्य	❽ कुरा	○	○	
	❾ दमकल	○	○	
	❿ खानाको पाचन क्रिया	○	○	○
	⓫ वातावरणीय समस्या		○	○
	⓬ भुकम्प		○	○
	⓭ जल /पानी चक्र (Water cycle)			○

प्रत्येक चित्र

◇"आधारभूत कार्य " आफु र दैनिक जिवन सम्बन्धी परिचित बिषयहरूमा गरिने प्रश्नहरूको जवाफ दिने र धेरै प्रयोग हुने शब्दहरू र अभिव्यक्तिहरू प्रयोग गरेर वाक्यहरू सिर्जना गर्नसक्नु हुन्छ कि भनेर हेर्नको लागीको कार्य हो ।कार्यान्वयन समय र बच्चाको अवस्था हेरी कार्डहरूको छनौट गरी प्रयोग गर्नुहोस।



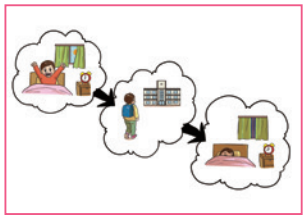
❶ "कक्षा" कार्ड

अस्तित्व भएका बस्तुहरूको क्रिया(छ /छन) वा स्थान जनाउने अभिव्यक्ति(...को माथी)को प्रयोग गरेर बस्तु वा मानिसहरूको बारेमा जवाफ दिन सक्छ कि भनेर हेर्ने र कक्षा २ भन्दा माथीको लाई घडी हेरेर समय बताउने प्रश्नहरू सोध्नुहोस ।



❷ "खेलकूद" कार्ड

"तिमिले कहिल्यै गरेको छौ /छैनौ ?" (विगतको अनुभव) , "सक्छौ कि सक्दैनौ" (सम्भावित अभिव्यक्ति) , "मन पर्छ/पर्दैन्" , "कुन मन पर्छ?" (तुलना)आदी प्रश्नहरूको जवाफ दिन सक्छ की सक्दैन हेर्नुहोस ।



❸ "दैनिकी (उठ्ने समय) (स्कुल जाने समय) (सुत्ने समय)" कार्ड

क्रियाहरूको वर्तमान काल (बानी) र भूतकालको प्रयोग गर्ने क्षमता को क्रममा कार्यहरू व्यक्त गर्न सक्ने क्षमता हेर्नुहोस ।



❹ "भविष्यको सपना" कार्ड

"~चाहान्छु " (इच्छा) को प्रयोग गरेर भविष्यको सपनाको बारेमा कुरा गर्ने क्षमता हेर्ने छौ र साथै कारण पनि सोध्नुहोस ।

03

◇"संबाद कार्य "मा परिस्थिति/परिस्थिति अनुसार आफु बोल्ने र वार्तालापको नेतृत्व गर्न सक्ने क्षमताको परिक्षण गरिने कार्य हो ।कार्यान्वयन कर्ताले शिक्षक वा साथीको भूमिकाको रोल प्ले गरेर गतिविधिहरू संचालन गर्नेछौ।समय र बच्चाहरूको स्थिती अनुसार कार्डहरू छानेर प्रयोग गर्नुहोस ।



❺ "शिक्षकलाई प्रश्न" कार्ड

A : कक्षा भैरहेको समयमा टोईलेट जानको लागी अनुमति माग्न सक्छ ? भनेर हेर्ने .

B : किताब/पाठ्यपुस्तक लिएर आउन बिर्सेको खण्डमा शिक्षक वा साथीहरू संग सापट माग्न सक्छ ? भनेर हेर्ने.



❻ "नयाँ शिक्षक" कार्ड

नयाँ शिक्षक लाई आफ्नो परिचय दिन र प्रश्नहरू सोध्न सक्छ ? भनेर हेर्ने .



❼"साथीहरू लाई बोलाउने" कार्ड

साथी लाई बोलाउन सक्छ ?भनेर हेर्ने र कुरीकानीको नेतृत्व गर्ने क्षमता (भेट्ने ठाँऊ वा समयको बारेमा आफुबाट सुझाव दिन सक्छ कि) हेर्ने , कार्यान्वयन कर्ताले साथीको भुमीका निभाउने छ ।

◇"संज्ञानात्मक कार्य "मा बच्चाको पाठ्यक्रमको विषय संग सम्बंधित सामाग्रीहरूको बारेमा समेटेर बोल्न सक्छ कि सक्दैन भनेर परिक्षण गर्ने कार्य हो ।बच्चाको उमेर (ग्रेड) हेरेर कार्ड छानेर प्रयोग गर्नुहोस ।निम्न माध्यमिक र उच्च/माध्यामिक स्तरको विधार्थी लाई प्रयोग गर्दै हुनुहुन्छ भने यस भित्रमा उपयुक्त कार्य/टास्क छैन भने ,उनिहरूको मातृभाषाको पढ़ाईको आधारमा उनिहरूको मनपर्ने विषयहरूमा सिकेको कुराहरूको अवधारणाहरू व्याख्या गर्न र सोध्न सक्नुहुन्छ ।



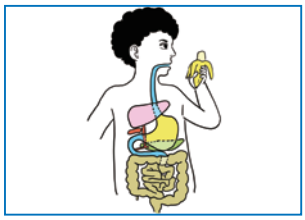
❽ "कुराकानी" कार्ड

३ वटा चित्रहरू बाट बच्चाले थाहा भएको एउटा कथा छान्नुहोस र हेर्नुहोस कि क्रम अनुसार कथाको बारेमा सुनाउन सक्छन? यो कार्डमा भएका कथाहरू बाहेक अन्य कथा भए पनि हुन्छ।



❾ "दमकल " कार्ड

२ गाडीहरूको भूमिका ,तिनीहरूको समानता र भिन्नताको बारेमा कुरा गर्न सक्छ की सक्दैन हेर्ने ।चित्रमा भएका गाड़ीहरू हेरेर गाडीहरूको आकार र कार्यहरूमा समानता र भिन्नताहरूको जवाफ दिन सक्छ की सक्दैन भन्ने कुरामा फ़ोकस गर्नुहोस।



❿ "खानाको पाचन " कार्ड

खानाको पाचनको बारेमा कुरा गर्न सक्छ ?हेर्ने र यदी माथिल्लो कक्षाको विधार्थी भएमा उमेर अनुसारको विषय र शब्दावली प्रयोग गरेर पाचन प्रणालीको बारेमा व्याख्या गर्न सक्छ कि भनेर हेर्नुहोस ।



⓫ "वातावरणीय समस्या" कार्ड

पृथ्वीमा अहिले के कस्तो भैरहेको छ भन्ने कुराको व्याख्या गर्ने शक्ति हेर्ने।वातावरणीय समस्याका समाधानको बारेमा आफ्नो राय भन्न सक्छ कि भनेर हेर्ने ।माथिल्लो कक्षाका विधार्थीहरू लाई उनिहरूको उमेर अनुसार सिकेका विषय र शब्दावली प्रयोग गरेर ग्लोबल वर्मिङ को कारण र संयन्त्रहरूको बारेमा व्याख्या गर्न सक्छ कि भनेर परिक्षण गर्ने ।



⓬ "भूकम्प " कार्ड

भूकम्प अनुभव बताउन सक्छ कि हेर्ने र भूकम्प आएमा के गर्ने भन्ने बारेमा आफ्नो राय व्यक्त गर्न सक्छन कि भनेर हेर्ने छौ ।माथिल्लो कक्षाका विधार्थीहरू लाई उनिहरूको उमेर र सिकेका विषय र शब्दावली हरू प्रयोग गरेर भूकम्पको कारणहरू र संयन्त्रको व्याख्या गर्न सक्छ कि भनेर हेर्नुहोस।



⓭ "पानी/जल चक्र " कार्ड

पढेको विषयको शब्दावली प्रयोग गरेर पानी/जल चक्रले कसरी काम गर्छ भनेर व्याख्या गर्न सक्छ,भनेर हेर्छौं।हामी विधार्थीहरू लाई सोध्ने छौ कि यदि सुर्य नभएमा के हुन्छ? जुन पानी/जल चक्रको लागी अति आवश्यक छ ।कुनै काल्पनिक घटनाको जवाफ प्रमाण सहित दिन सक्छ कि भनेर हेर्नुहोस।

⑤ कार्यान्वयनमा ध्यान दिनुपर्ने कुराहरू

प्रवाहमा फोकस गर्नुहोस

- DLA (सुन्ने / बोल्ने) मा लाग्ने समय लगभग १० ~ १५ मिनेट हो . धेरै समय नलागाउनु होस र प्राकृतिक गतिमा संवादको साथ अगाडी बढनुहोस ।
- कृपया विधार्थीहरूको बोली लाई विचमा अवरोध ,अस्वीकार र सच्याउने काम नगर्नुहोस।
- यदी बच्चाले प्रश्न बुझ्दैन भने ,बिस्तारै दोहायाउनुहोस ।यदी अझै नबुझेको खण्डमा प्रश्न लाई छोटो र सरल तरिकामा परिवर्तन गरे पनि हुन्छ तर कुनै पनि व्याख्या थप नगर्नुहोस,साथै प्रवाह लाई रोक्न नदिई अगाडी बढौ ।
- यदी बच्चाले सोचिहरहेको वा प्रतिक्रिया दिन समय लगाईरहेको छ भने ,हतार नगर्नुहोस र धैर्यपूर्वक पर्खनुहोस।

वातावरण सृजना

- शान्त वातावरण बनाउन प्रयास गर्नुहोस ,कृपया यसलाई परिक्षाको रूपमा प्रयोग गर्नु सट्टा,कृपया,बच्चासँगको संवादको आनन्द लिने उदेश्य राखेर गर्नुहोस।
- बच्चाको प्रतिक्रियालाई ट्याप गरेर वा टाउको हल्लाएर सांकेतिक रूपमा प्रतिक्रिया दिने ।

संवादको क्रममा स्कोरिंग/मुल्याकंन नगर्ने

- कृपया बच्चाको अगाडी स्कोरिङ वा मुल्याङन नगर्नुहोस. कार्यान्वयन पछी मुल्याङन गरिने छ ।
- सहि मुल्याङन र रेकर्डको लागी ,अडियो वा भिडियो रेकर्ड गरेर राख्नुहोस ।

प्रशंसा गरेर समाप्त गर्नुहोस

- जुनसुकै लेबल/स्तर भएपनि , अन्तिममा मातृभाषामा "बोलेको "मा सकारात्मक मुल्याङन गरेर समाप्त गर्नुहोस।

⑥ मूल्यांकन विधि

- DLA (सुन्ने / बोल्ने) समाप्त भएपछी अडियो र भिडियो रेकर्ड जाँच गर्नुहोस।
- DLA (सुन्ने / बोल्ने) मूल्यांकन नोट (p.२१०) प्रयोग गरेर ,आफ्नो दृष्टिकोण अनुसार के कति राम्रो गर्नसक्छन भनेर चेक (जाँच) गर्नुहोस।
- त्यस समयमा हामी DLA (हजिमेनो ईप्पो/प्रथम पाईला) मा "परिचय वार्तालापको "उपलब्धि र "शब्दावली जाँच को" सही उत्तर हरू को प्रतिशत लाई पनि विचार गर्नुहोस ।
- मूल्यांकन नोटमा टिपोट गरिएका सामाग्रीहरू (CLD विधार्थीहरूको लागी भाषा विकास र अधिग्रहणको म्याट्रिक्स) (KOTOBA no CHIKHARA no MONOSASHI)को "विचार / निर्णय / अभिव्यक्ति हरू विस्तृत भाषा कौशलको शक्ति (बहुभाषाहरूमा शक्ति)को स्टेज/चरण देखाएर मूल्यांकन गर्ने।त्यस्तै (विचार •निर्णय•अभिव्यक्ति)लाई समर्थन गर्नको लागी व्यापक भाषा शक्ति (बहु भाषाहरूमा शक्ति) ले (नेपाली भाषामा गर्न सक्ने कुरा) र (जापानीज भाषामा गर्न सक्ने कुरा) लाई मिलाएर व्यापक रूपमा बुझ्न सकिन्छ।
- DLA बालबालिकाहरूको भाषिक शिप स्कोर गर्न र परिणामहरू क्रमबद्ध गर्नको लागी मानकीकृत परीक्षण होईन ।यो एक मूल्यांकन हो जसले बच्चाले भाषाको प्रयोग गरेर (गर्न सक्ने कुरा) वा (सपोर्ट/सहयोग पाएर गर्न सक्ने कुरा)लाई हेरी, त्यसको जानकारी भाषाको शिक्षा र सपोर्टको लागी उपयोग गर्ने छौ ।
- तसर्थ,यसमा प्राप्त भएका परिणाहरू स्कोर नगरी,तिनीहरूलाई एक व्यापक र वहुपक्षिय दृष्टिकोण बाट हेर्नुहोस र तिनीहरूलाई अर्को चरणमा लक्षित शिक्षा र सपोर्ट/सहयोग संग जोड्नुहोस.

आधारभूत कार्य

४ वटै कार्ड प्रयोग गर्न ज़रूरी छैन।अवस्था र आवश्यकता अनुसार चित्र कार्ड छानेर प्रयोग गर्नुहोस।अथवा,आधारभूत कार्य नगरेपनि गर्ने कार्य प्रष्ट छ भने यो संचालन गर्न ज़रूरी छैन।

 कार्यान्वयनकर्ता संगको वार्तालाप	ध्यान दिनुपर्ने कुराहरू
❶"कक्षा"कार्ड	
● "अब कार्ड हेरेर म संग कुरा गर्नुहोस ।यदी तपाईले मेरो कुरा नबुझेको खण्डमा ,बुझेन् भन्नुहोस । ल त शुरू गरौ है । ① "यो कहाँ हो ?" ② "यस कोठामा के के छ ?" ③ "शिक्षकको डेस्क छ ?" ④ "त्यसो भए शिक्षकको कुर्सी नि ?" ⑤ "शिक्षक हुनुहुन्छ?" ⑥ "त्यसोभए बच्चाहरू नि ?" ⑦ "पेन कहाँ छ ? " ⑧ "घडी कहाँ छ ?" ⑨ "अहिले कति बज्यो ?"	・प्रश्नहरूको क्रम परिवर्तन नगर्ने ・④प्रश्नको बिच भागमा (बस्तु छ /मानिस छ)लाई प्रेरित गर्नुहोस। ・⑥प्रश्नको बिच भागमा (बस्तु छ /मानिस छ)लाई प्रेरित गर्नुहोस। ・⑦बच्चाले चित्र कार्ड मा औल्याएर "यहाँ "भनेमा चित्र कार्ड लाई उल्टा पारेर फेरी एकपटक त्यही प्रश्न सोध्नुहोस ।मौखिक रूपमा स्थानको वर्णन (डेस्कको माथी छ) भन्न लगाउन प्रेरित गर्ने। ・⑦"पेन "लाई "कलम "मा परिवर्तन गरेपनि हुन्छ। ・⑧ यदी प्रश्न २ को उत्तरमा घडी समावेश भएको खण्डमा (घडी छ है) भन्नुहोस। ・⑨ कक्षा १ का विधार्थीहरू लाई यो प्रश्न सोध्नु पर्दैन्।
❷ "खेलकूद /स्पोर्ट्स "कार्ड	
① "स्पोर्ट्स (खेलकूद)मन पर्छ ?" ② "○○सान कस्तो प्रकारको स्पोर्ट्स (खेलकूद) गर्न सक्छौ?" ③ "(स्पोर्ट्स) को नाम?" ④ "(स्पोर्ट्स को नाम)कहिल्यै गर्नु भएको छ ?" ⑤ "(स्पोर्ट्स को नाम)र (स्पोर्ट्स को नाम)मा कुन चाही मन पर्छ?"	・① (स्पोर्ट्स)शब्द संग परिचित नभएका साना बच्चाहरूको खण्डमा (खेल) शब्द मा परिवर्तन गर्नुहोस। ・③ स्पोर्ट्सको नाम थाहा नभएका बच्चाहरू (मुख्यतया तल्लो कक्षाका विधार्थीहरू)को खण्डमा प्रशिक्षकले चित्र कार्ड देखाएर प्रश्न सोध्ने। ・③ प्रश्नलाई मध्यम मार्गमा राखेर (गर्न सक्छ/गर्न सक्दैन)भन्न प्रेरित गर्ने।
❸ "दैनिकी (उठने समय) (स्कुल जाने समय) (सुत्ने समय) "कार्ड	
① "आज विहान कति बजे उठ्यौ?" ② "त्यसपछी के गर्यौ ?" ③ "सधै कति बजे सुत्छौ ? " ④ "घर फर्के पछी सधै के गर्छौ ? सुत्नु अघि सम्मको कुरा भन्नुहोस ? "	・① समयको बारेमा प्रश्न सोध्नुहोस । ・② भुतकालको बुझाई र प्रयोग जाँच गर्नुहोस । ・③ बानी वा गतिविधिको बारेमा प्रश्न सोध्नुहोस । ・④क्रिया या गतिविधि लाई समयक्रम संग जोडेर कुरा गर्न सक्छ कि भनेर हेर्ने।
❹"भविष्यको सपना"कार्ड	
① "भविष्यमा ठूलो भएपछी के बन्न चाहान्छौ ?" ② "त्यो किन हो ?/किन बन्न चाहान्छौ?"	・① यदी बच्चाले पेशाको नाम लिएन भने ,"के गर्न चाहान्छौ ?"मा परिवर्तन गरेपनि हुन्छ. बच्चा लाई रोजगारको नाम छनौट गर्न लगाएर (स्कुलको शिक्षक नि?)चित्र कार्ड देखाएर (यो के हो?)भनेर प्रश्न सोध्नुहोस ।

प्राय कुनैको को पनि जवाफ दिन नसकेको खण्डमा कार्यक्रम लाई यही समाप्त गर्नुहोस ।



"यही सकिन्छ ।धन्यवाद. ।

धेरै जसो प्रश्नहरूको जवाफ दिन सकेमा ,संवाद कार्य वा संज्ञानात्मक कार्यमा अघि बढनुहोस।वार्ताको कार्यलाई गर्ने वा नगर्नेअवस्था (समय) र आवश्यकता अनुसार निर्धारण गर्ने।

संवाद कार्य

३ वटा सबै कार्यान्वयन गर्न जरूरी छैन . स्थिति र आवश्यकता अनुसार कार्डहरू छानेर प्रयोग गर्नुहोस।यदी संबाद कार्य गर्नु भन्दा अगाडी नै गर्न सक्छ जस्तो लागेमा गर्न जरूरी छैन।

 कार्यान्वयनकर्ता संगको वार्तालाप	ध्यान दिनुपर्ने कुराहरू
❺ "शिक्षक लाई प्रश्न" कार्ड A , B	
A ① "○○सान लाई पेट दुखेर शौचालय (टोईलेट)जान मन लागेको अवस्थामा,शिक्षक लाई के भन्नु हुन्छ । (मानौ कि म शिक्षक हो) B ① "○○सानले गणितको किताब ल्याउन बिर्सिनु भयो. कक्षामा तपाईं नजिकै बस्ने साथीले किताब देखाओस भनेर चाहानुहुन्छ।त्यतीखेर तपाईं साथीलाई के भन्नुहुन्छ?	• A①"शौचालय / पेट दुखेको बच्चा" को चित्र देखाएर प्रश्न गर्ने. • अनुमति माग्न सक्छ कि सक्दैन हेर्ने । • B①"किताब को चित्र देखाएर प्रश्न सोध्ने • अनुरोध गर्न सक्छ कि सक्दैन हेर्ने ।
❻ "नयाँ शिक्षक" कार्ड	
① "आज देखिआएको नयाँ शिक्षक हु ।सबैभन्दा पहिला (○○सान) ले आफ्नो परिचय दिनुहोस, त्यसपछी मलाई २ वटा प्रश्न सोध्नुहोस , मानौ कि म नयाँ शिक्षक हु।	• कार्यान्वयन कर्ताले नयाँ शिक्षकको भूमिका खेल्ने । • "आफ्नो परिचय "नबुझेको खण्डमा" ○○ सानको बारेमा सिकाई दिनुहोस।अझै नबुझेको खण्डमा, (नाम?) (कक्षा?) भनेर हिन्ट दिनुहोस,वा (म...)भनेर संकेत दिनुहोस।
❼ "साथीलाई खेल्न बोलाउने" कार्ड	
① "आज स्कुल छुट्टी भएपछी ○○सान सँग खेल्न चाहान्छु ।स्कुलमा जुत्ता राख्ने ठाँऊमा भटेको ○○ सान साथीलाई खेल्न आमन्त्रणा/बोलाउनुहोस ।	• परिचयात्मक कुराकानीमा सुन्नु भएको साथीको नाम प्रयोग गर्नुहोस ।साथै,कार्यान्वयनकर्ताले साथीको भूमिका निभाउनुहोस। • यस कार्यमा बच्चाले आफैबाट कुराकानी शुरू गर्ने ,आमन्त्रणा गर्ने,समय र स्थान आदि तय गर्ने र वार्तालापको टुङगो लगाउने क्षमताको परिक्षण गर्ने भएकोले ,कार्यान्वयनकर्ताले बच्चाको बोलीको प्रतिक्षा नगरी बोल्न नहुने कुरामा साबधान हुनुहोस ।

लगभग कुनै जवाफ दिन नसकेको खण्डमा ,प्रक्रिया यहि समाप्त गरे हुन्छ ।



"यही समाप्त हुन्छ । धन्यवाद. ।

संवाद कार्य लगभग पुरा भएपछी ,सिधै संज्ञानात्मक कार्यमा अघि बढ्नुहोस।

संज्ञानात्मक कार्यहरू

बच्चाको उमेर (कक्षा)अनुसार कार्ड छानेर प्रयोग गर्नुहोस. निम्न माध्यमिक विधालय र माध्यमिक/उच्च माध्यमिक स्तरको विधार्थीलाई कार्यान्वयन गर्नु परेको खण्डमा यस भित्र उपयुक्त कार्ड छैन भने आफ्नो देशमा पढेका विषय का साथै मन पर्ने विषय र सिकेका पाठको बारेमा आफ्नो अबधारणा व्याख्या गर्न लगाउने।

कार्यान्वयनकर्ता संगको वार्तालाप	ध्यान दिनुपर्ने कुराहरू
❽ "कुराकानी" कार्ड (तल्लो / मध्यम कक्षा)	
① "सानो बच्चाले तपाईलाई केही कुरा गर्न भन्यो "कुरा गर्नुहोस।	• बच्चालाई धेरै थाहा भएको विषय वस्तु छानेर कुरा गर्नुहोस,चित्र कार्ड भित्र थाहा भएको कुरा नभएमा अरू टपिक/विषय मा कुरा गरेपनि हुन्छ।
❾ "दमकल" कार्ड (तल्लो / मध्यम कक्षा)	
① "यो गाडीको नाम थाहा छ ?" ② "यो गाडीले कस्तो प्रकारको काम गर्छ/यो के को लागी प्रयोग गरिन्छ?" ③ "मिल्ने कुराहरू के हो / के फरक छ ?"	• ① २ वटा गाडीहरूलाई पालै-पालो देखाएर प्रश्नहरू सोध्नुहोस, गाडीको नाम थाहा नभएको खण्डमा अर्को प्रश्न सोध्नको लागी सिकाई दिए पनि फरक पर्दैन। • ③२ वटा गाडीहरू बिचको समानता र भिन्नताहरूको बारेमा सोध्नुहोस ।केही बच्चाहरू लाई गाडीको कार्यको समानता र भिन्नताको बारेमा थाहा नहुनसक्छ।हेराई र आकारको आधारमा जवाफ दिन सक्छ ।
❿ "खानाको पाचन" कार्ड	
① "यो मान्छेले खाएको खाना के हुन्छ?" ② "पाचन क्रियाको बारेमा व्याख्या गर्नुहोस ?"(माथील्लो कक्षाको लागी मात्र)	• तल्लो र मध्यम ग्रेड लाई पाचनको बारेमा कुरा गर्न सक्छ कि सक्दैन हेर्नुहोस र माथिल्लो ग्रेडका विधार्थीहरू लाई उमेर अनुसार उपयुक्त शब्द प्रयोग गरेर पाचन क्रियाको व्याख्या गर्न सक्छ कि सक्दैन हेर्नुहोस।
⓫ "वातावरणीय समस्या" कार्ड (मध्यम ग्रेड / कक्षा भन्दा माथी)	
① "यो के को चित्र हो ?" ② (प्रत्येक चित्रको बारेमा) " यो के हो ?" ③ "पृथ्वी रोईरहेको छ. किन रोएको होला ?"म ④ "पृथ्वी रून नदिन के गर्नु पर्छ जस्तो लाग्छ/ तिमीले के गर्न सक्छौ ?" ⑤ "यो ग्लोबल वार्मिङको चित्र हो ,ग्लोबल वार्मिङ कसरी हुन्छ ?" (मुख्यतया माथिल्लो ग्रेड)	• ①वातावरणीय समस्या र ग्लोबल वर्मिङ अवधारणा प्रतिनिधित्व गर्ने कार्ड भन्ने थाहा पाएर ,त्यो शब्द थाहा छ कि भनेर हेर्ने । • ① मा उत्तर दिन सकेमा, ② लाई स्किप गर्ने. यदि जवाफ दिन नसकेको खण्डमा एउटा –एउटा चित्रको बारेमा,के को चित्र (पृथ्वी,रूख काटिरहेको,गाडी बाट निस्किएको ग्यास,कारखानाहरू बाट निस्किएको धुवाँ)को बारेमा सोध्ने • ① मा थाहा नभएको खण्डमा ⑤मा ग्लोबल वर्मिङ भन्ने शब्द सिकाउने,साथै कारण र संयन्त्रहरूको बारेमा किताबमा पढेको शब्दहरू प्रयोग गरेर व्याख्या गर्न सक्छ कि ,हेर्ने।
⓬ "भूकम्प" कार्ड (मध्यम ग्रेड/कक्षा भन्दा माथी)	
① "कहिल्यै भूकम्पको अनुभव गर्नु भएको छ ? मलाई त्यो समयको बारेमा बताउनुहोस " ② "स्कुलमा, भएको बेलामा भूकम्प आएको खण्डमा के गर्नुहुन्छ ?" ③ "भूकम्पको बारेमा स्कुलमा पढनु भयो?. भूकम्प कसरी आउछ? व्याख्या गर"(मुख्यतया माथिल्लो ग्रेड)	• ① बच्चाहरू आफैले कहिल्यै भूकम्पको अनुभव नगरेको खण्डमा ,आमाबुबाको अनुभवको बारेमा सोध्नुहोस । • ③ भूकम्प आउनु कारण र संयन्त्र (मेकानिज्म)को बारेमा बच्चाले पढेको विषयहरूको शब्दहरू प्रयोग गरेर व्याख्या गर्न सक्छ कि हेर्ने।
⓭ "जल/पानी चक्र" कार्ड (माथील्लो ग्रेड/कक्षा)	
①"पानीको वहाबको बारेमा व्याख्या गर्नुहोस?" ②"हामीले खाने पानी कहाँ बाट आउँछ जस्तो लाग्छ ? " ③"पानी नपरेको खण्डमा/सुर्य नभएको खण्डमा पृथ्वीमा के हुन्थियो जस्तो लाग्छ ?"	

"यही समाप्त हुन्छ । धन्यवाद. "

मुल्याङ्न नोट

साल महिना तारीख़

नाम कक्षा (ग्रेड) उमेर (बर्ष)

नेपाली भाषाको सुन्ने र बोल्ने कौशल लाई निम्न बुदाँहरूको आधारमा जाँच गर्ने छौ।
यस मुल्याङन नोट (CLD विधार्थीहरूको लागी भाषा विकास र अधिग्रहणको म्याट्रिक्स) (KOTOBA no CHIKHARA no MONOSASHI) को आधारमा चरण (स्टेज)को मुल्याङन गर्ने छौ ।

सुन्ने कौशल		
आधारभूत सुन्ने कौशल	आफ्नो बारेमा र आफु वरीपरीको विषयहरूको बारेमा गरेको साधारण प्रश्नहरू बुझ्न सक्छ ।	☐ राम्रो गर्न सक्छ ☐ सक्छ ☐ अझै अलि गार्हो
उच्चारण र प्रवाह		
उच्चारण र ईन्टोनेशन	प्राकृतिक उच्चारण र स्वरमा बोल्न सक्छ ।	☐ राम्रो गर्न सक्छ ☐ सक्छ ☐ अझै अलि गार्हो
प्रवाह	अन्तरक्रिया प्राकृतिक र सहज छ ।	☐ राम्रो गर्न सक्छ ☐ सक्छ ☐ अझै अलि गार्हो
बोल्ने तरिका		
बोल्ने तरिका	आफु बाट बोल्न र कुराकानी गर्न सक्षम छ ।	☐ राम्रो गर्न सक्छ ☐ सक्छ ☐ अझै अलि गार्हो
शब्दावली		
दैनिक शब्दावली	परिचित दैनिक शब्दावली र अभिव्यक्ति प्रयोग गर्न सक्छ ।	☐ राम्रो गर्न सक्छ ☐ सक्छ ☐ अझै अलि गार्हो
शब्दावलीको गुणस्तर (किताबमा पढेका शब्दावली)	उपयुक्त शब्दावली र अभिव्यक्ति प्रयोग गर्न सक्षम (विषयमा पढेका शब्दावली सहित)	☐ राम्रो गर्न सक्छ ☐ सक्छ ☐ अझै अलि गार्हो
व्याकरणीय शुद्दता		
व्याकरणीय शुद्धता	शुद्द व्याकरणमा बोल्न सक्छ ।	☐ राम्रो गर्न सक्छ ☐ सक्छ ☐ अझै अलि गार्हो
वाक्य र अनुच्छेदको गुणस्तर		
वाक्य निर्माण	आफैले सरल वाक्य बनाउन सक्छ ।	☐ राम्रो गर्न सक्छ ☐ सक्छ ☐ अझै अलि गार्हो
अन्नुछेद गुणस्तर	सरल वाक्य मात्र नभएर मिश्रित वाक्यहरू प्रयोग गरेर अनुच्छेदहरू निर्माण गर्न सक्छ ।	☐ राम्रो गर्न सक्छ ☐ सक्छ ☐ अझै अलि गार्हो
कुराकानीको विषयवस्तु र सारांश		
कार्य पूर्णता स्तर	तोकिएका कार्यहरू पूरा गर्न सक्छ	☐ राम्रो गर्न सक्छ ☐ सक्छ ☐ अझै अलि गार्हो
कुराकानीको क्रम	क्रममा बोल्न र जोडेर कुरा गर्न सक्षम छ	☐ राम्रो गर्न सक्छ ☐ सक्छ ☐ अझै अलि गार्हो
कुराकानीको बिषयबस्तु र एकता	विषयवस्तुहरू समृद्ध र समेटेर वर्णन गरेर , कारण र विचारहरू आदी भन्न सक्षम छ	☐ राम्रो गर्न सक्छ ☐ सक्छ ☐ अझै अलि गार्हो

ロシア語
Русский



平和、教育、助け、自然、仲間を世界にとどけるように。ミャンマーは今自然を大切にしていない。内戦が起きているので平和にしたい。

1. DLA на разных языках

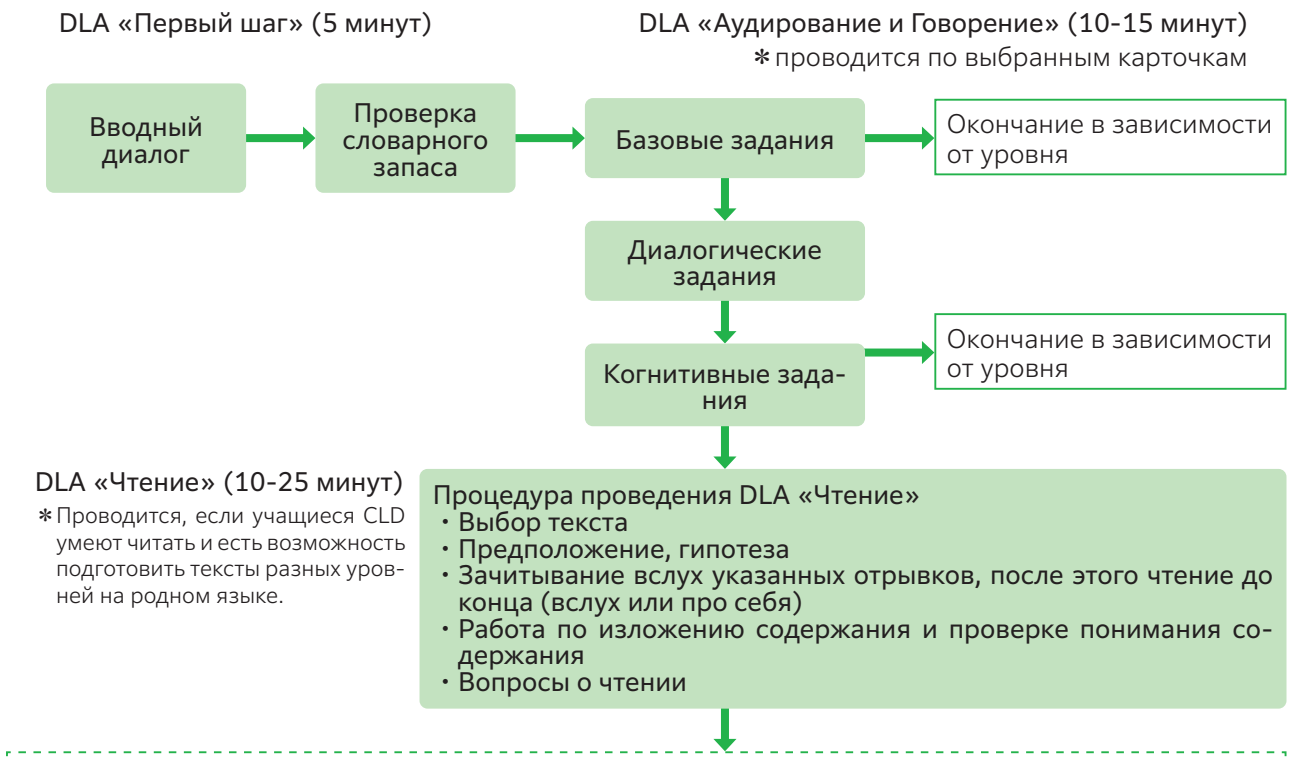
❶ Цели DLA

- DLA (Dialogic Language Assessment, «Языковое оценивание в процессе диалога») - это не тест для оценки или ранжирования по степени знания языка учащихся с различным языковым и культурным бэкграундом (многоязычные и мультикультурные учащиеся, Culturally and Linguistically Diverse Students, далее «учащиеся CLD»).
- Это инструмент оценивания, цель которого – выяснить в процессе диалога, что учащиеся CLD умеют делать на языке, однако не только то, что они умеют делать самостоятельно, но и что они умеют делать при поддержке.
- Это оценивание направлено на то, чтобы посредством диалога один на один и предоставления различных видов поддержки понять, как обучаются учащиеся CLD, какая поддержка будет способствовать их обучению, как мотивировать их к обучению.
- Также целью является использование полученной информации для последующего обучения и поддержки.

❷ Важность проведения DLA на разных языках

- Для оценки полного потенциала учащихся CLD необходимо измерить не только уровень владения японским языком, который находится в процессе усвоения, но и уровень владения родным языком.
- DLA разработан на основе теории билингвального образования. Благодаря этому возможно проведение оценивания не только на японском, но и на других языках. В этой брошюре содержатся DLA «Первый шаг» и DLA «Аудирование и Говорение» на португальском, китайском, филиппинском, вьетнамском, испанском, английском, непальском и русском языках. Если тьютор владеет родным языком учащегося CLD, он может по необходимости инициативно использовать DLA на разных языках.
- Поскольку для измерения навыков чтения необходимы не переводные тексты, а тексты различных уровней на разных языках, в данную брошюру не входит DLA «Чтение» на разных языках. Если вы хотите измерить умение читать учащихся CLD на родном языке, вы можете использовать процедуру DLA «Чтение», однако вам нужно будет подготовить тексты, соответствующие возрасту и уровню родного языка учащихся CLD. Например, можно использовать тексты-повествования или тексты-рассуждения из учебников по родному языку учащегося CLD.
- Что касается навыков письма, предпочтительнее оценивать их на основе наблюдения за учебной деятельностью по написанию сочинений на уроке, а не в виде тестов до тех пор пока учащиеся не научатся самостоятельно свободно писать сочинения по теме. Для учащихся CLD, которые могут самостоятельно свободно писать сочинения по теме, используйте в качестве ориентира задания по написанию сочинений на страницах 186-199 «Матрицы развития и усвоения языка для многоязычных и мультикультурных детей» (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) (Министерство образования Японии, 2025).

❸ Схема проведения DLA на разных языках



Оценивается путем соотнесения с этапами «Комплексных языковых компетенций (компетенций на разных языках), поддерживающих мышление, суждения и выражения» «Матрицы развития и усвоения языка для многоязычных и мультикультурных детей» (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) (Министерство образования Японии, 2025).

2. DLA «Первый шаг»

❶ Цель

- Целью проведения DLA «Первый шаг» на русском языке является проверка базовых разговорных навыков на русском языке посредством «Вводного диалога», который включает в себя приветствия и информацию о самом ребенке, а также «Проверки словарного запаса», состоящей из 55 вопросов на знание базовой лексики.
- Также целью исследования является лучшее понимание условий жизни и языковой среды ребенка.
- Кроме того, оценивание направлено на установление доверительных отношений между ребенком и оценивающим, а также на создание благоприятной атмосферы, мотивирующей ребенка активно участвовать в процессе.

❷ Целевая группа

- Целевой группой являются дети с широким диапазоном языковых навыков, растущие в многоязычной среде, начиная с тех, кто на русском языке может только понимать элементарные фразы и отвечать, используя простые выражения, до тех, кто владеет языком свободно.
- Оценивание проводится в первую очередь в тех случаях, когда существует высокая потребность в определении уровня более сильного языка ребенка.

❸ Структура

- Оценивание состоит из «Вводного диалога», который включает в себя приветствия и информацию о самом ребенке, и «Проверки словарного запаса», состоящей из 55 вопросов по базовой лексике: существительным, глаголам и прилагательным.
- Существительные в «Проверке словарного запаса» - это лексика, которую дети слышат и используют в повседневной жизни, например, названия частей тела, еды, растений и животных, предметов, которые можно увидеть в школе. Представлена как часто, так и редко используемая детьми лексика (например, «глаза» и «ресницы», «рот» и «губы»), а также слова, обозначающие целое и его части (например, «корова» и «рога», «дерево» и «листья», «ветки»). Глаголы и прилагательные также представлены лексикой, с которой дети соприкасаются в школе и дома.

❹ Порядок проведения оценивания

Предварительная подготовка

- Вырежьте «Карточки с лексикой» DLA «Первый шаг» из Приложения 1 (сс.236-242), сложите их по порядку и скрепите кольцом или загрузите данные на планшет таким образом, чтобы можно было показывать по одной карточке.
- Потренируйтесь показывать карточки в подходящем темпе. Посмотрите пояснительное видео DLA, обращая внимание на манеру поведения и темп оценивающего.

・Подготовьте Практическое руководство DLA «Первый шаг» (сс.217-218), «Карточки с лексикой» DLA «Первый шаг», которые можно показывать по одной, звукозаписывающее или видеозаписывающее оборудование и блокнот для записей.

Рассадка

・Сядьте по диагонали через угол стола, а не напротив ребенка. Это позволит вам разделить пространство и карточки с ребенком и уменьшить давление на него.

Ведение диалога

・Проверьте звукозаписывающее или видеозаписывающее устройство и начинайте диалог после того, как включили запись.
・Следуя Практическому руководству DLA «Первый шаг» (сс.217-218), проводите оценивание в следующем порядке: сначала «Вводный диалог», а затем – «Проверку словарного запаса».
・Если во время проведения DLA «Первый шаг» вы пришли к выводу, что базовые разговорные навыки ребенка недостаточно развиты и продолжать оценивание трудно, процесс следует сразу остановить, даже если «Вводный диалог» или «Проверка словарного запаса» еще не закончены.

❺ Замечания по проведению оценивания

Фокусируйтесь на процессе

・Проведение DLA «Первый шаг» занимает около 5 минут. Несмотря на то что необходимо корректировать речь оценивающего в соответствии с уровнем ребенка, по возможности ведите диалог в естественном темпе.
・Не прерывайте, не отрицайте и не поправляйте высказывания ребенка в процессе проведения оценивания.
・Если вы регулярно общаетесь с ребенком и «приветствие при первом знакомстве» в начале не требуется, пропустите его.
・Если ребенок не понял вопрос, медленно повторите его. Если ребенок все еще не понимает, можно попробовать сформулировать вопрос проще и короче. Однако не давайте дополнительных пояснений. Не останавливайте процесс, переходите к следующему вопросу.
・ Если ребёнок затрудняется ответить либо ошибается во время «Проверки словарного запаса», не давайте правильный ответ и не поправляйте ребенка, а сразу переходите к следующей карточке. Однако, если ребенок показывает, что хочет узнать ответ, вы можете его дать.
・Если ребенок задумался или ему нужно больше времени на ответ, не торопите его, а спокойно подождите.

Создание доверительной атмосферы

・Даже свободно говорящие дети могут нервничать или проявлять признаки неприятия при общении со взрослым один на один. Постарайтесь создать дружескую атмосферу. Подходите к процессу не как к тесту, а как к увлекательному общению с ребенком.
・Реагируйте на ответы ребенка поддерживающими репликами или кивками.
・«Первый шаг» является важной разминкой и для оценивающего. Подходите к работе с намерением побудить ребенка говорить. Важно взять на себя роль не учителя, а фасилитатора (того, кто побуждает ребенка высказаться).

Не выставляйте оценки во время диалога

- Не выставляйте баллы или оценки в присутствии ребенка. Поскольку после DLA «Первый шаг» идут DLA «Аудирование и Говорение» и DLA «Чтение», оценивание проводится после завершения всех этапов.
- Для правильного оценивания ведите звукозапись или видеозапись.

Завершайте похвалой

- Каким бы ни был уровень владения ребенка языком, завершайте похвалой за сам факт разговора на русском языке.

❻ Подсказки для перехода к следующему шагу

- К следующему шагу можно переходить, если ребенок выполнил правильно более 70-80% заданий «Вводного диалога» и «Проверки словарного запаса». Если выполнено менее 20-30% заданий, оценивание завершается без перехода к следующему шагу. Если результат находится в промежуточном диапазоне и вы сомневаетесь в принятии решения, проводить ли оценивание далее, проведите ещё несколько заданий и примите решение.
- Как уже было сказано в разделе (4) данной главы, в зависимости от уровня владения ребенком русским языком DLA «Первый шаг» можно завершить на любом этапе.

❼ Время и способ оценивания

- Оценивание DLA «Первый шаг» осуществляется после завершения следующего этапа – DLA «Аудирование и Говорение».
- Проверяя содержание беседы по звукозаписи или видеозаписи, используйте «Памятку для оценивания» DLA «Первый шаг» (с.219) и укажите, насколько успешно ребенок выполнил задания.
- Для оценивания «Проверки словарного запаса» воспользуйтесь «Таблицей верных и неверных ответов» (с.221).
- Оценка этапа «Комплексных языковых компетенций (компетенций на разных языках), поддерживающих мышление, суждения и выражения» из «Матрицы развития и усвоения языка для многоязычных и мультикультурных детей» (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) будет проводиться с опорой на всесторонний и многогранный подход.

Вводный диалог

❶ Приветствие при первом знакомстве:



Здравствуй(те). Меня зовут (имя). (Краткий рассказ о себе).

❷ Объяснение: объяснения даются в увлекательной форме, которая мотивирует ребенка.



Сейчас я бы хотел(а) узнать, как ты (имя ребёнка) умеешь говорить по-русски.
Говори обо всём, что понимаешь. Если что-то будет непонятно, просто скажи «я не понимаю». Хорошо?

❸ Вопросы:

・Вопросы задаются в следующем порядке.



① Скажи мне своё имя / Как тебя зовут?
② В каком ты классе?
③ Сколько тебе лет?
④ Когда у тебя день рождения?
⑤ У тебя есть братья или сестры?

・Вопросы о братьях и сестрах следует задавать с учетом индивидуальной ситуации ребенка и состава его семьи.



⑥ У тебя есть друзья?
⑦ Как зовут твоих друзей?
⑧ В какие игры ты играешь с друзьями?

・Эта информация понадобится в «диалогических заданиях», поэтому постарайтесь запомнить имена друзей (можно их записать).



⑨ Тебе нравится в школе / Ты любишь школу?
⑩ Почему?

・Если ребенок посещал школу на родине или школу для иностранцев в Японии, можно задать вопросы об этом опыте и попросить сравнить с (японской) школой, в которую он ходит сейчас.



⑪ Что ты любишь в японской школе?
⑫ Что ты не любишь в японской школе?

・После вопросов ⑪ и ⑫ можно задать дополнительные индивидуальные вопросы ребенку.



⑬ Ты говоришь дома по-русски?
⑭ На каком языке с тобой говорит мама (папа)?
На каком языке ты говоришь с мамой (папой)?

・Внимательно расспросите ребенка об использовании языков в семье, поскольку часто бывает так, что, несмотря на то, что родители говорят на русском языке, ребенок только слушает, но не говорит. Задавайте вопросы, ориентируясь исходя из состава семьи.



⑮ Ты умеешь читать по-русски?
Ты умеешь писать по-русски?

・Проверяется, усвоены ли навыки чтения и письма на русском языке. Можно дополнительно задать вопросы о том, насколько хорошо умеет читать и писать, чтобы проверить уровень этих навыков.

Проверка словарного запаса

❶ При работе с лексическими карточками с существительными (номера карточек: 1-42)



Что это? Да, это глаз. Если я скажу «1», то скажи «глаз». Давай, если я скажу «2», то скажи, как называется вот это (указывая на карточку №2). Если не знаешь, то скажи «я не знаю». Хорошо? Ну, давай начнем! «1».

❷ При работе с лексическими карточками с глаголами (номера карточек: 43-50)

・Когда вы дойдете до карточки 43 («плавать»), скажите следующее:



Что он делает?

❸ При работе с лексическими карточками с прилагательными (номера карточек: 51-55)

・Когда вы дойдете до карточки 51 («короткий»), скажите следующее:



Какая это юбка?

・Если ребенок не понимает слово «какая?», скажите следующее:



Эта юбка длинная. А тогда вот эта (указывая на картинку с «короткой»)?

03

Двигаемся дальше...

- Если задания «Вводного диалога» и «Проверки словарного запаса» выполнены правильно только на 20-30%, проведение оценивания можно закончить.



На этом закончим. Большое спасибо.

- Если задания «Вводного диалога» и «Проверки словарного запаса» выполнены правильно наполовину или более, переходите к DLA «Аудирование и Говорение».

Вводный диалог

год месяц число

Имя Класс (возраст) класс (лет)

Фразы оценивающего	Смог дать осмыслен-ный ответ	Примечания
① «Скажи мне своё имя. Как тебя зовут?»	☐	
② «В каком ты классе?»	☐	
③ «Сколько тебе лет?»	☐	
④ «Когда у тебя день рождения?»	☐	
⑤ «У тебя есть братья или сёстры?»	☐	
⑥ «У тебя есть друзья?»	☐	
⑦ «Как зовут твоих друзей?»	☐	
⑧ «В какие игры ты играешь с друзьями?»	☐	
⑨ «Тебе нравится в школе / Ты любишь школу?»	☐	
⑩ «Почему?»	☐	
⑪ «Что ты любишь в японской школе?»	☐	
⑫ «Что ты не любишь в японской школе?»	☐	
⑬ «Ты говоришь дома по-русски?»	☐	
⑭ «На каком языке говорит с тобой мама (папа) ?» «На каком языке ты говоришь с мамой (папой)?»	☐	
⑮ «Ты умеешь читать по-русски?» «Ты умеешь писать по-русски?»	☐	
Количество осмысленных ответов / Количество вопросов		／15
Процент верно выполненных заданий	⇒	%

Проверка словарного запаса

год месяц число

Имя Класс (возраст) класс (лет)

№	Слово	Прав.	Неправ.	Примечания	№	Слово	Прав	Неправ	Примечания
1	Глаз	☐	☐		30	Стол	☐	☐	
2	Ресницы	☐	☐		31	Ящик	☐	☐	
3	Рот	☐	☐		32	Доска	☐	☐	
4	Губы	☐	☐		33	Губка для доски	☐	☐	
5	Рука	☐	☐		34	Карта	☐	☐	
6	Большой палец	☐	☐		35	Ножницы	☐	☐	
7	Ноготь	☐	☐		36	Тетрадь	☐	☐	
8	Нос	☐	☐		37	Водитель	☐	☐	
9	Виноград	☐	☐		38	Врач	☐	☐	
10	Яйцо	☐	☐		39	Пожарный	☐	☐	
11	Креветка	☐	☐		40	Автобус	☐	☐	
12	Молоко	☐	☐		41	Самолёт	☐	☐	
13	Корова	☐	☐		42	Крыло	☐	☐	
14	Рога (коровы)	☐	☐		43	Плавает	☐	☐	
15	Хвост (собаки)	☐	☐		44	Пишет буквы	☐	☐	
16	Курица	☐	☐		45	Чистит зубы	☐	☐	
17	Лошадь	☐	☐		46	Одевается	☐	☐	
18	Слон	☐	☐		47	Просыпается	☐	☐	
19	Мышь	☐	☐		48	Сидит	☐	☐	
20	Усы (кота)	☐	☐		49	Пылесосит	☐	☐	
21	Дерево	☐	☐		50	Злится	☐	☐	
22	Лист	☐	☐		51	Короткий	☐	☐	
23	Ветка	☐	☐		52	Тонкий	☐	☐	
24	Вентилятор	☐	☐		53	Лёгкий	☐	☐	
25	Телефон	☐	☐		54	Холодно	☐	☐	
26	Дверь	☐	☐		55	Высокий	☐	☐	
27	Крыша	☐	☐		Итог	Кол-во правильных ответов (%)		／55 (%)	
28	Лестница	☐	☐						
29	Окно	☐	☐						

Таблица верных и неверных ответов для «Проверки словарного запаса»

№.	Категория	Правильный ответ	Допустимые ответы	Примеры неправильных ответов
1	Ⅰ Части тела	Глаз	глазки, глаза	
2		Ресницы	реснички	брови
3		Рот	помада, ротик	
4		Губы		
5		Рука	ручки, ладоши	
6		Большой палец	палец, пальчик	
7		Ноготь		
8		Нос	носик	
9	Ⅱ Еда	Виноград		
10		Яйцо	яйцо курицы, куриное яйцо	
11		Креветка	рак	
12		Молоко	молочко	
13	Ⅲ Животные и растения	Корова	коровка	му
14		Рога (коровы)		корова
15		Хвост (собаки)		собака
16		Курица	птица, птичка	ко-ко
17		Лошадь	осёл, лошадка	и-го-го
18		Слон	слоник	
19		Мышь	хомяк, мышка	пи-пи
20		Усы (кота)		волосы кота
21		Дерево		
22		Лист	листья, листик	
23		Ветка	ветка дерева	палка дерева
24	Ⅳ Приборы	Вентилятор		
25		Телефон	сотовый, мобильник, смартфон	
26	Ⅴ Предметы в доме	Дверь		ворота
27		Крыша	черепица	дом, голова дома, верх дома
28		Лестница		коридор
29		Окно	окошко	
30	Ⅵ Предметы в школе	Стол	стол, парта, письменный стол	
31		Ящик		внутри стола
32		Доска		класс, тоска
33		Губка для доски	тряпка для доски	чтобы стирать с доски
34		Карта	мир, Земля, атлас	
35		Ножницы		
36		Тетрадь	учебник, книга	
37	Ⅶ Профессии	Водитель		машина
38		Врач	доктор, медик	человек из больницы, больница
39		Пожарный	человек/дядя на пожарной машине, пожарник	пожарная служба, тушит огонь
40	Ⅷ Транспорт	Автобус		остановка, машина
41		Самолёт	летательный аппарат, боинг	
42		Крыло	крыло самолёта	
43	Ⅸ Действия в школьной жизни	Плавает	плавать, плавание, кроль, бассейн	
44		Пишет буквы	писать, писать буквы, учиться, делать домашнее задание	карандаш, письмо, ручка, каллиграфия, рисовать, рисование
45	Ⅹ Действия в повседневной жизни	Чистит зубы	чистить зубы	зубная щётка, мыть зубы, мытьё зубов
46		Одевается	Одеваться, надевает одежду, переодевается, переодевает одежду, надевать одежду.	
47		Просыпается	Вставать, просыпаться, проснулся, подъём	спит / не спит, баиньки
48		Сидит	садиться, сидеть, сидит на стуле, садиться на стул, присаживаться	садиться стулом, садись, садитесь
49	Ⅺ Действия, связанные с работой	Пылесосит	уборка, пылесосить, делать уборку, прибираться	
50	Ⅻ Глаголы чувств	Злится	злой, разозлился, плохое настроение, сердится	плохой, страшный
51	ⅩⅢ Описание	Короткий		юбка, недлинный
52		Тонкий		худой, цветные карандаши
53		Лёгкий		чемодан, портфель, коричневый, сумка, нести сумку, нетяжелый
54		Холодно		
55		Высокий	большой рост	взрослый, рост

3. DLA «Аудирование и Говорение»

❶ Цель

- Цель проведения DLA «Аудирование и Говорение» на русском языке – определение уровня разговорной речи на русском языке, которая является фундаментом языковой компетентности при изучении школьных предметов, а также навыков чтения и письма.
- DLA «Аудирование и Говорение» нацелен на всестороннюю и многогранную оценку разговорных навыков с трех сторон, а именно: со стороны повседневной речи, диалога, когнитивной деятельности.

❷ Целевая группа

- Целевой группой DLA «Аудирование и Говорение» являются дети с широким диапазоном языковых навыков, растущие в многоязычной среде, начиная с тех, кто на русском языке может только понимать элементарные фразы и отвечать, используя простые выражения, до тех, кто владеет языком свободно.
- Оценивание проводится в первую очередь в тех случаях, когда существует высокая потребность в определении уровня понимания на слух и говорения.
- Однако для детей, которые не смогли практически ничего ответить в DLA «Первый шаг» на русском языке, данное оценивание не проводится.

❸ Структура

- DLA «Аудирование и Говорение» состоит из трех типов заданий: это «базовые задания», «диалогические задания» и «когнитивные задания» .
- «Базовые задания» оценивают базовые разговорные навыки, умение строить предложения на знакомые темы, связанные с самим ребенком и его повседневной жизнью, с использованием часто встречающихся выражений, лексики и грамматики.
- «Диалогические задания» оценивают соответствующие ситуации навыки ведения диалога один на один.
- «Когнитивные задания» оценивают когнитивные навыки, позволяющие выражать свои мысли и мнения, а также связно объяснять содержание, связанное со школьными предметами.
- В DLA «Аудирование и Говорение» используется три типа карточек с картинками. Набор карточек в Приложении 2 состоит из розовых карточек для «базовых заданий», желтых для «диалогических заданий» и голубых для «когнитивных заданий».
- Существует 4 карточки для «базовых заданий», 3 карточки для «диалогических заданий» и 6 карточек для «когнитивных заданий». Карточки выбираются для использования исходя из возраста ребенка и уровня русского языка, а также ситуации (например, количества времени) на момент осуществления оценивания.
- Не обязательно использовать все карточки, поэтому выбирайте карточки, обратившись к «Списку типов карточек с картинками и соответствующего им возраста» (с.223).

❹ Порядок проведения оценивания

Предварительная подготовка

- Вырежьте «базовые карточки», «диалогические карточки» и «когнитивные карточки» из Приложения 2 (сс.243-249) или загрузите данные на планшет таким образом, чтобы можно было показывать по одной карточке.
- Потренируйтесь показывать карточки в подходящем темпе. Посмотрите пояснительное видео DLA, обращая внимание на манеру поведения и темп оценивающего.
- Подготовьте Практическое руководство DLA «Аудирование и Говорение» (сс.227-229), карточки DLA «Аудирование и Говорение», которые вы будете использовать, звукозаписывающее или видеозаписывающее оборудование и блокнот для записей.

Использование карточек и рассадка

- Сложите карточки в том порядке, в котором они будут использоваться, лицевой стороной вниз. Также убедитесь, что сверху пачки лежит именно та карточка, которая необходима.
- Сядьте по диагонали через угол стола, а не напротив ребенка и положите карточки так, чтобы они были видны как ребенку, так и оценивающему.

Ведение диалога

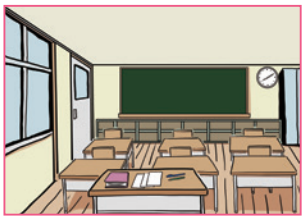
- Проверьте звукозаписывающее или видеозаписывающее устройство и проводите DLA «Аудирование и Говорение» после того, как включили запись. Если вы проводите его подряд после DLA «Первый шаг», записывающее оборудование уже включено.
- Следуя Практическому руководству DLA «Аудирование и Говорение» (сс.227-229), проводите оценивание в следующем порядке: «базовые задания», «диалогические задания», «когнитивные задания»..
- В зависимости от уровня владения ребенка русским языком оценивание может быть прекращено после проведения «базовых заданий» или после проведения «диалогических заданий». Также возможно выполнить только «когнитивные задания» без выполнения «базовых» и «диалогических», или же провести оценивание полностью, выполнив все три типа заданий.

Список типов карточек с картинками и соответствующего им возраста

	Название карточки	1-2 класс	3-4 класс	5-6 класс и старше
Базовые задания	❶ Классная комната	○	○	○
	❷ Спорт	○	○	○
	❸ Распорядок дня	○	○	○
	❹ Мечты о будущем	○	○	○
Диалогические задания	❺ Вопросы учителю	○	○	○
	❻ Новый учитель	○	○	○
	❼ Приглашение друга	○	○	○
Когнитивные задания	❽ Сказка	○	○	
	❾ Пожарные машины	○	○	
	❿ Переваривание пищи	○	○	○
	⓫ Экологические проблемы		○	○
	⓬ Землетрясение		○	○
	⓭ Круговорот воды			○

Цели каждой карточки

◇ «Базовые задания» оценивают, может ли ребенок составить предложение, отвечая на вопросы по знакомым темам, связанным с самим ребенком и его повседневной жизнью, с использованием часто встречающихся выражений и лексики.
Карточки выбираются в зависимости от времени проведения задания и состояния ребенка.



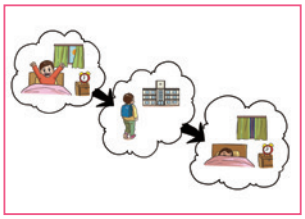
❶ Карточка «Классная комната»

Оценивается умение отвечать о наличии и местонахождении вещей и людей с использованием формы «есть» глагола существования «быть», а также выражений местонахождения («на чем-то» и т. д.).
У учеников второго класса и старше также проверяется умение определять время по часам.



❷ Карточка «Спорт»

Оценивается умение отвечать на вопросы о прошлом опыте, умении или неумении что-то делать, о том, что нравится или не нравится, что нравится больше (сравнение).



❸ Карточка «Распорядок дня» (проснуться, пойти в школу, лечь спать)

Оценивается умение различать настоящее (повторяющиеся действия) и прошедшее время глаголов, а также умение рассказывать о действиях в хронологическом порядке.



❹ Карточка «Мечта о будущем»

Оценивается умение говорить о мечтах о будущем с использованием глагола желания «хотеть». Также задается вопрос о причинах такой мечты.

◇ «Диалогические задания» оценивают умение самостоятельно высказываться в зависимости от ситуации, а также вести диалог. Оценивание проводится в виде ролевой игры, в которой оценивающий берет на себя роль учителя или друга. Карточки выбираются и используются в зависимости от времени проведения задания и состояния ребенка.



❺ Карточка «Вопросы учителю»

A: Оценивается умение ребенка попросить разрешения выйти в туалет во время занятия.
B: Оценивается умение ребенка попросить в ситуации, когда он забыл учебник дома и хочет взять его на время у учителя или друга.



❻ Карточка «Новый учитель»

Оценивается умение ребенка представиться новому учителю и задать ему вопросы.



❼ Карточка «Приглашение друга»

Оценивается умение ребенка пригласить друга.
Оценивается умение вести диалог (умение предложить место и время встречи). (Оценивающий берет на себя роль друга).

◇ «Когнитивные задания» оценивают способность связно изложить содержание, связанном со школьным предметом. Карточки подбираются соответственно возрасту (классу). При проведении оценивания у школьников средних и старших классов в случае, когда нет подходящего задания среди представленных, можно попросить ребенка объяснить изученные понятия предмета, хорошо ему дающегося, опираясь, например, на опыт обучения в родной стране.



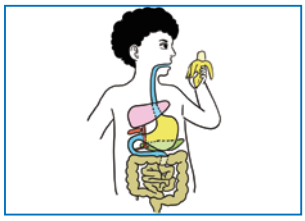
❽ Карточка «Сказка»

Оценивается умение ребенка воспроизводить в правильной последовательности известную ребенку сказку по выбранной карточке из предложенных трех. Можно использовать и другие сказки, а не только те, что представлены.



❾ Карточка «Пожарные машины»

Оценивается умение ребенка рассказывать о назначении двух машин, их сходстве и различиях. Особое внимание уделяется тому, может ли ребенок ответить о сходстве и различиях во внешнем виде (форме) машин и о том, для чего они используются.



❿ Карточка «Переваривание пищи»

Оценивается умение ребенка рассказывать о процессе переваривания пищи. У учеников пятого класса и старше оценивается умение объяснять процесс пищеварения с использованием научной лексики школьного предмета в соответствии с возрастом.



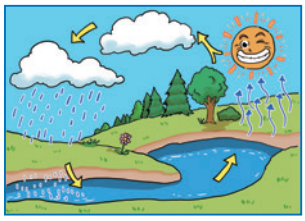
⓫ Карточка «Экологические проблемы»

Оценивается умение ребенка объяснять, что происходит с Землей сейчас. Проверяет умение высказывать свое мнение о мерах по решению экологических проблем. У учеников пятого класса и старше оценивается умение объяснять причины и механизмы глобального потепления с использованием научной лексики школьного предмета.



⓬ Карточка «Землетрясение»

Оценивается умение ребенка рассказать о собственном опыте землетрясений. Также проверяет умение выражать свое мнение о том, как необходимо действовать во время землетрясений. У учеников пятого класса и старше оценивается умение объяснять причины и механизмы землетрясения с использованием научной лексики школьного предмета.



⓭ Карточка «Круговорот воды»

Оценивается умение ребенка объяснять, как происходит круговорот воды в природе с использованием научной лексики школьного предмета. Также оценивается умение ответить, предоставляя доказательства, на гипотетический вопрос «Что будет, если не станет важного для круговорота воды Солнца?»

⑤ Замечания по проведению оценивания

Фокусируйтесь на процессе

- Проведение DLA «Аудирование и Говорение» занимает около 10-15 минут. Не занимайте слишком много времени, а ведите диалог в естественном темпе.
- Не прерывайте, не отрицайте и не поправляйте высказывания ребенка в процессе проведения оценивания.
- Если ребенок не понял вопрос, медленно повторите его. Если ребенок все еще не понимает, можно попробовать сформулировать вопрос проще и короче. Однако не давайте дополнительных объяснений. Не останавливайте процесс, переходите к следующему вопросу.
- Если ребенок задумался или или ему нужно больше времени на ответ, не торопите его, а спокойно подождите.

Создание доверительной атмосферы

- Постарайтесь создать дружескую атмосферу. Подходите к процессу не как к тесту, а как к увлекательному общению с ребенком.
- Реагируйте на ответы ребенка поддерживающими репликами или кивками.

Не выставляйте оценки во время диалога

- Не выставляйте баллы или оценки в присутствии ребенка. Сделайте это после проведения оценивания.
- Для правильного оценивания ведите звукозапись или видеозапись.

Завершайте похвалой

- Каким бы ни был уровень владения ребенка языком, завершайте похвалой за сам факт разговора на русском языке.

⑥ Способ оценивания

- После окончания DLA «Аудирование и Говорение» проверьте содержания звукозаписи или видеозаписи.
- Используя «Памятку для оценивания» DLA «Аудирование и Говорение» (с.230), проверьте, что и в какой степени может выполнить ребенок в соответствии с указанными критериями.
- При проверке также учитывайте ответы ребенка во время «Вводного диалога» DLA «Первый шаг» и процент правильных ответов в «Проверке словарного запаса».
- Оценивание проводится путем соотнесения содержания, записанного в «Памятку для оценивания», с этапами «Комплексных языковых компетенций (компетенций на разных языках), поддерживающих мышление, суждения и выражения» из «Матрицы развития и усвоения языка для многоязычных и мультикультурных детей» (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI). «Комплексные языковые компетенции (компетенции на разных языках), поддерживающие мышление, суждения и выражения» дают комплексное представление о том, что ребенок *может делать на русском языке* и что он *может делать на японском языке*.
- DLA - это не стандартизированный тест для оценки и ранжирования языковых навыков детей. Это оценивание посредством диалога, позволяющее наблюдать, что ребенок *может делать сам* и что он *может делать при поддержке*, используя речь, а также использовать эту информацию для обучения языку и поддержки речевого развития.
- Исходя из этого, не переводите полученные здесь результаты в баллы, а определите этап языкового развития, рассматривая их с точки зрения всестороннего и многогранного подхода, чтобы связать эти результаты с обучением и поддержкой, направленными на следующий этап.

Базовые задания

Нет необходимости оценивать по всем четырем карточкам. Карточки выбираются исходя из ситуации и необходимости. Кроме того, если и без оценивания посредством работы с базовыми карточками умения ребенка очевидны, в проведении «базовых заданий» нет необходимости.

Фразы оценивающего	Примечания
❶ Карточка «Классная комната»	
● «Теперь посмотри на карточки и поговори со мной. Если тебе непонятно, что я говорю, скажи об этом. Давай начнем» ① «Что это?» ② «Что в этой комнате?» ③ «Где стол учителя?» ④ «А стул учителя?» ⑤ «Здесь есть учитель?» ⑥ «А дети?» ⑦ «Где ручка?» ⑧ «Здесь есть часы?» ⑨ «Как ты думаешь, сколько сейчас времени?»	・Не меняйте порядок вопросов. ・Вопрос ⑥ формулируется в незаконченной форме для стимуляции использования слова «есть». ・Если ребенок при ответе на вопрос ⑦ показывает на карточку и говорит «здесь/тут», переверните карточку картинкой вниз и задайте этот же вопрос еще раз, вынуждая его объяснить словами («на столе»). ・⑦ Можно заменить «ручку» на «карандаш». ・⑧ Если в ответе на вопрос ② ребенок упоминал часы, то скажите «Здесь есть часы, да?» ・⑨ Можно не задавать этот вопрос первоклассникам.
❷ Карточка «Спорт»	
① «Ты любишь спорт?» ② «(Имя ребенка), в какую спортивную игру ты умеешь играть?» ③ «А (вид спорта)?» ④ «Ты когда-нибудь занимался/занималась (вид спорта)?» ⑤ «Что ты больше любишь, (вид спорта) или (вид спорта)?»	・① Ученики 1-2 класса могут быть плохо знакомы со словом «спорт». В этом случае можно использовать слово «физкультура». ・③ В случае беседы с детьми, еще не знающими названия видов спорта (в основном 1-2 класс), оценивающий задает вопрос, показывая на карточку. ・③ Вопрос формулируется в незаконченной форме для стимуляции использования слов «умею / не умею».
❸ Карточка «Распорядок дня» (проснуться, пойти в школу, лечь спать)	
① «Ты сегодня утром во сколько встал/встала?» ② «А что ты делал/делала потом?» ③ «Когда ты обычно ложишься спать?» ④ «Когда ты приходишь домой, что ты обычно делаешь? Расскажи, что ты делаешь до того как идешь спать.»	・① Вопросы о времени. ・② Проверяет понимание и умение использовать форму прошедшего времени. ・③ Вопросы о привычных действиях. ・④ Проверяет, может ли ребенок рассказывать о действиях в хронологическом порядке.
❹ Карточка «Мечты о будущем»	
① «Кем ты хочешь стать в будущем / когда вырастешь?» ② «Почему ты так думаешь?»	・① Если ребенок не назвал профессию, можно изменить вопрос на «Чем ты хочешь заниматься?» Можно также предложить несколько профессий на выбор («Учителем?») или показывать на карточку, спрашивая «Этим?»

Если ребенок не дал почти никаких ответов, на этом заканчивайте.



«На этом закончим. Большое спасибо!»

Если ребенок в целом ответил на вопросы, переходите сразу к «диалогическим» или «когнитивным заданиям». Решение проводить или нет «диалогические задания» принимается исходя из ситуации (времени) и их необходимости.

Диалогические задания

Нет необходимости оценивать по всем трем карточкам. Карточки выбираются исходя из ситуации и необходимости. Кроме того, если и без оценивания посредством работы с диалогическими карточками умения ребенка очевидны, в проведении «диалогических заданий» нет необходимости.

Фразы оценивающего	Примечания
❺ Карточка «Вопросы учителю» A, B	
A ① «Ой! Ты захотел в туалет (у тебя заболел живот). Что ты скажешь учителю? Я буду учителем». B ① «Ты забыл/забыла учебник по математике. Ты хочешь, чтобы сосед дал тебе посмотреть. Что ты ему скажешь?»	・A① Задавайте вопрос, показывая на изображение «ребенка, который хочет в туалет / у которого болит живот». ・Проверяется, может ли ребенок попросить разрешение. ・B① Задавайте вопрос, показывая на изображение «учебника». ・Проверяется, может ли ребенок ли попросить.
❻ Карточка «Новый учитель»	
① «С сегодняшнего дня у нас новый учитель. Представься ему. Затем задай учителю два вопроса. Я буду этим новым учителем.»	・Оценивающий играет роль нового учителя. ・Если ребенок не понимает слово «представься», скажите «расскажи о себе». Если не понимает и в таком случае, задавайте наводящие вопросы «Имя?» «Возраст?» начните за него: «Я...»
❼ Карточка «Приглашение друга»	
① «Сегодня после уроков ты хочешь поиграть с (имя ребенка). Пригласи (имя ребенка). Вы встретились там, где стоит сменная обувь.»	・Используйте имя друга, прозвучавшее во «Вводном диалоге». Оценивающий играет роль друга. ・Поскольку это задание направлено на изучение умений начать диалог, пригласить, договориться о времени и месте и завершить диалог, оценивающий должен быть осторожен, чтобы не вести лидирующую роль и не говорить, не дожидаясь высказываний ребенка.

Если ребенок не дал почти никаких ответов, на этом заканчивайте.



«На этом закончим. Большое спасибо!»

Если ребенок в целом выполнил «диалогические задания», переходите сразу к «когнитивным заданиям».

Когнитивные задания

Карточки подбираются в зависимости от возраста (класса) ребенка. При проведении оценивания у школьников средних и старших классов в случае, когда нет подходящего задания среди представленных, можно попросить ребенка объяснить изученные понятия предмета, хорошо ему дающегося, опираясь, например, на опыт обучения в родной стране.

Фразы оценивающего	Примечания
❽ Карточка «Сказка» (1-4 классы)	
① «Малыш попросил тебя рассказать что-нибудь. Расскажи ему.»	・Ребенок выбирает хорошо знакомую сказку и рассказывает. Если на карточке нет знакомых сказок, можно взять другую сказку.
❾ Карточка «Пожарные машины» (1-4 классы)	
① «Ты знаешь, как называется эта машина?» ② «Что делает эта машина? Зачем ее используют?» ③ «Что у них общего? Чем они различаются?»	・① Задавайте вопросы, поочередно показывая на две машины. Если ребенок не знает, как они называются, можно сказать ему, чтобы перейти к следующему вопросу. ・③ Задавайте вопросы о сходстве и различиях двух машин. Некоторые дети могут не заметить общее и различное в том, для чего используются машины, и рассказать об их внешнем виде (форме).
❿ Карточка «Переваривание пищи»	
① «Что произойдет с едой, которую съел этот человек?» ② «Объясни, как происходит процесс пищеварения». (для учеников 5 класса и старше)	・Проверяет, может ли ученик 1-4 классов рассказать о переваривании пищи, а ученик 5 класса и старше – объяснить процесс переваривания пищи с использованием лексики школьного предмета, соответствующей возрасту.
⓫ Карточка «Экологические проблемы» (3 класс и старше)	
① «Что здесь изображено?» ② (о каждой картинке) «Что это?» ③ «Земля плачет. Как ты думаешь, почему она плачет?» ④ «Как ты думаешь, что нужно сделать / что можно сделать, чтобы Земля не плакала?» ⑤ «Это изображение глобального потепления. Объясни, что вызывает глобальное потепление?» (в основном с 5 класса и старше)	・Вопрос ① Проверяет, заметит ли ребенок, что картинки изображают понятия, связанные с экологическими проблемами и глобальным потеплением, и знает ли он эту лексику. ・Если ребенок ответил на вопрос ①, то вопрос ② пропускается. Если не ответил, то следует по очереди уточнить, что изображено на каждой картинке (Земля, рубят деревья, выхлопные газы машин, дым идет от заводов). ・Если при ответе на вопрос ① оказалось, что ребенок не знает термин «глобальное потепление», при обсуждении вопроса ⑤ ему его объясняют. Проверяется, может ли ребенок рассказать об основных причинах и механизме с использованием лексики школьного предмета.
⓬ Карточка «Землетрясение» (3 класс и старше)	
① «Ты когда-нибудь чувствовал землетрясение? Расскажи об этом.» ② «Что ты будешь делать, если землетрясение произойдет в школе?» ③ «Ты изучал(а) землетрясение в школе? Объясни, почему происходят землетрясения.» (в основном с 5 класса и старше)	・①Если у ребенка никогда не испытывал землетрясение, спросите про опыт родителей. ・Вопрос ③ проверяет, может ли ребенок рассказать об основных причинах и механизме с использованием лексики школьного предмета.
⓭ Карточка «Круговорот воды» (5 класс и старше)	
① «Расскажи о круговороте воды.» ② «Как ты думаешь, откуда берется вода, которую мы пьем?» ③ «Как ты думаешь, что произойдет с Землей, если не будет идти дождь / не будет Солнца?»	



«На этом закончим. Большое спасибо!»

Памятка для оценивания

год　　месяц　　число

Имя　　Класс (возраст)　　класс (　　лет)

С помощью следующих критериев проверяется, что и в какой степени может выполнить ребенок в аудировании и говорении на русском языке.
Сопоставление содержания этой «Памятки для оценивания» с «Матрицей развития и усвоения языка для многоязычных и мультикультурных детей» (KOTOBA no CHIKARA no MONOSASHI) позволяет оценить этап языкового развития ребенка.

Аудирование		
Базовые навыки понимания на слух	Может понимать простые вопросы собеседника о себе и на близкие ему темы	☐Отлично ☐Хорошо ☐Удовлетворительно
Произношение, беглость речи		
Произношение, интонация	Может говорить с естественным произношением и интонацией	☐Отлично ☐Хорошо ☐Удовлетворительно
Беглость речи	Диалог естественный, речь плавная	☐Отлично ☐Хорошо ☐Удовлетворительно
Манера речи		
Манера речи	Может по своей инициативе высказываться и вести диалог	☐Отлично ☐Хорошо ☐Удовлетворительно
Лексика		
Повседневная лексика	Может использовать хорошо известную повседневную лексику и выражения	☐Отлично ☐Хорошо ☐Удовлетворительно
Качество лексики (лексика школьных предметов)	Может использовать подходящую лексику и выражения (включая лексику школьных предметов)	☐Отлично ☐Хорошо ☐Удовлетворительно
Правильность грамматики		
Правильность грамматики	Может говорить, используя правильные грамматические конструкции	☐Отлично ☐Хорошо ☐Удовлетворительно
Качество предложений и устного текста		
Создание предложений	Может самостоятельно строить простые предложения	☐Отлично ☐Хорошо ☐Удовлетворительно
Качество устного текста	Может создавать устный текст из нескольких предложений, используя не только простые, но и сложные предложения	☐Отлично ☐Хорошо ☐Удовлетворительно
Содержание рассказа и его завершенность		
Уровень выполнения заданий	Может выполнять поставленные задания	☐Отлично ☐Хорошо ☐Удовлетворительно
Порядок изложения	Может создавать связный рассказ, соблюдая последовательность изложения	☐Отлично ☐Хорошо ☐Удовлетворительно
Содержание рассказа и его завершенность	Может рассказывать богатые содержанием завершенные рассказы, давать объяснения, приводить причины и высказывать мнение	☐Отлично ☐Хорошо ☐Удовлетворительно

第4章 Q&A

DLA実施の全般に関する質問

Q1 専門家でなくても、子どもと関わる経験があればDLAを実施できますか。

A はい、大丈夫です。DLAは専門的な知識があればさらに効果的ですが、何よりも大切なのは、子どもに対する誠実さと丁寧に向き合う姿勢です。

DLAはテストではなく、子どもをよく見て理解しようとするためのツールであり、その姿勢が最も重要です。普段の教育現場で子どもたちと関わっている方であれば、子どもの気持ちに寄り添いながら進めることができると思います。完璧を目指すよりも、子どもの反応を観察しながら、柔軟に工夫して進めていくことが大切です。専門家でなくても、実践を重ねる中でスキルを磨けますので、思い切って挑戦してください。

Q2 DLAを効果的に実施するには、普段から子どもに接している教師・支援者が行うべきか、DLAに詳しい人に依頼すべきか、どちらが良いでしょうか。

A どちらでも大丈夫ですが、それぞれに良い点と気をつける点があります。

普段から子どもに接している人が実施する場合は、子どもが安心しやすく、結果を指導・支援に活かしやすいですが、距離が近すぎて、子どもが最大限の力を発揮できないこともあります。また、評価に先入観が入る場合もあるかもしれません。一方で、DLAに詳しい人は専門的に進められますが、初対面の場合、逆に子どもが緊張しすぎて、本来の力を出せない場合もあるでしょう。

どちらにしても、子どもがリラックスして安心できる雰囲気を作ることが何よりも大切です。また、子どもの気持ちに寄り添いながら進めることで、より良い結果が得られるでしょう。

Q3 私は、地域で多言語多文化の子どもを支援するNPOの一人です。かかわる子どものなかで気になる子がいるため、適切な支援の在り方を保護者に示すためにも、DLAをやってみたいと思っていますが、私が実施してもよいでしょうか。

A 長年にわたり地域の子どもたちを支えるNPOの方々の活動は、本当に大切で貴重なものです。ぜひ、DLAを実施するためのスキルを身につけ、これまでの経験と組み合わせて活動に役立てていただけたらと思います。

また、多文化多言語の子どもたちを理解し、支援するうえで、母語ができる保護者は、子どもにとって最も身近で重要な存在です。その保護者と連携しながら支援方法を考えることがとても大切です。DLAがその支援の方向性を考えるきっかけとなれば嬉しいです。

Q4 なかなか話そうとしない子にはどのように対応したらいいですか。

A まず、リラックスできる雰囲気を作ることが大切です。DLA実施者も落ち着いて接すると、子どもも安心します。

年齢が低い子どもには、アセスメントに入る前に好きなものなどの話をして距離を縮めるといいでしょう。また、子どもが考えている間は急がさず、ゆっくり待つことも大事です。少しでも話せたら、「いいですね」「教えてくれてありがとう」などとしっかり褒めて、自信を持たせましょう。優しく寄り添いながら、話したい気持ちを引き出すことがポイントです。

Q5 日本語で聞いている時に、母語で答えた場合は、どうすればいいですか。

A 来日してからの期間が短い子どもの場合、「母語で答える」子どももいます。「母語も使って話していい」という環境をつくることで、子どもが安心してアセスメントに臨むことができます。なお、日本語で話す力が十分でない子どもには、思考力を支えることばの力の発達をみるためにも、子どもの母語ができる実施者が、母語でDLAを実施するのが望ましいです。

ある程度日本語で話せたとしても、子どもが母語でも言いたいという気持ちを抱えている場合があるので、状況を確認しつつ、母語での実施を検討してください。

Q6 DLAワンポイントレッスンの動画を視聴する方法を教えてください。

A DLAワンポイントレッスンの動画は、動画に出ている子どものプライバシー保護の観点から、全体への公開はしておりません。

視聴を希望する方は、文部科学省ホームページより、視聴方法を確認してください。
URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm

〈はじめの一歩〉の実施に関する質問

Q7 〈はじめの一歩〉を終えるだけで1人20分～30分かかってしまいました。時間もないため、語彙チェックだけでよいでしょうか。

A DLA〈はじめの一歩〉実践ガイドの目的に示されている通り、〈はじめの一歩〉は、子どもとDLA実施者との間の信頼関係を築き、子どもがDLAに前向きに取り組める雰囲気を作ることを目的としたウォームアップです。5分程度でテンポよくさらっと終えるように心がけてください。また、〈はじめの一歩〉だけで得られる情報は限られており、それだけでは学習・指導計画に必要な情報を十分得ることは難しいです。

20分以上かかる場合は、実施方法に改善できるところがあるかもしれません。DLA〈はじめの一歩〉実践ガイドを再度確認するか、ワンポイントレッスン動画を視聴するかして、やり方を見直してみましょう。

Q8 DLAの語彙カードのなかで、「木」「葉っぱ」は正しく回答できたものの「枝」が回答できなかった子どもと出会いました。語彙カードで解答できなかったことばについての指導方法を教えてください。

A この55問の語彙は、子ども（おもに小学生）が日常生活や学校生活でよく聞くことば（高頻度語彙）と、あまり頻繁には聞かないことば（低頻度語彙）でできています。この語彙力チェックを使って、子どもが高頻度語彙も低頻度語彙もまだ習得していないのか、高頻度語彙は身についたけれど低頻度語彙が未習なのか、それともどちらも習得済みで日常会話に困らない状態なのかを知ることができます。子どもが覚えていない語彙がどれかをチェックして、それを次の授業で覚えさせるためのものではありません。

「枝」は子どもにとっての低頻度語彙です。その指導を考える場合、子どもが日常生活や学校生活の中で低頻度の語彙も自然に習得できるような豊かな環境を整えることが効果的です。たとえば、絵本の読み聞かせや日常会話の中で未習の語彙をゆっくりと繰り返し使ったり、実物やイラストを使って意味をわかりやすく示したりする工夫が役立ちます。

Q9 55問の語彙力チェックはどのくらいできたらいいのでしょうか。

A あくまでもこれまでの調査結果から得られた目安にすぎませんが、年齢相応に日本語を習得している小学１年生の日本語母語話者であれば、９割以上正解できる語彙で構成されています。また、日常生活や学校生活でよく使われる高頻度語彙を十分に習得している子どもであれば、８割程度の正答率を示すことが一般的です。

例えば、８割程度正解した子どもが小学１年生の場合、在籍学級の授業に問題なく参加できる可能性が高いです。しかし、同じ正答率の子どもが小学３年生である場合、日常会話には問題がない一方で、読み書きの力が年齢相応に達しておらず、授業参加に困難が見られることが多いです。

一方、高学年以上で来日した子どもの場合は、低年齢の子どものように自然習得に頼らなくても、学習によって日本語を覚えることが比較的容易になります。特に、母語ですでに概念を持っている語彙については、日本語でも必要に応じて先に習得することが可能です。そのため、この語彙力チェックの結果は、授業参加の可否を判断する指標として、それほど重要とはならない場合があります。

「DLA〈話す・聞く〉」の実施に関する質問

Q10 標準語ではなく、地域語で話した子どもの話す力の評価はどうなりますか。

A 話す力の評価は、地域語あるいは標準語という基準で区別して評価されるものではありません。ただほかの地域からの編入生で、母語の影響なのか、その地域語の影響なのか分からないこともあります。

その場合は、詳しい事情はあとで調べることにして、その場ではすべてを肯定的に受け止めることが大事です。

Q11 ▸▸ **実施者の日本語が理解できないのか、それは分かっているが、応答ができないのか分からないときは、どうすればいいですか。**

A 子どもが黙っていたり反応がない場合、まずは質問をゆっくり繰り返してみましょう。それでも反応がなければ、より短く、簡単な言い回しに変えてみるのもよい方法です。そうすることで、子どもが何かしら答えたり反応を示せば、質問の日本語が難しかった可能性が考えられます。また、質問を理解できており、さらに答えたいという気持ちがあるにもかかわらず、日本語で表現するのが難しい場合は、答えようとする兆候が見られることが多いでしょう。

一方で、答えたくないという理由で黙っている場合も考えられますが、子どもがリラックスして話しやすくなる雰囲気を作り、「話してみたい」と思えるようにすることで、その違いを見極める手がかりになるはずです。

〈読む〉の実施に関する質問

Q12 ▸▸ **ある程度理解していても表現力が乏しい場合、うまく自分のことばで説明できていなければ、「読書力」がない、ということになるのでしょうか。**

A 表現力を測っているわけではなく、あくまで内容が理解できているかどうかで判断します。つまり、実施者が子どもが表現したことを通して、読みの理解度を推察します。ただ母語の話す力のほうが明らかに強く、また子どもが望む場合は、母語ができる実施者が対応したり、日本語でのDLA〈読む〉を終了した段階で、母語で話す様に促してもかまいません。あとで、母語がわかる人に録音データを聞いてもらうとよいでしょう。

Q13 ▸▸ **物語の再生で、すらすら答えるのですが、読んだ内容ではなく、自分の想像で答えている場合があります。そのようなときには、どのように対処しますか。**

A 子どもが話している最中は否定せず、最後まで聞き、受け止めます。評価をする際は、自分の想像で答えた部分がテキストの内容と違っていれば、その内容を十分に理解していなかったと判断します。

指導・支援においては、予測・推測力は読解において大切な力ですので、その力を認めつつ、細部の内容にもよく注意を向けるように促すとよいでしょう。

子どもは、読んだ内容ではなく、テキストのイラストなどから自分なりに内容を想像してしまうことがよくあり、特にそれが習慣になっている子どもにはていねいな指導・支援が必要です。

Q14 ▸▸ **読むことに興味はあるようですが、漢字がネックになってすらすら読めない子どもには、どうしますか。**

A 「漢字がわからなければその場で教える」ということを、まず、しっかり子どもに伝えます。それでも選択したテキストが読み進められない場合は、テキストのレベルを下げます。

Q15 ▸▸ **すらすら読めるのですが、内容をまったくと言っていいほど理解していない場合があります。そのような場合は、どのような支援が必要でしょうか。**

A 確かに、すらすら読んでいるように見えても、実際には内容をほとんど理解していない子どもがいます。このような読み方は「字面読み」とも言えるもので、1970年代から先住民や移住者の子どもたちの課題として注目されてきました。その背景には、幼児期の言語環境が関係していることがあります。

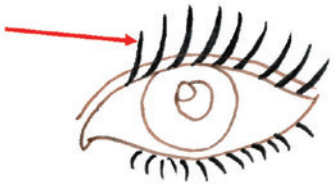
例えば、幼児期に絵本の読み聞かせを経験した子どもは、文字の背後に面白いストーリーがあることを自然に理解しています。一方で、そのような経験がない子どもは、１年生になって文字を学び始めると、文字を順番に読むことが「読む」という行為だと認識しがちです。このような子どもたちに対しては、幼児期に戻るような感覚で、短い期間でも「(絵)本を一緒に読んで、内容について話し合う」という活動を取り入れることで、読むことの楽しさや意味を伝えることができます。

切り取ってカード状にし、番号順にしてリングでとめたり、タブレットにデータを取り込むなどして、一枚ずつ提示できるようにしましょう。

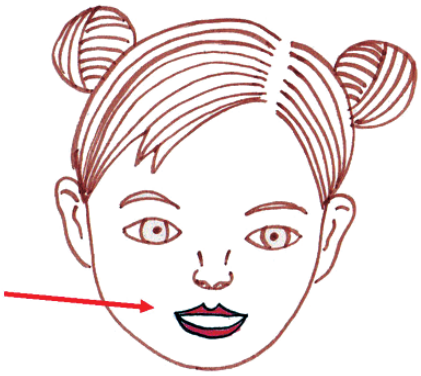
1



2



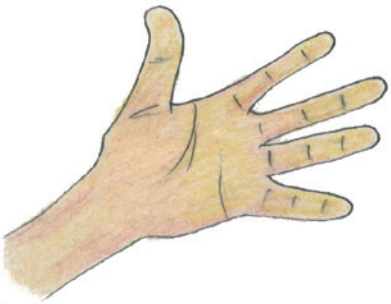
3



4



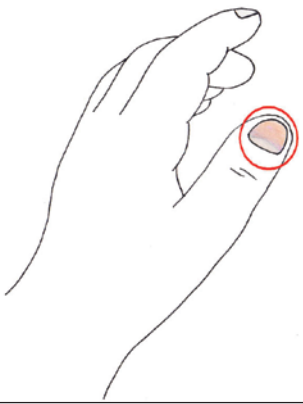
5



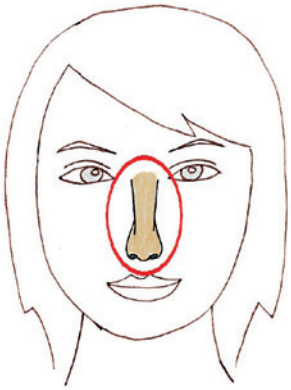
6



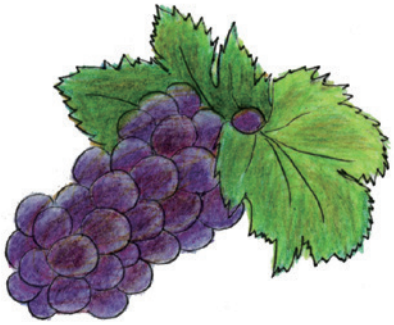
7



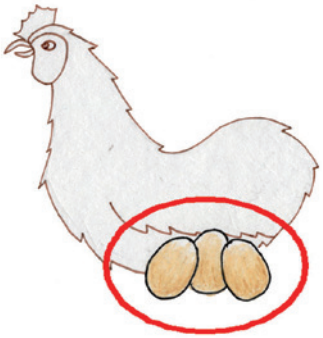
8



9



10



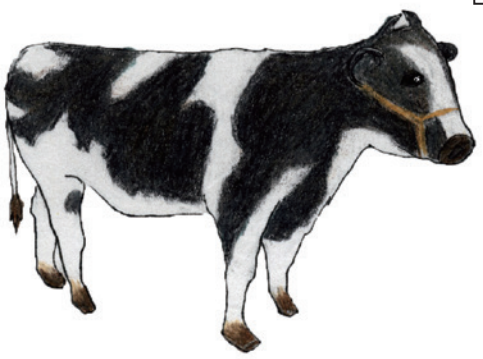
11



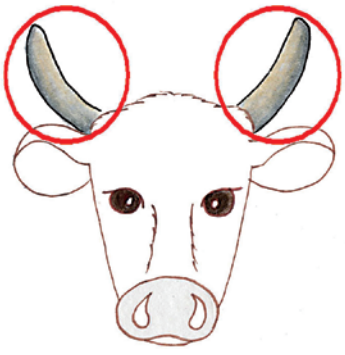
12



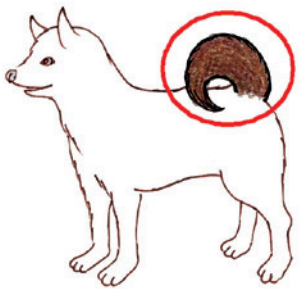
13



14



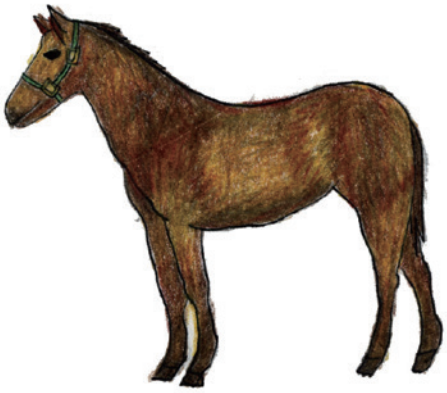
15



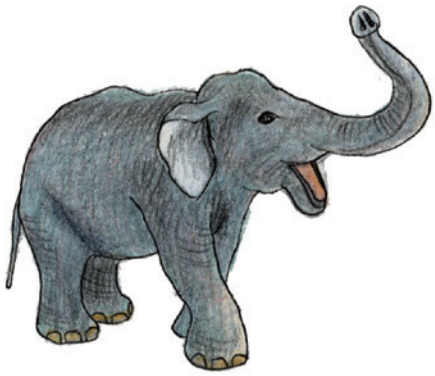
16



17



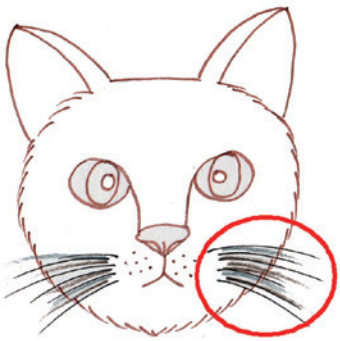
18



19



20



21



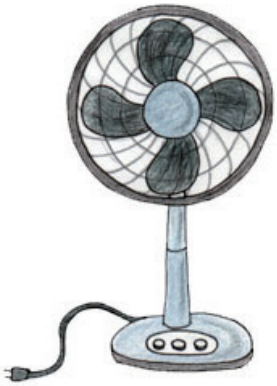
22



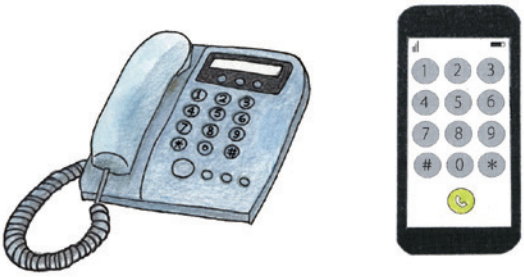
23



24



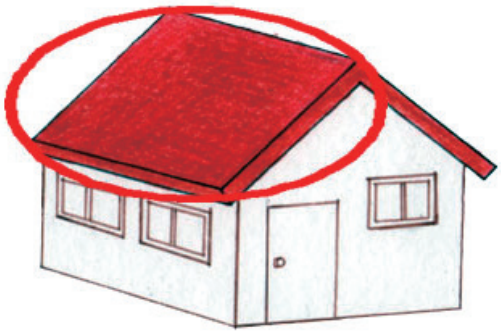
25



26



27



28



29



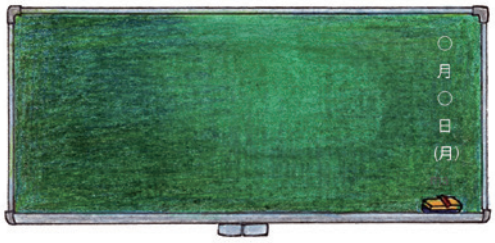
30



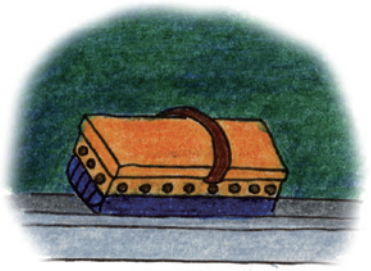
31



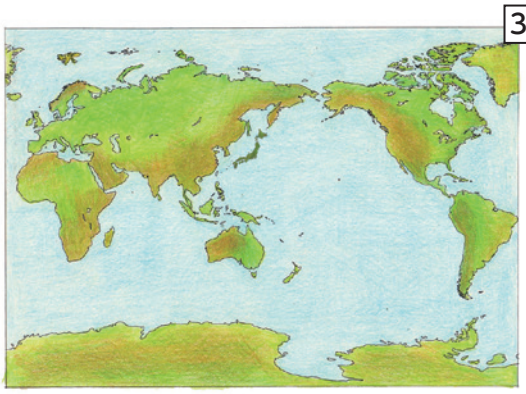
32



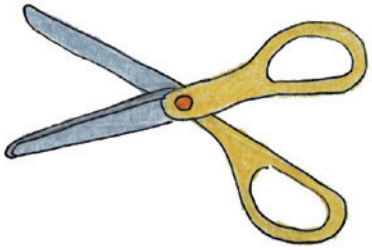
33



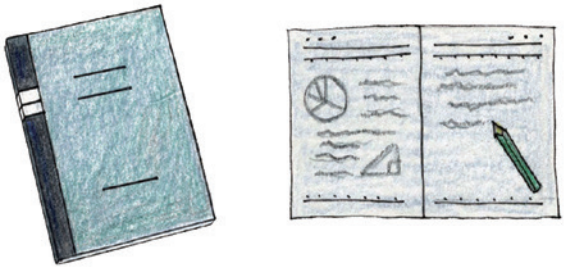
34



35



36



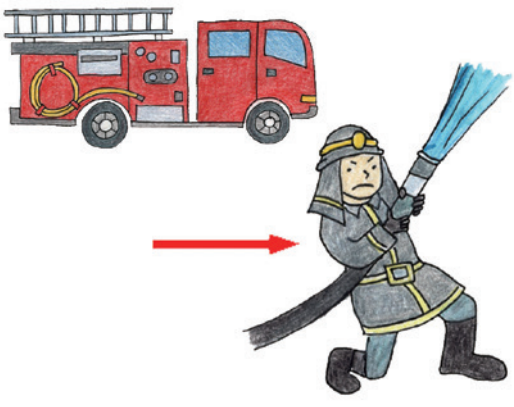
37



38



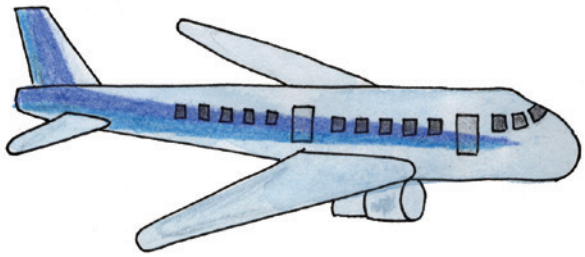
39



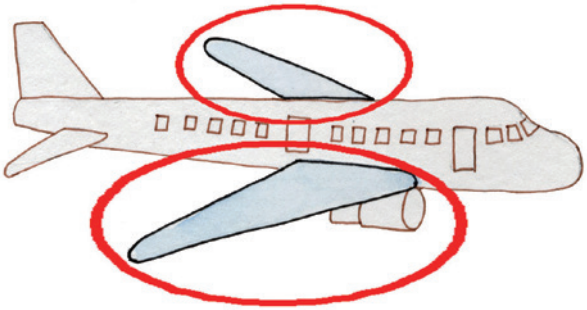
40



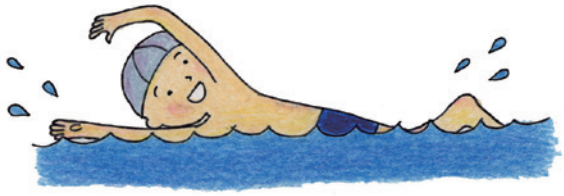
41



42



43



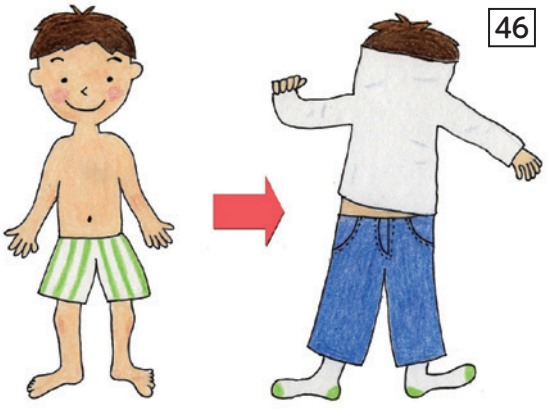
44



45

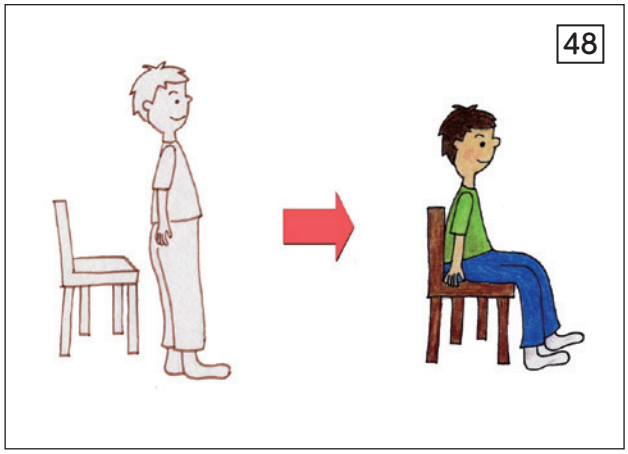


46

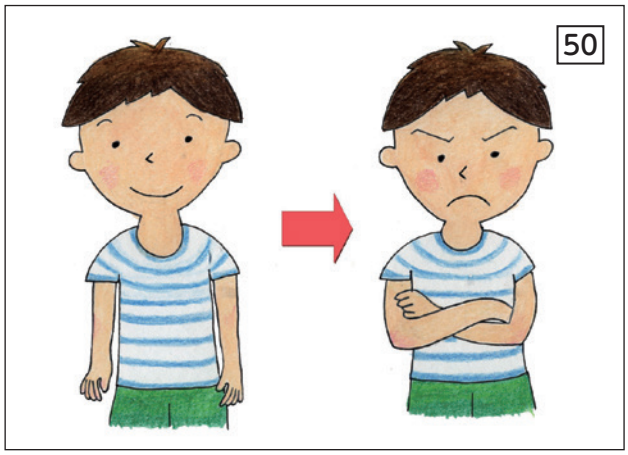


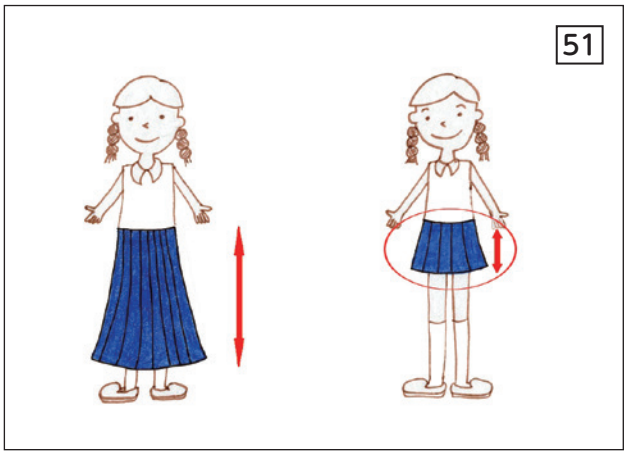
47

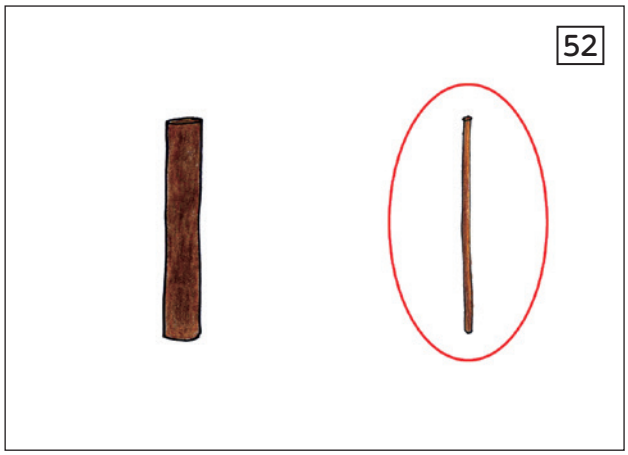



48

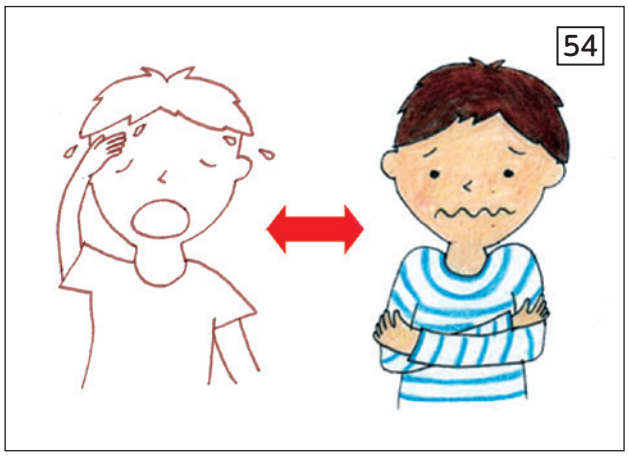

49

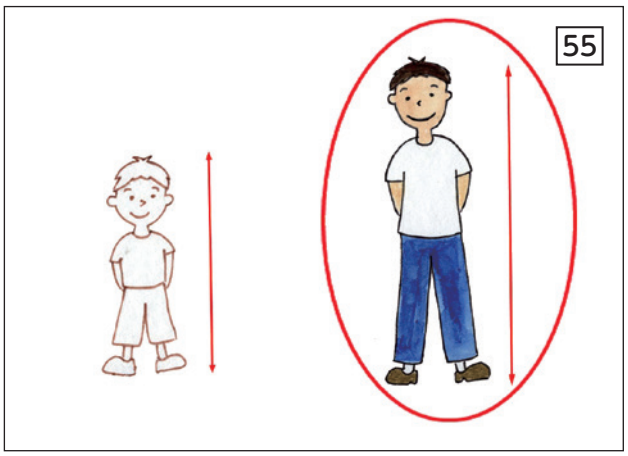

50


51


52

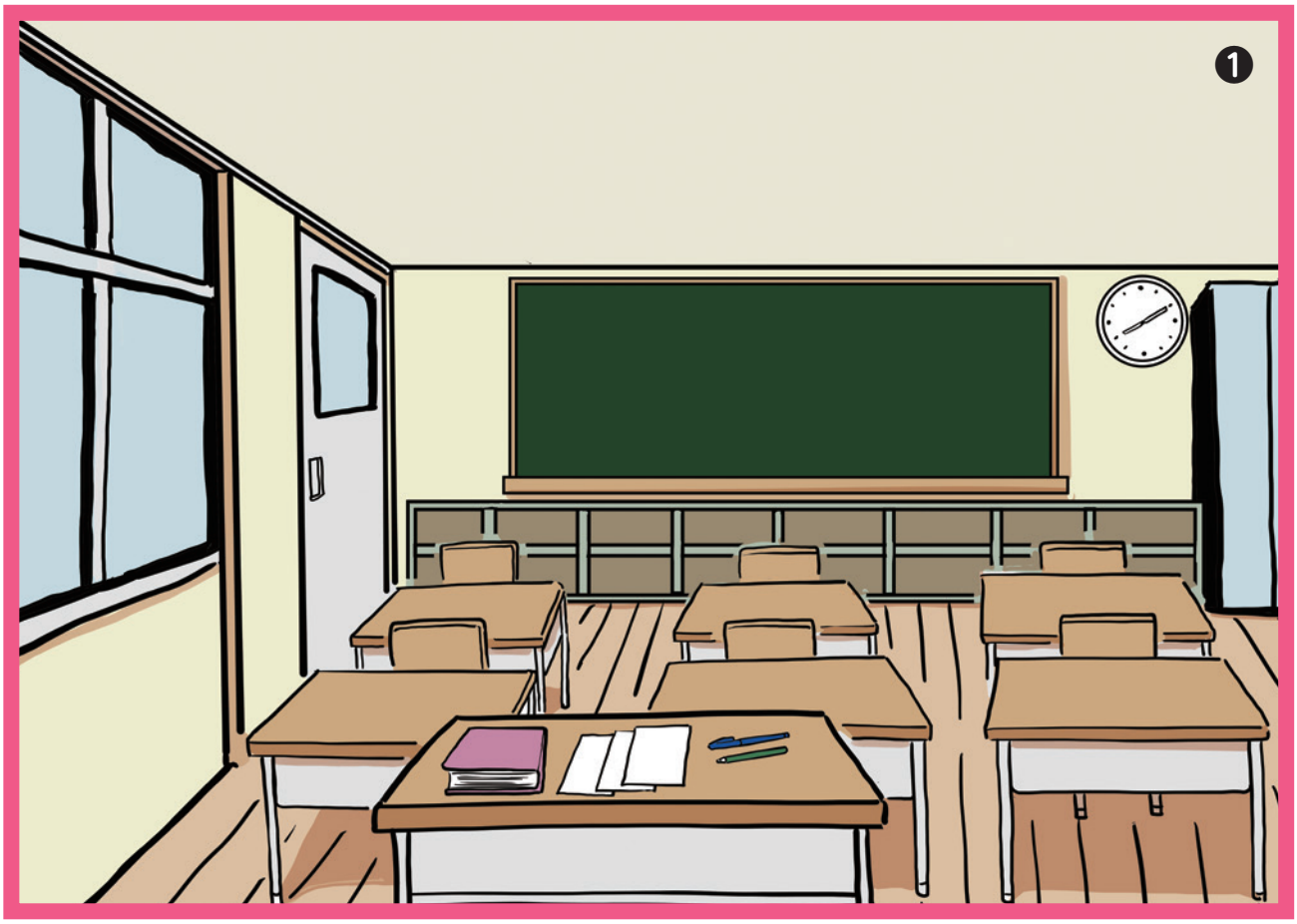

53


54


55

切り取ってカード状にしたり、タブレットにデータを取り込むなどして、一枚ずつ提示できるようにしましょう。

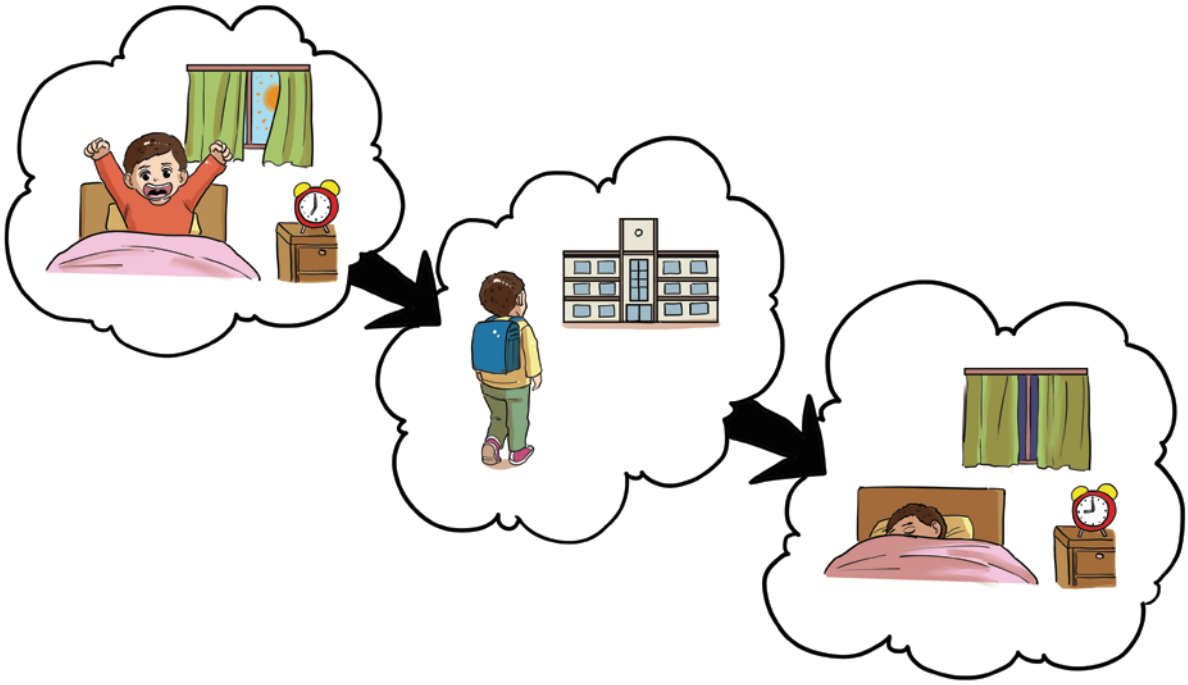
●基礎カード





●基礎カード

❸

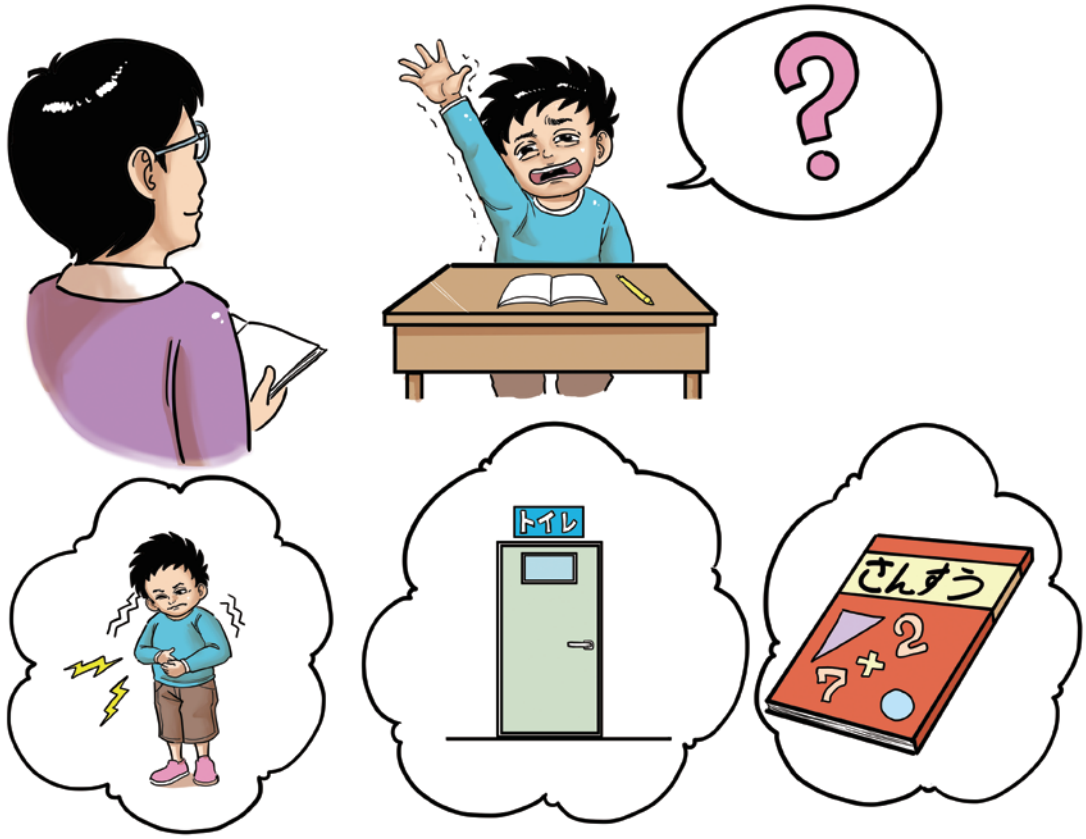


❹

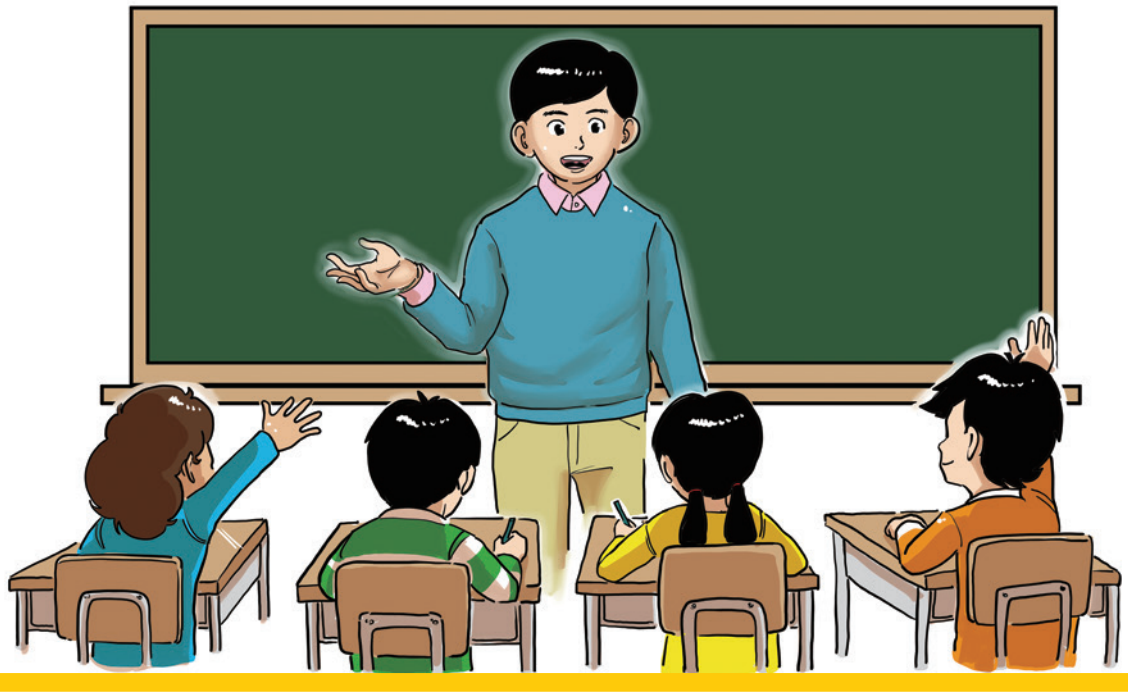


●対話カード

❺



❻



●対話カード

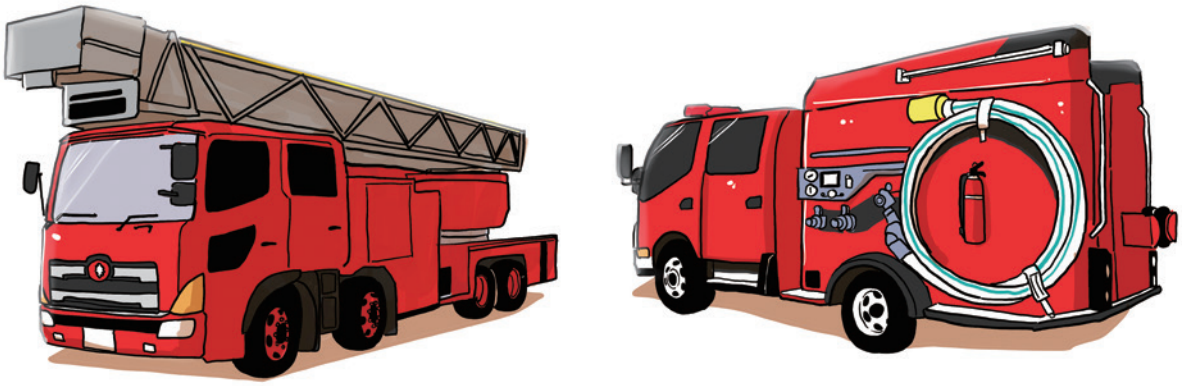


●認知カード

❽

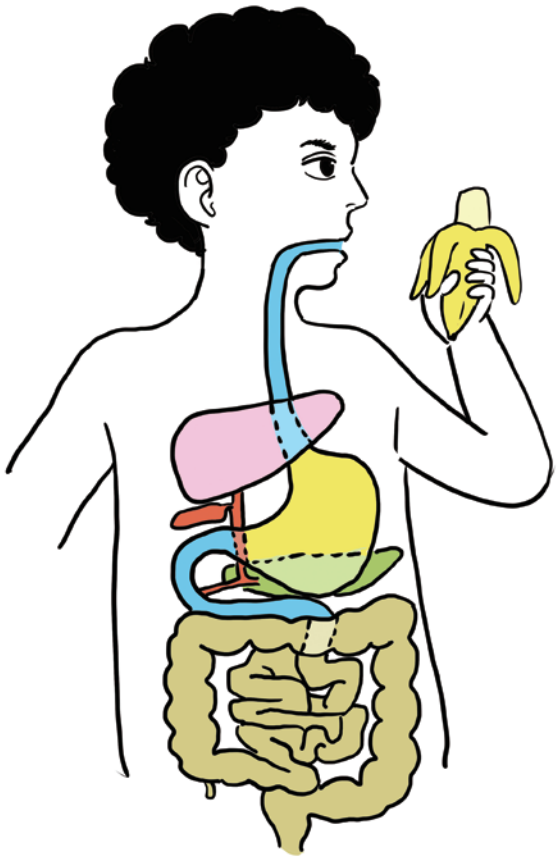


❾



●認知カード

⑩

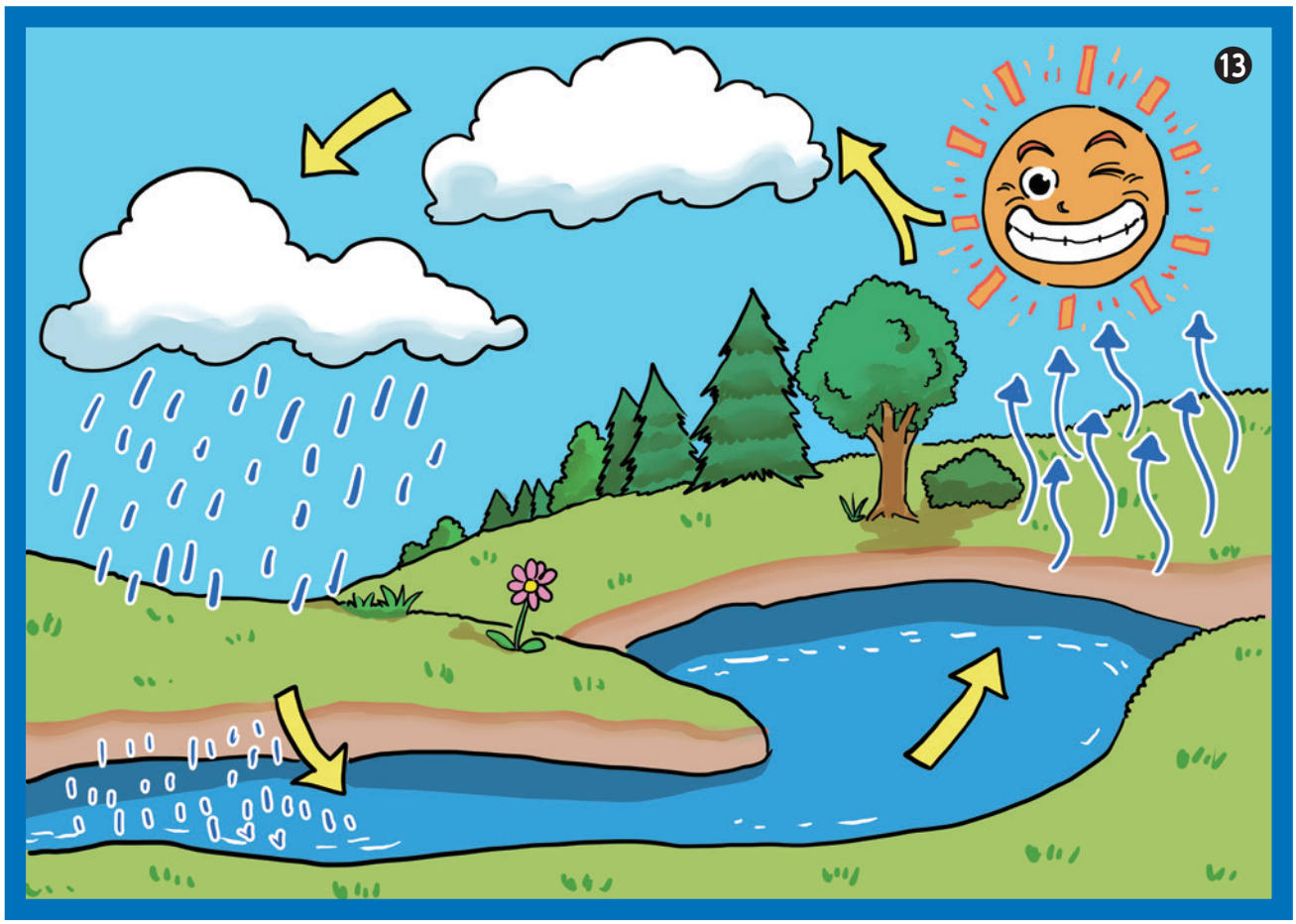


⑪



●認知カード





主な参考文献一覧

ヴィゴツキー、レフ・柴田義松（訳）（2001）『新訳版・思考と言語』新読書社

岡崎敏雄（2002）「学習言語能力をどう測るか―TOAM の開発：言語能力の生態学的見方―」『日本語教育ブックレット 1―多言語環境にある子どもの言語能力の評価―』45-59. 国立国語研究所

カナダ日本語教育振興会 (2000/2012)『子どもの会話力の見方と評価―バイリンガル会話テスト(OBC)の開発―』カナダ日本語教育振興会
https://www.cajle.ca/wp-content/uploads/2022/10/Nakajima-2000_01.pdf

ジム・カミンズ（著), 中島和子（訳著）(2011/2021)『言語マイノリティを支える教育【新装版】』明石書店

小島祥美・各務眞弓・近藤利恵・吉實フィリッペよしお（2024）「ブラジルルーツの子どものためのポルトガル語教室の意義 ―岐阜県可児市にある『サシ・ペレレ教室』の事例から」『ボランティア学研究』(24) 67-80.

櫻井千穂（2018）『外国にルーツをもつ子どものバイリンガル読書力』大阪大学出版会

櫻井千穂（2019）「対話型言語能力アセスメント「DLA」の有用性」近藤ブラウン妃美・坂本光代・西川朋美編『親と子をつなぐ継承語教育－日本・外国にルーツを持つ子ども』238-252. くろしお出版

櫻井千穂（2021）「CLD児の学習言語能力をどのように育成するか―南米スペイン語圏ルーツ児童の二言語口頭能力の相関分析からの考察―」『第二言語としての日本語の習得研究 』(24) 67-85.

櫻井千穂（2022）「子どもの日本語力を評価する」西川朋美（編）『外国につながる子どもの日本語教育』43-59. くろしお出版

櫻井千穂（2022）「CLD児の言語能力評価、再考－全人的発達を目指して」鎌田修・由井紀久子・池田隆介（編）『日本語プロフィシェンシー研究の広がり』405-418. ひつじ書房

櫻井千穂（2023）「外国につながる児童生徒への教育－課題とその解決に向けた提言」『ことばと文字』16号, 14-24.

櫻井千穂, 真嶋潤子, 中島和子, 野口裕之（2023）「「DLA〈読む〉」の構成概念妥当性の検証：日本語母語児童を対象としたテキストレベルの妥当性に関する分析」『日本語教育』185号, 30-45.

東京外国語大学（2023）『2022（令和4）年度〔文部科学省委託〕高等学校等における日本語能力評価に関する予備的調査研究事業報告書』
https://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/itaku/20224-1.html

東京外国語大学（2025）『2023～2024（令和5～6）年度文部科学省委託日本語能力評価方法の改善のための調査研究事業報告書』

中島和子（1998）『言葉と教育』海外子女教育振興財団

中島和子（1998/2016）『バイリンガル教育の方法』増補改訂版 アルク

中島和子（2002）「バイリンガル児の言語能力評価の観点―会話能力テスト OBC 開発を中心に」『多言語環境にある子どもの言語能力の評価 (日本語教育ブックレット1)』26-44. 国立国語研究所

中島和子（2005）「ポルトガル語を母語とする国内小・中学生のバイリンガル会話力の習得」鎌田修・筒井通雄・畑佐由紀子・ナズキアン富美子・岡まゆみ（編）『言語教育の新展開―牧野成一教授古稀記念論集―』399-424. ひつじ書房

中島和子（編著）（2011）『マルチリンガル教育への招待―言語資源としての外国人・日本人年少者』ひつじ書房

中島和子・桶谷仁美・鈴木美知子（1994）「年少者のための会話力テスト開発」『日本語教育』83号, 40-58.

中島和子・櫻井千穂（2012）「対話型読書力評価」（科研費(21320096)研究成果報告書）

真嶋潤子（編）（2019）『日本語が母語ではない子どもの二言語能力―母語をなくさない日本語教育は可能か―』大阪大学出版会

文部科学省（2014）『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA』
文部科学省（2025）『文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得のものさし」（ことばの力のものさし）実践ガイド』

Cummins,J. (1979). Linguistic interdependence and the educational development of bilingual children. *Review of Educational Research. 49*, 222-251.
Cummins, J. (1981). The role of primary language development in promoting educational success for language minority students. In California state department of Education (Ed.), *Schooling and language minority students: A theoretical framework* (pp. 3-49). Evaluation, Dissemination and Assessment Center California State University.
Cummins, J. (1984). *Bilingualism and special education: Issues in assessment and pedagogy.* Multilingual Matters.
Cummins, J. (2001). *Negotiating identities: Education for empowerment in a diverse society.* California Association for Bilingual Education.
De Angelis, G. (2021). *Multilingual testing and assessment.* Multilingual Matters.
Haywood, H. C., & Lidz, C. S. (2007). *Dynamic assessment in practice: Clinical and educational applications.* Cambridge University Press.

改訂版DLAは、2014年発行の「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」を基に作成しました。

2014年発行DLA　協力者一覧［五十音順、所属は2014年度時］

安野　勝美　大阪府教育センター教育企画部人権教育研究室　主任指導主事
石井恵理子　東京女子大学　教授
伊東　祐郎　東京外国語大学　教授　留学生日本語教育センター長
伊藤　卓哉　三重県教育委員会事務局　小中学校教育課学力向上推進グループ　副課長
井上　恵子　千葉県教育委員会　委嘱研究員・相談員
齋藤ひろみ　東京学芸大学　教授
櫻井　千穂　大阪大学大学院言語文化研究科　博士課程
佐藤　裕之　川崎市立宮崎小学校　校長
澤田　直子　浜松市教育委員会　指導課教育相談支援センター　指導主事
楠野　正人　浜松市教育委員会　指導課教育相談支援センター　指導主事・教育相談グループ長
倉島　義彦　上田市教育委員会　学校教育課課長
小林　幸江　東京外国語大学　留学生日本語教育センター　教授
篠原　政也　鈴鹿市教育委員会事務局　人権教育課　課長
菅長　理恵　東京外国語大学　留学生日本語教育センター　准教授
鈴木　英文　鈴鹿市教育委員会事務局　指導課　課長
築樋　博子　豊橋市教育委員会　学校教育課　外国人児童生徒教育相談員
中島　和子　トロント大学　名誉教授
中村　栄孝　上田市教育委員会学校教育課　課長
古角　美之　兵庫県教育委員会事務局人権教育課　副課長
矢崎　満夫　静岡大学教職大学院　准教授

改訂版DLA　執筆者および協力者一覧［所属は2025年３月］

監修・執筆

櫻井　千穂　大阪大学　准教授
小島　祥美　東京外国語大学　准教授／多言語多文化共生センター長
中島　和子　トロント大学　名誉教授

翻　訳

ポルトガル語	松崎　アマンダ　かおり	大阪大学大学院　博士前期課程
中　国　語	李　光曦	大阪経済法科大学　国際学部　特任助教
フィリピン語	カワサキ　マリア	愛知県教育委員会　知多教育事務所　フィリピノ語学相談員
ベトナム語	近藤　美佳	大阪大学大学院　人文学研究科　外国学専攻　講師
スペイン語	稲葉　ウィリアム	豊田市教育委員会　学校日本語指導員
英　　語	ヨアナ　ゲオルギェヴァ	アゴラソフィア　日本語教師
ネパール語	シュレスタ　ビーナ	大阪府立大阪わかば高等学校　非常勤講師
ロ シ ア 語	サヴィヌィフ　アンナ	北海学園大学　人文学部　ロシア語非常勤講師

校　正

ポルトガル語	武田　千香	東京外国語大学大学院　総合国際学研究院　教授
	エリゼウ　ピシテリ	東京外国語大学　世界言語社会教育センター　特任教授
中　国　語	戚　美羽	西尾市教育委員会　日本語教育指導支援員
フィリピン語	ヴィンルアン　ジェームス　マイケル　カヤノン	NPO法人可児市国際交流協会　専従スタッフ
ベトナム語	ファン　トラン　キン　ゴック	大阪府立大阪わかば高等学校　非常勤講師
スペイン語	藤井　マリア	西尾市教育委員会　日本語教育指導支援員
英　　語	クルソン　デビッド　グレゴリ	立命館大学　言語教育情報研究科　教授
ネパール語	シュレスタ　ニローズ	ネパール語翻訳者／個人事業主
	タルチャバデル　ビニタ	東京外国語大学　博士後期課程
ロ シ ア 語	アフジュシェンコワ　イリーナ	大阪大学大学院　博士後期課程

イラスト

語彙カード	有本　昌代	大阪府立旭高等学校　教諭
基礎カード・対話カード・認知カード	星野　ルネ	漫画家・タレント

表　紙	ホンダ　ラモス　ソフィア　ユナ		広島県呉市立白岳小学校	１年
	イ　シオン		神奈川県川崎市立高津小学校	１年
裏表紙	鈴木　裕海		愛知県立衣台高等学校	１年
第３章多言語DLA	ポルトガル語	佐藤　タリタ	愛知県知立市立知立東小学校	６年
	中　国　語	岡本　明香	神奈川県相模原市立谷口小学校	３年
	フィリピン語	木寺　ゼイエン	愛知県立衣台高等学校	１年
	ベトナム語	ヴー　ハー　アン	群馬県太田市立九合小学校	５年
	スペイン語	パロメケ　アドリエリ	群馬県太田市立九合小学校	２年
	英　　語	林　アリシャ	岡山県岡山市立御野小学校	５年
	ネパール語	ラナ　サーヤ	神奈川県川崎市立高津小学校	４年
	ロ シ ア 語	ボン　二一　タン	広島県呉市立白岳小学校	５年

編集協力

増谷　由里佳　　小段　真代　　東京外国語大学　多言語多文化共生センター

作成協力

株式会社マルワ

文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメント
DLA
Dialogic Language Assessment for Culturally and Linguistically Diverse Students

発　行　文部科学省　総合教育政策局国際教育課
〒100-8959　東京都千代田区霞が関３丁目２番２号
TEL：03-5253-4111
E-mail：nihongo-shidou@mext.go.jp
発行日　2025年４月
編　集　東京外国語大学　多言語多文化共生センター
「日本語能力評価方法の改善のための調査研究」事業推進委員会



イラストでは、いっぱい木とか葉とか、あと人をかきました。なぜなら、日本には平和な未来がほしいからです。緑がいっぱいな理由は、中学生のとき、SDGsの勉強したり、修学旅行で東京へ行ったときに最初に「息がしにくい」と思ったからです。日本が生きにくい、きたない国にはなってほしくないので、絵では「みどり」をいっぱいにかきました。あと、絵にかいたのは、日本人だけじゃなく、外国人もからだが不自由な人もかきました。なぜなら、私は幼稚園のときから周りに日本人が多くてなんか一人の気持もあったし、インターネットでは外国人（＋からだが不自由な人）に嫌なことをしていて嫌だなっと思ったので、絵ではみんなが区別なく、安全に歩いています。